

仕事と生活の調和に関する意識調査

調査結果報告書

令和 7 年 3 月

千 葉 市

公益財団法人 千葉市文化振興財団

千葉市男女共同参画センター

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査目的.....	1
2. 調査方法.....	1
3. 回収結果.....	1
4. 前回調査.....	1
5. 報告書を読む際の注意事項.....	2
6. 標本誤差について	3
7. 回答者の属性	4
(1) 性別.....	4
(2) 年代.....	5
(3) 職業形態	6
(4) 仕事に従事している時間（1日あたり）	8
(5) 配偶者・パートナーの有無	10
(6) 配偶者・パートナーの職業形態.....	13
(7) 配偶者・パートナーの仕事従事時間（1日あたり）	14
(8) 家族構成	15
(9) 最年少の子どもの成長段階	16
(10) 介護が必要な家族の有無	17
II 調査結果.....	19
1. 「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和」	19
(1) 「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和」という言葉の認知度	19
(2) 仕事と生活の調和度	25
(3) 仕事と生活の優先度	28
(4) 「仕事」、「家庭」、「自分の時間」の満足度.....	32
(5) 女性が働くことについて	48
2. 育児と介護.....	53
(1) 育児休業の取得経験	53
(2) 育児休業を取得しなかった理由	56
(3) 育児と仕事の両立について（希望）	57

(4) 育児と仕事の両立について（現実）	60
(5) 介護休業の取得経験	62
(6) 介護休業を取得しなかった理由	63
(7) 介護と仕事の両立について（希望）	64
(8) 介護と仕事の両立について（現実）	66
3. 仕事について	67
(1) 仕事に対する意欲	67
(2) 職場の現状	69
(3) 現在仕事に就いていない理由	74
(4) 今後の就労意思	76
4. 自分の時間の過ごし方	77
(1) 自分の時間について（希望）	77
(2) 自分の時間について（実際）	79
5. 家庭生活について	81
(1) 家庭での役割分担	81
6. 仕事と生活の調和のために今後取り組むべき内容	90
(1) 各分野の男女の地位	90
(2) 性別役割分担意識について	103
(3) ワーク・ライフ・バランスのために取り組むべき内容	106
III 調査結果の概要のまとめ	108
1. 「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和」	108
2. 育児と介護	108
3. 仕事について	109
4. 自分の時間の過ごし方	109
5. 家庭生活について	109
6. 仕事と生活の調和のために今後取り組むべき内容	110
7. 今後に向けて	111
IV 自由意見	113
V 巻末資料	118
VI 調査票	121

I. 調査概要

1. 調査目的

男女共同参画社会では、あらゆる場面で性別にとらわれずに各人がその個性と能力を生かし、責任と喜びを分かち合うことを目指している。しかし、仕事と家庭の両立という点においては、家事や育児などの多くを女性が担っている現実が依然としてあるため、男女の多様な生き方を実現することが妨げられている。

本調査では、仕事と生活の調和に関する市民の意識と実態を探り、男女共同参画社会実現のための施策や事業に反映させることを目的とする。

2. 調査方法

- (1) 調査区域：千葉市全域
- (2) 調査対象：千葉市内に居住している 25 歳以上 60 歳未満の 3,000 人
(男女各 1,500 人)
- (3) 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送による配布、郵送による回収及び WEB 回答方式
- (5) 調査期間：令和 6 年 9 月 20 日～令和 6 年 10 月 24 日

3. 回収結果

- (1) 配布数：3,000 件
- (2) 回収数：1,015 件
- (3) 回収率：33.8%
- (4) 有効回答数：981 件（うち WEB 回答 455 件、郵送回答 526 件）
- (5) 有効回答率：32.7%

4. 前回調査

報告書で結果を引用した前回調査（平成 28 年 8 月調査）は、次のとおりである。

（今回調査と調査区域、抽出方法は同様である。）

- (1) 調査対象：千葉市内に居住している 25 歳以上 45 歳未満の 3,000 人
(男女各 1,500 人)
- (2) 調査方法：郵送による配布・回収方式
- (3) 調査期間：平成 28 年 8 月 30 日～平成 28 年 9 月 16 日

- (4) 配布数 : 3,000 件
- (5) 有効回答数 : 963 件
- (6) 有効回答率 : 32.1%

5. 報告書を読む際の注意事項

- (1) アンケート集計は、各設問の単純集計と前回調査との比較、並びに性別、年代と各設問とのクロス集計を行った。
- (2) 前回調査との比較については、対象年齢が異なるため、比較する際は今回調査の 25 歳以上 45 歳未満に限った結果と比較した。
- (3) 調査結果の数値は原則として回答率 (%) を表記し、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記する。このため、単数回答の合計が 100.0% とならない場合（例：99.9%、100.1%）がある。小計についても同様に各回答の計と一致しない場合がある。また、一人の回答者が 2 つ以上の回答をしてもよい質問（複数回答）では、回答率が 100.0% を上回ることがある。
- (4) クロス集計の場合、分析軸の該当者が 50 人未満の場合は標本誤差が大きく異なるため、分析の対象からは除いている。
- (5) 性別や年代別などでクロス集計を行う場合、それぞれ無回答の方がいたため、合計が全体と一致しない。
- (6) 本文やグラフ・数表上の選択肢の表記は、場合により語句を簡略化してある。
- (7) 本文やグラフ・数表上で次の略称を使用する。 n : 回答者の数
- (8) 表については、回答割合の高い項目について以下の通り、網掛け等で表記を行う。

最も高い割合（網掛け白抜き）
2 番目に高い割合（網掛け黒字）

0.0
0.0

6. 標本誤差について

今回の無作為抽出法による調査の場合は、ここで出された数値（％）をそのまま 25 歳以上 60 歳未満の全市民の回答として単純に置き換えると、多少の誤差が生じる。

統計学的には、次式で標本誤差を計算して、25 歳以上 60 歳未満の全市民の回答を推測する。
（信頼度 95％）

標本誤差の算定式

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数（459,368 人）

令和 6 年 6 月 30 日現在の 25 歳以上 60 歳未満の住民基本台帳人口

n = 有効回答数（981 件）

P = 回答比率

今回の意識調査（n=981）における回答比率別標本誤差

回答の比率	標本誤差
10%または90%	±1.9%
20%または80%	±2.6%
30%または70%	±2.9%
40%または60%	±3.1%
50%	±3.2%

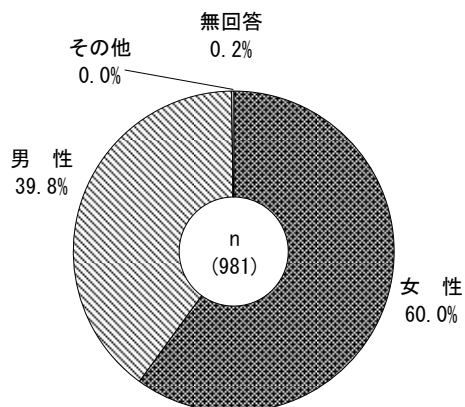
7. 回答者の属性

(1) 性別

図表(1)-1 回答者の性別（全体、前回）

2024年

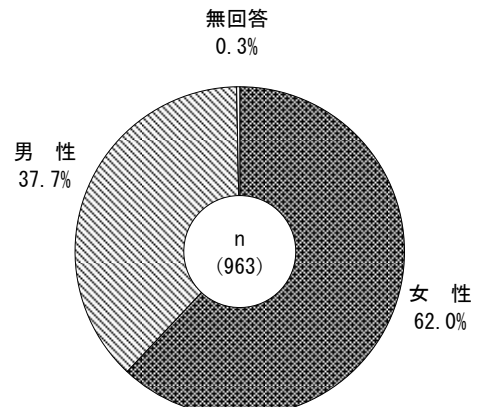
	回答数（件）	構成率（％）
女 性	589	60.0
男 性	390	39.8
その他	0	0.0
無回答	2	0.2
合 計	981	100.0



2016年

	回答数（件）	構成率（％）
女 性	597	62.0
男 性	363	37.7
その他	－	－
無回答	3	0.3
合 計	963	100.0

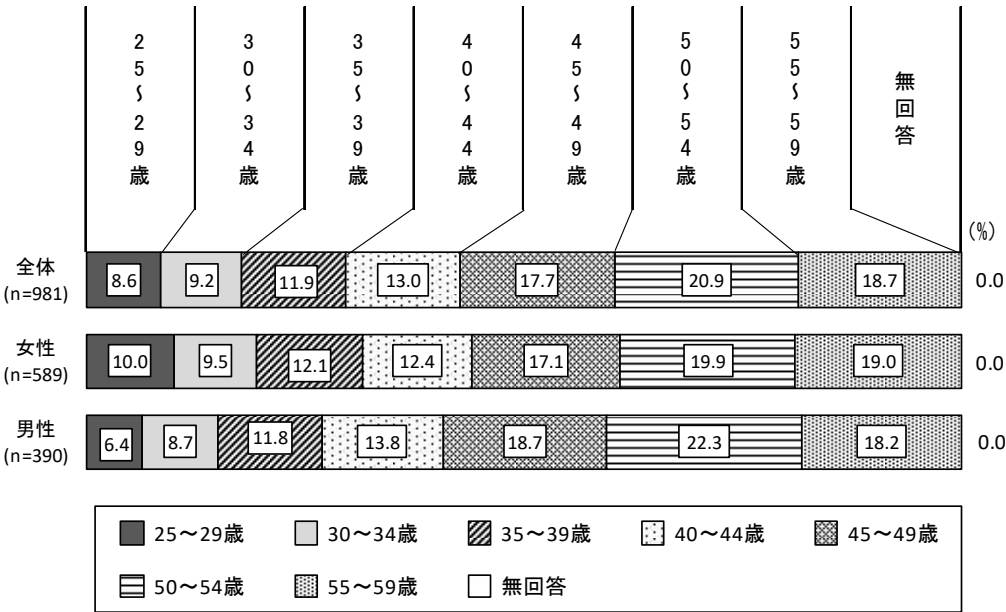
※前回調査では「その他」を設けていない



(2) 年代

図表 (2)-1 回答者の年齢（全体、性別）

2024年																	
年 齢				回答数 (件)	構成率 (%)	年 齢				回答数 (件)	構成率 (%)	年 齢				回答数 (件)	構成率 (%)
全 体	25～29歳		84	8.6	女 性	25～29歳		59	10.0	男 性	25～29歳		25	6.4			
	30～34歳		90	9.2		30～34歳		56	9.5		30～34歳		34	8.7			
	35～39歳		117	11.9		35～39歳		71	12.1		35～39歳		46	11.8			
	40～44歳		128	13.0		40～44歳		73	12.4		40～44歳		54	13.8			
	45～49歳		174	17.7		45～49歳		101	17.1		45～49歳		73	18.7			
	50～54歳		205	20.9		50～54歳		117	19.9		50～54歳		87	22.3			
	55～59歳		183	18.7		55～59歳		112	19.0		55～59歳		71	18.2			
	無回答		-	-		無回答		-	-		無回答		-	-			
	合計		981	100.0		合計		589	100.0		合計		390	100.0			



図表 (2)-2 回答者の年齢（前回）

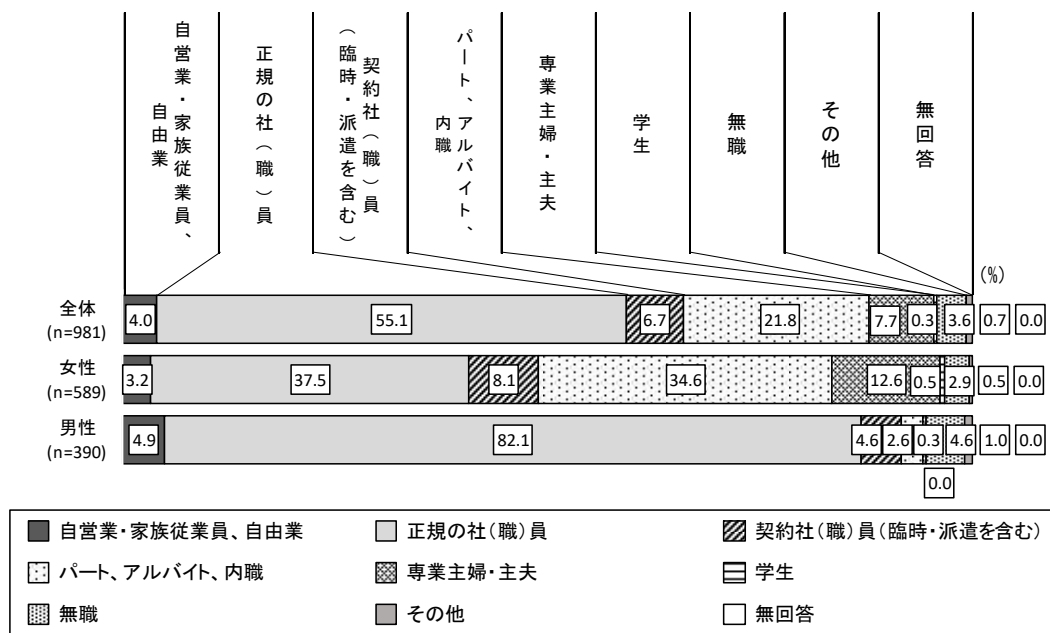
2016年

年齢			回答数 (件)	構成率 (%)	年齢			回答数 (件)	構成率 (%)	年齢			回答数 (件)	構成率 (%)
全体	25～29歳	160	16.6	女性	25～29歳	101	16.9	男性	25～29歳	59	16.3			
	30～34歳	204	21.2		30～34歳	124	20.8		30～34歳	79	21.8			
	35～39歳	278	28.9		35～39歳	175	29.3		35～39歳	103	28.4			
	40～44歳	318	33.0		40～44歳	195	32.7		40～44歳	121	33.3			
	無回答	3	0.3		無回答	2	0.3		無回答	1	0.3			
	合計	963	100.0		合計	597	100.0		合計	363	100.0			

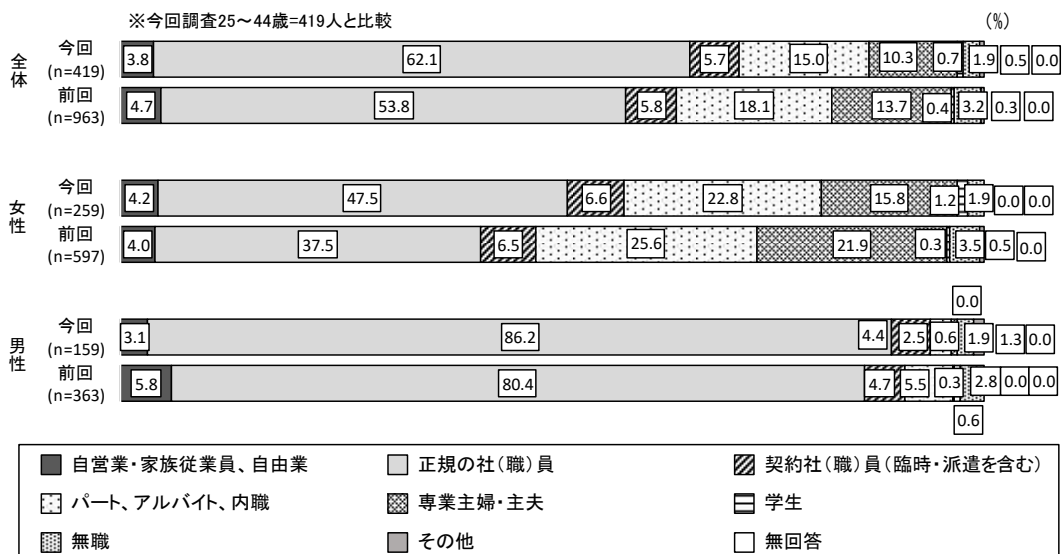
(3) 職業形態

図表 (3)-1 回答者の職業形態（全体、性別）

(件数)	合計	自営業・ 家族従業員、 自由業	正規の 社(職)員	契約 社(職)員	パート、 アルバイト、 内職	専業主婦・ 主夫	学生	無職	その他	無回答
全体	981	39	541	66	214	76	3	35	7	0
女性	589	19	221	48	204	74	3	17	3	0
男性	390	19	320	18	10	1	0	18	4	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0

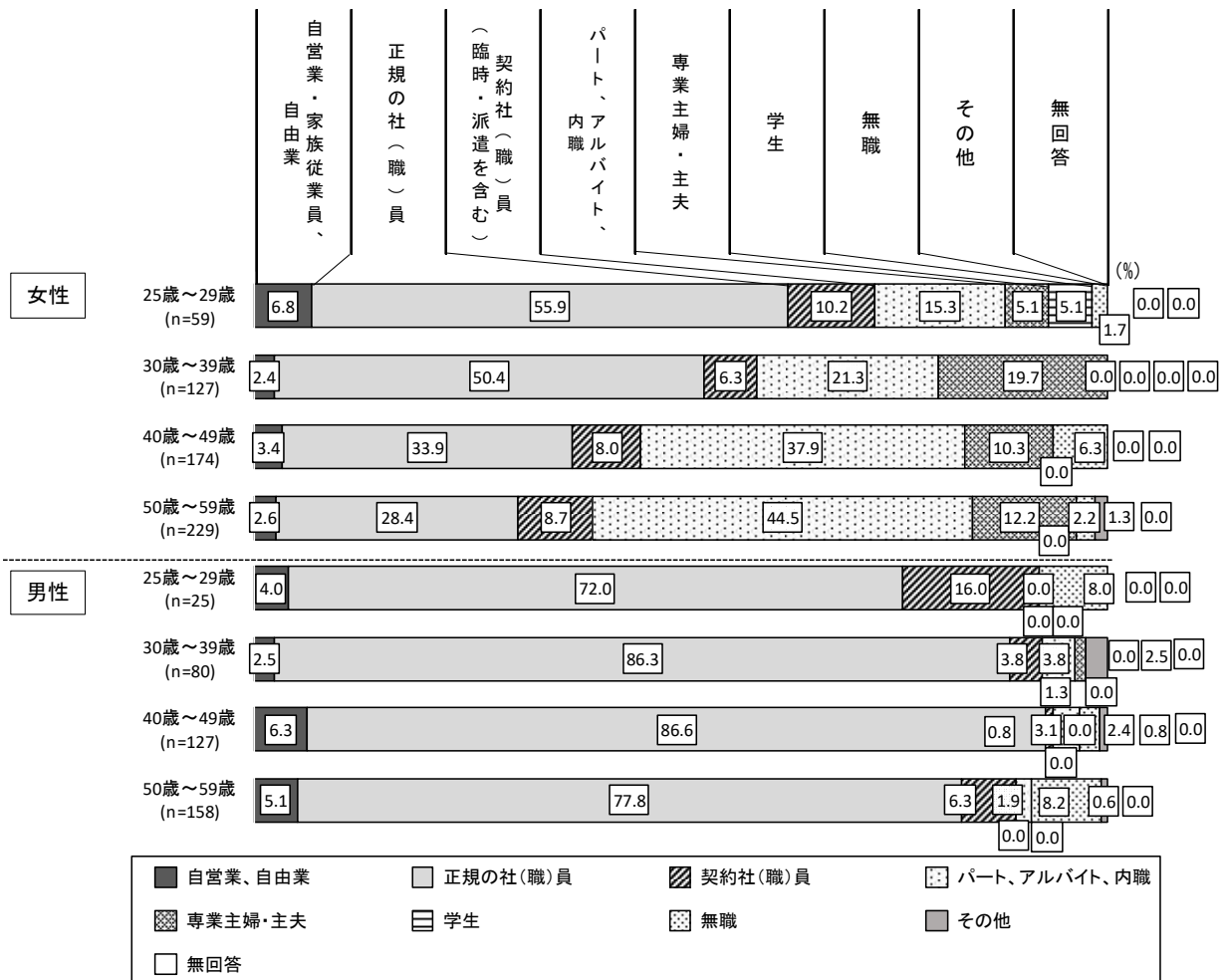


図表 (3)-2 回答者の職業形態（前回比較）



図表(3)-3 性・年代別／就労状況

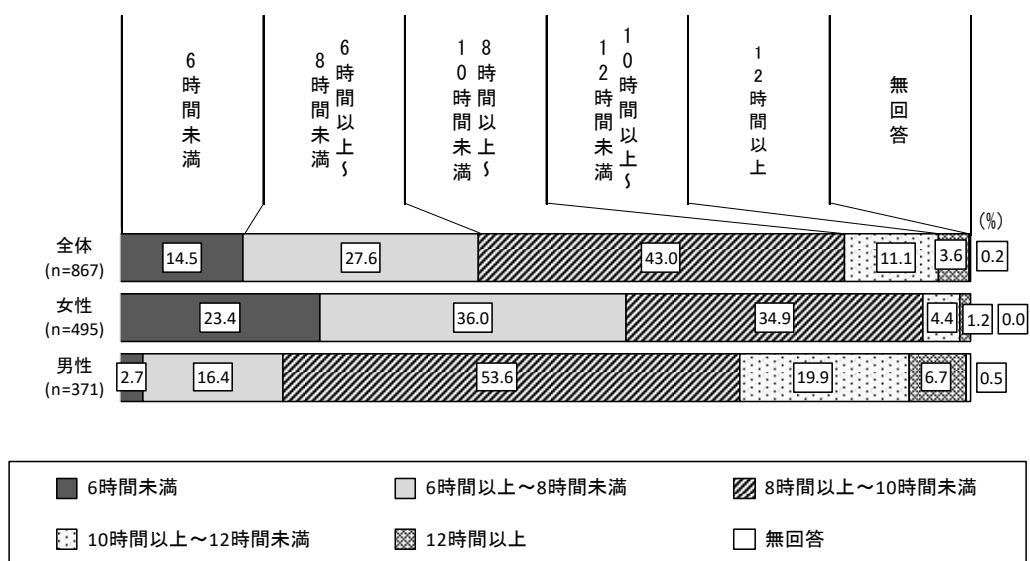
(件数)	合計	自営業、 自由業	正規の 社(職)員	契約 社(職)員	パート、 アルバイト、 内職	専業主婦・ 主夫	学生	無職	その他	無回答
合計	981	39	541	66	214	76	3	35	7	0
女性	25歳～29歳	59	4	33	6	9	3	3	1	0
	30歳～39歳	127	3	64	8	27	25	0	0	0
	40歳～49歳	174	6	59	14	66	18	0	11	0
	50歳～59歳	229	6	65	20	102	28	0	5	3
男性	25歳～29歳	25	1	18	4	0	0	0	2	0
	30歳～39歳	80	2	69	3	3	1	0	0	2
	40歳～49歳	127	8	110	1	4	0	0	3	1
	50歳～59歳	158	8	123	10	3	0	0	13	1
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答		2	1	0	0	0	1	0	0	0



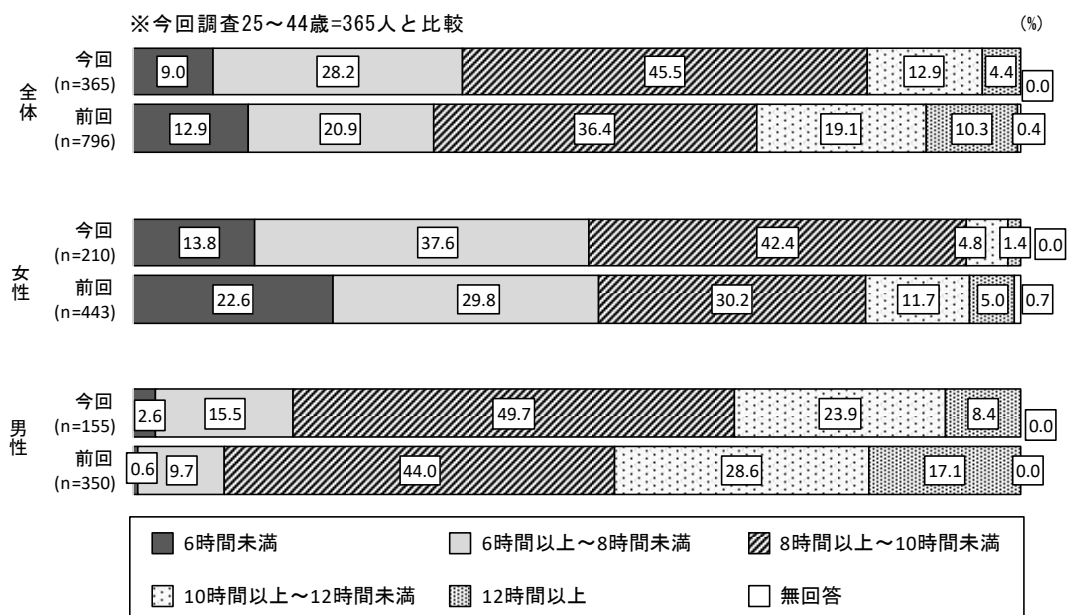
(4) 仕事に従事している時間（1日あたり）

図表(4)-1 仕事従事時間（全体、性別）

（件数）	合計	6時間未満	6時間以上～8時間未満	8時間以上～10時間未満	10時間以上～12時間未満	12時間以上	無回答
全体	867	126	239	373	96	31	2
女性	495	116	178	173	22	6	0
男性	371	10	61	199	74	25	2
その他	0	0	0	0	0	0	0
無回答	1	0	0	1	0	0	0

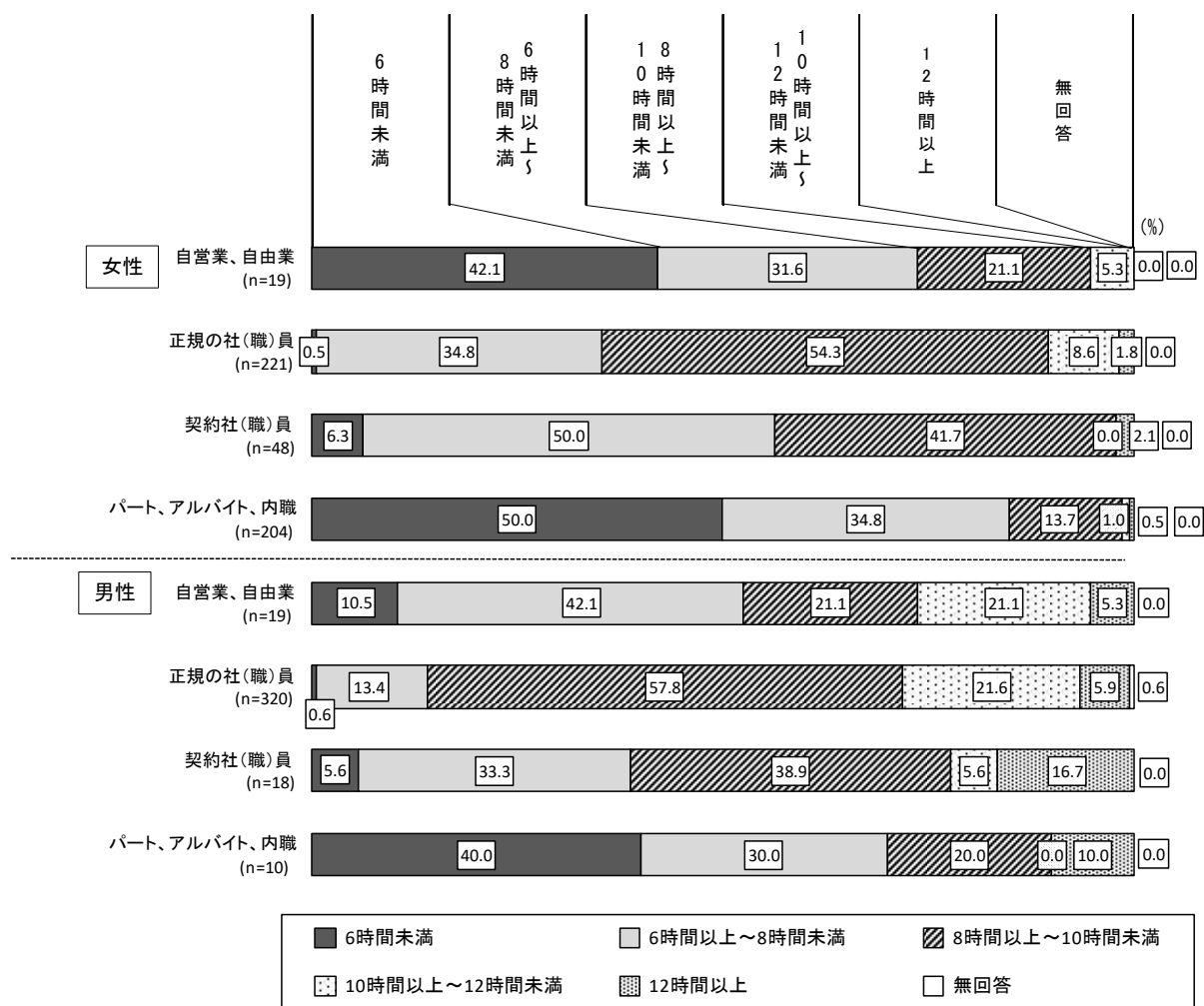


図表(4)-2 仕事従事時間（前回比較）



図表(4)-3 仕事従事時間（性別・職業形態別）

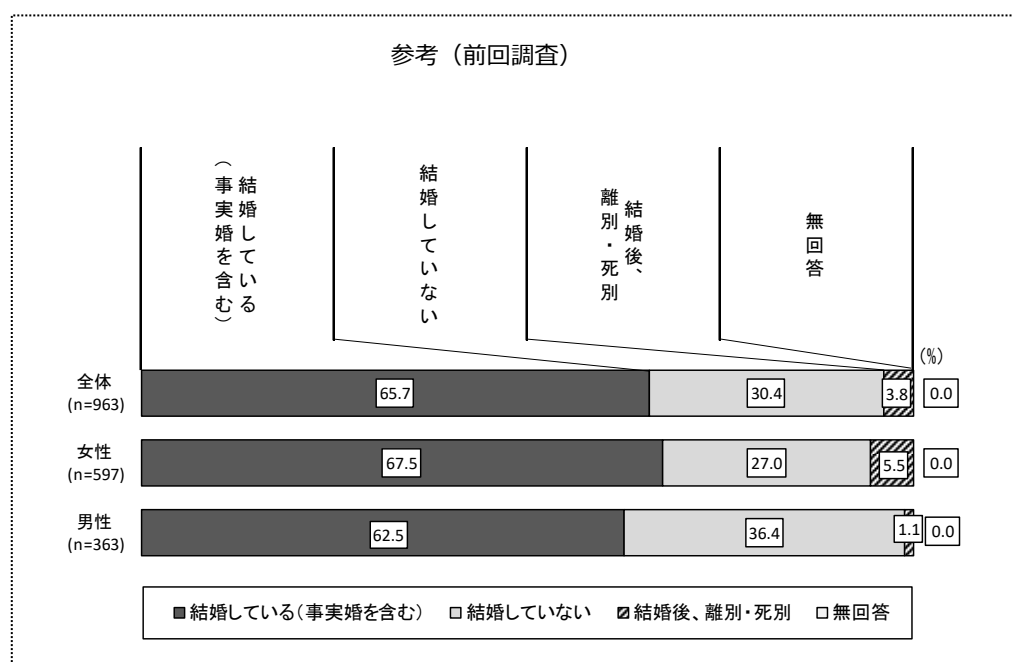
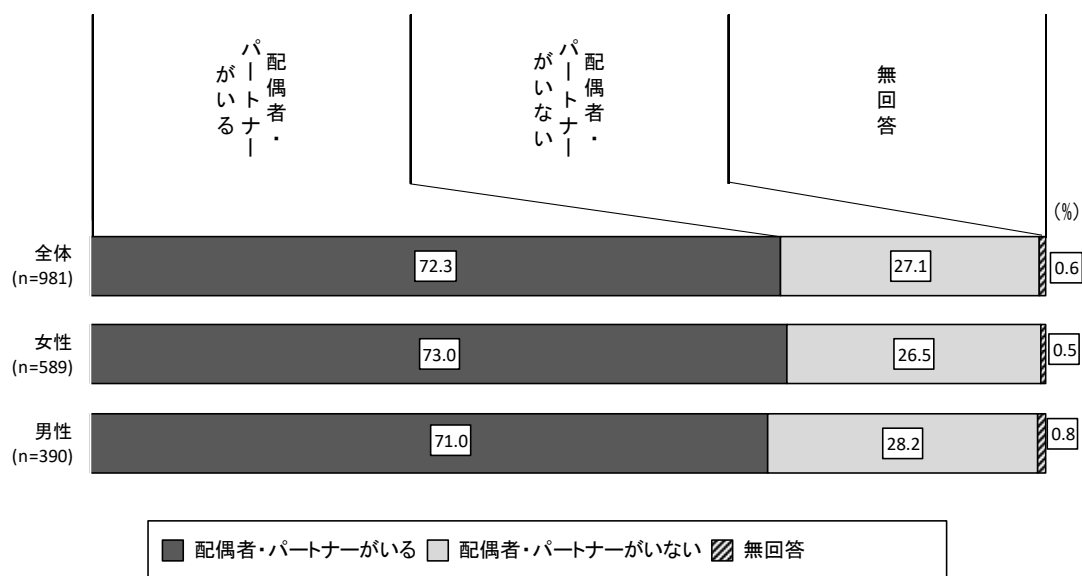
(件数)		合計	6時間未満	6時間以上 ～8時間 未満	8時間以上 ～10時間 未満	10時間以上 ～12時間 未満	12時間以上	無回答
合計		867	126	239	373	96	31	2
女性	自営業、自由業	19	8	6	4	1	0	0
	正規の社(職)員	221	1	77	120	19	4	0
	契約社(職)員	48	3	24	20	0	1	0
	パート、アルバイト、内職	204	102	71	28	2	1	0
男性	自営業、自由業	19	2	8	4	4	1	0
	正規の社(職)員	320	2	43	185	69	19	2
	契約社(職)員	18	1	6	7	1	3	0
	パート、アルバイト、内職	10	4	3	2	0	1	0



(5) 配偶者・パートナーの有無

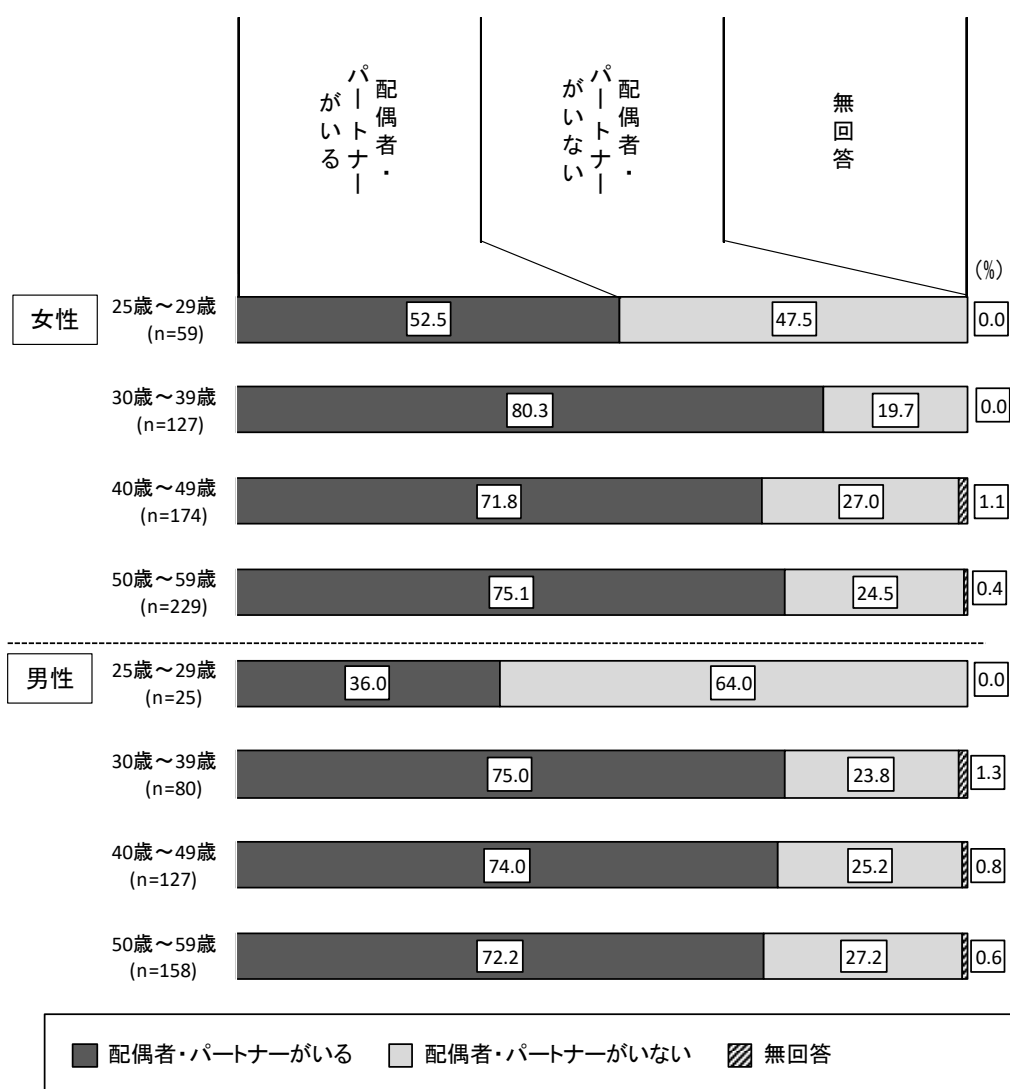
図表(5)-1 配偶者・パートナーの有無（全体、性別）

（件数）	合計	配偶者・ パートナー がいる	配偶者・ パートナー がいない	無回答
全体	981	709	266	6
女性	589	430	156	3
男性	390	277	110	3
その他	0	0	0	0
無回答	2	2	0	0



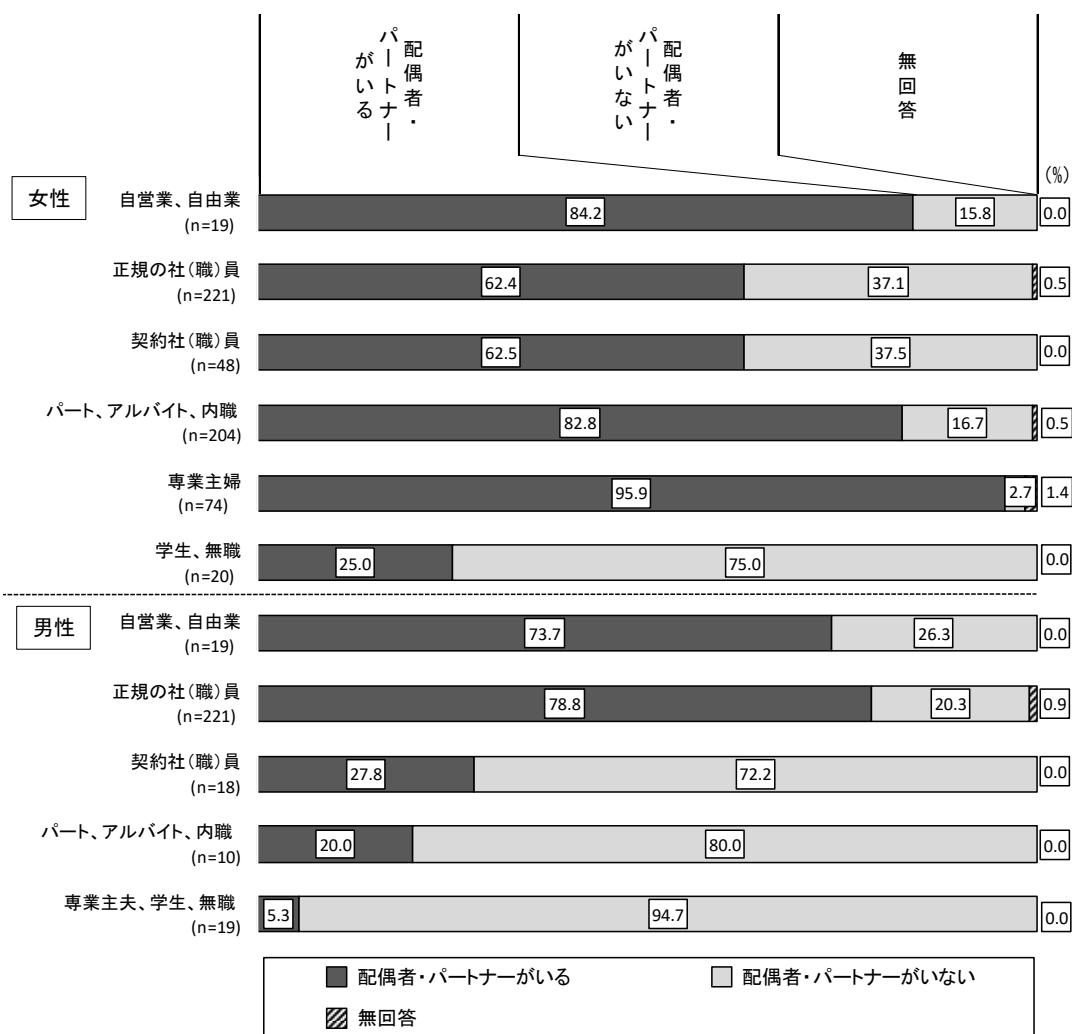
図表(5)-2 配偶者・パートナーの有無（性別・年代別）

(件数)		合計	配偶者・ パートナー がいる	配偶者・ パートナー がいない	無回答
合計		981	709	266	6
女性	25歳～29歳	59	31	28	0
	30歳～39歳	127	102	25	0
	40歳～49歳	174	125	47	2
	50歳～59歳	229	172	56	1
男性	25歳～29歳	25	9	16	0
	30歳～39歳	80	60	19	1
	40歳～49歳	127	94	32	1
	50歳～59歳	158	114	43	1
その他		0	0	0	0
無回答		2	2	0	0



図表(5)-3 配偶者・パートナーの有無（性別・職業形態別）

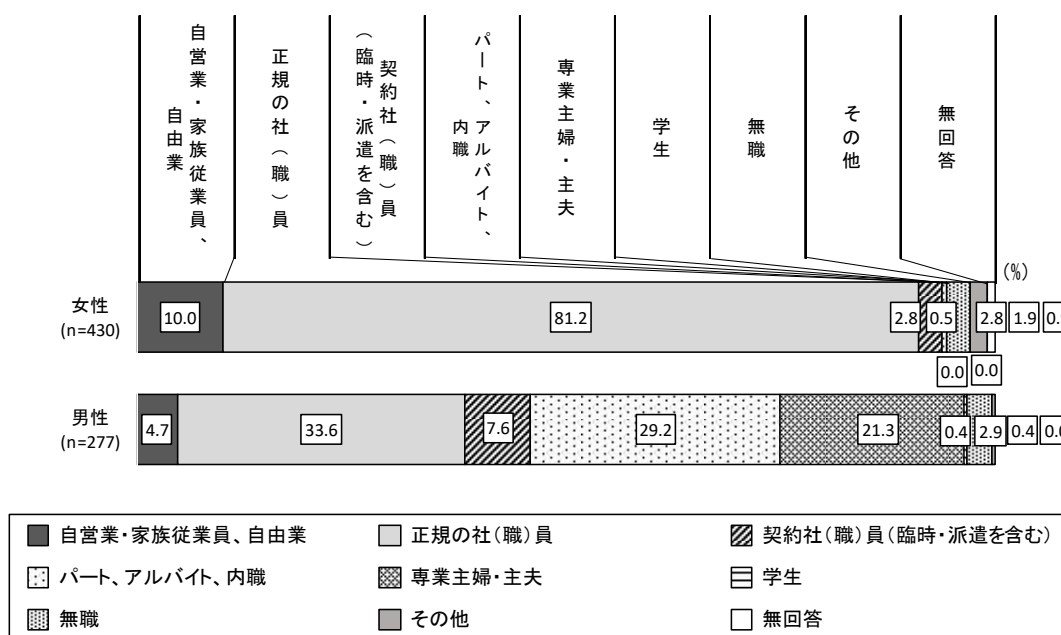
(件数)		合計	配偶者・ パートナー がいる	配偶者・ パートナー がいない	無回答
合計		981	709	266	6
女性	自営業、自由業	19	16	3	0
	正規の社(職)員	221	138	82	1
	契約社(職)員	48	30	18	0
	パート、アルバイト、内職	204	169	34	1
	専業主婦	74	71	2	1
	学生、無職	20	5	15	0
男性	自営業、自由業	19	14	5	0
	正規の社(職)員	320	252	65	3
	契約社(職)員	18	5	13	0
	パート、アルバイト、内職	10	2	8	0
	専業主夫、学生、無職	19	1	18	0
その他		7	4	3	0
無回答		2	2	0	0



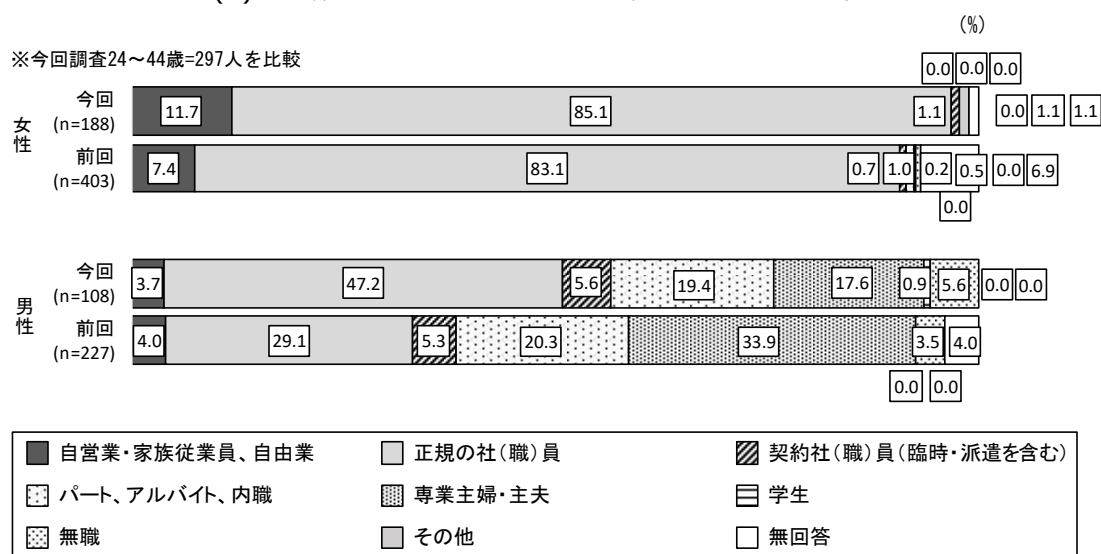
(6) 配偶者・パートナーの職業形態

図表(6)-1 配偶者・パートナーの職業形態（全体、性別）

(件数)	合計	自営業、 自由業	正規の 社(職)員	契約 社(職)員	パート、 アルバイト、 内職	専業主婦・ 主夫	学生	無職	その他	無回答
全体	709	57	443	33	83	59	1	20	9	4
女性	430	43	349	12	2	0	0	12	8	4
男性	277	13	93	21	81	59	1	8	1	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0



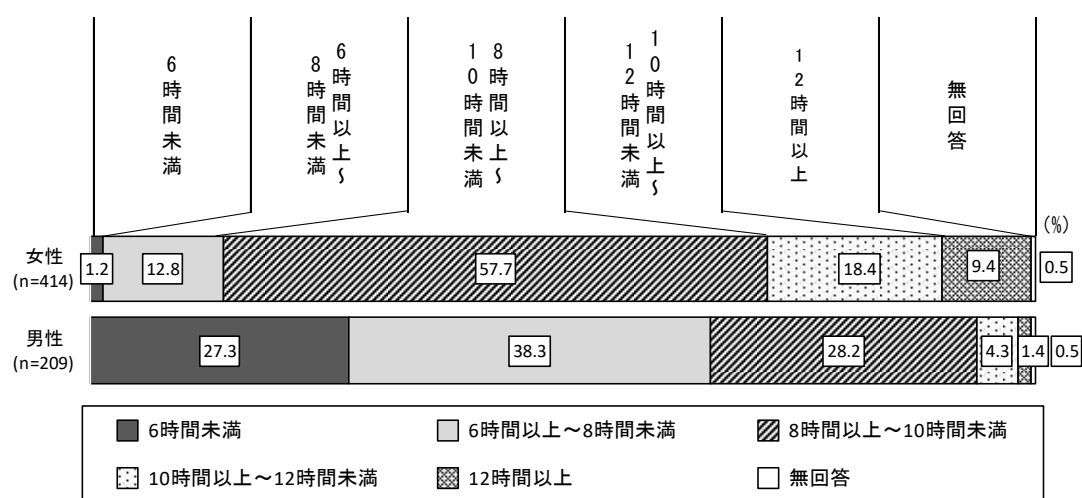
図表(6)-2 配偶者・パートナーの職業形態（前回比較）



(7) 配偶者・パートナーの仕事従事時間（1日あたり）

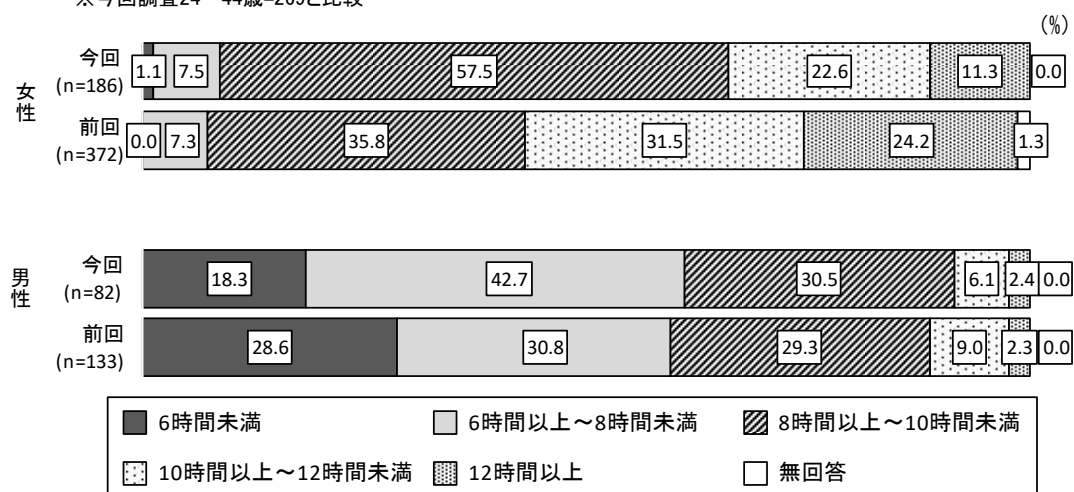
図表(7)-1 配偶者・パートナーの仕事従事時間（全体、性別）

（件数）	合計	6時間未満	6時間以上 ～8時間 未満	8時間以上 ～10時間 未満	10時間以上 ～12時間 未満	12時間以上	無回答
全体	625	62	133	298	87	42	3
女性	414	5	53	239	76	39	2
男性	209	57	80	59	9	3	1
その他	0	0	0	0	0	0	0
無回答	2	0	0	0	2	0	0



図表(7)-2 配偶者・パートナーの仕事従事時間（前回比較）

※今回調査24～44歳=269と比較



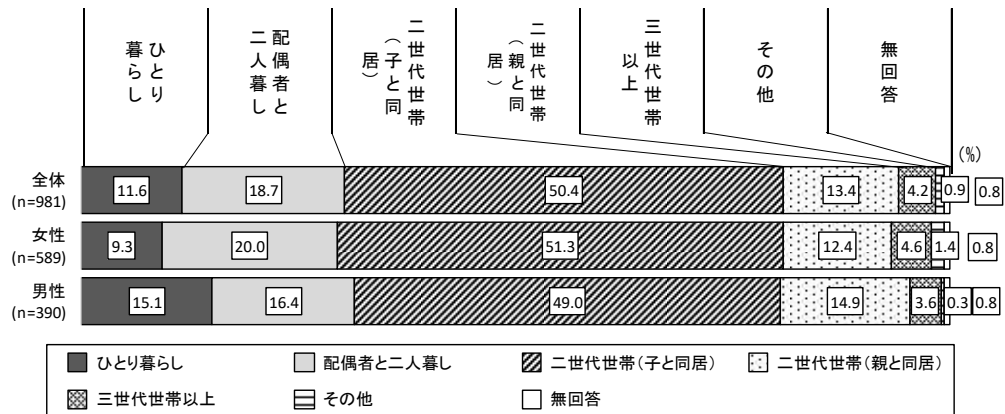
(8) 家族構成

図表(8)-1 家族構成（全体、性別）

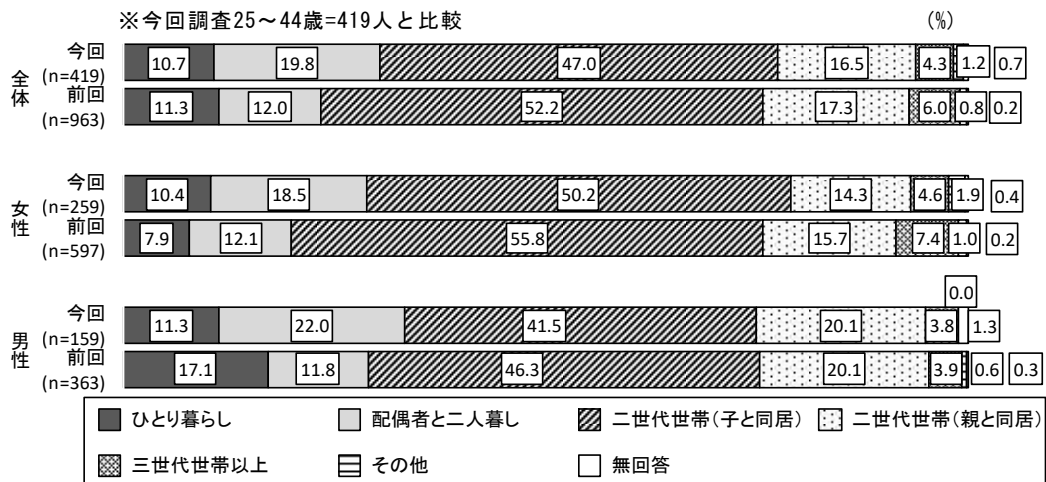
（件数）	合計	親	配偶者・パートナー	子	祖父母	兄弟姉妹	その他	同居人なし	無回答
全体	981	170	649	532	6	53	9	114	8
女性	589	99	395	328	3	36	8	55	5
男性	390	71	252	203	3	17	1	59	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	2	0	3	2	0	0	0	0	0

（上記より算出）

（件数）	合計	ひとり暮らし	配偶者と二人暮らし	二世世代世帯（子と同居）	二世世代世帯（親と同居）	三世世代世帯以上	その他	無回答
全体	981	114	183	494	131	41	9	8
女性	589	55	118	302	73	27	8	5
男性	390	59	64	191	58	14	1	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	2	0	1	1	0	0	0	0



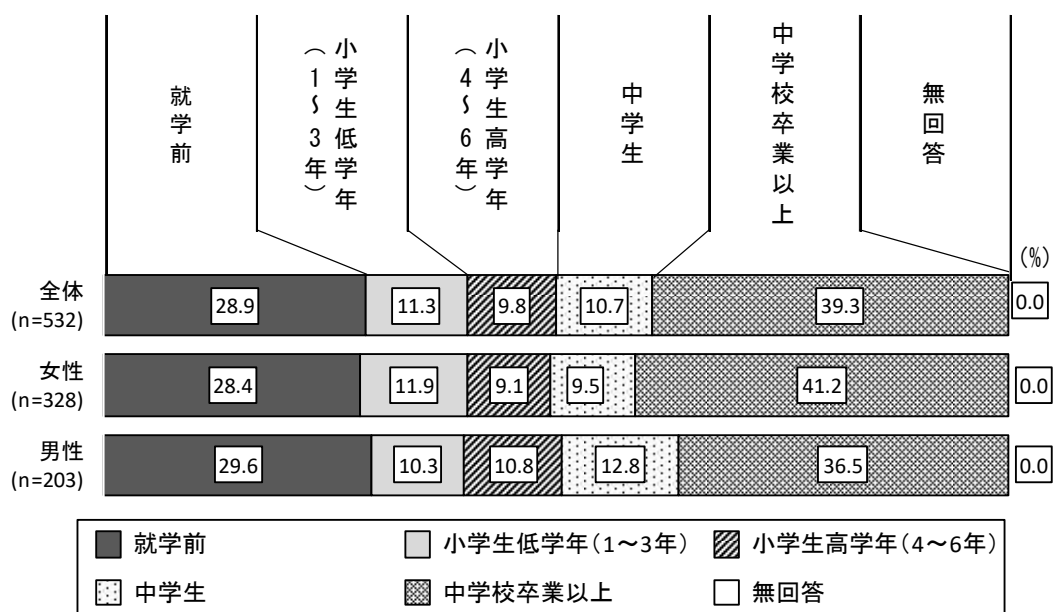
図表(8)-2 家族構成（前回比較）



(9) 最年少の子どもの成長段階

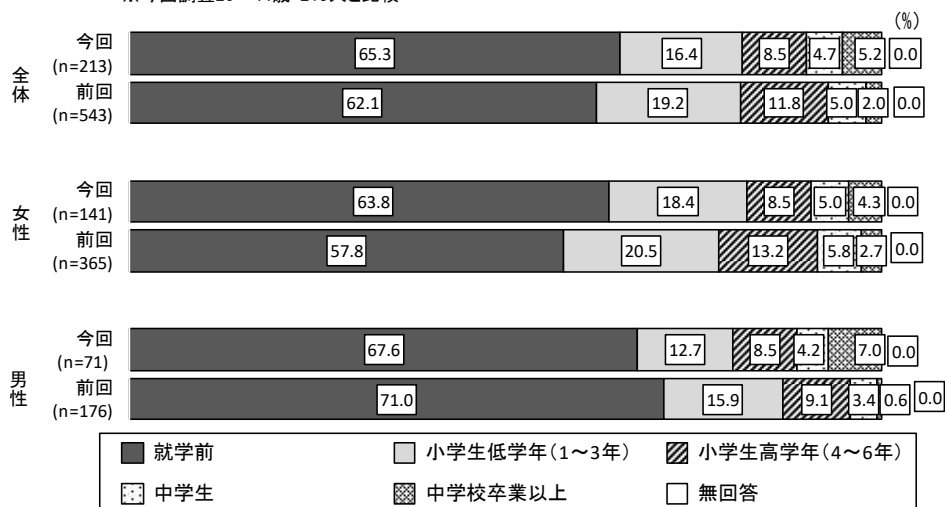
図表(9)-1 最年少の子どもの成長段階（全体、性別）

（件数）	合計	就学前	小学生 低学年	小学生 高学年	中学生	中学校 卒業以上	無回答
合計	532	154	60	52	57	209	0
女性	328	93	39	30	31	135	0
男性	203	60	21	22	26	74	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
無回答	1	1	0	0	0	0	0



図表(9)-2 最年少の子どもの成長段階（前回比較）

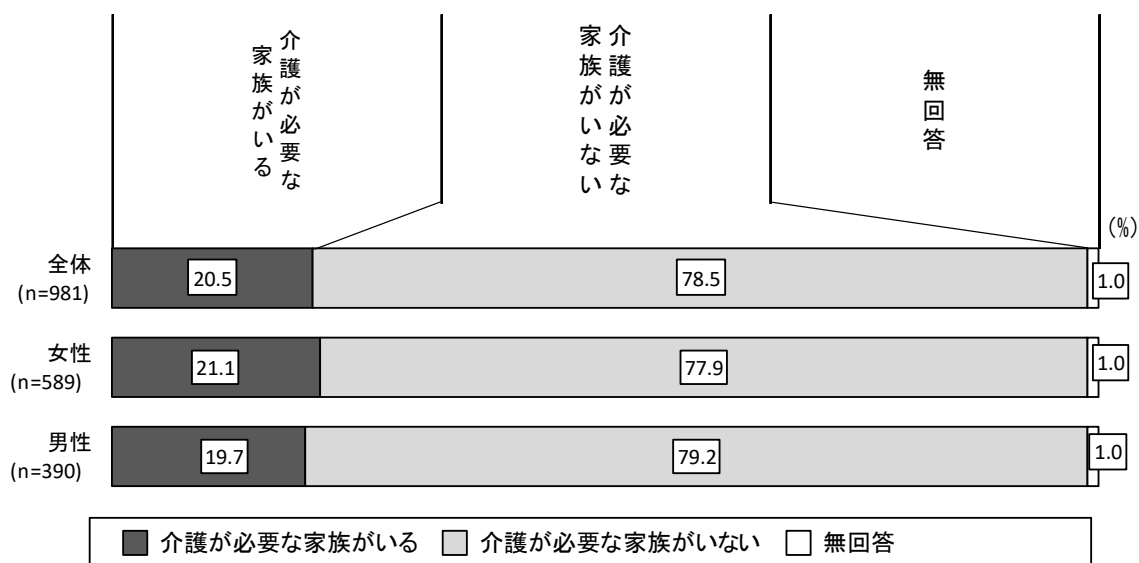
※今回調査25~44歳=213人と比較



(10) 介護が必要な家族の有無

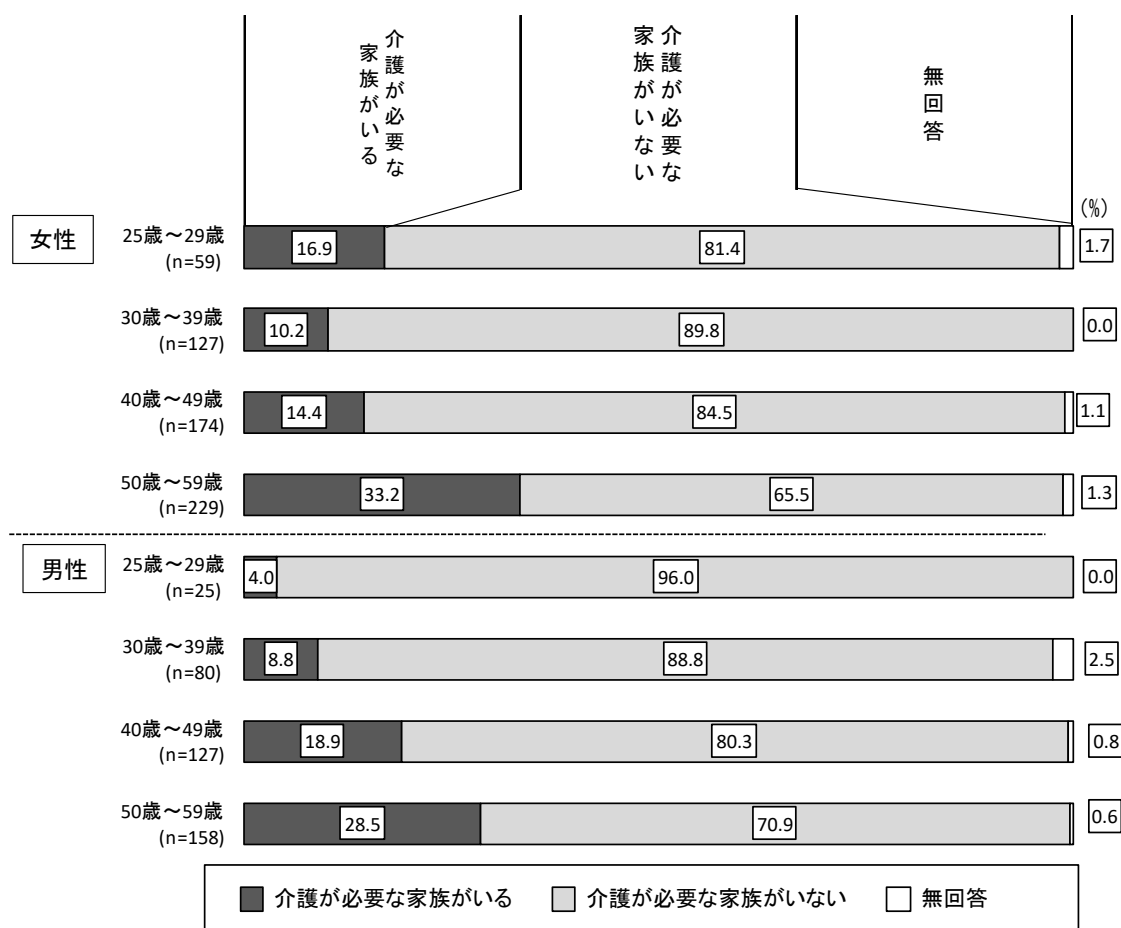
図表(10)-1 介護が必要な家族の有無（全体、性別）

（件数）	合計	介護が必要な 家族がいる	介護が必要な 家族がいない	無回答
全体	981	201	770	10
女性	589	124	459	6
男性	390	77	309	4
その他	0	0	0	0
無回答	2	0	2	0



図表(10)-2 介護が必要な家族の有無（性別、年代別）

（件数）		合計	介護が必要 な家族が いる	介護が必要 な家族が いない	無回答
合計		981	201	770	10
女性	25歳～29歳	59	10	48	1
	30歳～34歳	127	13	114	0
	35歳～39歳	174	25	147	2
	40歳～44歳	229	76	150	3
男性	25歳～29歳	25	1	24	0
	30歳～34歳	80	7	71	2
	35歳～39歳	127	24	102	1
	40歳～44歳	158	45	112	1
その他		0	0	0	0
無回答		2	0	2	0



Ⅱ. 調査結果

1. 「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和」

(1) 「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和」という言葉の認知度

問1 あなたは、以下の言葉を知っていますか。あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

男女共同参画社会

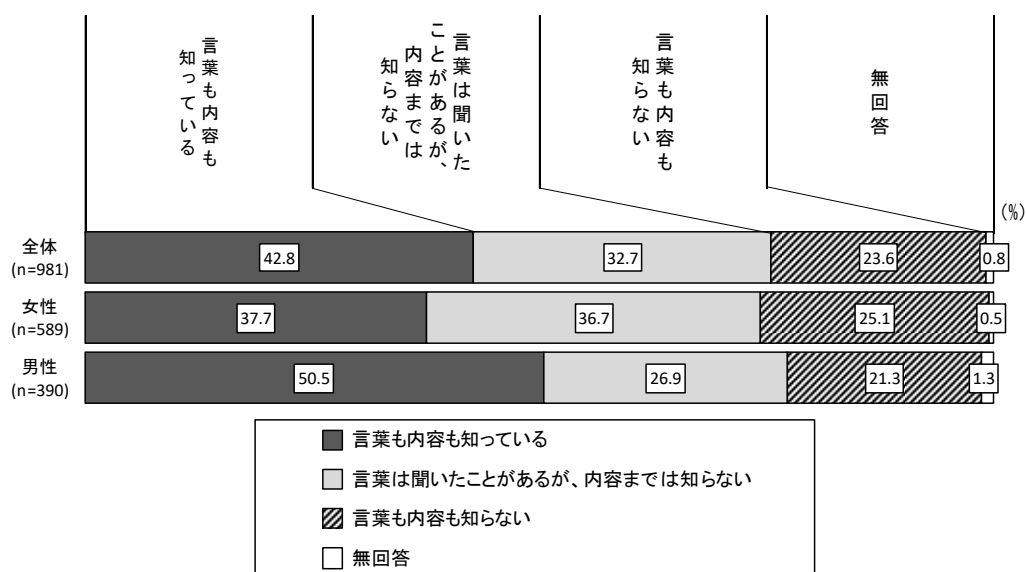
7割半が“言葉を知っている（聞いたことがある）”と回答。

全体では、「言葉も内容も知っている」、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の両者を合わせた“言葉を知っている（聞いたことがある）”は75.5%である。

性別でみると、女性、男性ともに「言葉も内容も知っている」が最も高く（女性37.7%、男性50.5%）、男性の方が女性より12.8ポイント高い。

【図表 1-1 参照】

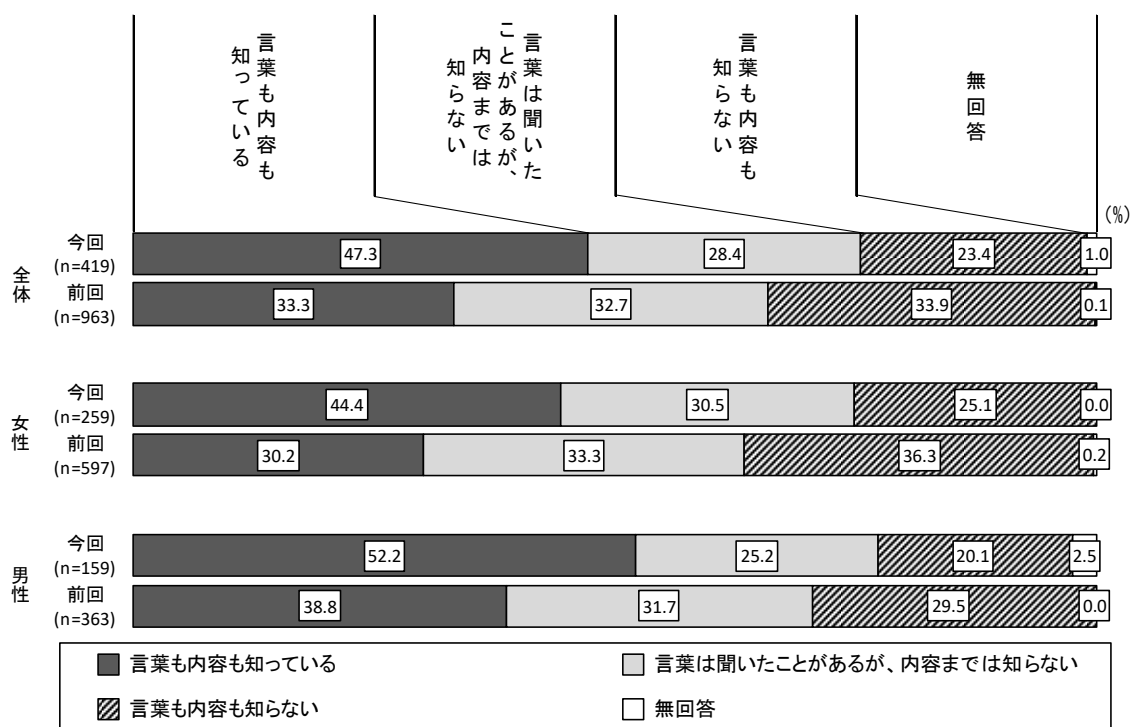
図表 1-1 「男女共同参画社会」という言葉の認知度（全体、性別）



前回調査にあわせて対象年齢を 25 歳～44 歳（419 人）に限って比較すると、全体で、「言葉も内容も知っている」（47.3%）が 14 ポイント増加し、女性（44.4%）でも 14.2 ポイント、男性（52.2%）でも 13.4 ポイントそれぞれ増加している。

【図表 1-2 参照】

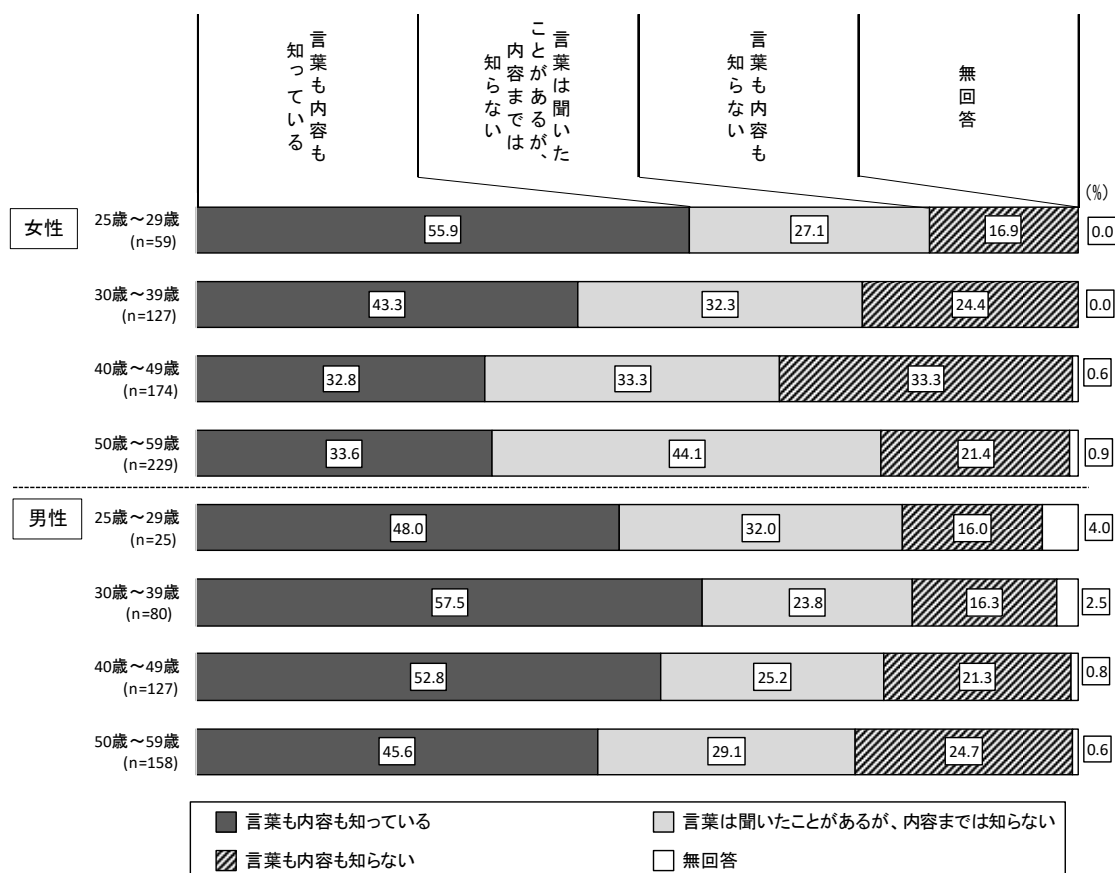
図表 1-2 「男女共同参画社会」という言葉の認知度（前回比較）



男女それぞれを年代別にみると、「言葉も内容も知っている」は男性 30 歳～39 歳（57.5%）が最も高く、女性 40 歳～49 歳（32.8%）が最も低い。

【図表 1- 3 参照】

図表 1-3 「男女共同参画社会」という言葉の認知度（性別・年代別）



仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

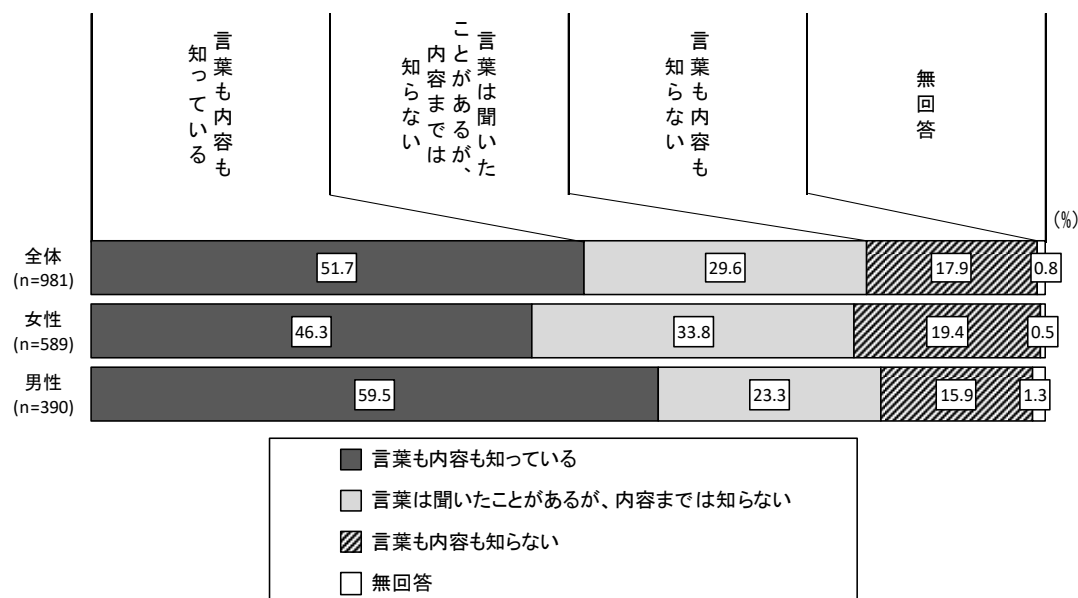
8割以上が“言葉を知っている（聞いたことがある）”と回答。

全体では、「言葉も内容も知っている」、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の両者を合わせた“言葉を知っている（聞いたことがある）”は 81.3% である。

性別でみると、女性、男性ともに「言葉も内容も知っている」が最も高く（女性 46.3%、男性 59.5%）、男性の方が女性より 13.2 ポイント高い。

【図表 1-4 参照】

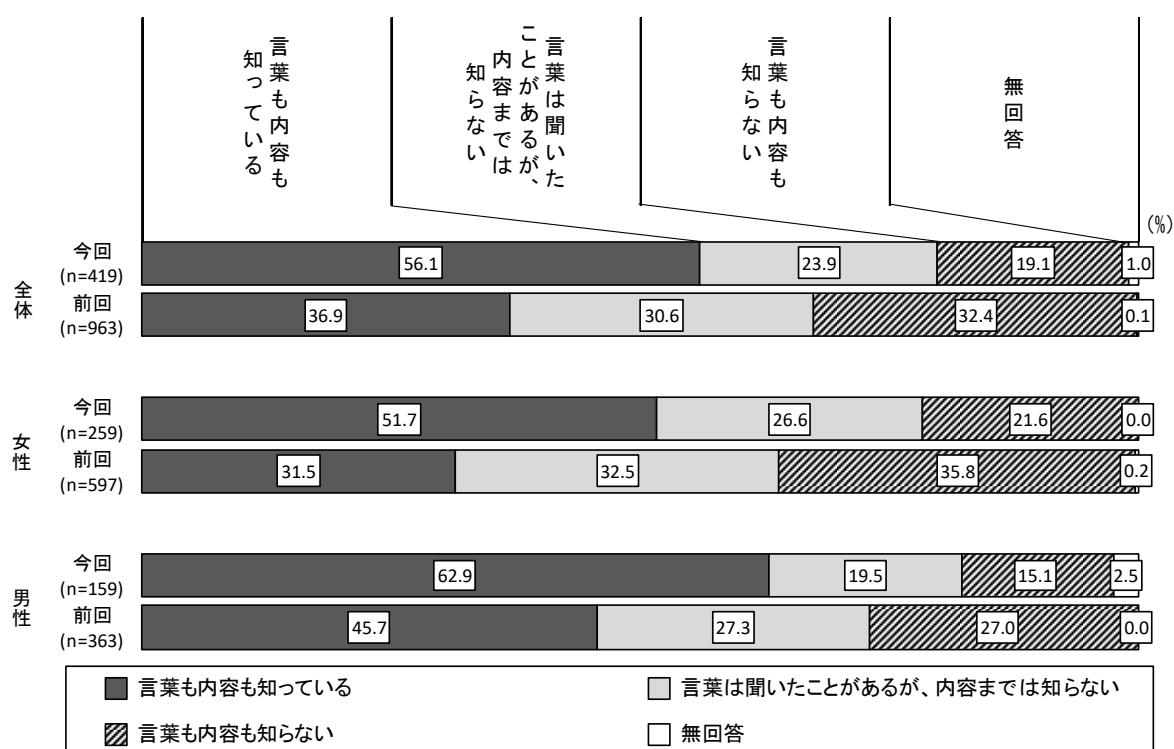
図表 1-4 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉の認知度（全体、性別）



前回調査にあわせて対象年齢を 25 歳～44 歳 (419 人) に限って比較すると、全体で、「言葉も内容も知っている」 (56.1%) が 19.2 ポイント増加し、女性 (51.7%) でも 20.2 ポイント、男性 (62.9%) でも 17.2 ポイントそれぞれ増加している。

【図表 1-5 参照】

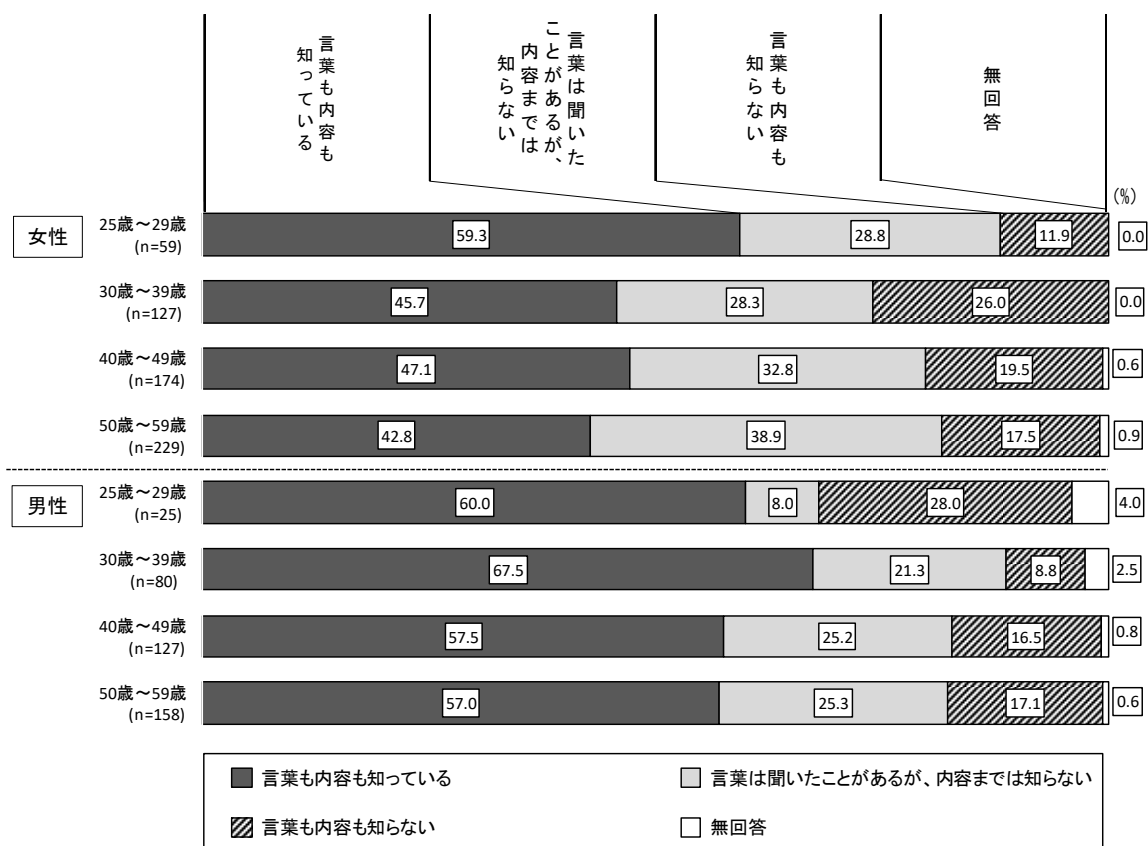
図表 1-5 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) という言葉の認知度 (前回比較)



男女それぞれを年代別にみると、「言葉も内容も知っている」は男性 30 歳～39 歳（67.5%）が最も高い。いずれの年代でも「言葉も内容も知っている」は、男性の方が女性より高い。

【図表 1-6 参照】

図表 1-6 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉の認知度（性別・年代別）



(2) 仕事と生活の調和度

問2 あなたは、ご自身の仕事と生活の調和（バランス）度を点数にすると何点になりますか。100点満点でご記載ください。
現在仕事に就いていない方は、就いていない状態があなたにとってバランスが良い（悪い）のかという視点でお答えください。

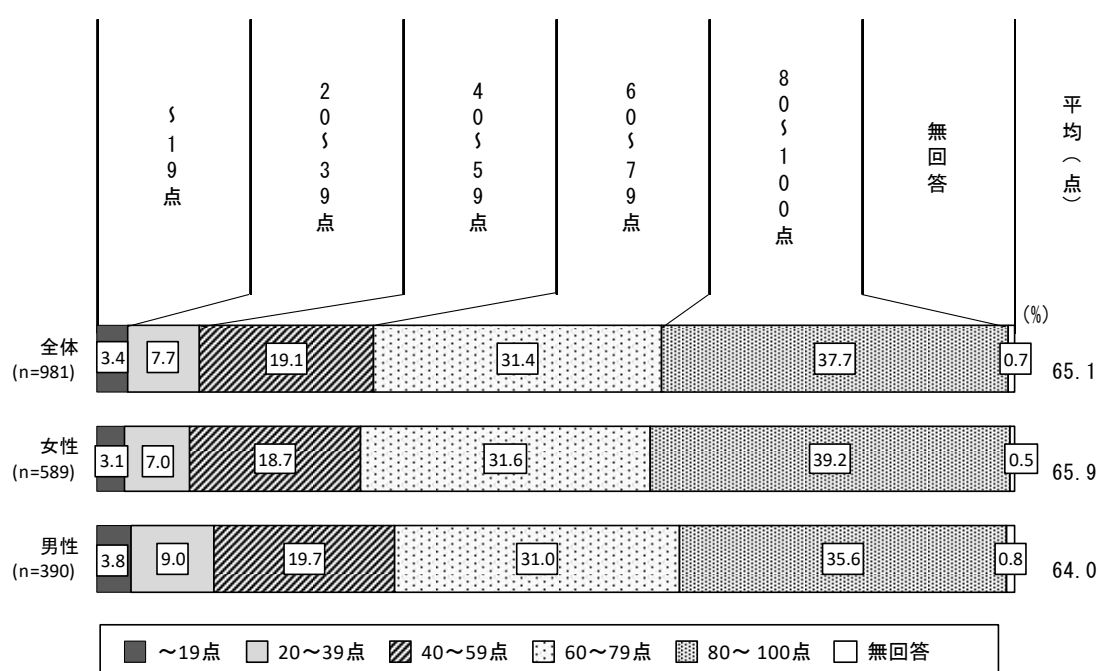
仕事と生活の調和（バランス）度の平均点は65.1点。

全体での平均点は65.1点だった。

性別でみると、平均点は、女性（65.9点）と男性（64.0点）で大きな差はなかった。点の散らばり具合もあまり差はない。

【図表 1-7 参照】

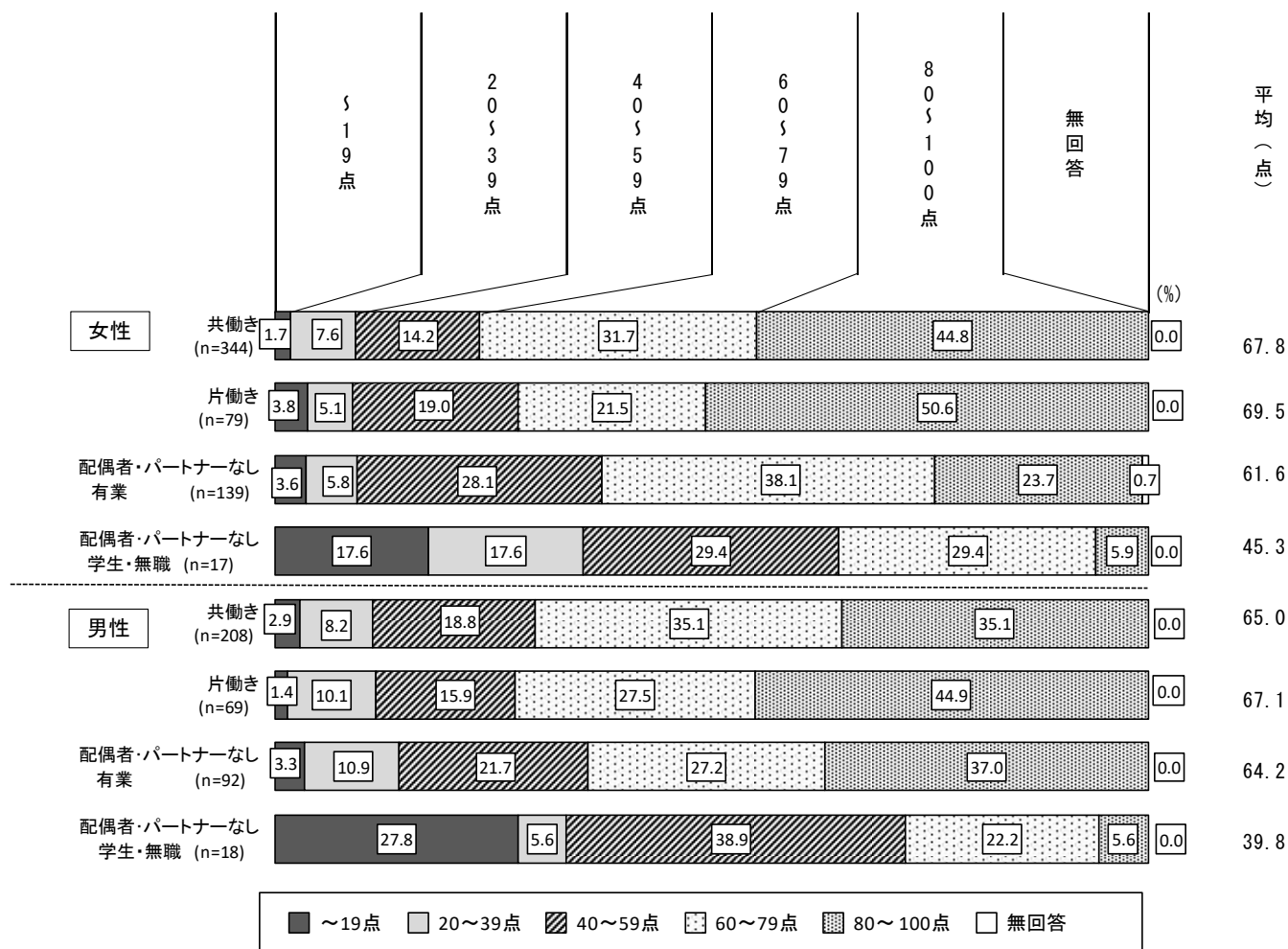
図表 1-7 仕事と生活の調和度（全体、性別）



男女それぞれを配偶者・パートナーの働き方別にみると、平均点が最も高いのは、女性・片働き（69.5 点）だった。次いで女性・共働き（67.8 点）、男性・片働き（67.1 点）の順である。

【図表 1-8 参照】

図表 1-8 仕事と生活の調和度（性別・配偶者・パートナーの働き方別）

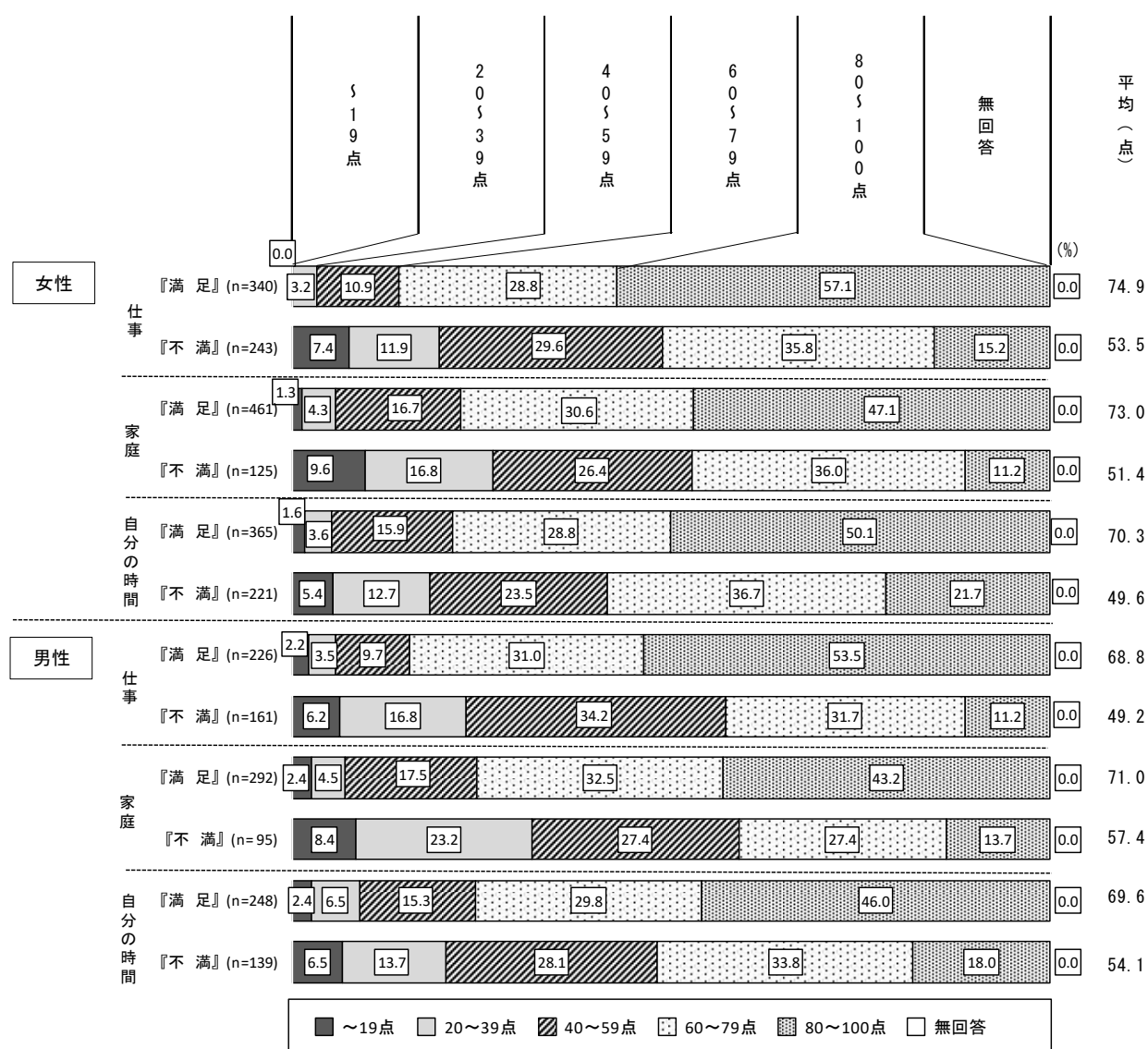


※片働き：配偶者・パートナーがいる中で自分または配偶者・パートナーのどちらか片方が有業の者

男女それぞれを問4の満足度（計）別にみると、男女ともに、仕事、家庭、自分の時間のすべての分野で“満足”のほうが“不満”よりも平均点が高い。

【図表 1-9 参照】

図表 1-9 仕事と生活の調和度（性別・満足度（計）別）



注) 仕事『満足』問4 (A) 「かなり満足している」+「まあ満足している」
『不満』問4 (A) 「やや不満である」+「不満である」
家庭『満足』問4 (B) 「かなり満足している」+「まあ満足している」
『不満』問4 (B) 「やや不満である」+「不満である」
自分の時間『満足』問4 (C) 「かなり満足している」+「まあ満足している」
『不満』問4 (C) 「やや不満である」+「不満である」

(3) 仕事と生活の優先度

問3「仕事」、「家庭」、「自分の時間」の優先度について、あなたのお考えに近いものの番号に1つ○をつけてください。

現在仕事に就いていない方は、仕事に就いていると想定してお答えください。

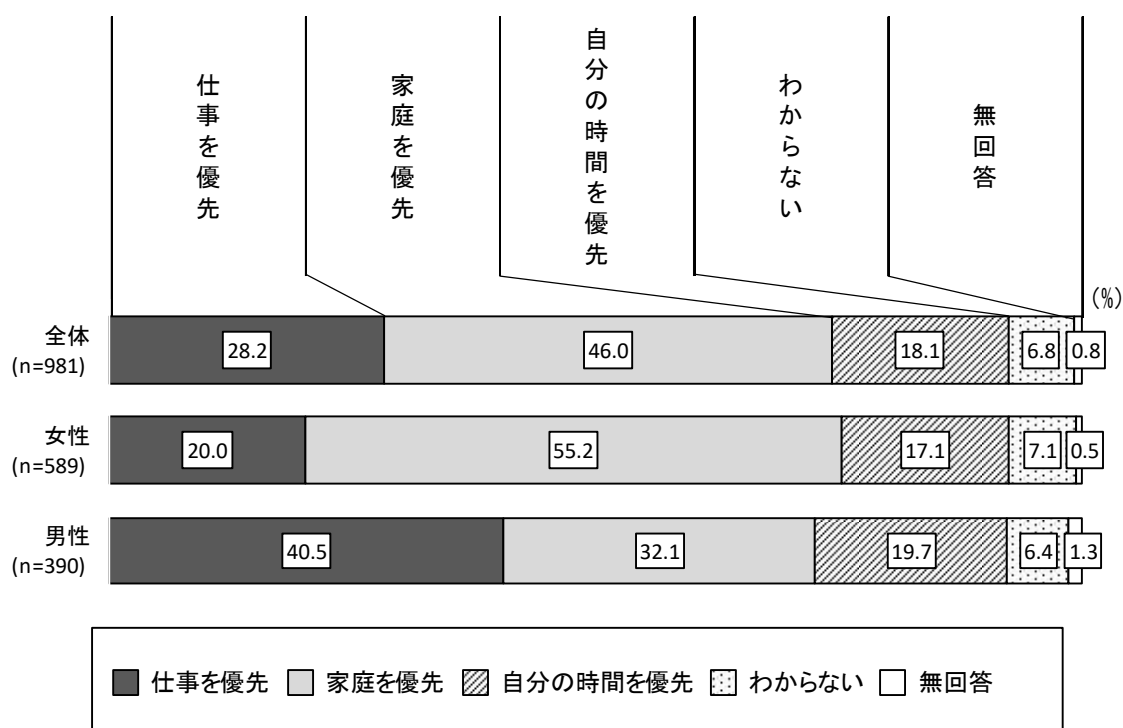
女性では「家庭を優先」が5割半、男性では「仕事を優先」が約4割。

全体では、「家庭を優先」が46.0%で最も高く、「自分の時間を優先」が18.1%と最も低い。

性別でみると、女性では、「家庭を優先」が55.2%で最も高く、男性（32.1%）より23.1ポイント高い。男性では、「仕事を優先」が40.5%で最も高く、女性（20.0%）より20.5ポイント高い。

【図表 1-10 参照】

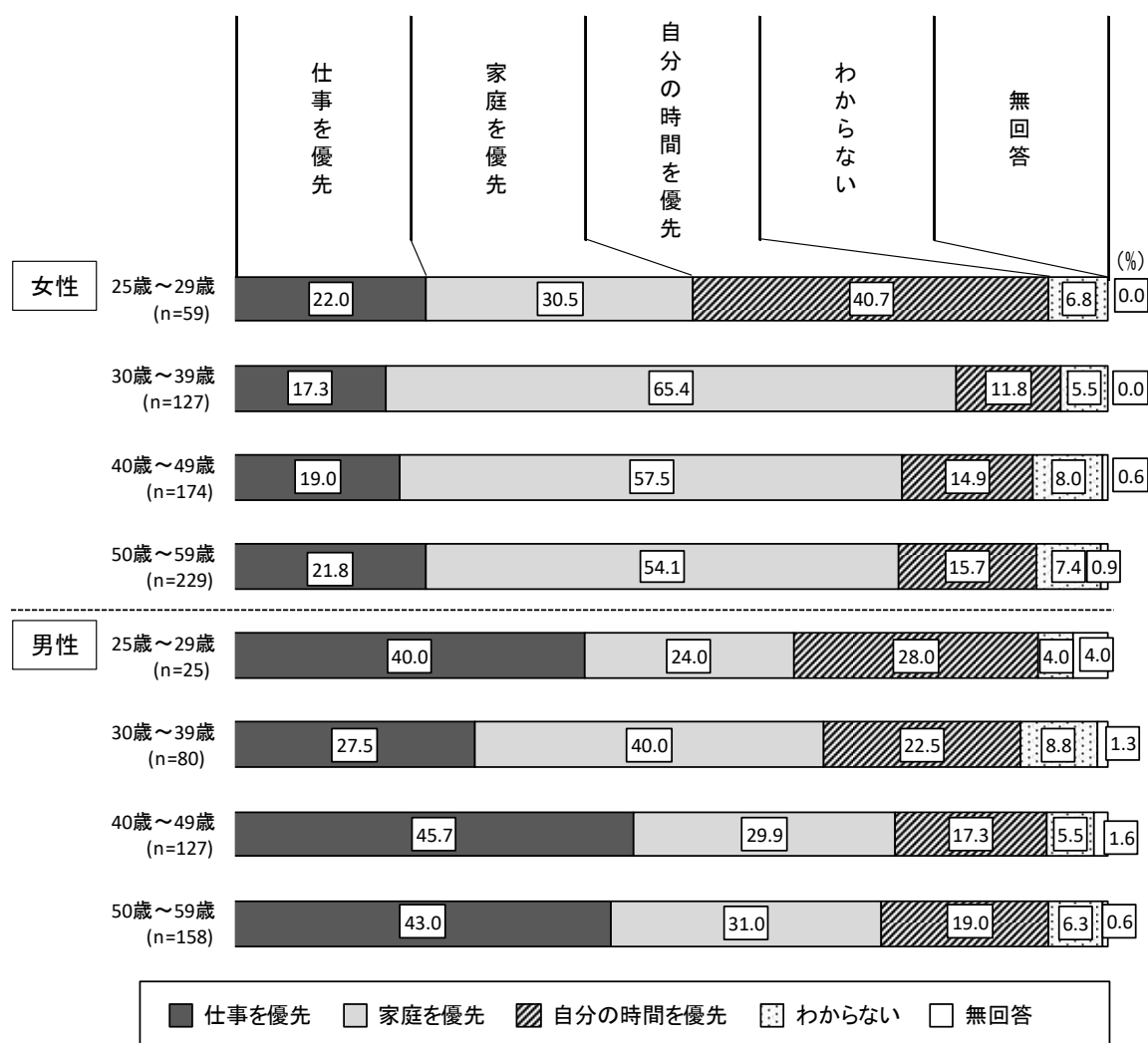
図表 1-10 仕事と生活の優先度
(全体・性別)



男女それぞれを年代別にみると、「家庭を優先」は女性の 30 歳～39 歳（65.4%）が最も高く、次いで、女性の 40 歳～49 歳（57.5%）と続く。「仕事を優先」は男性の 40 歳～49 歳（45.7%）が最も高く、次いで、男性の 50 歳～59 歳（43.0%）と続く。「自分の時間を優先」は女性の 25～29 歳（40.7%）が最も高い。

【図表 1-11 参照】

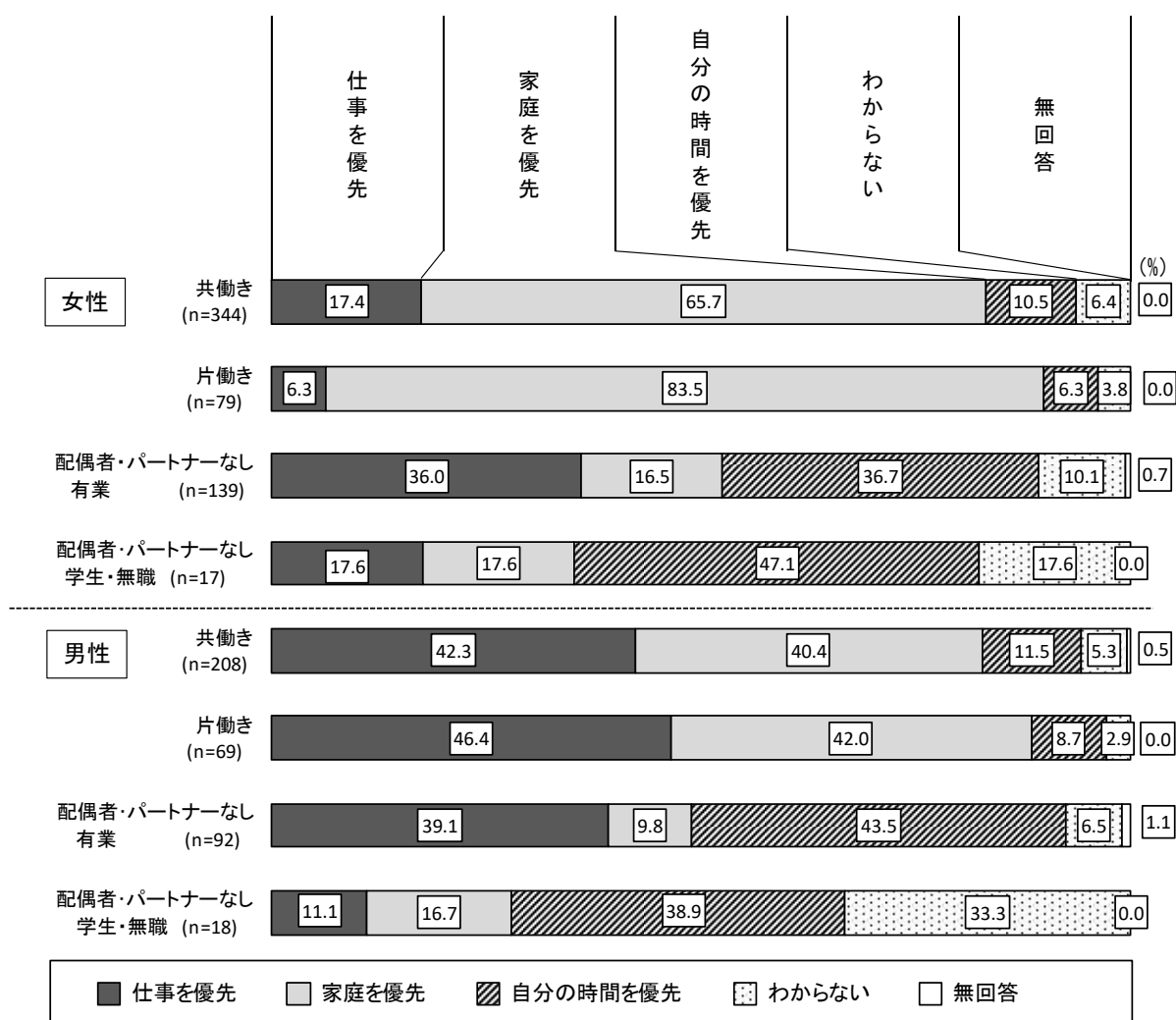
図表 1-11 仕事と生活の優先度
(性別・年代別)



男女それぞれを配偶者・パートナーの働き方別にみると、「共働き」では「家庭を優先」が女性で 65.7%、男性が 40.4%と、女性の方が男性より 25.3 ポイント高い。「配偶者・パートナーなし有業」では「自分の時間を優先」が女性（36.7%）、男性（43.5%）ともに高い。

【図表 1-12 参照】

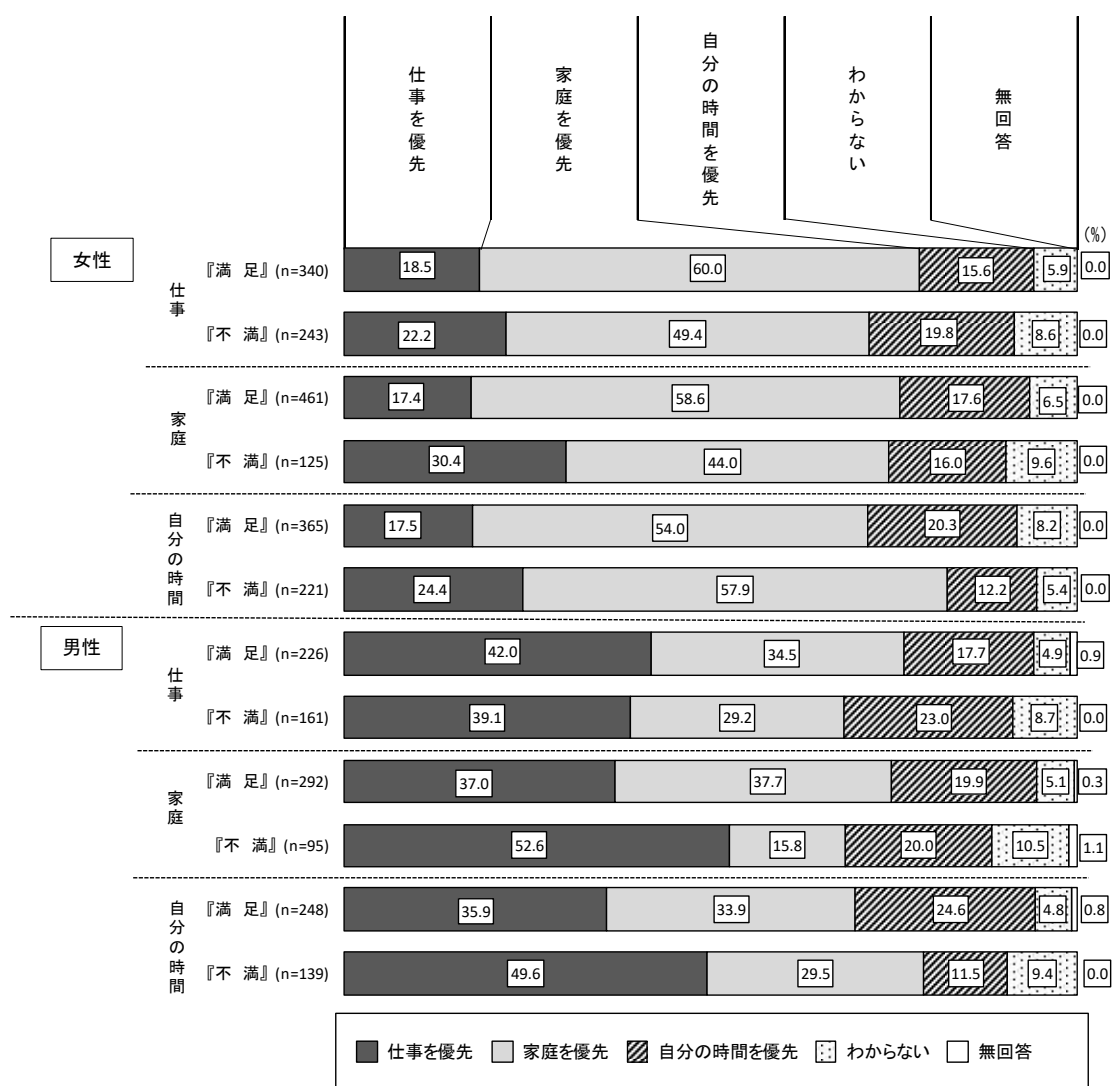
図表 1-12 仕事と生活の優先度（性別・配偶者・パートナーの働き方別）



男女それぞれを問4の満足度（計）別にみると、「仕事を優先」は男性・家庭に“不満”（52.6%）が最も高い。「家庭を優先」は女性・仕事に“満足”（60.0%）が最も高い。

【図表 1-13 参照】

図表 1-13 仕事と生活の優先度（性別・満足度（計）別）



注) 仕事『満足』問4 (A) 「かなり満足している」+「まあ満足している」
 『不満』問4 (A) 「やや不満である」+「不満である」
 家庭『満足』問4 (B) 「かなり満足している」+「まあ満足している」
 『不満』問4 (B) 「やや不満である」+「不満である」
 自分の時間『満足』問4 (C) 「かなり満足している」+「まあ満足している」
 『不満』問4 (C) 「やや不満である」+「不満である」

(4) 「仕事」、「家庭」、「自分の時間」の満足度

問4 あなたは現在、「仕事」、「家庭」、「自分の時間」についてどう感じていますか。
 (A)～(C)のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

(A) 仕事の満足度

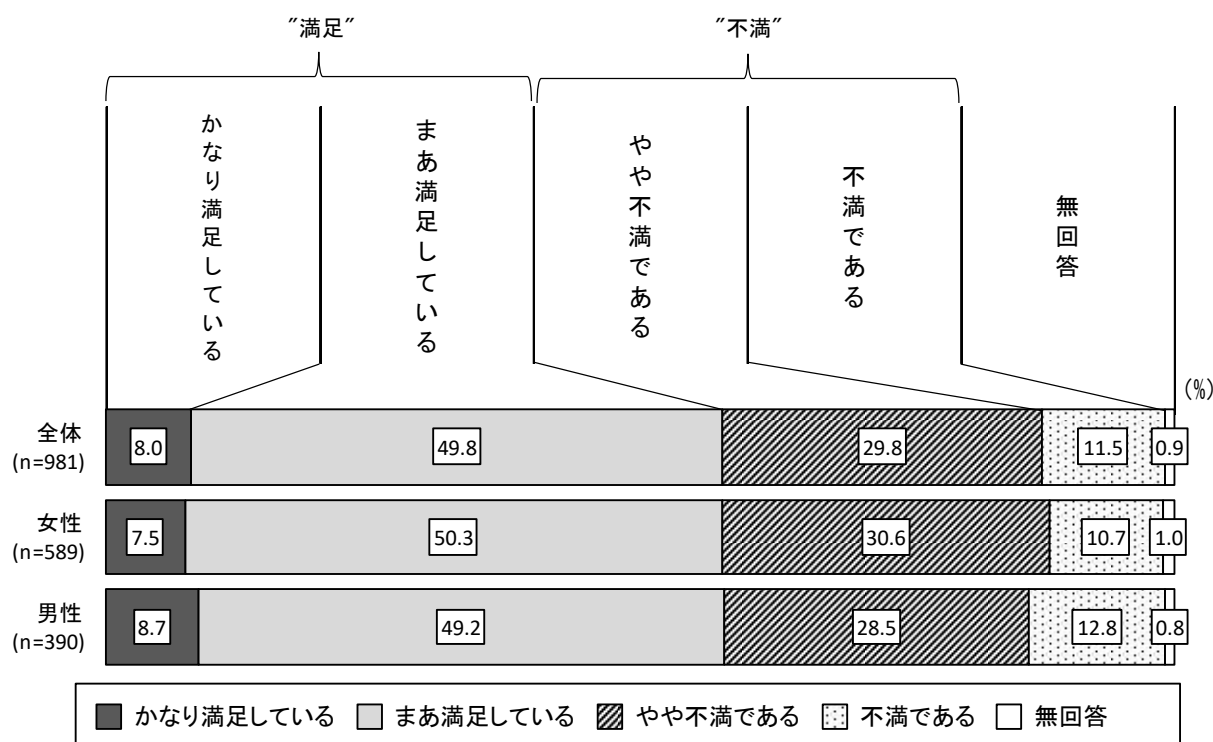
男女ともに6割近くが仕事に“満足”と回答。

全体では、「かなり満足している」、「まあ満足している」の両者を合わせた“満足”は57.8%である。一方、「やや不満である」、「不満である」の両者を合わせた“不満”は41.3%である。

性別でみると、男女ともに“満足”（女性57.8%、男性57.9%）が6割近く、“不満”（女性41.3%、男性41.3%）は4割以上となった。

【図表 1-14 参照】

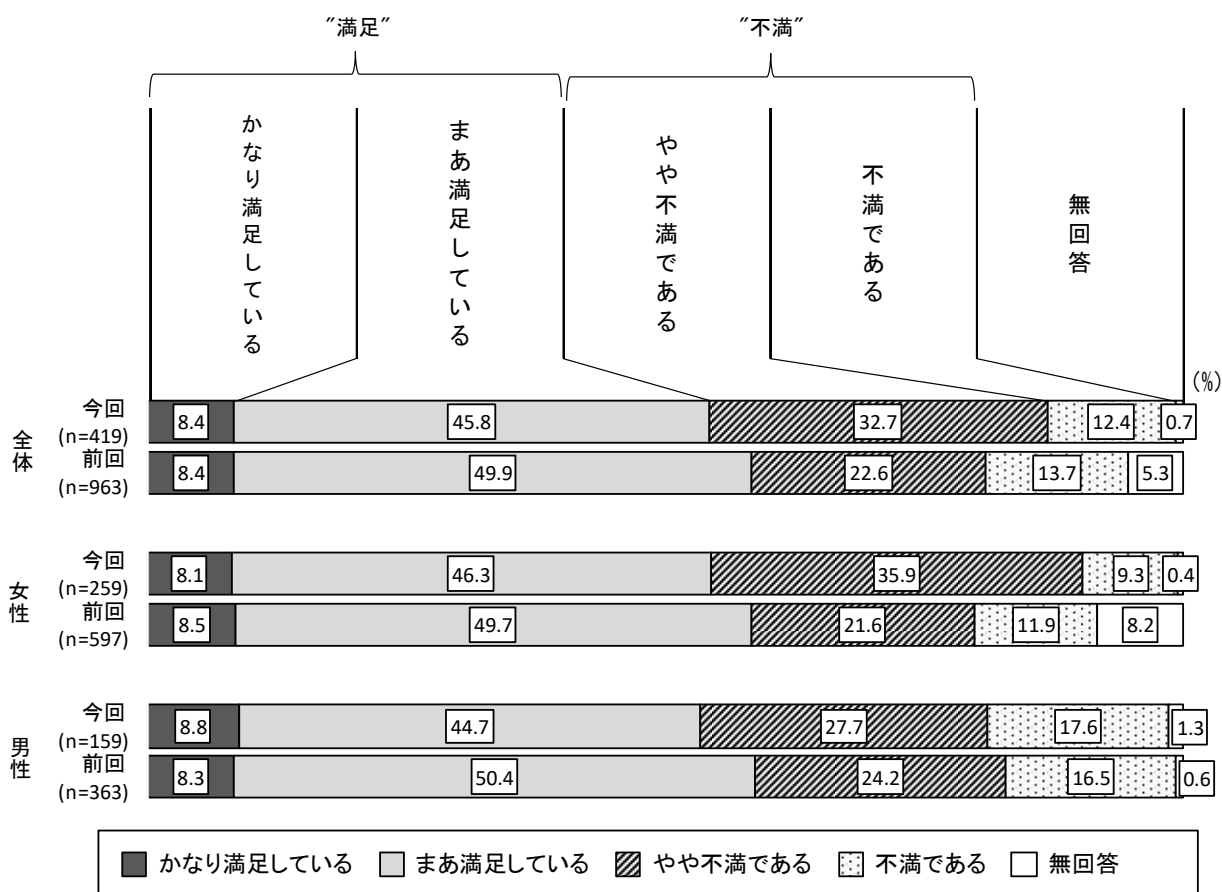
図表 1-14 (A) 仕事の満足度（全体、性別）



前回調査にあわせて対象年齢を 25 歳～44 歳（419 人）に限って比較すると、全体では“不満”（45.1%）が 8.8 ポイント増加している。女性では、“不満”（45.2%）が 11.7 ポイント増加している。

【図表 1-15 参照】

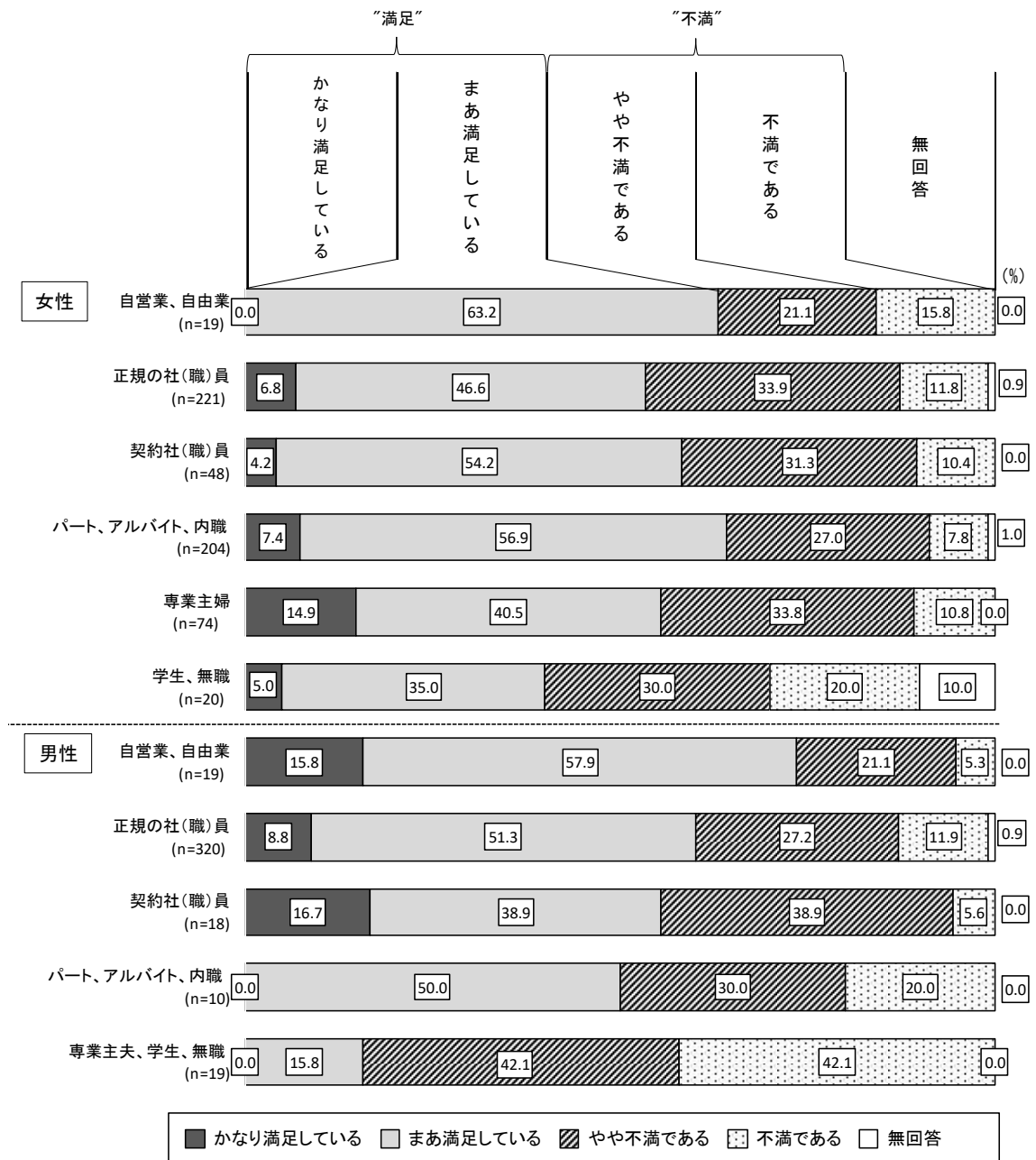
図表 1-15 （A）仕事の満足度（前回比較）



男女それぞれを職業形態別にみると、“満足”が高いのは、女性では「パート、アルバイト、内職」で64.3%、男性では、「正規の社（職）員」で60.1%となっている。
 なお、n=50未満の項目は参考値とする（本報告書2頁5(4)参照）。

【図表 1-16 参照】

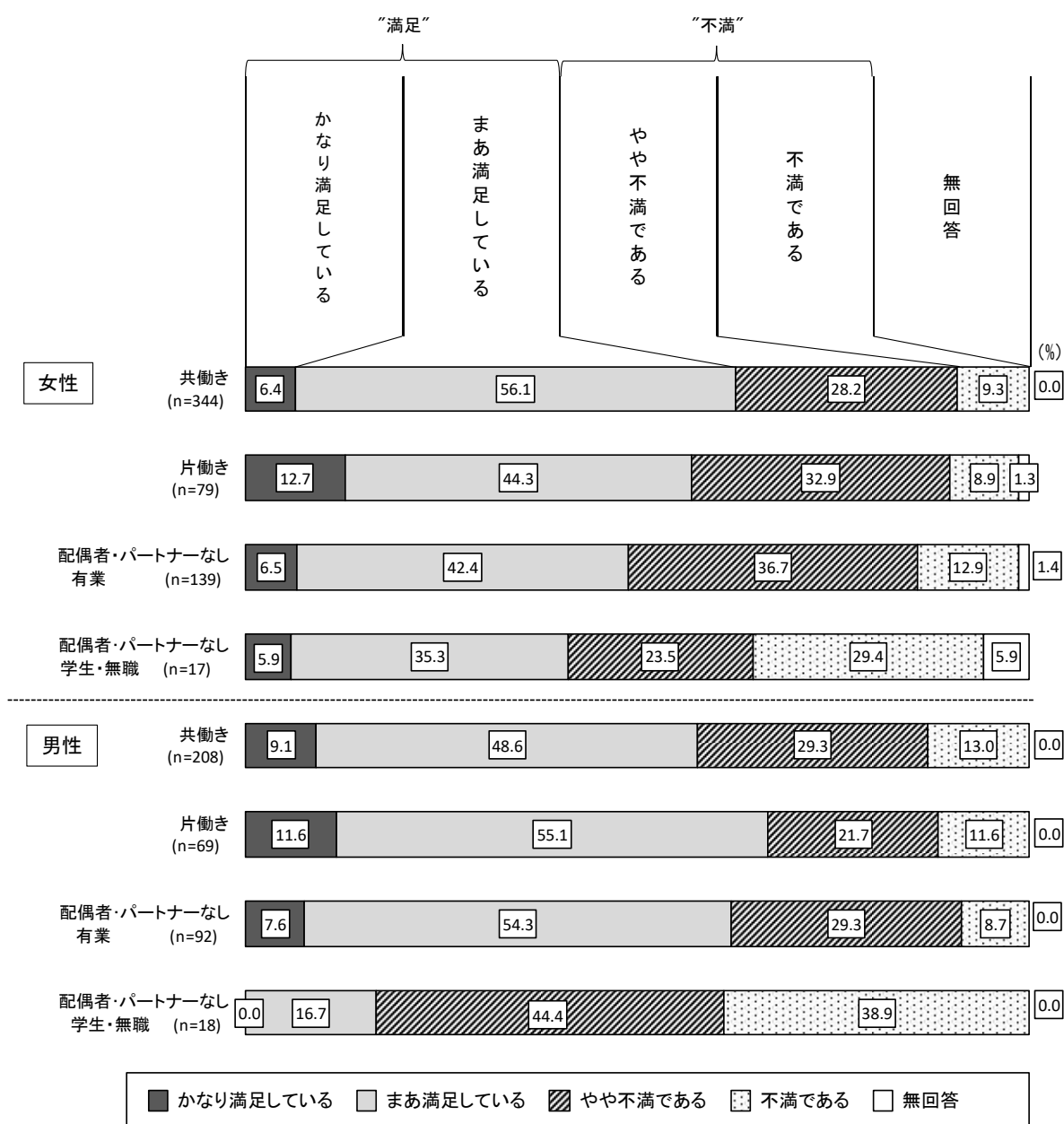
図表 1-16 （A）仕事の満足度（性別・職業形態別）



男女それぞれを配偶者・パートナーの働き方別にみると、「共働き」では“満足”が女性で 62.5%、男性が 57.7%と、女性の方が男性より 4.8 ポイント高い。「片働き」では“満足”が女性で 57.0%、男性が 66.7%と、男性の方が女性より 9.7 ポイント高い。

【図表 1-17 参照】

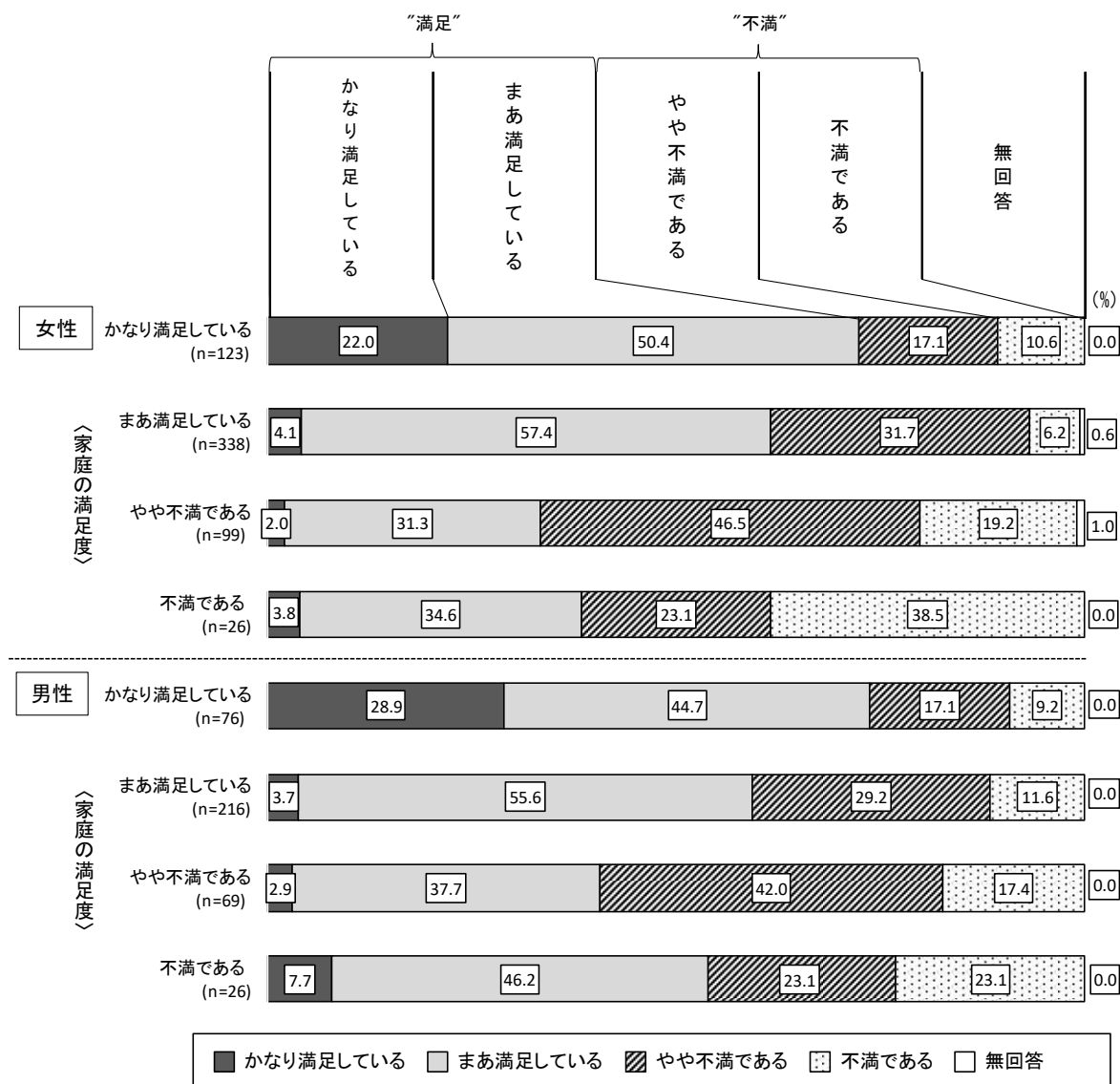
図表 1-17 (A) 仕事の満足度（性別・配偶者・パートナーの働き方別）



家庭の満足度の回答別（P.37 参照）にみると、男女ともに、家庭に「かなり満足している」人は、仕事に“満足”が7割台となっている。

【図表 1-18 参照】

図表 1-18 （A）仕事の満足度（性別・〈家庭の満足度〉の回答別）



(B) 家庭の満足度

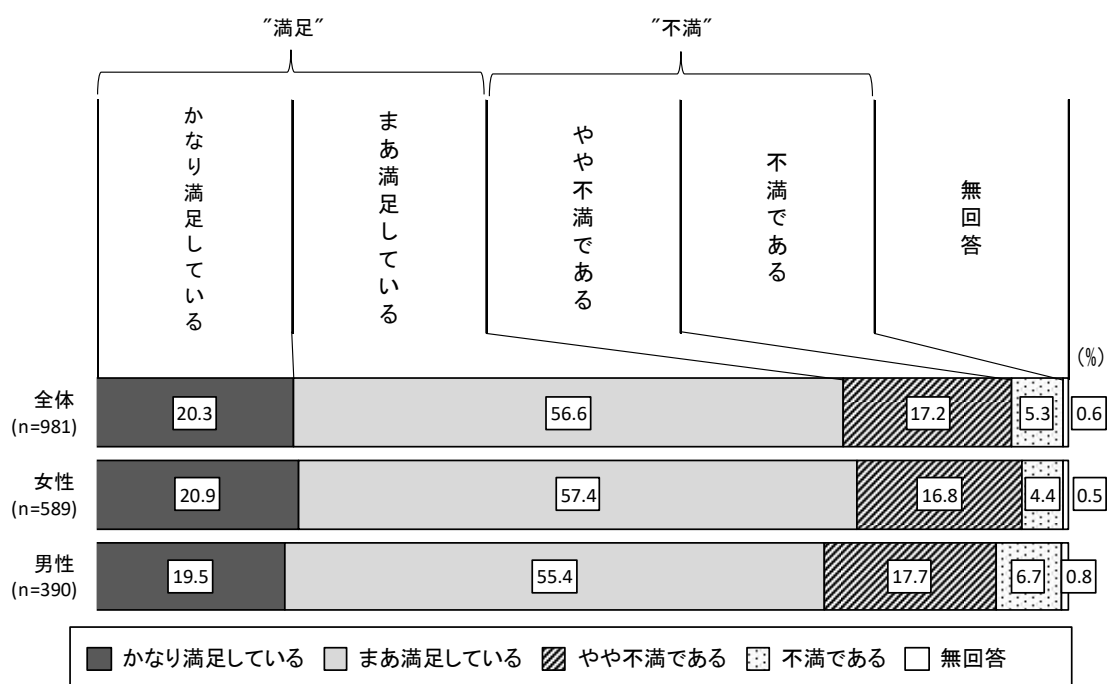
女性は8割近く、男性は7割半が家庭に“満足”と回答。

全体では、「かなり満足している」、「まあ満足している」の両者を合わせた“満足”は76.9%である。一方、「やや不満である」、「不満である」の両者を合わせた“不満”は22.5%である。

性別でみると、男女ともに「まあ満足している」（女性57.4%、男性55.4%）が最も高い。「かなり満足している」は女性が20.9%で男性が19.5%となりほとんど差はみられない。

【図表 1-19 参照】

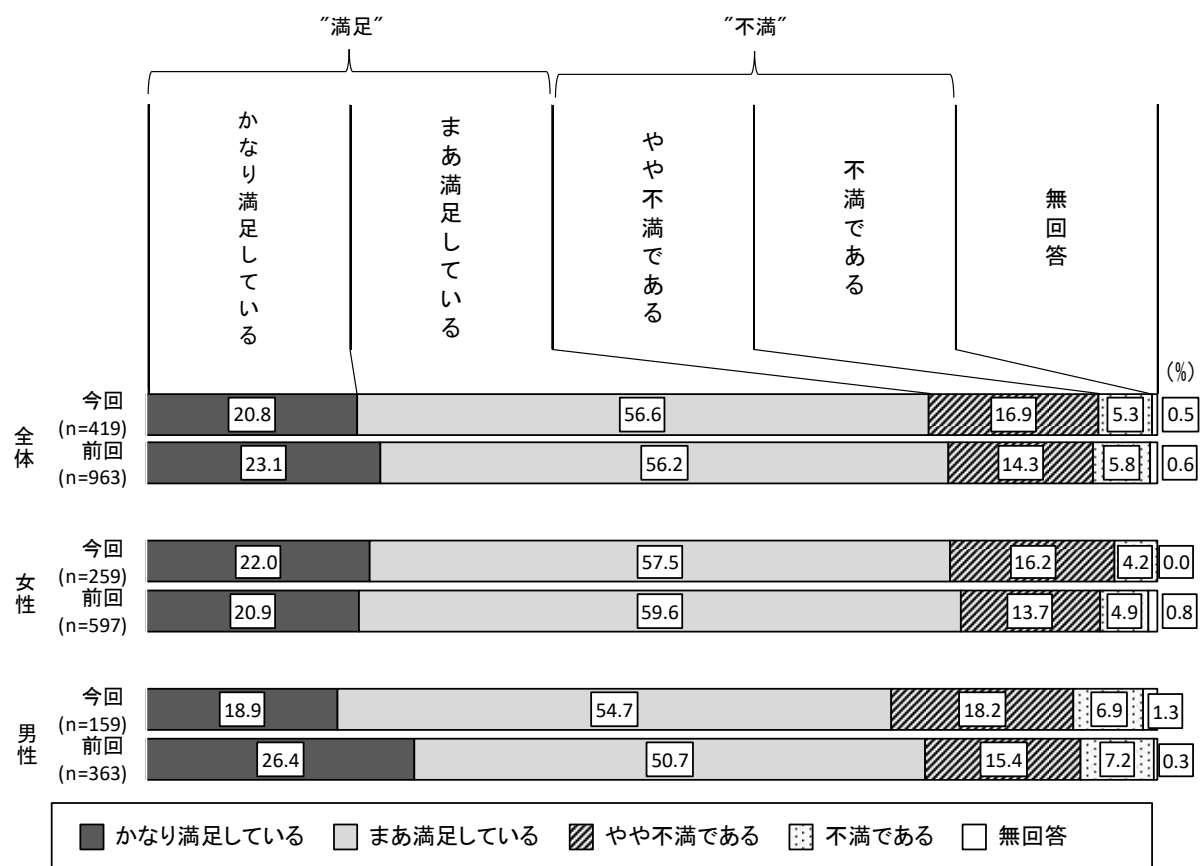
図表 1-19 (B) 家庭の満足度（全体、性別）



前回調査にあわせて対象年齢を 25 歳～44 歳（419 人）に限って比較すると、男性では「かなり満足している」（18.9%）が 7.5 ポイント減少している。

【図表 1-20 参照】

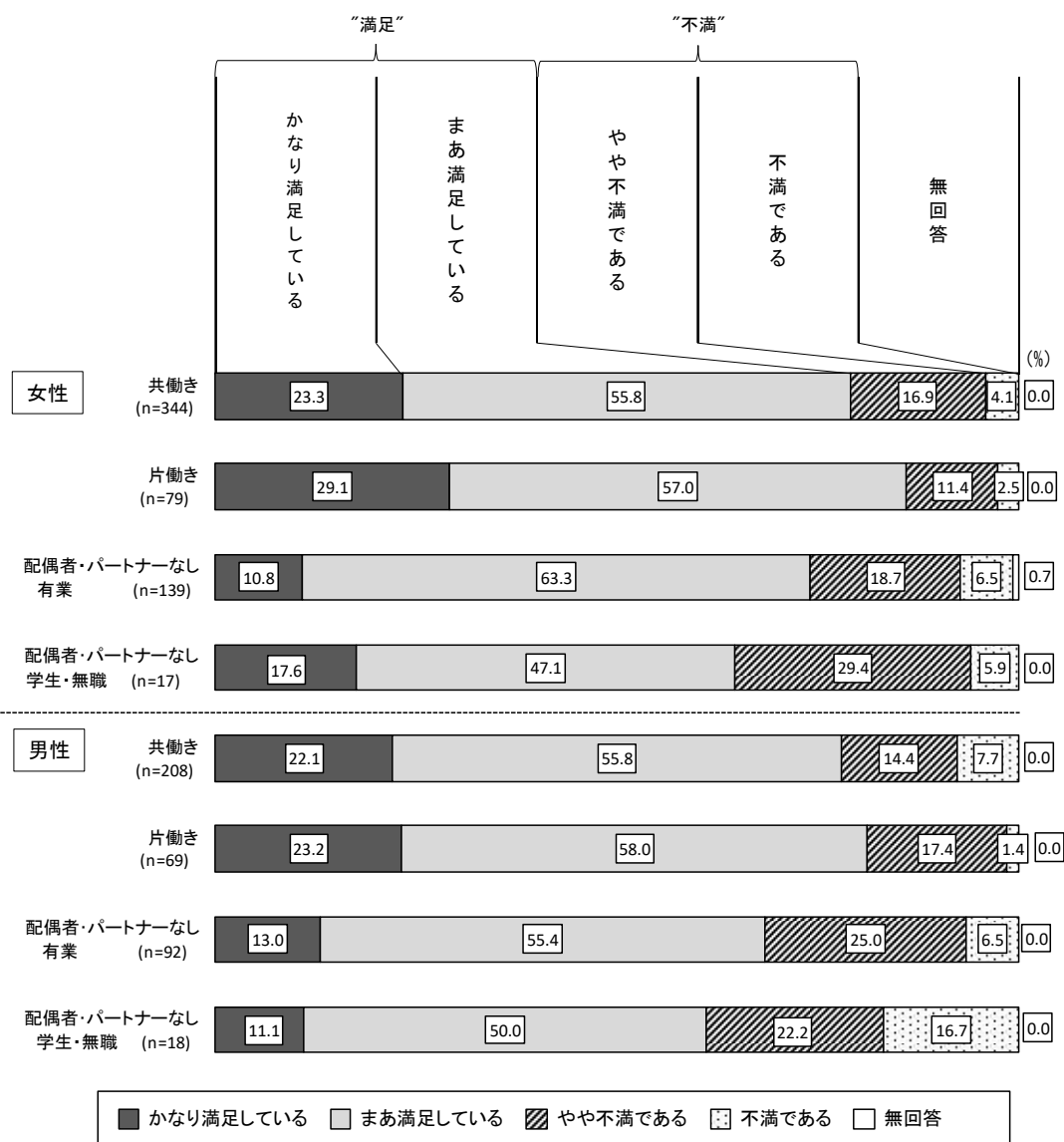
図表 1-20 （B）家庭の満足度（前回比較）



男女それぞれを配偶者・パートナーの働き方別にみると、“満足”は、男女とも「片働き」（女性 86.1%、男性 81.2%）で最も高く、次いで「共働き」（女性 79.1%、男性 77.9%）が高い。女性の「配偶者・パートナーなし有業」は“満足”が 74.1%、男性の「配偶者・パートナーなし有業」は 68.4%と、女性の方が男性より 5.7 ポイント高い。

【図表 1-21 参照】

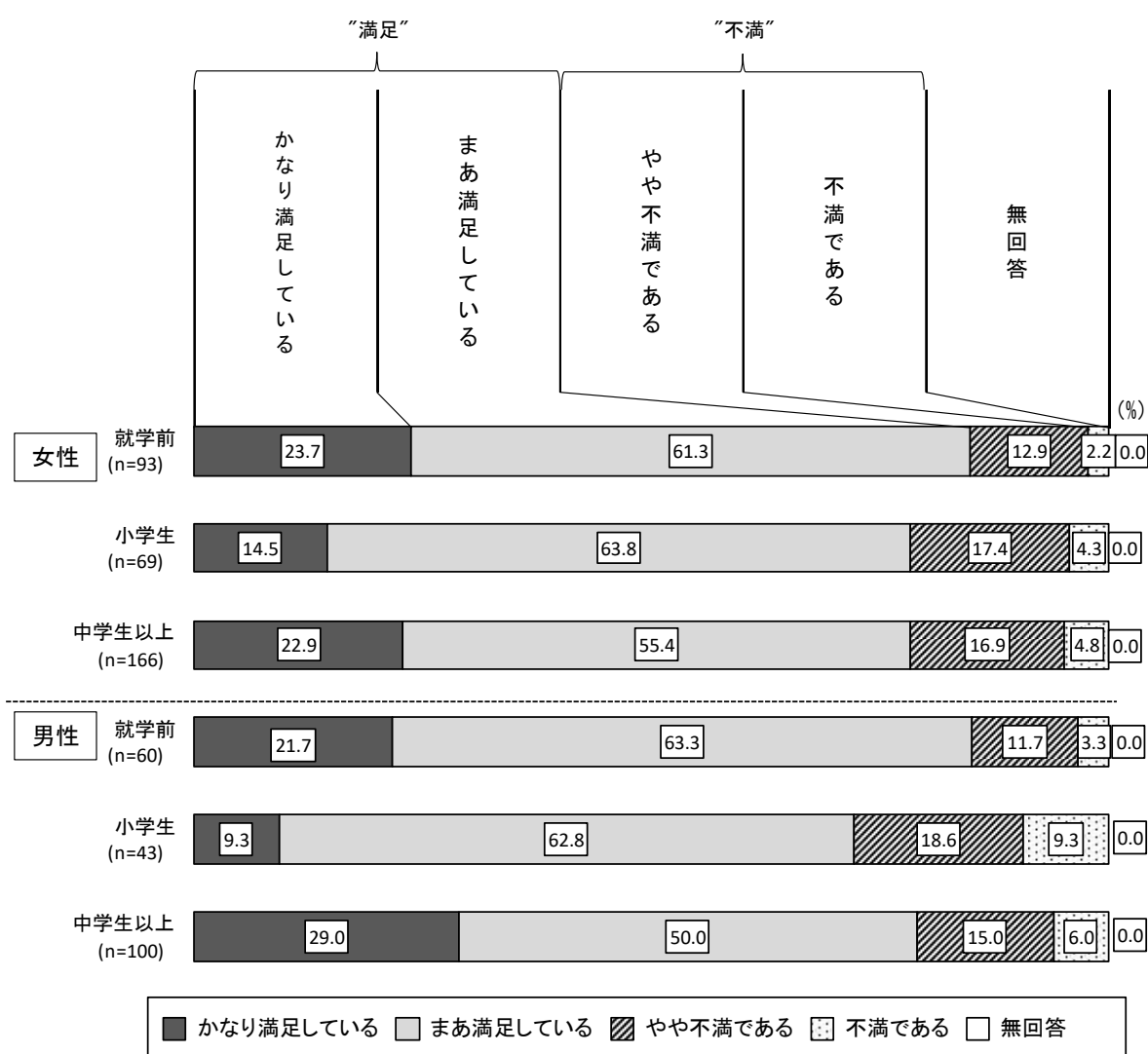
図表 1-21 （Ｂ）家庭の満足度（性別・配偶者・パートナーの働き方別）



男女それぞれを最年少の子どもの成長段階別にみると、女性では“満足”が「就学前」で最も高く 85.0%、次いで「小学生」、「中学生以上」で、ともに 78.3% となっている。男性では、“満足”が「就学前」で最も高く 85.0%、次いで「中学生以上」で 79.0%、「小学生」で、72.1%となっている。

【図表 1-22 参照】

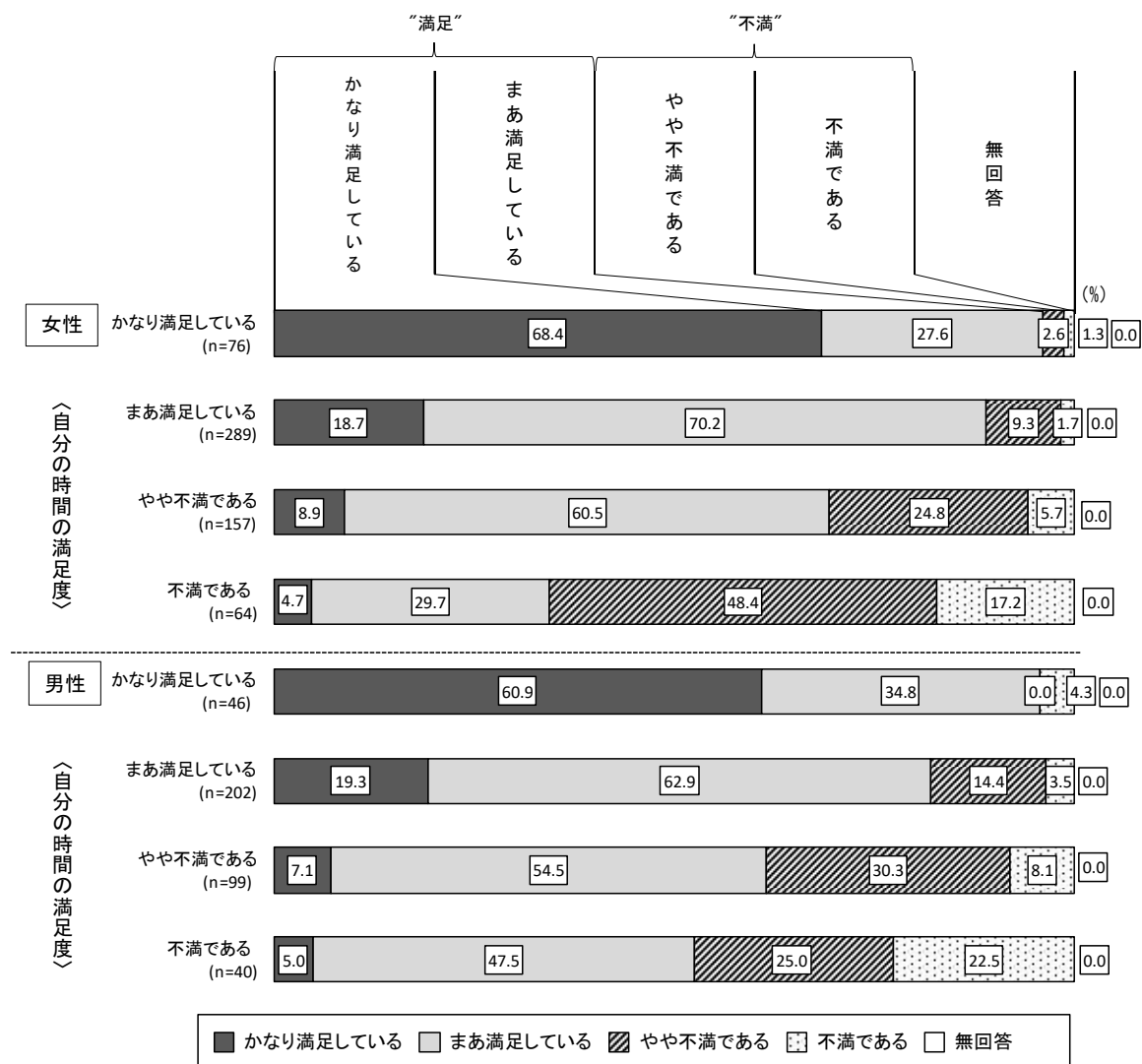
図表 1-22 (B) 家庭の満足度（性別・最年少の子どもの成長段階別）



〈自分の時間の満足度〉の回答別（P. 42 参照）にみると、男女ともに自分の時間の満足度が高い人ほど、家庭の満足度が高い傾向がみられ、自分の時間に「かなり満足している」人では女性で 96.0%、男性で 95.7%が家庭に“満足”と回答している。

【図表 1-23 参照】

図表 1-23 （B）家庭の満足度（性別・〈自分の時間の満足度〉の回答別）



(C) 自分の時間の満足度

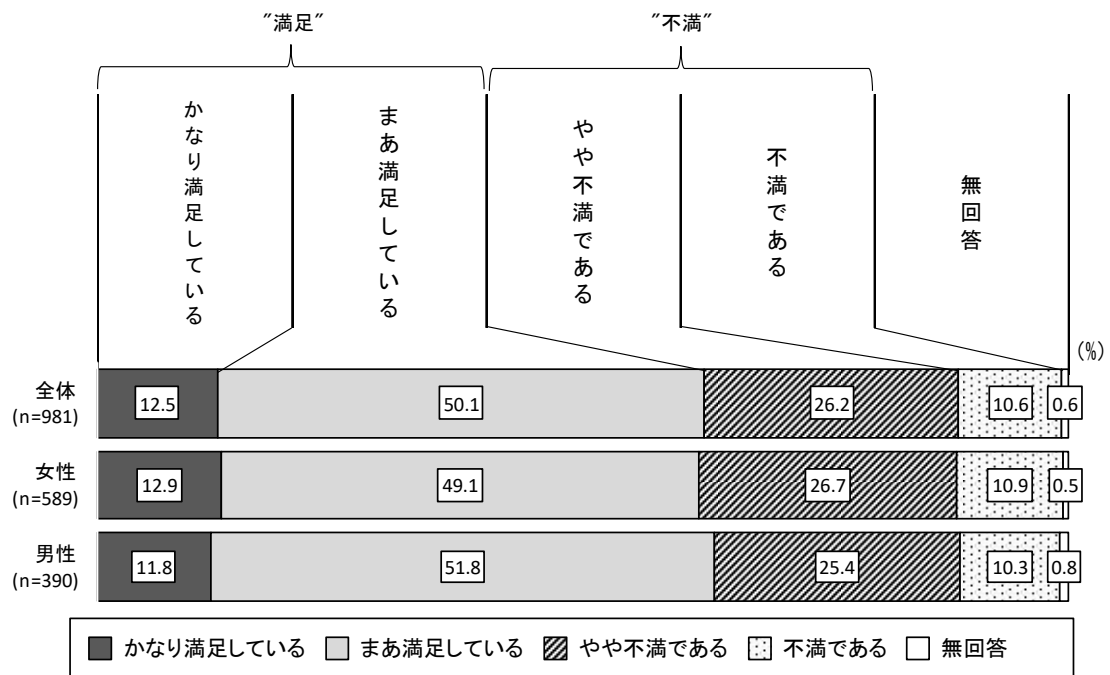
男女ともに6割以上が自分の時間について“満足”と回答。

全体では、「かなり満足している」、「まあ満足している」の両者を合わせた“満足”は62.6%である。

性別でみると、“満足”は女性が62.0%、男性が63.6%で、性別による大きな差はみられない。

【図表 1-24 参照】

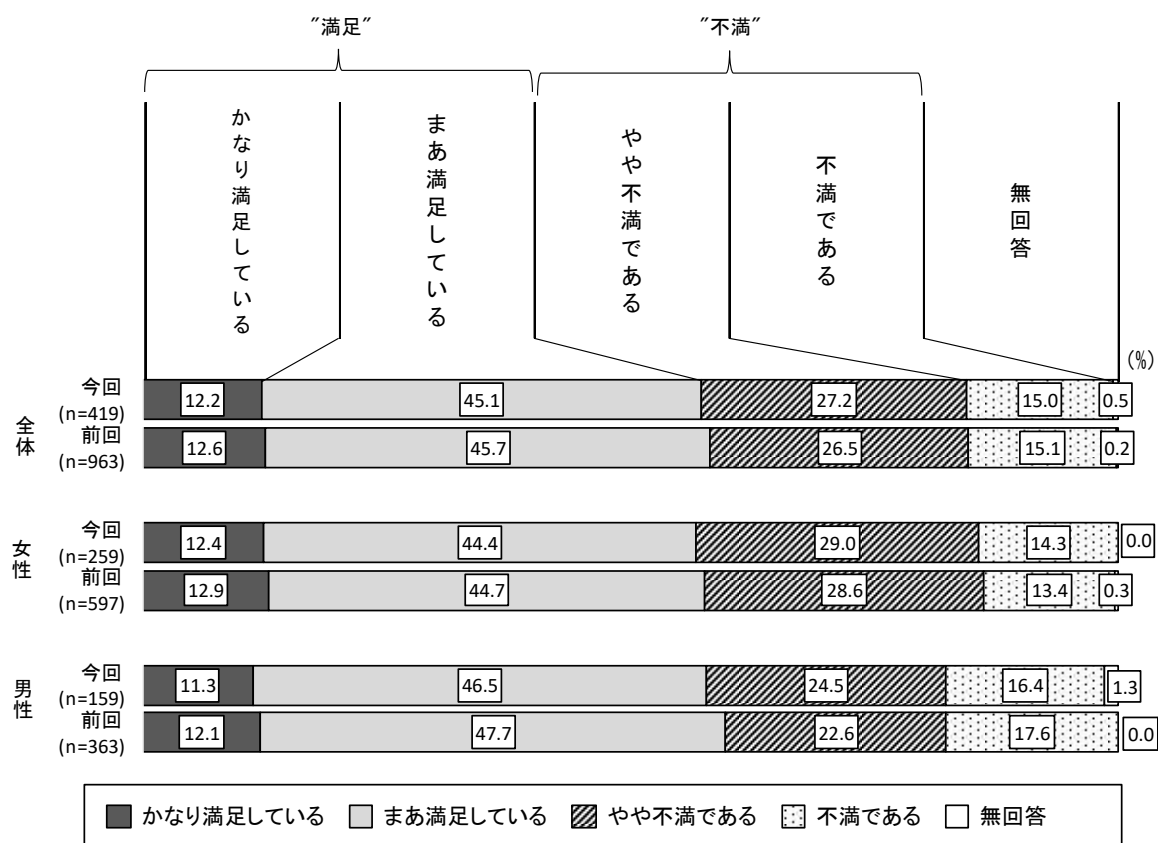
図表 1-24 (C) 自分の時間の満足度（全体、性別）



前回調査にあわせて対象年齢を 25 歳～44 歳（419 人）に限って比較すると、男女ともに大きな違いはみられない。

【図表 1-25 参照】

図表 1-25 （C）自分の時間の満足度（前回比較）

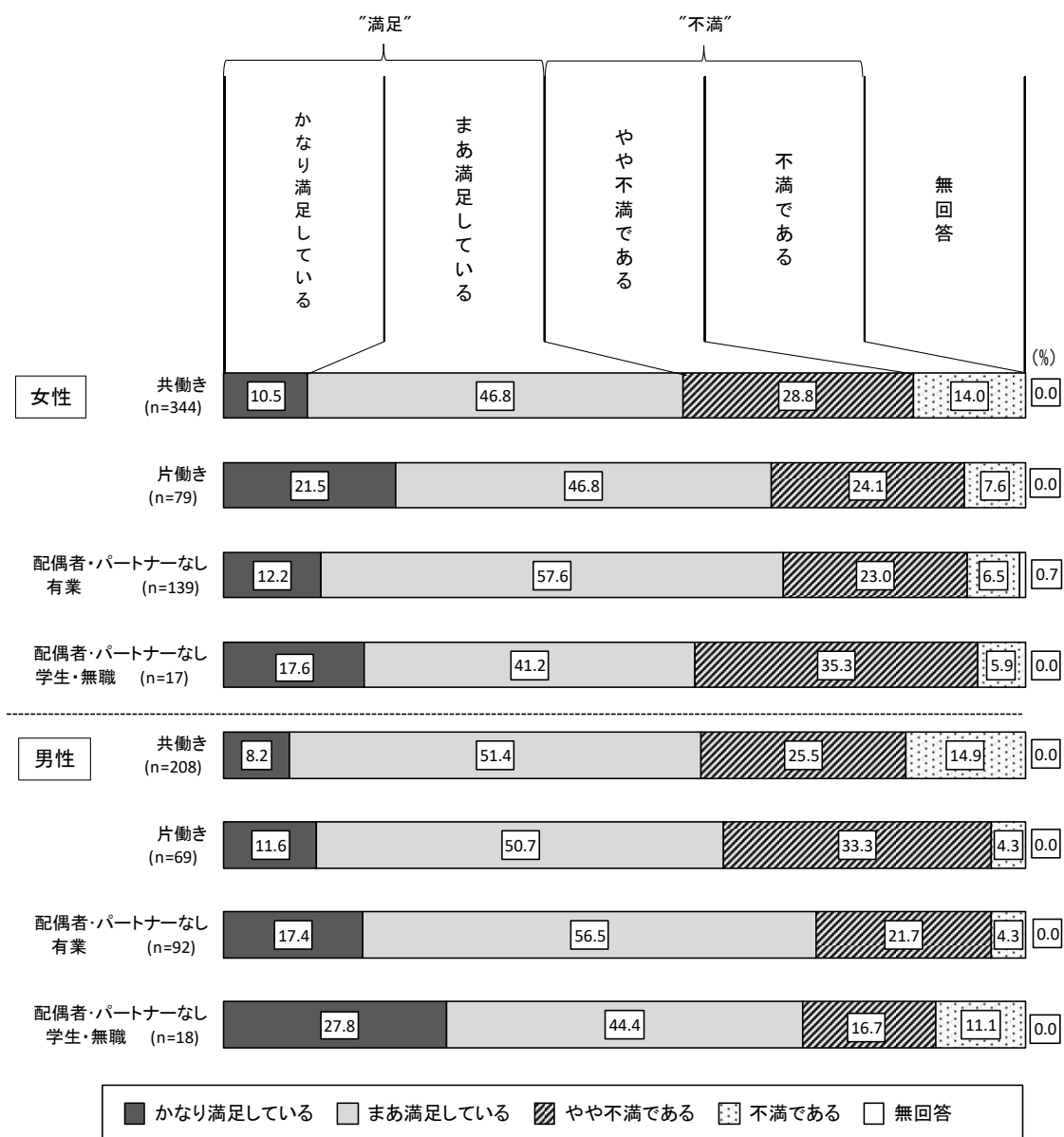


男女それぞれを配偶者・パートナーの働き方別にみると、男女ともに“満足”は「配偶者・パートナーなし有業」（女性 69.8%、男性 73.9%）で最も高い。

一方、男女ともに“不満”は「共働き」（女性 42.8%、男性 40.4%）で最も高い。

【図表 1-26 参照】

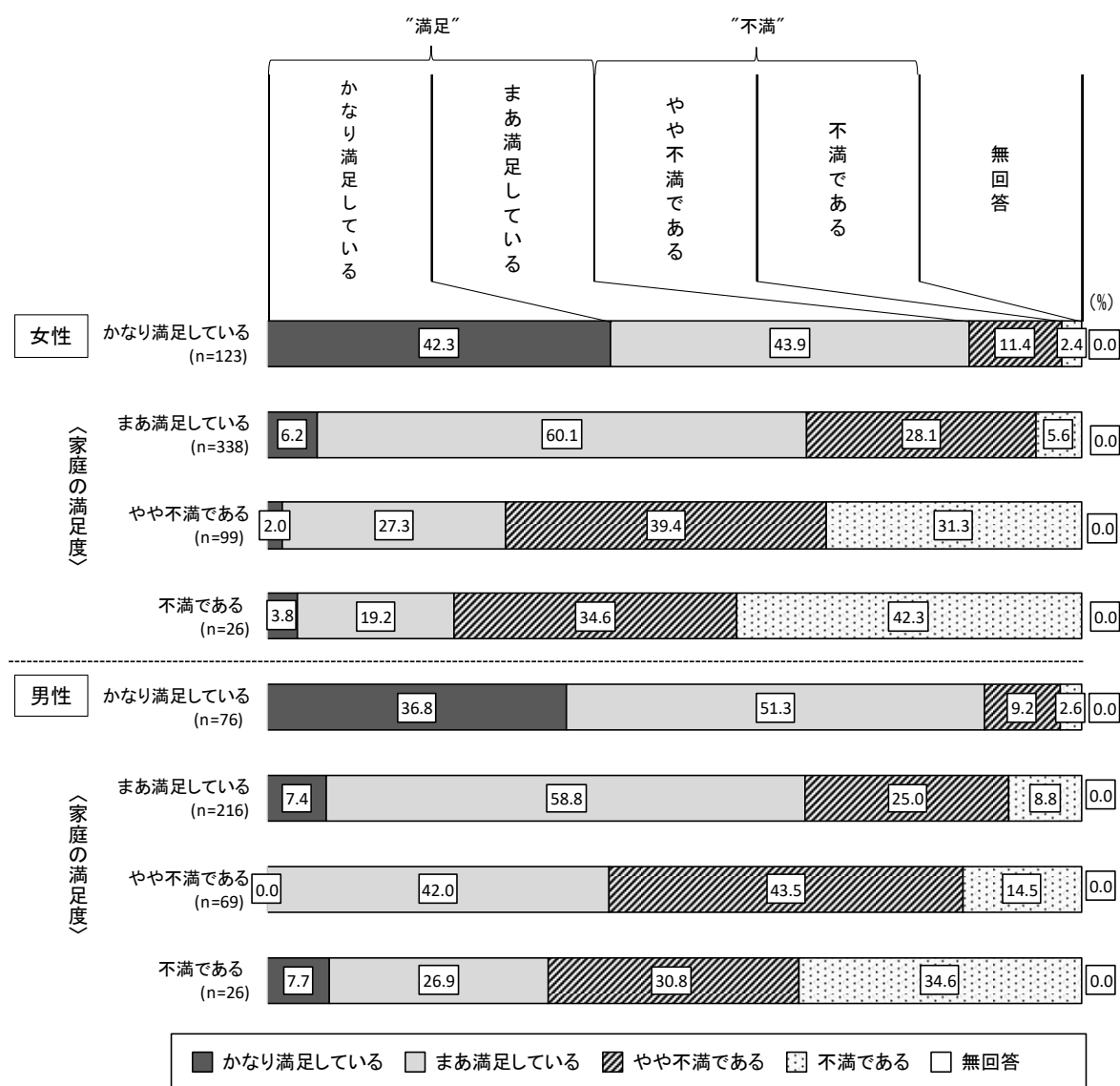
図表 1-26 （C）自分の時間の満足度（性別・配偶者・パートナーの働き方別）



〈家庭の満足度〉の回答別（P.37 参照）にみると、男女ともに、家庭の満足度が高い人ほど、自分の時間の満足度が高い傾向がみられる。家庭に「かなり満足している」人で自分の時間に“満足”は女性で 86.2%、男性で 88.1%と、大きな差はみられない。

【図表 1-27 参照】

図表 1-27 （C）自分の時間の満足度（性別・〈家庭の満足度〉の回答別）



(A) 仕事・(B) 家庭の満足度

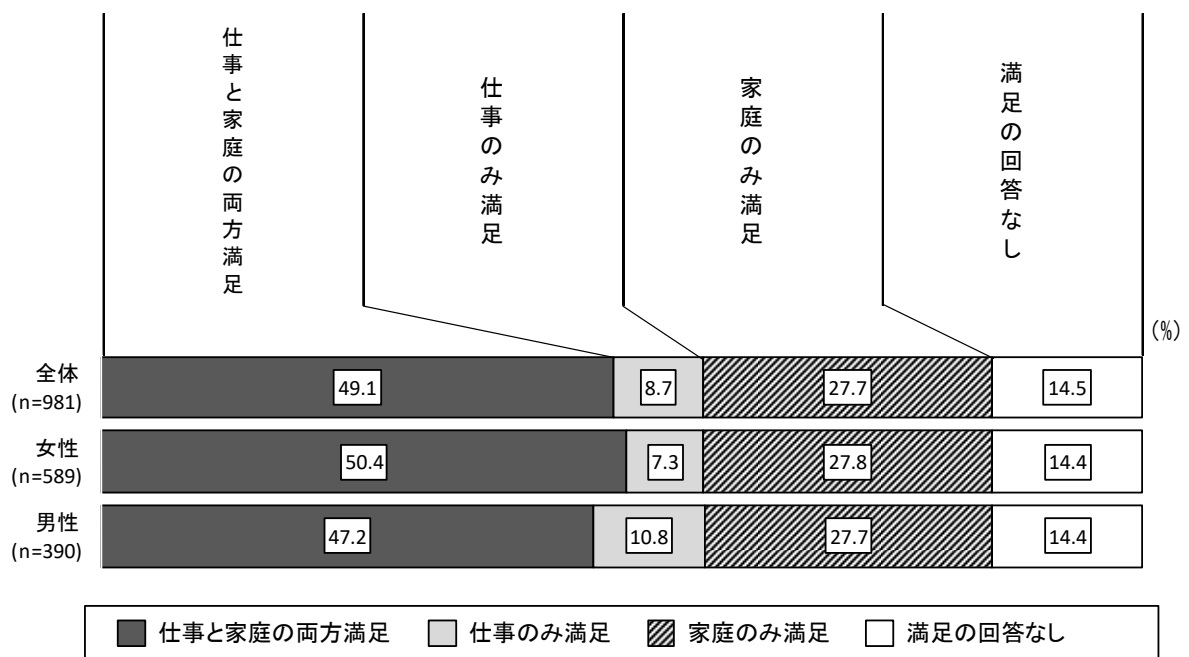
約 5 割が「仕事・家庭の両方満足」と回答。

全体では、「仕事・家庭の両方満足」は 49.1%で最も多く、次いで「家庭のみ満足」は 27.7%である。

性別でみると、「仕事・家庭の両方満足」は女性が 50.4%、男性が 47.2%で、大きな差はみられない。

【図表 1-28 参照】

図表 1-28 (A) 仕事・(B) 家庭の満足度（全体、性別）



注) 仕事と家庭の両方満足：仕事の満足度、家庭の満足度の項目でともに“満足”

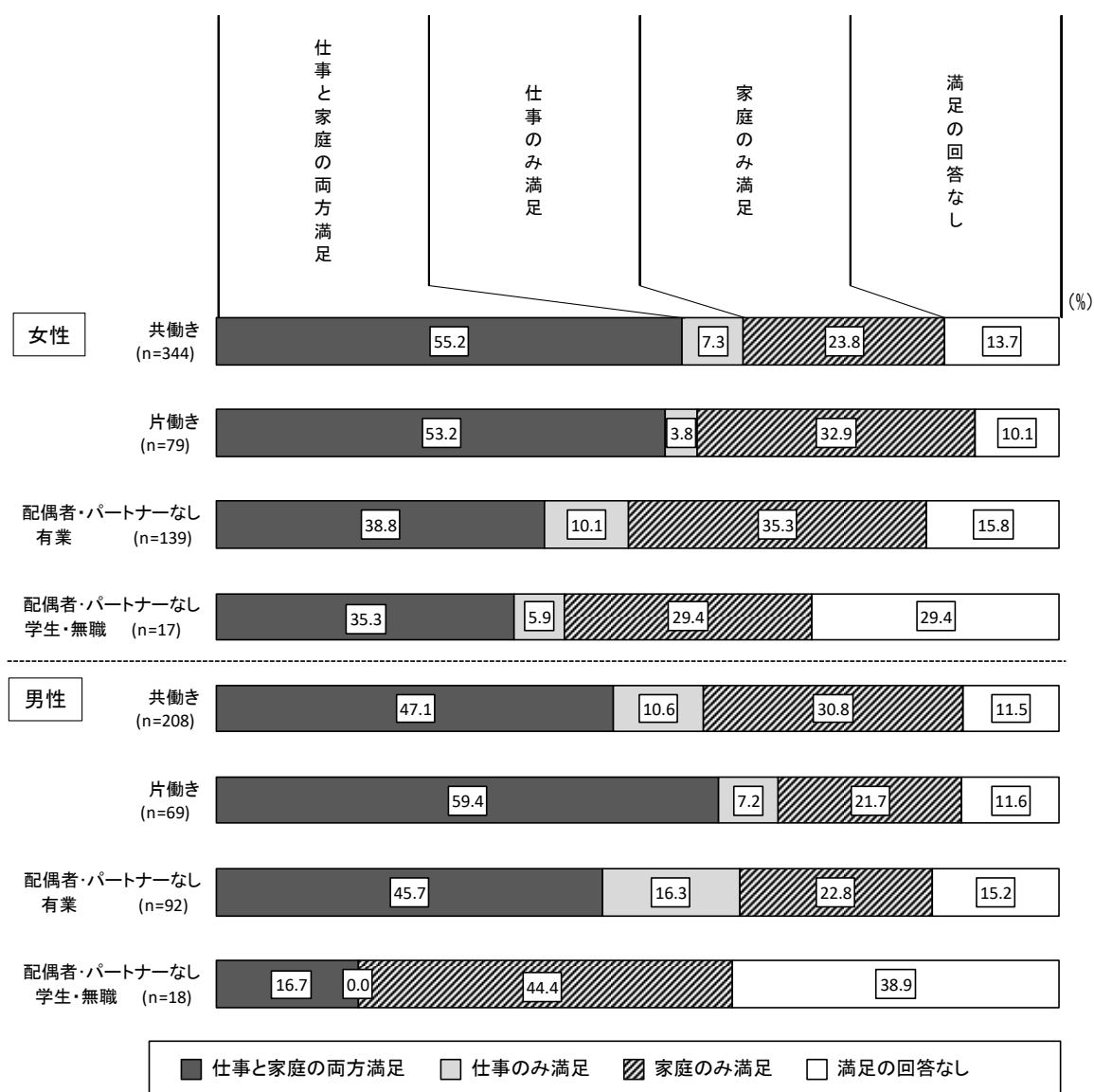
仕事のみ満足：仕事の満足度の項目のみ“満足”

家庭のみ満足：家庭の満足度の項目のみ“満足”

男女それぞれを配偶者・パートナーの働き方別にみると、女性では、「仕事・家庭の両方満足」は「共働き」（55.2%）で最も高い。男性では、「仕事・家庭の両方満足」は「片働き」（59.4%）で最も高い。

【図表 1-29 参照】

図表 1-29 （A）仕事・（B）家庭の満足度
（性別・配偶者・パートナーの働き方別）



(5) 女性が働くことについて

問5 女性が働く（仕事に就く）ことについて、あなたのお考えに近いものの番号に1つ○をつけてください。女性はご自分のこととして、男性は配偶者・パートナーのこと（いない場合は、一般的な考え）をお答えください。

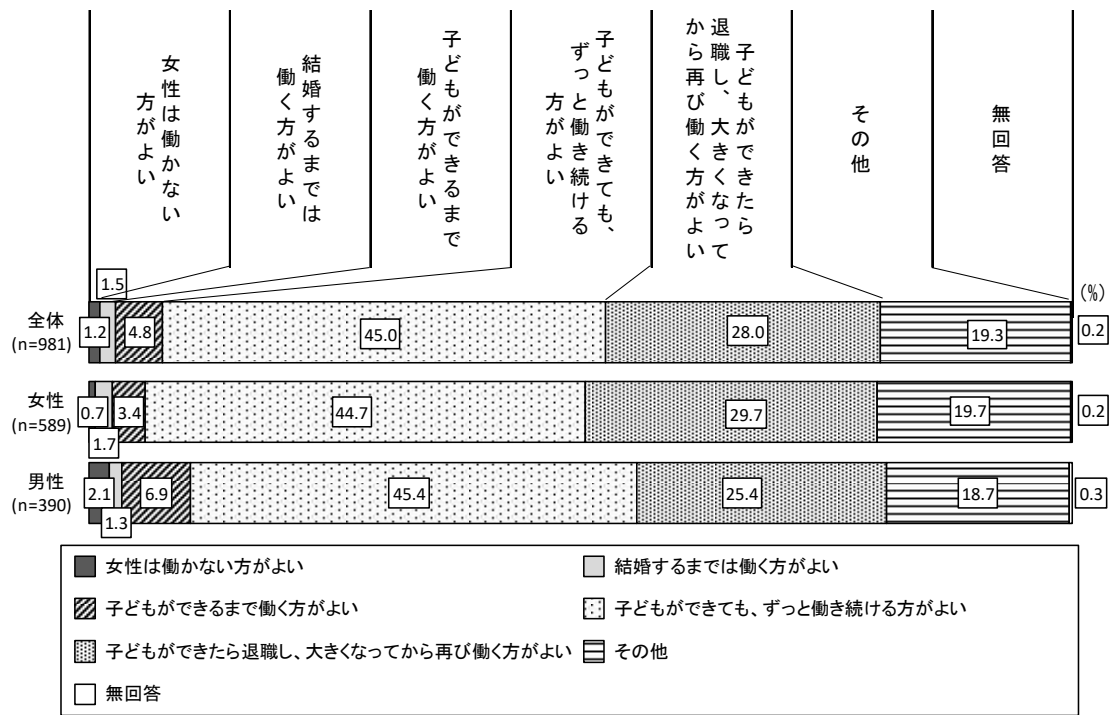
「（子どもができて、）ずっと働き続ける方がよい（以降、「継続就労型」と表記）」が4割半ば。

全体では、「継続就労型」（45.0%）が最も高く、次いで「子どもができたなら退職し、大きくなってから再び働く方がよい（以降、「一時中断型」と表記）」（28.0%）、「その他」（19.3%）、「子どもができるまで働く方がよい」（4.8%）の順である。

性別でみると、「継続就労型」は女性が44.7%、男性が45.4%で、大きな差はみられない。一方、「一時中断型」は女性（29.7%）の方が男性（25.4%）より4.3ポイント高い。

【図表 1-30 参照】

図表 1-30 女性が働くことについて（全体、性別）



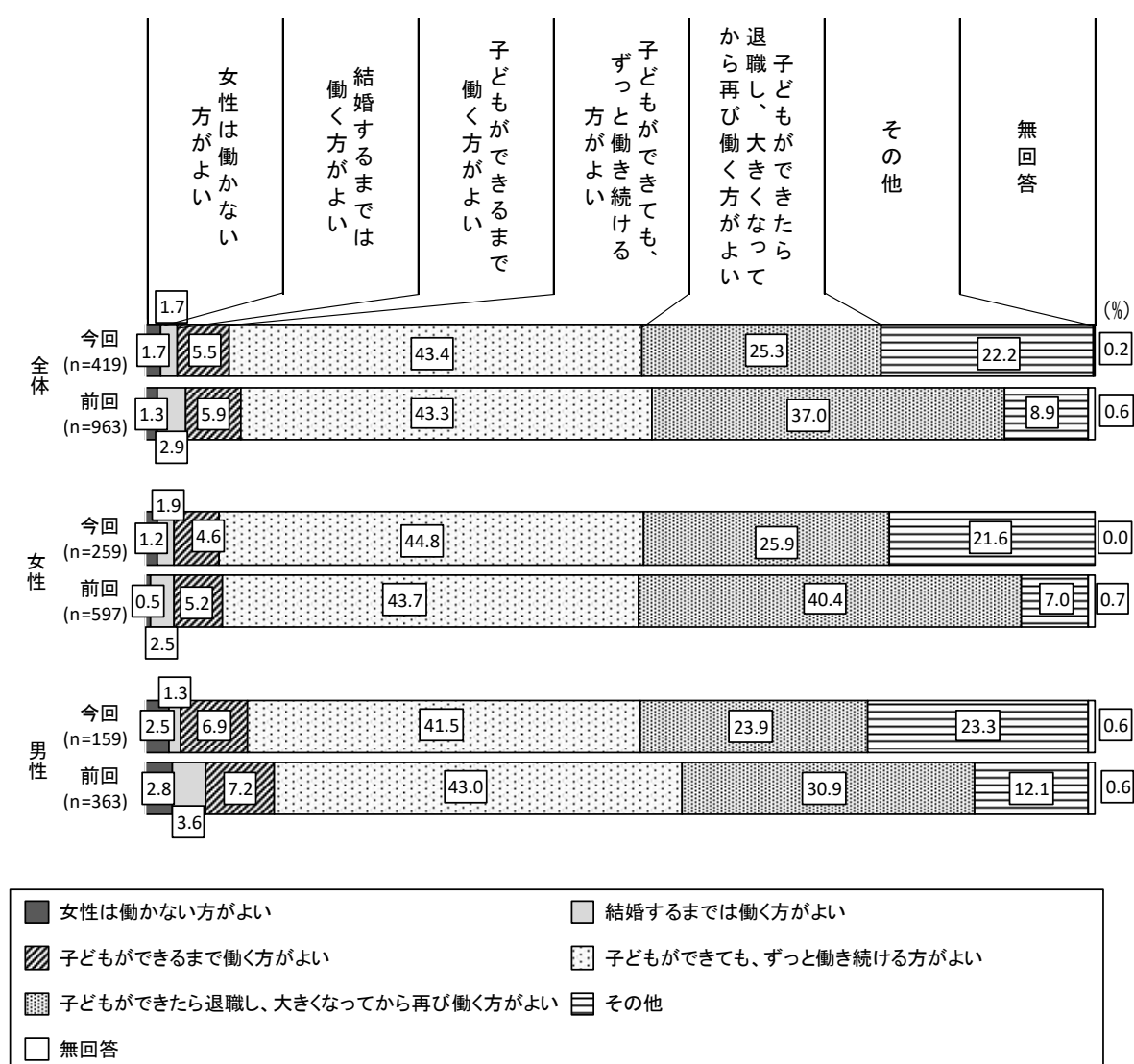
女性が働くことについて、3 番目に回答多かった「その他」と回答した人（189 人）の中から、15 件を原文のまま掲載する。

- それぞれの個人・家庭に合わせればよい(女性・25～29 歳)
- 本人の気持ち次第(男性・25～29 歳)
- 子供ができたら退職して大きくなってから再度働く方がいいが、現実問題難しいので働き続けるしかない。(女性・30 歳～34 歳)
- 働きたければ働けば良いし、やめたければやめれば良いと思います。ただ、女性が希望する方を選択するには、不自由な社会だと思います。給与の差や、家庭の時間の差を男女で違いすぎるので、あきらめる人が多いのではないのでしょうか。(女性・30 歳～34 歳)
- 女性の意志を尊重。働きたいのか、子育てに専念したいのか、キャリアを積みたいのか。
(男性・30 歳～34 歳)
- 選択肢があってえらべると良い(女性・35 歳～39 歳)
- その人の特性や置かれている環境によって選択肢が変わる話であり、他人に一定の考えを押し付けることがあってはならない(男性・35 歳～39 歳)
- 自分が何を第一優先にするかで全て決まる。仕事が第一ならば、その他をできる範囲で考えるがよい。(女性・40 歳～44 歳)
- 特に要望はない。本人に任せる(男性・40 歳～44 歳)
- 働き続けたい人もそうでない人も気兼ねなく選択できるようになればいい。(女性・45 歳～49 歳)
- 独身女性は働かないといけないでしょうが、夫婦の場合はお互いの収入事情で妻である女性が働くかどうかはそれぞれの家庭次第と思います。(男性・45 歳～49 歳)
- 子供が出来るまでは働いて、後は女性の意思で決めればいい。配偶者からの強要はあってはならない。(女性・50 歳～54 歳)
- 働きたければ働ける。家庭に入り働きたくなければ働かなくてもいいと自分で自由に選択できることがいいと思う。(男性・50 歳～54 歳)
- 女性とか育児とかにとらわれず、働きたければ働けば良いと思う。労働者人口を増やして経済を活性化させるためにも、女性は育児だけしてれば良いという考え方は危険だと思います。
(女性・55 歳～59 歳)
- 本人の希望にまかせます。(男性・55 歳～59 歳)

前回調査にあわせて対象年齢を 25 歳～44 歳（419 人）に限って比較すると、全体で、「一時中断型」が 25.3%で、11.7 ポイント減少し、女性（25.9%）で 14.5 ポイント、男性（23.9%）で 7 ポイントそれぞれ減少している。「その他」は全体（22.2%）で 13.3 ポイント、女性（21.6%）で 14.6 ポイント、男性（23.3%）で 11.2 ポイント増加している。

【図表 1-31 参照】

図表 1-31 女性が働くことについて（前回比較）

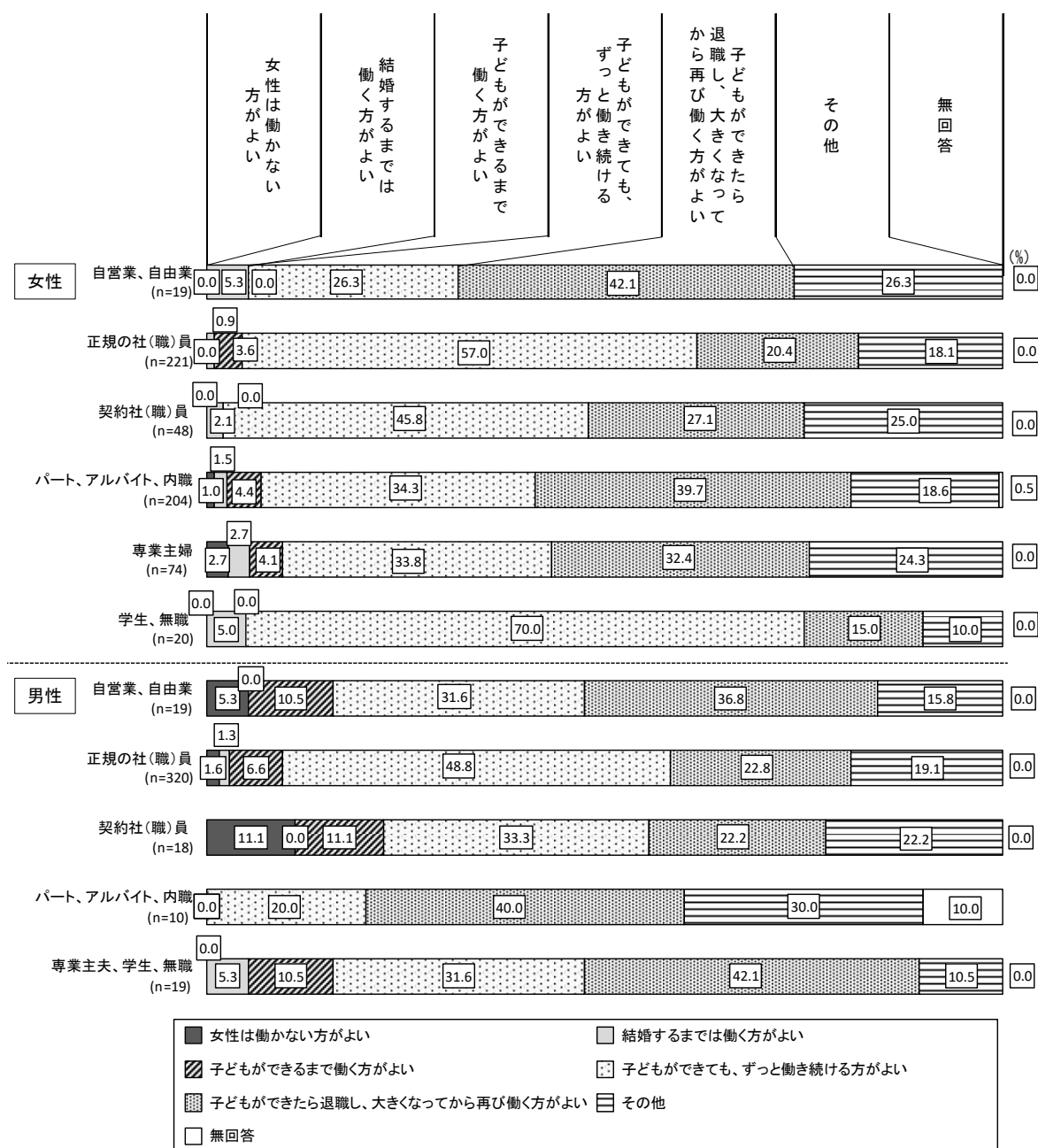


男女それぞれを職業形態別にみると、女性の「正規の社（職）員」では「継続就労型」（57.0%）が最も高い。一方、「パート、アルバイト、内職」では「一時中断型」が39.7%と他の職業形態よりも高くなっている。男性の「正規の社（職）員」では、48.8%が「継続就労型」を選択している。

なお、n=50 未満の項目は参考値とする（本報告書 2 頁 5(4)参照）。

【図表 1-32 参照】

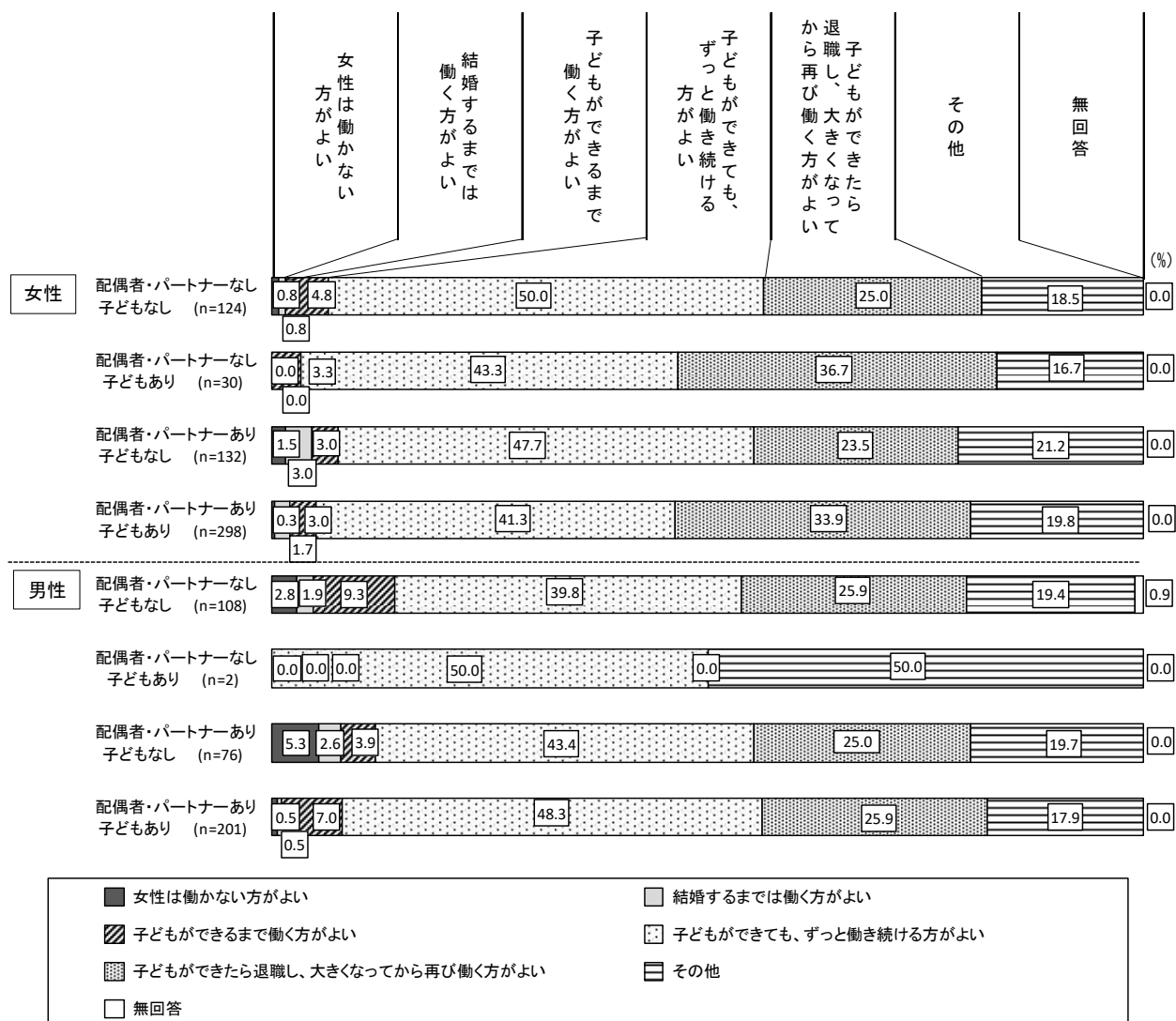
図表 1-32 女性が働くことについて（性別・職業形態別）



男女それぞれを配偶者・パートナーの有無・子どもの有無別にみると、女性、男性ともに、いずれも「継続就労型」が最も高くなっている。

【図表 1-33 参照】

図表 1-33 女性が働くことについて
(性別・配偶者・パートナーの有無・子どもの有無別)



2. 育児と介護

(1) 育児休業の取得経験

問6 あなたは、これまで育児休業を取得したことがありますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

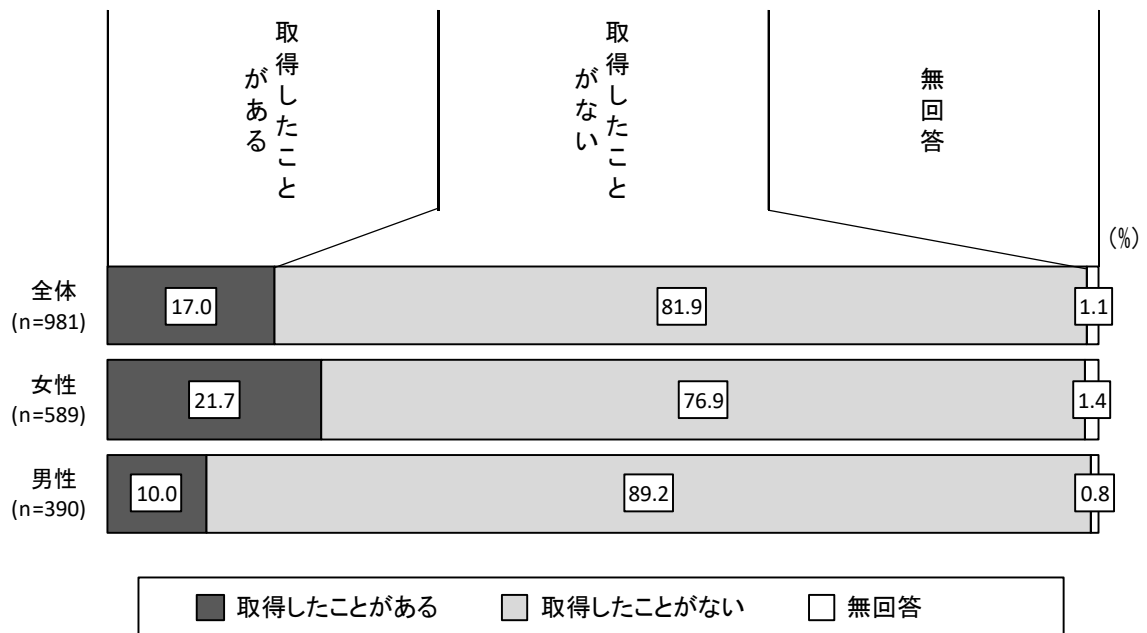
育児休業を「取得したことがある」のは、女性で21.7%、男性で10.0%。

全体では、育児休業を「取得したことがある」が17.0%、「取得したことがない」が81.9%である。

性別でみると、女性では「取得したことがある」が21.7%で、男性の10.0%に比べ11.7ポイント高い。

【図表 2-1 参照】

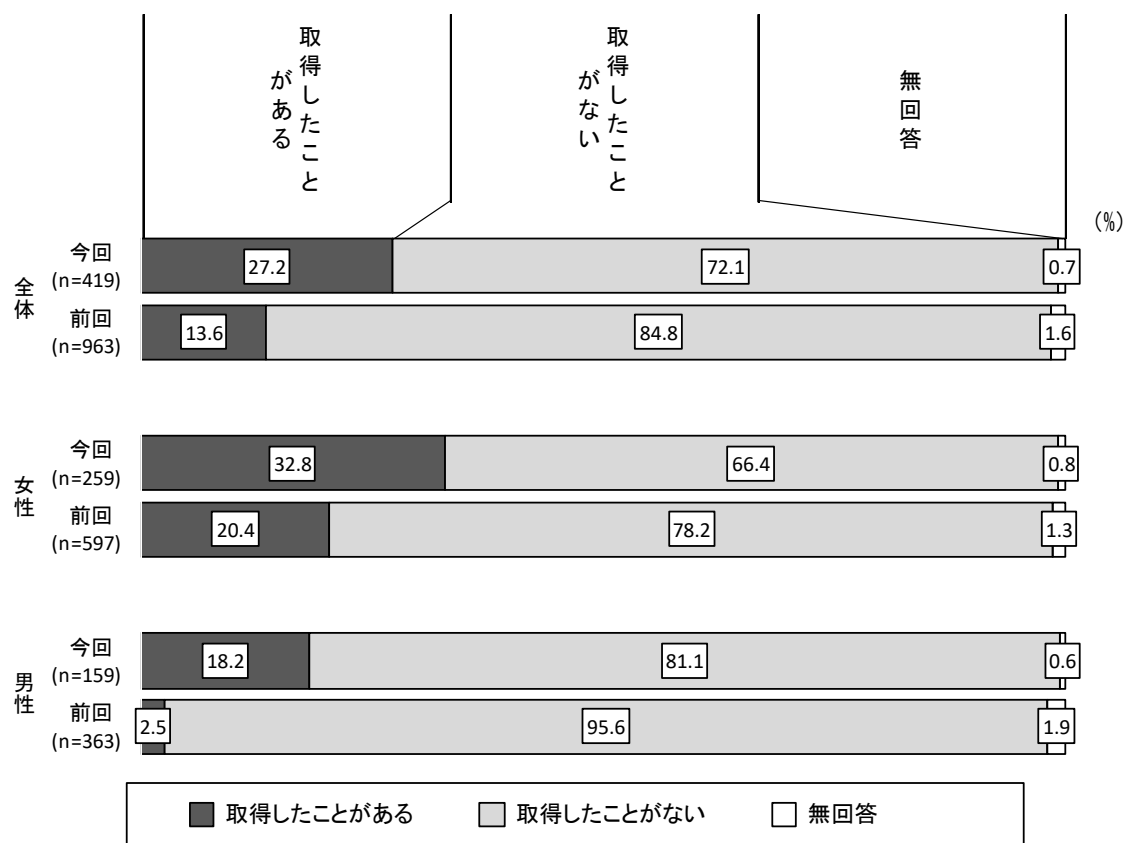
図表 2-1 育児休業の取得経験（全体、性別）



前回調査にあわせて対象年齢を 25 歳～44 歳（419 人）に限って比較すると、全体で、「取得したことがある」が 27.2%で、13.6 ポイント増加し、女性（32.8%）では 12.4 ポイント、男性（18.2%）では 15.7 ポイントそれぞれ増加している。

【図表 2-2 参照】

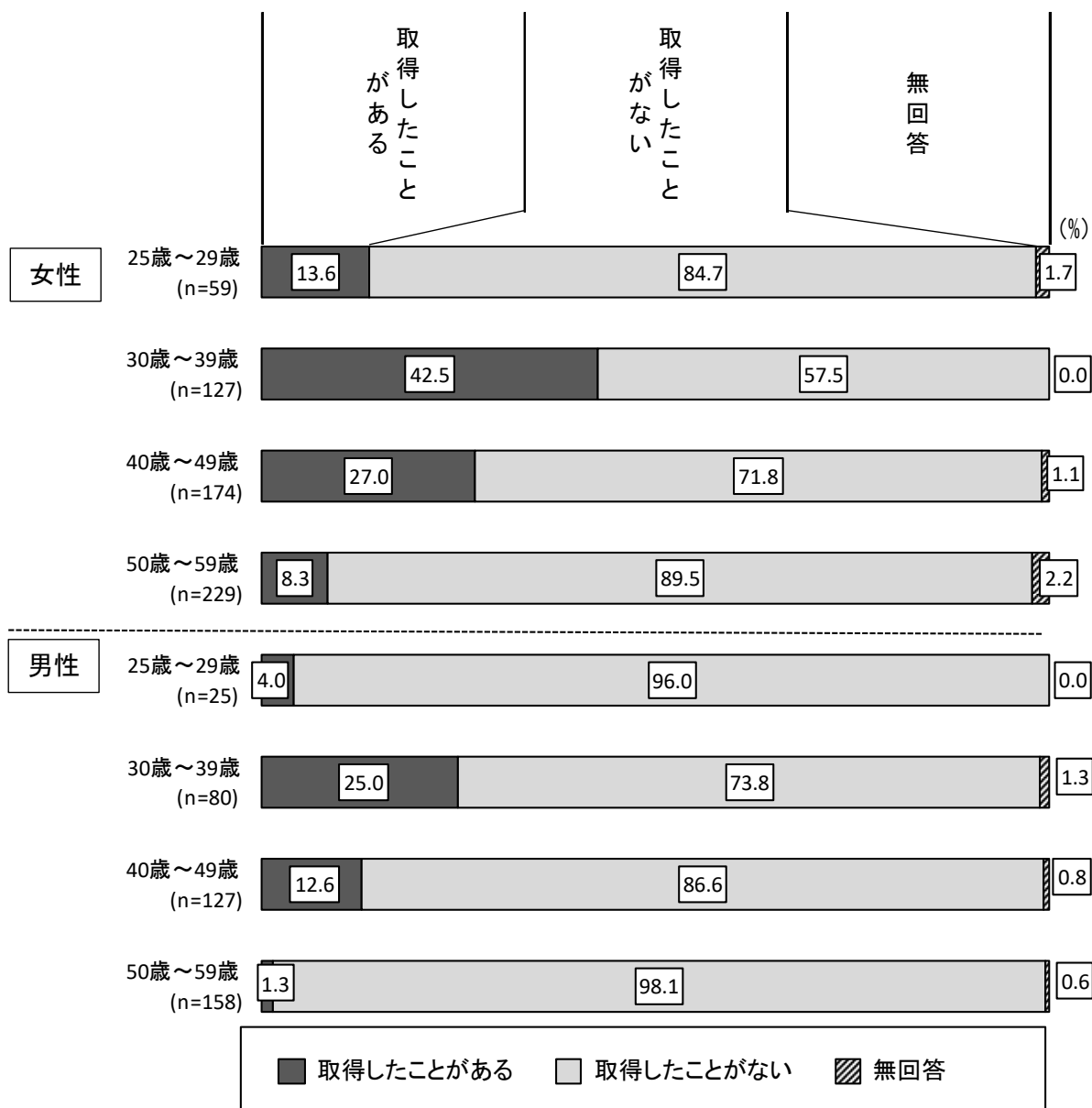
図表 2-2 育児休業の取得経験（前回比較）



男女それぞれを年代別にみると、女性では「取得したことがある」は30歳～39歳で最も高く42.5%、次いで40歳～49歳で27.0%である。男性では「取得したことがある」は30歳～39歳で25.0%、40歳～49歳で12.6%である。

【図表 2-3 参照】

図表 2-3 育児休業の取得経験（性別・年代別）



(2) 育児休業を取得しなかった理由

問 6 -1 <問 6 で 2 「取得したことがない」を選んだ方にお聞きします。>
育児休業を取得しなかった主な理由を 3 つまで選び○をつけてください。

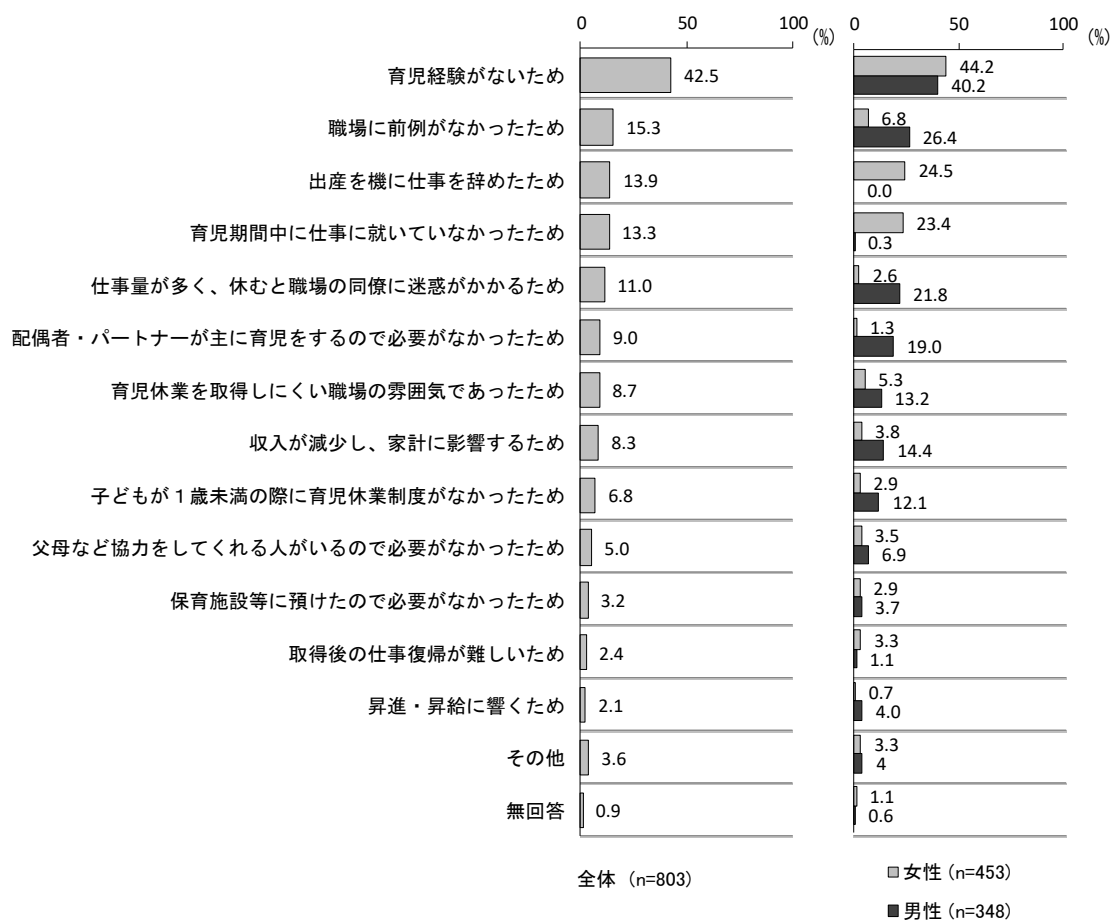
「育児経験がないため」を除くと、女性は「出産を機に仕事を辞めたため」が高く、男性は「職場に前例がなかったため」が高い。

問 6 で育児休業を「取得したことがない」と回答した人（803 人）に、その理由について尋ねたところ、**全体**では、「育児経験がない」を除き、「職場に前例がなかったため」（15.3%）が最も高い。

性別でみると、男性は「職場に前例がなかったため」（26.4%）が最も高く、女性は「出産を機に仕事を辞めたため」（24.5%）が高い。

【図表 2-4 参照】

図表 2-4 育児休業を取得しなかった理由（全体、性別）



(3) 育児と仕事の両立について（希望）

問 7 <すべての方にお聞きします。>

あなたが育児と仕事を両方行う状況になった場合、希望として最も近いものの番号に
1つ○をつけてください。

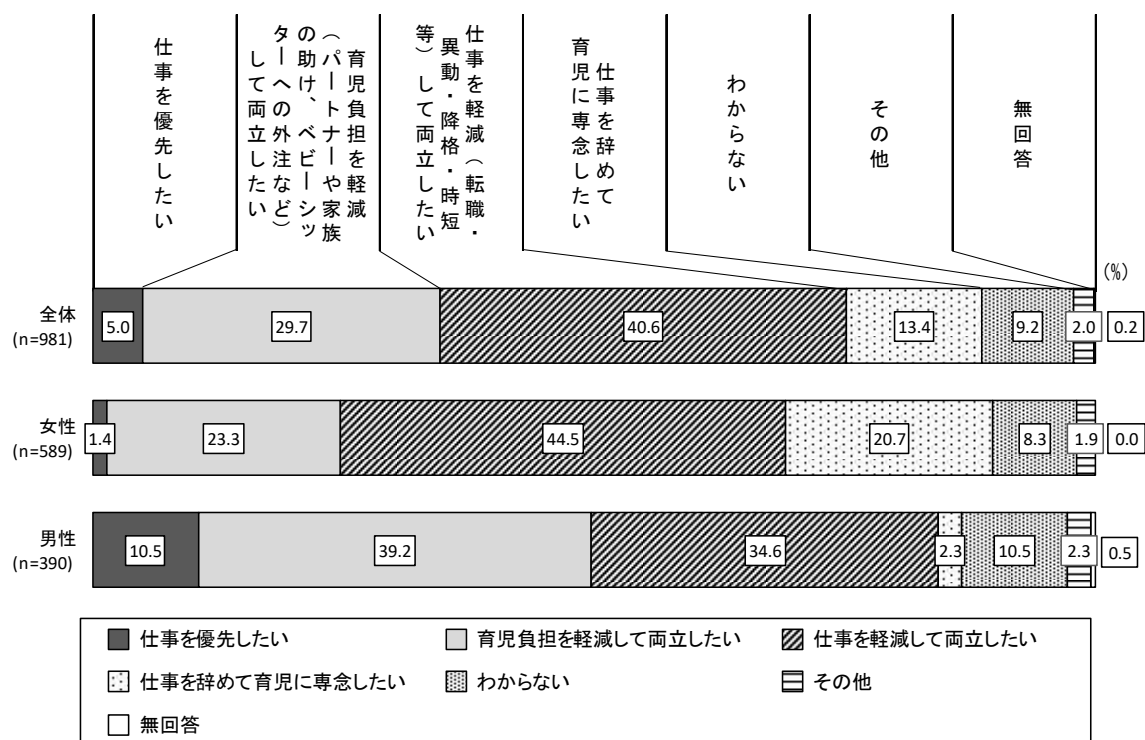
女性では「仕事を軽減して両立したい」が4割半ば、男性では「育児負担を軽減して両立したい」が約4割。

全体では、「仕事を軽減（転職・異動・降格・時短等）して両立したい（以降、「仕事を軽減」と表記）」が40.6%で最も高く、次いで「育児負担を軽減（パートナーや家族の助け、ベビーシッターへの外注など）して両立したい（以降、「育児負担を軽減」と表記）」が29.7%である。

性別でみると、女性では「仕事を軽減」が44.5%で最も高く、男性では「育児負担を軽減」が39.2%で最も高い。

【図表 2-5 参照】

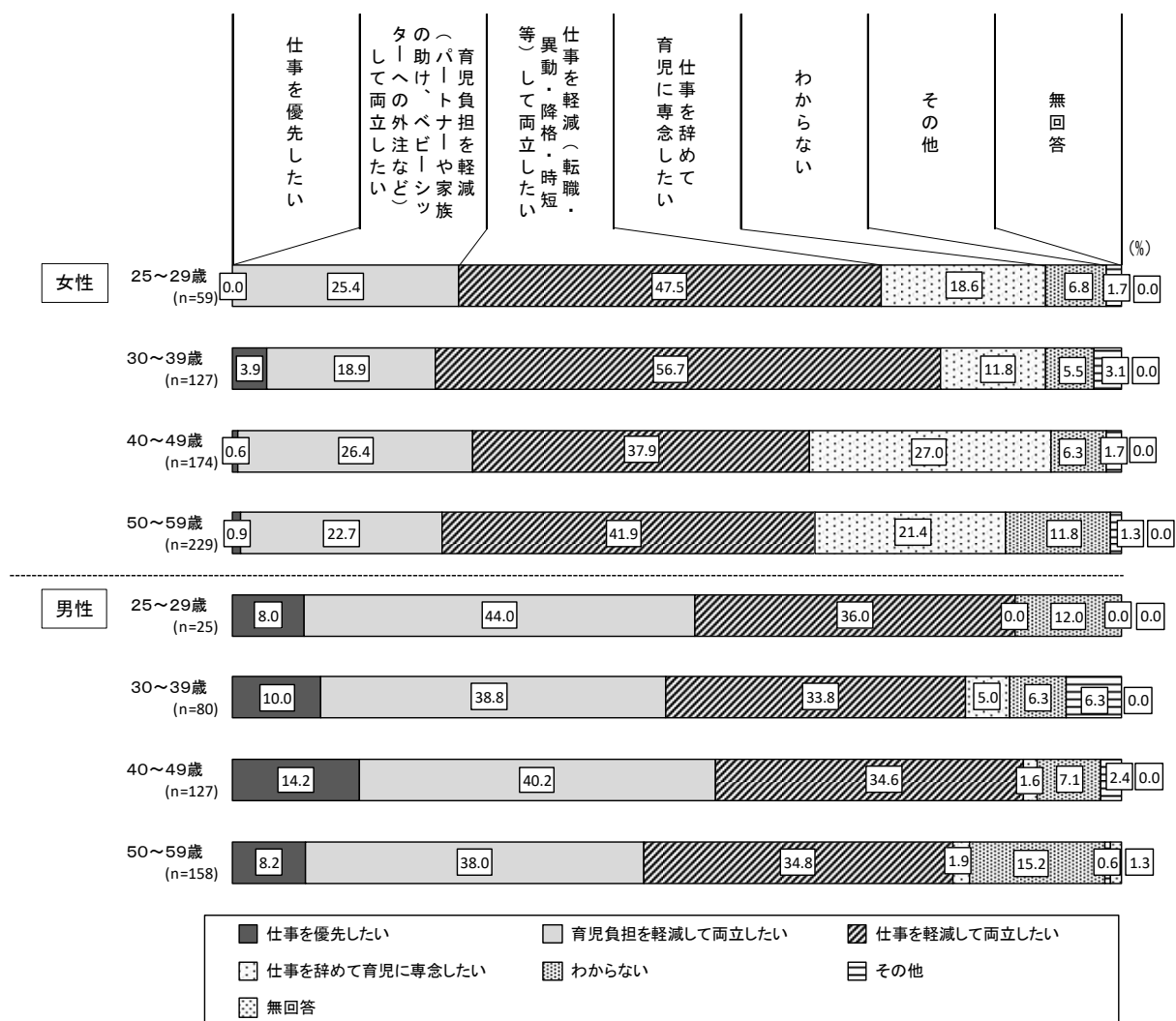
図表 2-5 育児と仕事の両立について（希望）（全体、性別）



男女それぞれを年代別にみると、「仕事を軽減」は女性の 30 歳～39 歳（56.7%）が最も高く、次いで、女性の 25 歳～29 歳（47.5%）と続く。「育児負担を軽減」は男性の 40 歳～49 歳（40.2%）が最も高く、次いで、男性の 30 歳～39 歳（38.8%）と続く。「仕事を辞めて育児に専念したい」は女性の 40～49 歳（27.0%）が最も高い。

【図表 2-6 参照】

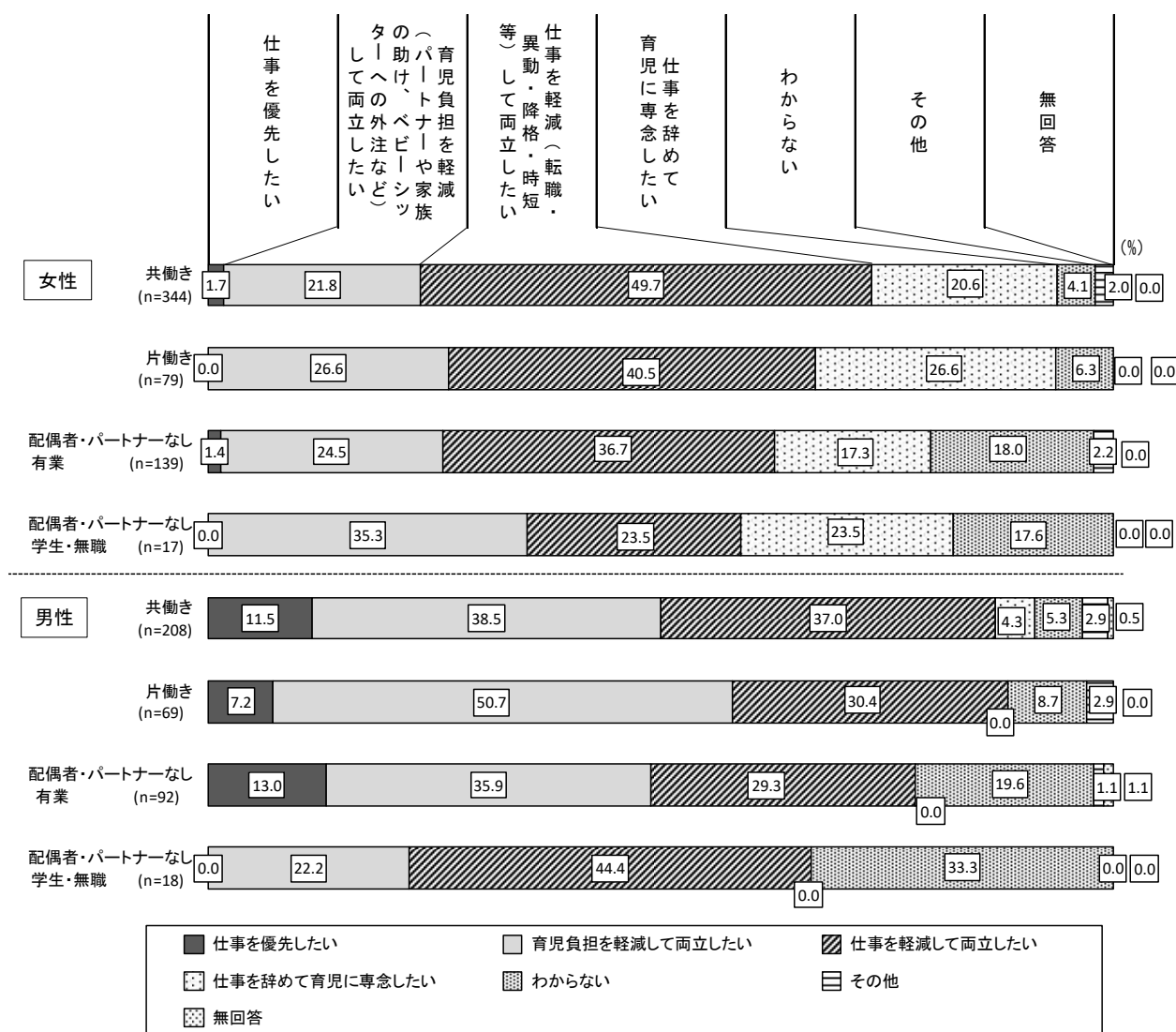
図表 2-6 育児と仕事の両立について（希望）（性別、年代別）



男女それぞれを配偶者・パートナーの働き方別にみると、「共働き」では「仕事を軽減」が女性で 49.7%、男性が 37.0%と、女性の方が男性より 12.7 ポイント高い。
「片働き」では「育児負担を軽減」が女性で 26.6%、男性が 50.7%と、男性の方が女性より 24.1 ポイント高い。

【図表 2-7 参照】

図表 2-7 育児と仕事の両立について（希望）
（性別・配偶者・パートナーの働き方別）



(4) 育児と仕事の両立について（現実）

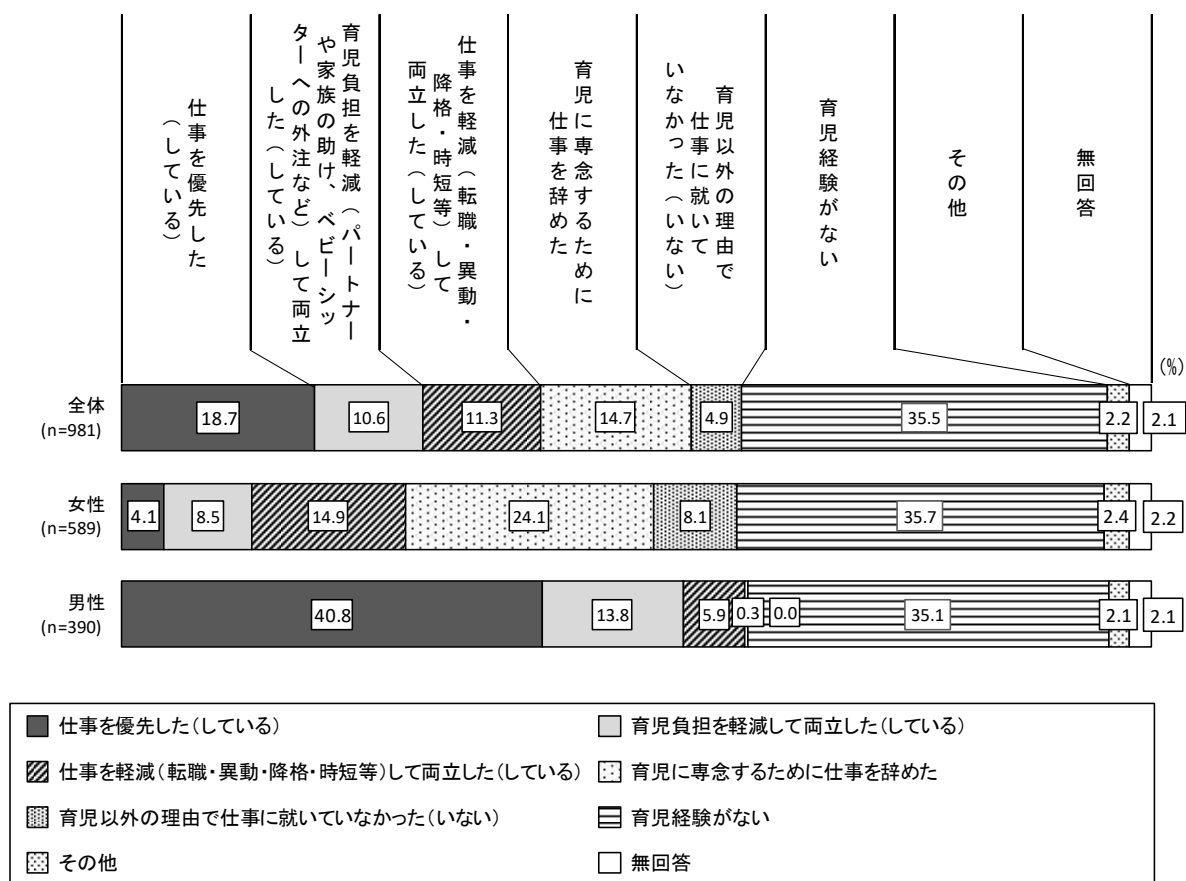
問 8 育児と仕事の両立について、あなたは育児期間中に実際どうであったか（現在育児中の方はどうであるか） 1つ○をつけてください。

男性では「仕事を優先した（している）」と約4割が回答。

性別でみると、男性では「仕事を優先した（している）」が40.8%と最も高く、女性（4.1%）より36.7ポイント高くなっている。女性では「育児経験がない」を除くと、「育児に専念するために仕事を辞めた」が24.1%と高くなっている。

【図表 2-8 参照】

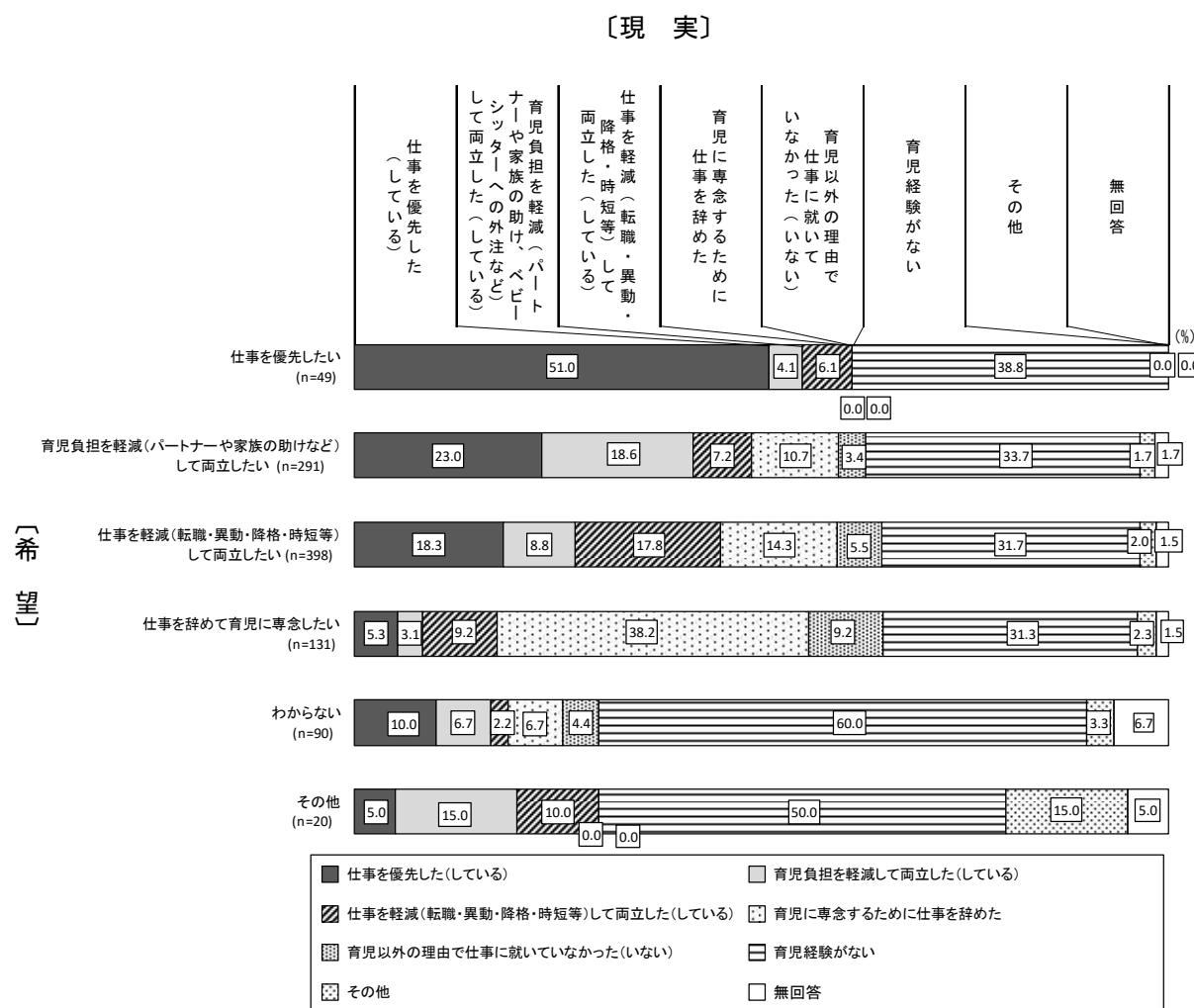
図表 2-8 育児と仕事の両立について（現実）（全体、性別）



育児と仕事の両立について（希望）の回答別（P. 57 参照）にみると、「育児負担を軽減」、「仕事を軽減」と希望した場合、「育児経験がない」を除くと「仕事を優先した（している）」（それぞれ 23.0%、18.3%）が最も高くなっている。

【図表 2-9 参照】

図表 2-9 育児と仕事の両立について（現実）
（育児と仕事の両立について（希望）別）



(5) 介護休業の取得経験

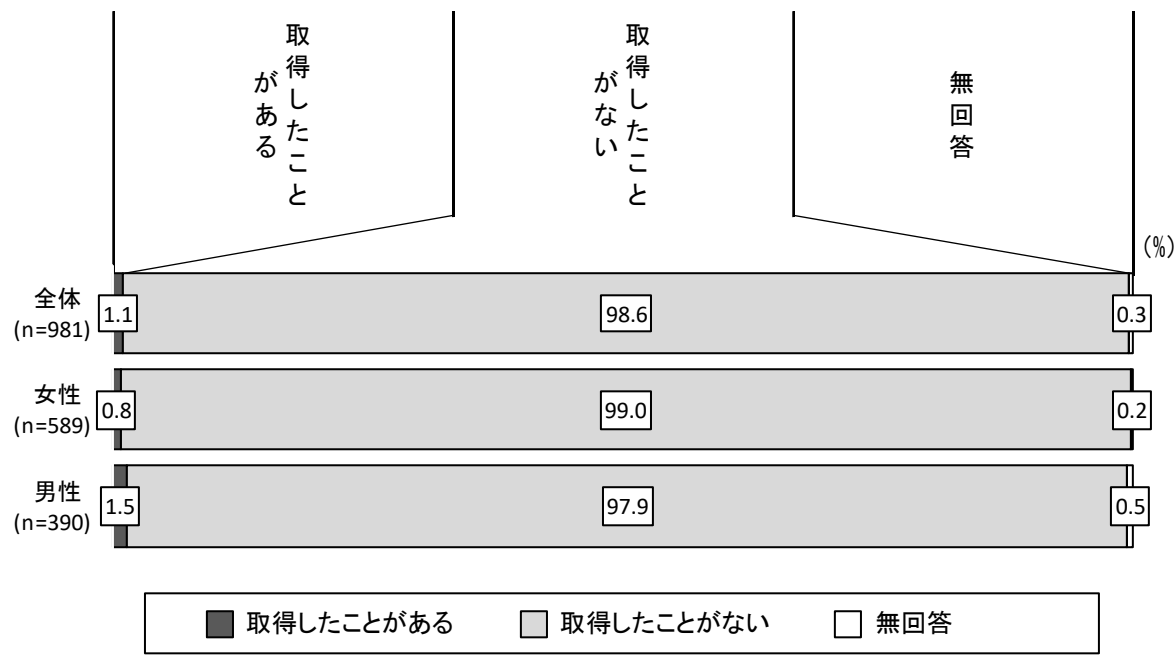
問 9 あなたは、これまで介護休業を取得したことがありますか。あてはまる番号に
1つ○をつけてください。

介護休業を「取得したことがある」のは、女性で 0.8 %、男性で 1.5%。

全体では、介護休業を「取得したことがある」が 1.1%、「取得したことがない」が 98.6%である。

【図表 2-10 参照】

図表 2-10 介護休業の取得経験（全体、性別）



(6) 介護休業を取得しなかった理由

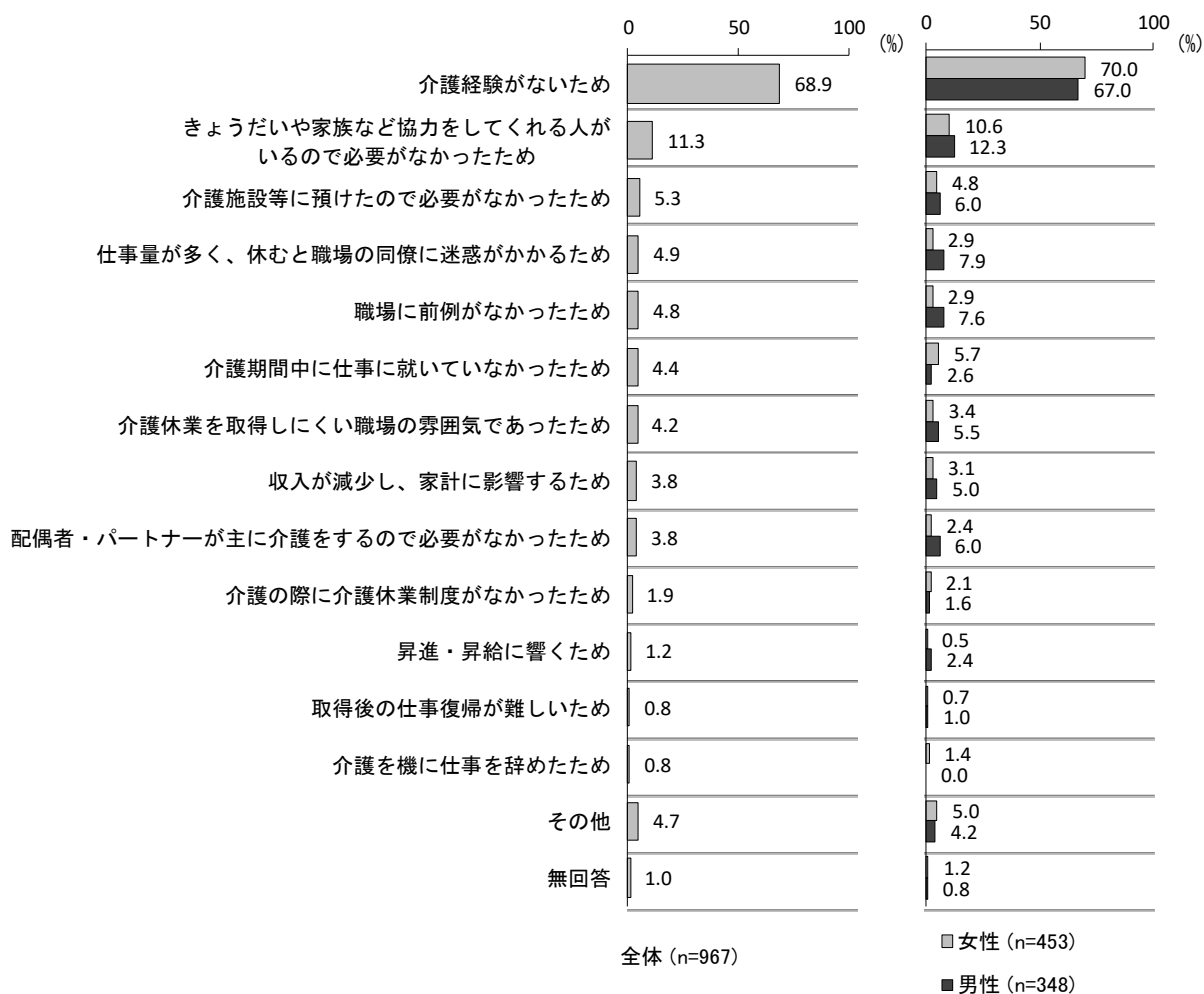
問 9-1 <問 9 で 2 「取得したことがない」を選んだ方にお聞きします。>
介護休業を取得しなかった主な理由を 3 つまで選び○をつけてください。

「介護経験がないため」が7割近く。

問 9 で介護休業を「取得したことがない」と回答した人（967 人）に、その理由について尋ねたところ、**全体**では、「介護経験がないため」（68.9%）が最も高く、次いで、「きょうだいや家族など協力をしてくれる人がいるので必要がなかったため」（11.3%）である。

【図表 2-11 参照】

図表 2-11 介護休業を取得しなかった理由（全体、性別）



(7) 介護と仕事の両立について（希望）

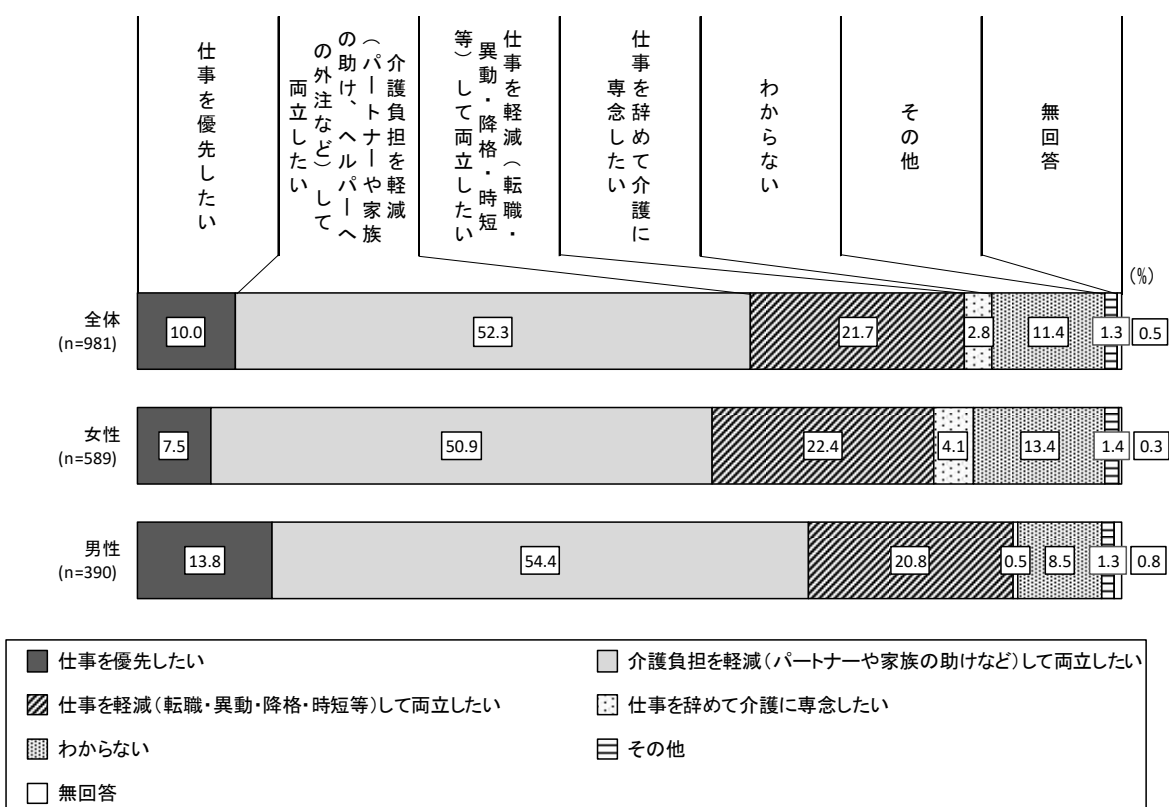
問 10 あなたが介護と仕事を両方行う状況になった場合、希望として最も近いものの番号に1つ○をつけてください。

「介護負担を軽減して両立したい」が5割以上。

全体では、「介護負担を軽減（パートナーや家族の助け、ヘルパーへの外注など）して両立したい」が52.3%で最も高く、次いで「仕事を軽減（転職・異動・降格・時短等）して両立したい」が21.7%である。

【図表 2-12 参照】

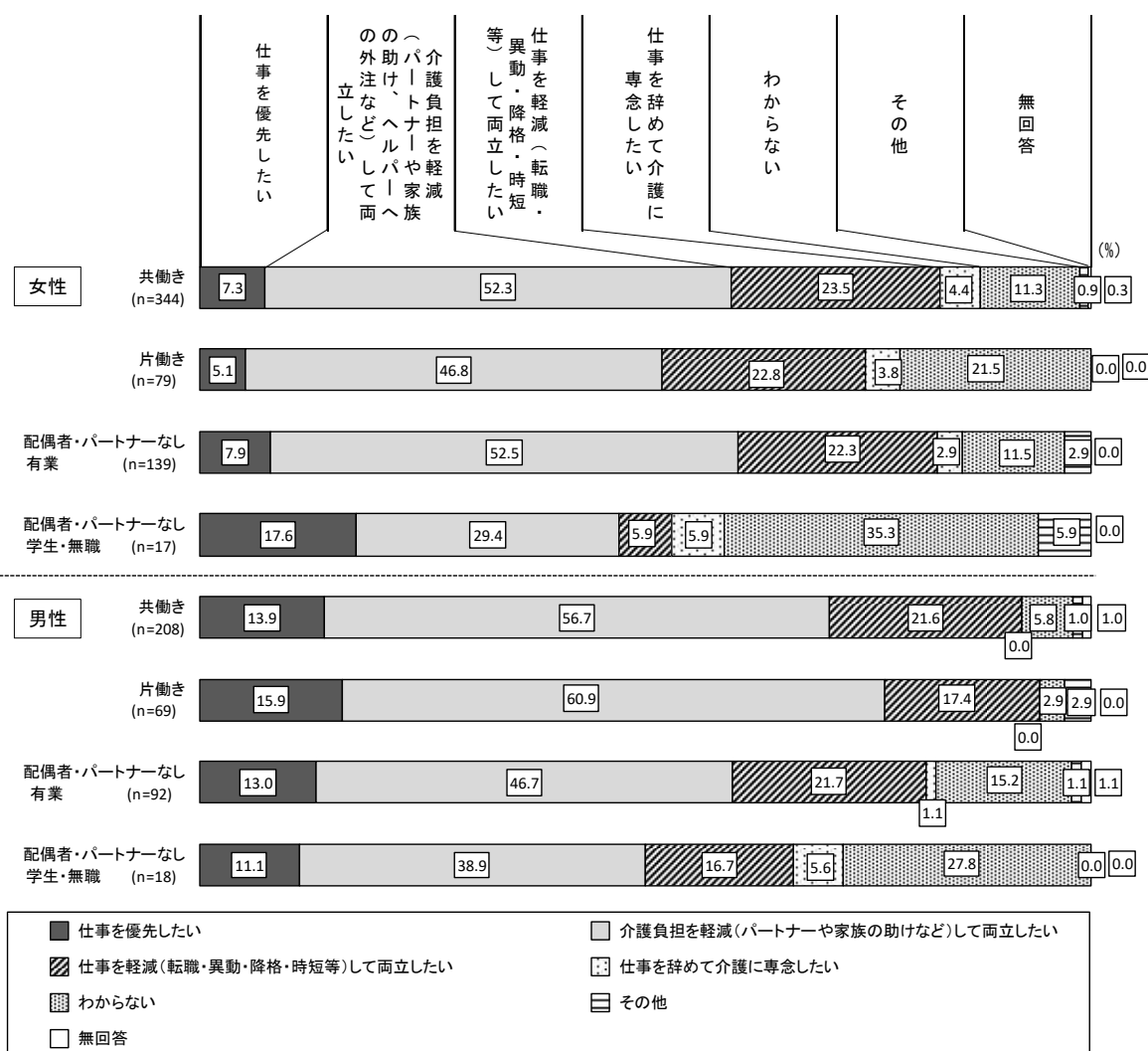
図表 2-12 介護と仕事の両立について（希望）（全体、性別）



男女それぞれを配偶者・パートナーの働き方別にみると、どの働き方でも、「介護負担を軽減（パートナーや家族の助け、ヘルパーへの外注など）して両立したい」が最も高い。

【図表 2-13 参照】

図表 2-13 介護と仕事の両立について（希望）
（性別、配偶者・パートナーの働き方別）



(8) 介護と仕事の両立について（現実）

問 11 介護と仕事の両立について、あなたは介護期間中に実際どうであったか（現在介護中の方はどうか） 1 つ○をつけてください。

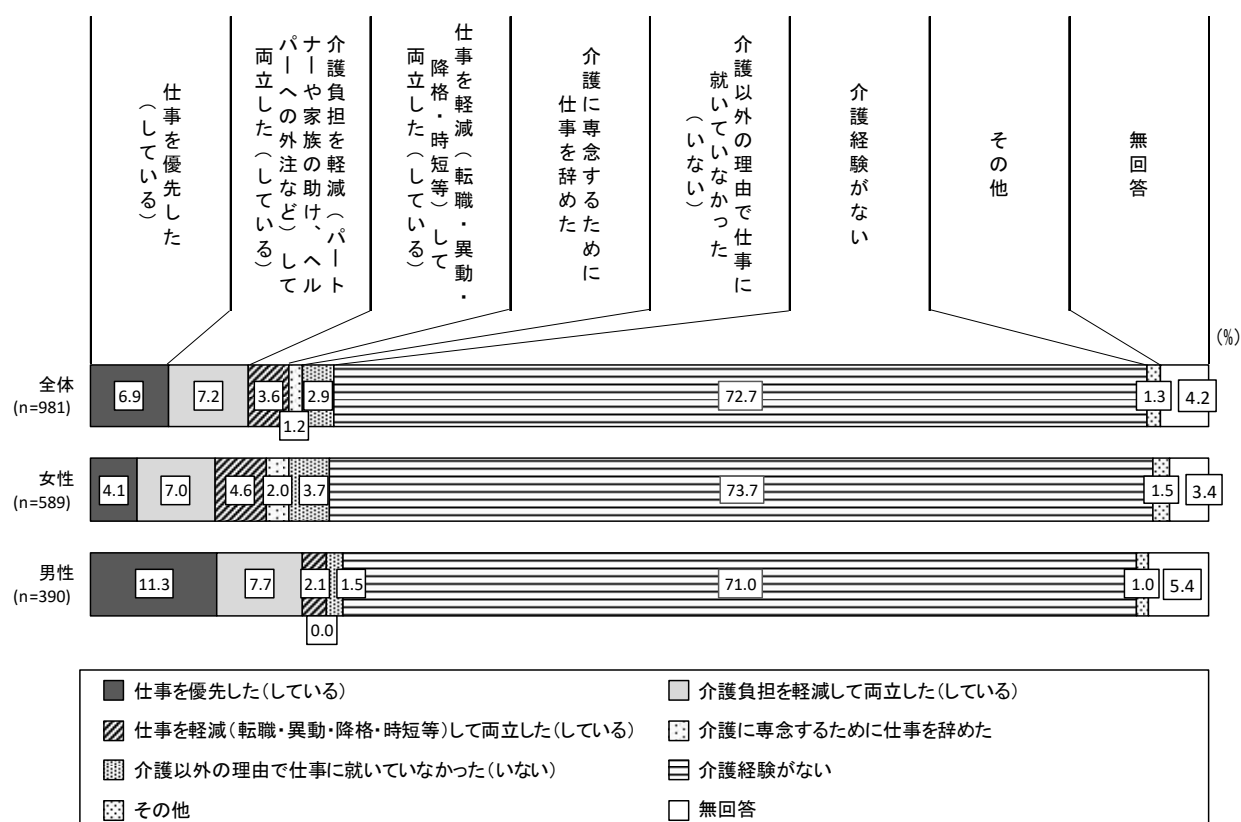
男女ともに7割以上が「介護経験がない」。

全体では、「介護経験がない」が72.7%で最も高い。

性別で見ると、「介護経験がない」を除くと、男性では「仕事を優先した（している）」が11.3%と高い。

【図表 2-14 参照】

図表 2-14 介護と仕事の両立について（現実）（全体、性別）



3. 仕事について

(1) 仕事に対する意欲

問 1 2 <仕事に就いている（F3で1～4、8を選んだ）方にお聞きします。>
あなたは、今の仕事に対して意欲を持って積極的に取り組んでいますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

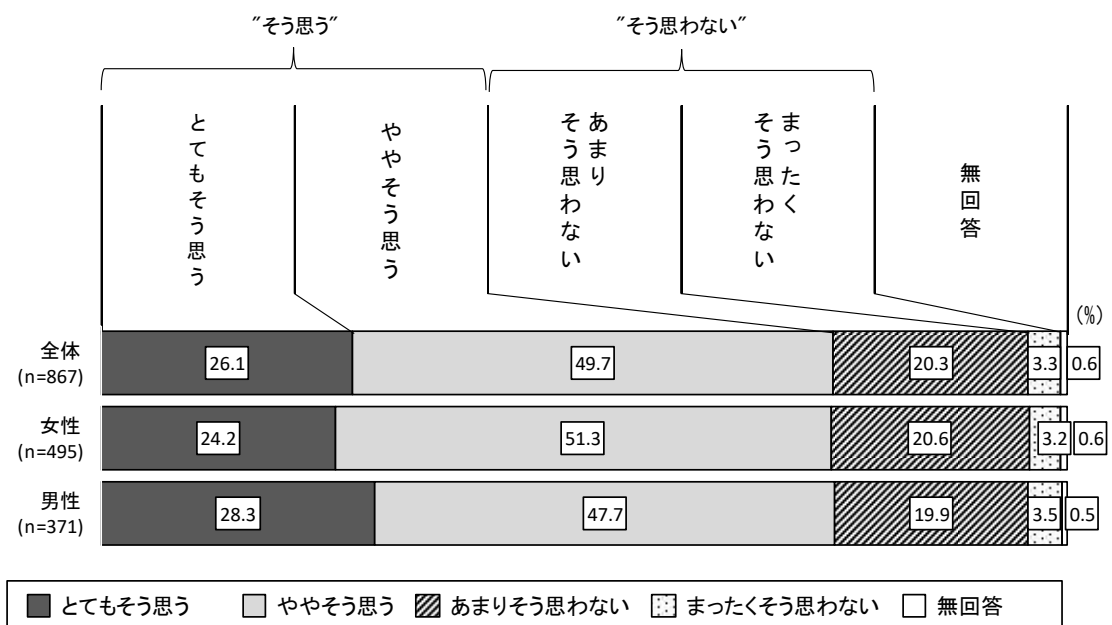
7割半が「意欲を持って積極的に仕事に取り組んでいる」と回答。

現在仕事に就いている人（867人）に、今の仕事に対して意欲を持って積極的に取り組んでいるか尋ねたところ、**全体**では、「とてもそう思う」、「ややそう思う」の両者を合わせた“そう思う”は**75.8%**である。一方、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の両者を合わせた“そう思わない”は**23.6%**である。

性別でみると、“そう思う”（女性75.5%、男性76.0%）、“そう思わない”（女性23.8%、男性23.4%）ともに、男女で大きな差がみられない。

【図表 3-1 参照】

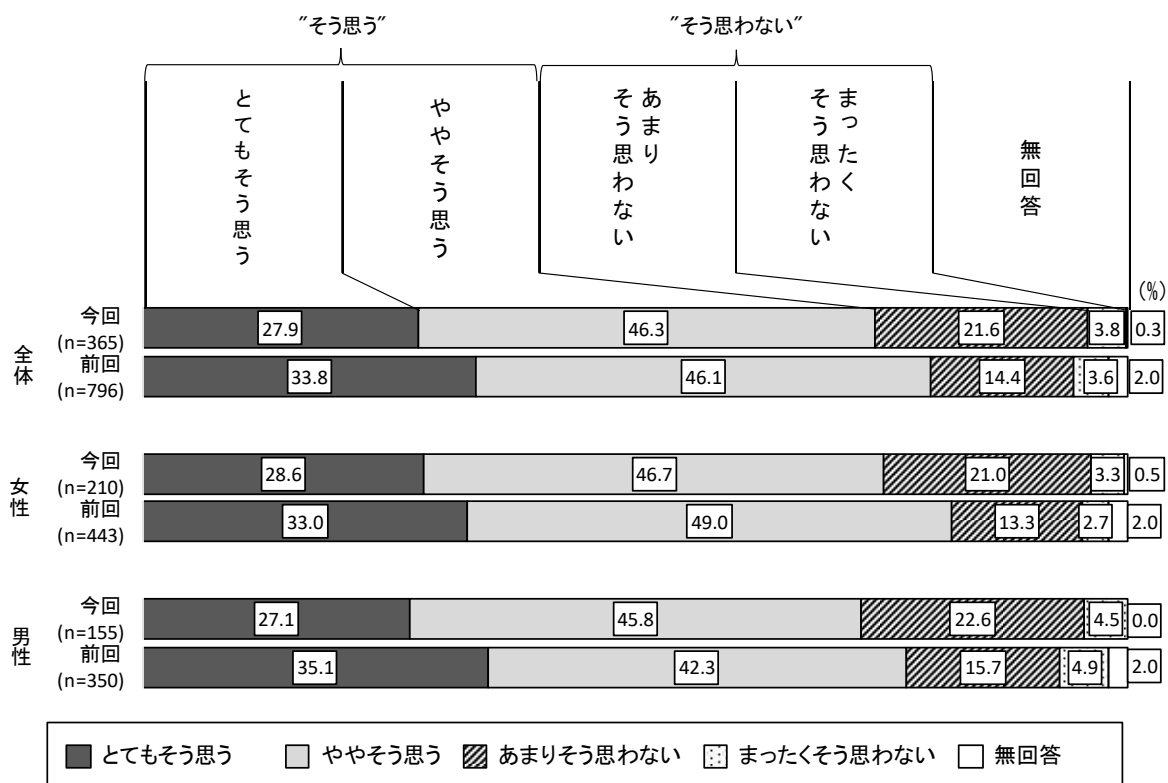
図表 3-1 仕事に対する意欲（全体、性別）



前回調査にあわせて対象年齢を 25 歳～44 歳(365 人)に限って比較すると、全体では “そう思う” (74.2%) が 5.7 ポイント減少している。

【図表 3-2 参照】

図表 3-2 仕事に対する意欲（前回比較）



(2) 職場の現状

問13 <仕事に就いている（F3で1～4、8を選んだ）方にお聞きします。>
あなたの職場の現状についてお聞きします。次の（A）～（D）のそれぞれについて、
あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

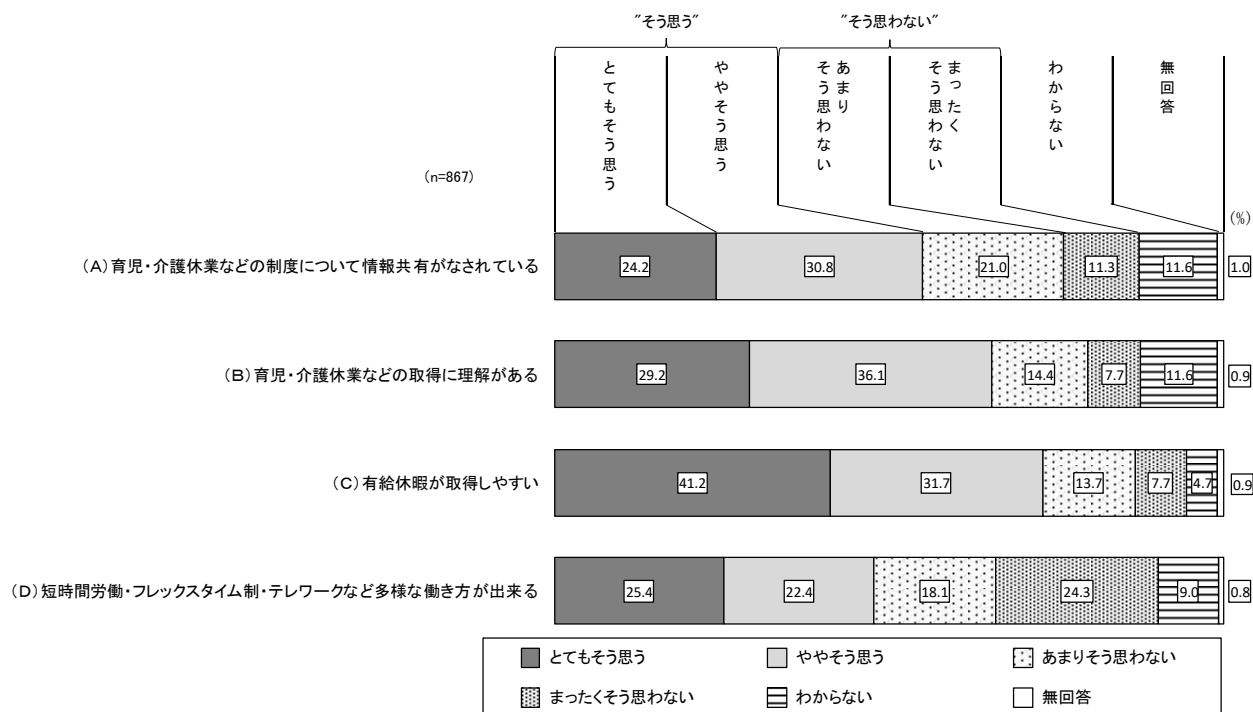
「有給休暇が取得しやすい」で7割以上が「そう思う」と回答。

全体では、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を合わせた“そう思う”は、「有給休暇が取得しやすい」が72.9%で最も高く、次いで「育児・介護休業などの取得に理解がある」が65.3%、「育児・介護休業などの制度について情報共有がなされている」（55.0%）、「時間労働・フレックスタイム制・テレワークなど多様な働き方が出来る」（47.8%）の順である。

どの項目においても、“そう思う”のほうが“そう思わない”よりも高い。

【図表 3-3 参照】

図表 3-3 職場の現状（全体）



(A) 育児・介護休業などの制度について情報共有がなされている

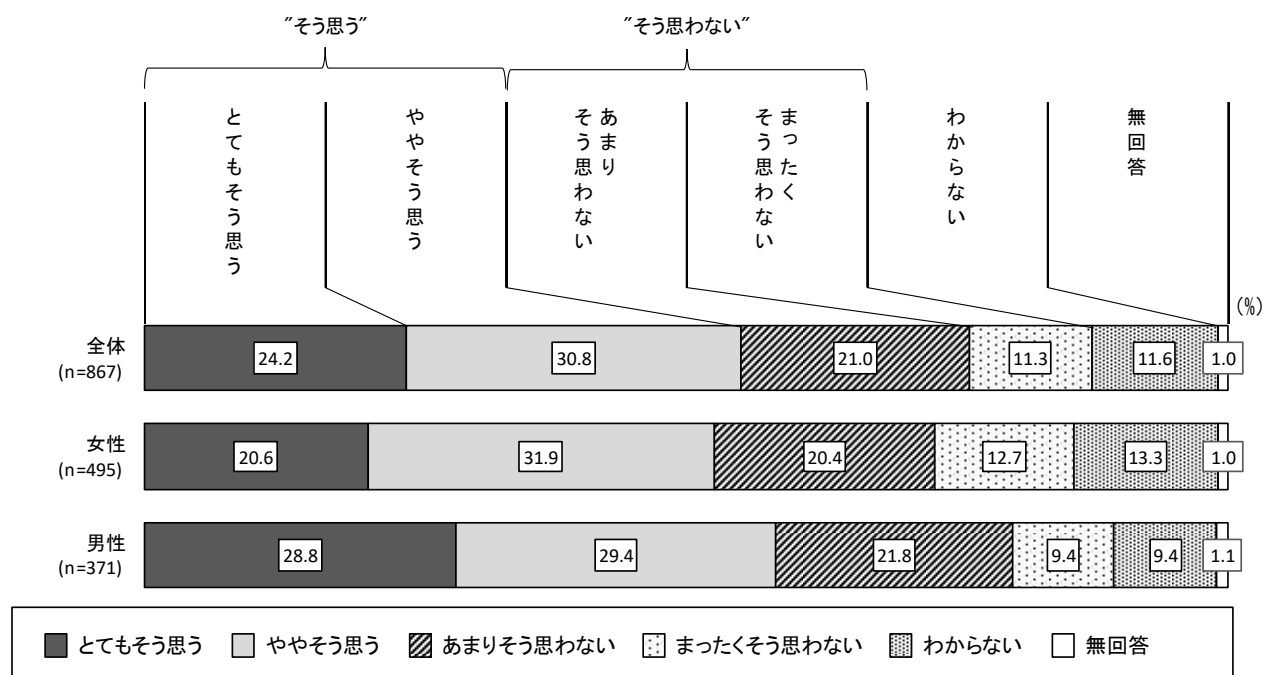
5 割半が「育児・介護休業などの制度について情報共有がなされている」と回答。

全体では、「とてもそう思う」、「ややそう思う」の両者を合わせた“そう思う”は 55.0%である。一方、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の両者を合わせた“そう思わない”は 32.3%である。“そう思う”が“そう思わない”を 22.7 ポイント上回る。

性別でみると、“そう思う”は男性（58.2%）で女性（52.5%）より 5.7 ポイント高い。“そう思わない”（女性 33.1%、男性 31.2%）は、男女で大きな差がみられない。

【図表 3-4 参照】

図表 3-4 職場の現状 (A) 〈育児・介護休業などの制度について情報共有〉
(全体、性別)



(B) 育児・介護休業などの取得に理解がある

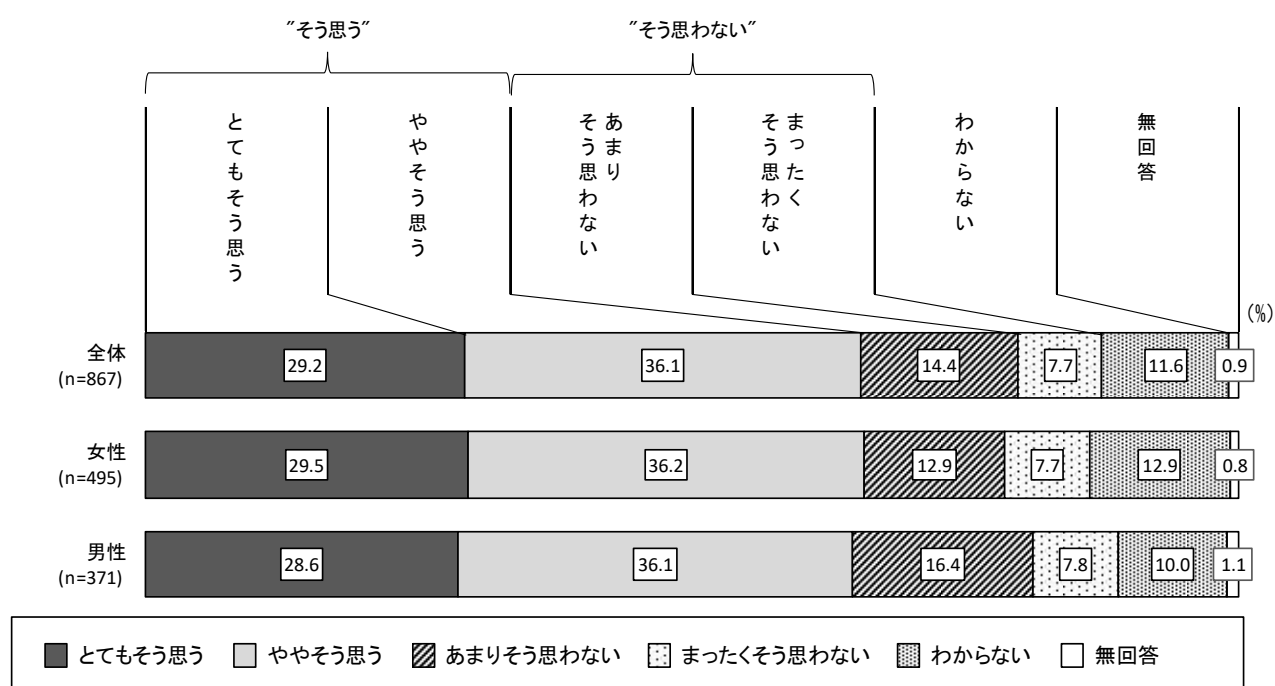
6割半が「育児・介護休業などの取得に理解がある」と回答。

全体では、「とてもそう思う」、「ややそう思う」の両者を合わせた“そう思う”は65.3%である。一方、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の両者を合わせた“そう思わない”は22.1%である。“そう思う”が“そう思わない”を43.2ポイント上回る。

性別でみると、“そう思う”（女性65.7%、男性64.7%），“そう思わない”（女性20.6%、男性24.2%）ともに、男女で大きな差がみられない。

【図表 3-5 参照】

図表 3-5 職場の現状 (B) 〈育児・介護休業などの取得に理解〉
(全体、性別)



(C) 有給休暇が取得しやすい

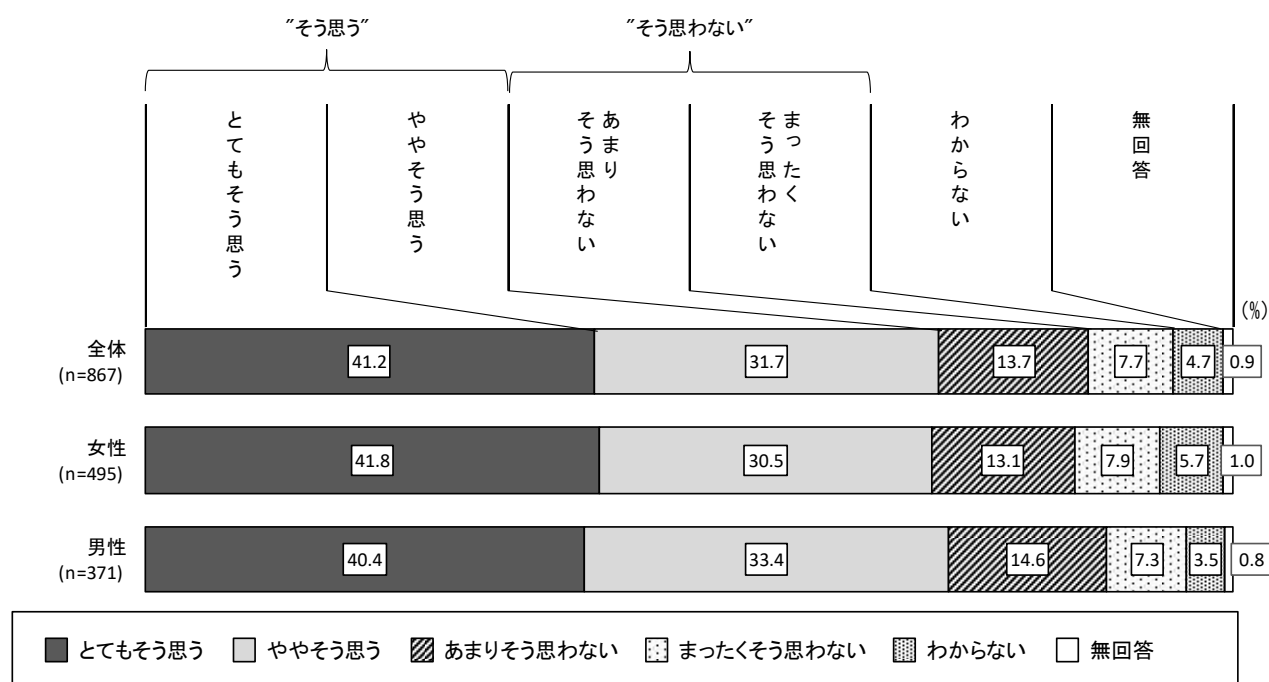
7割以上が「有給休暇が取得しやすい」と回答。

全体では、「とてもそう思う」、「ややそう思う」の両者を合わせた“そう思う”は72.9%である。一方、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の両者を合わせた“そう思わない”は21.4%である。“そう思う”が“そう思わない”を51.5ポイント上回る。

性別でみると、“そう思う”（女性72.3%、男性73.8%）、“そう思わない”（女性21.0%、男性21.9%）ともに、男女で大きな差がみられない。

【図表 3-6 参照】

図表 3-6 職場の現状（C）〈有給休暇が取得しやすい〉（全体、性別）



(D) 短時間労働・フレックスタイム制・テレワークなど多様な働き方が出来る

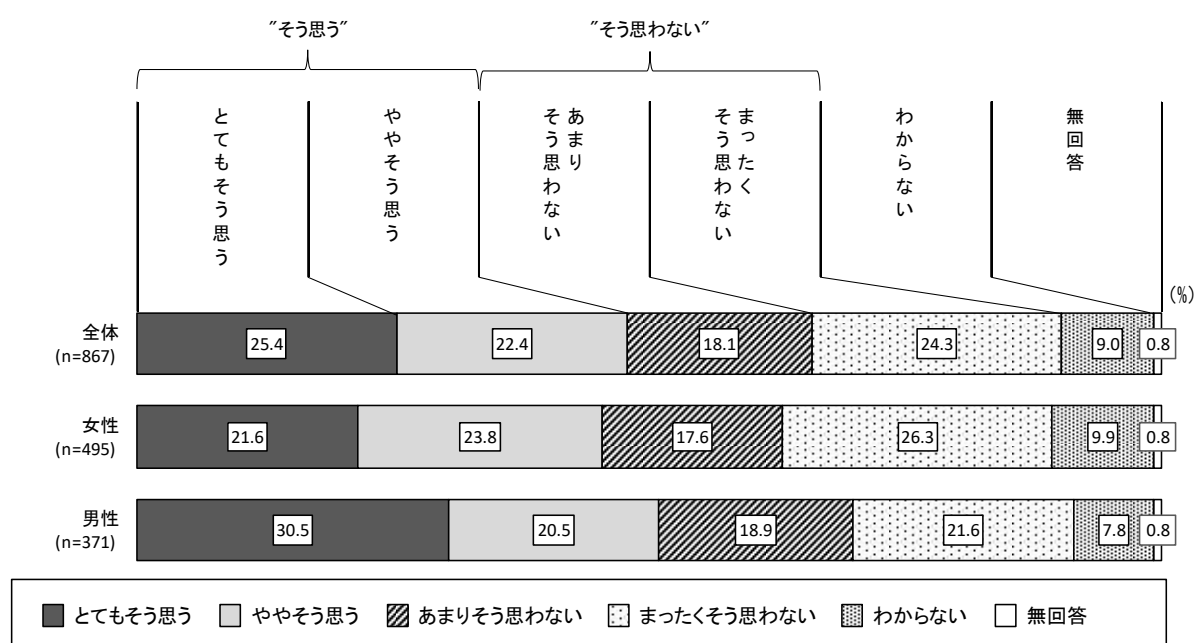
5 割近くが「短時間労働・フレックスタイム制・テレワークなど多様な働き方が出来る」と回答。

全体では、「とてもそう思う」、「ややそう思う」の両者を合わせた“そう思う”は 47.8%である。一方、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の両者を合わせた“そう思わない”は 42.4%である。“そう思う”が“そう思わない”を 5.4 ポイント上回る。

性別でみると、男性では、“そう思う”（51.0%）で、“そう思わない”（40.5%）を 10.5 ポイント上回る。

【図表 3-7 参照】

図表 3-7 職場の現状 (D) 〈短時間労働・フレックスタイム制・テレワークなど多様な働き方〉（全体、性別）



(3) 現在仕事に就いていない理由

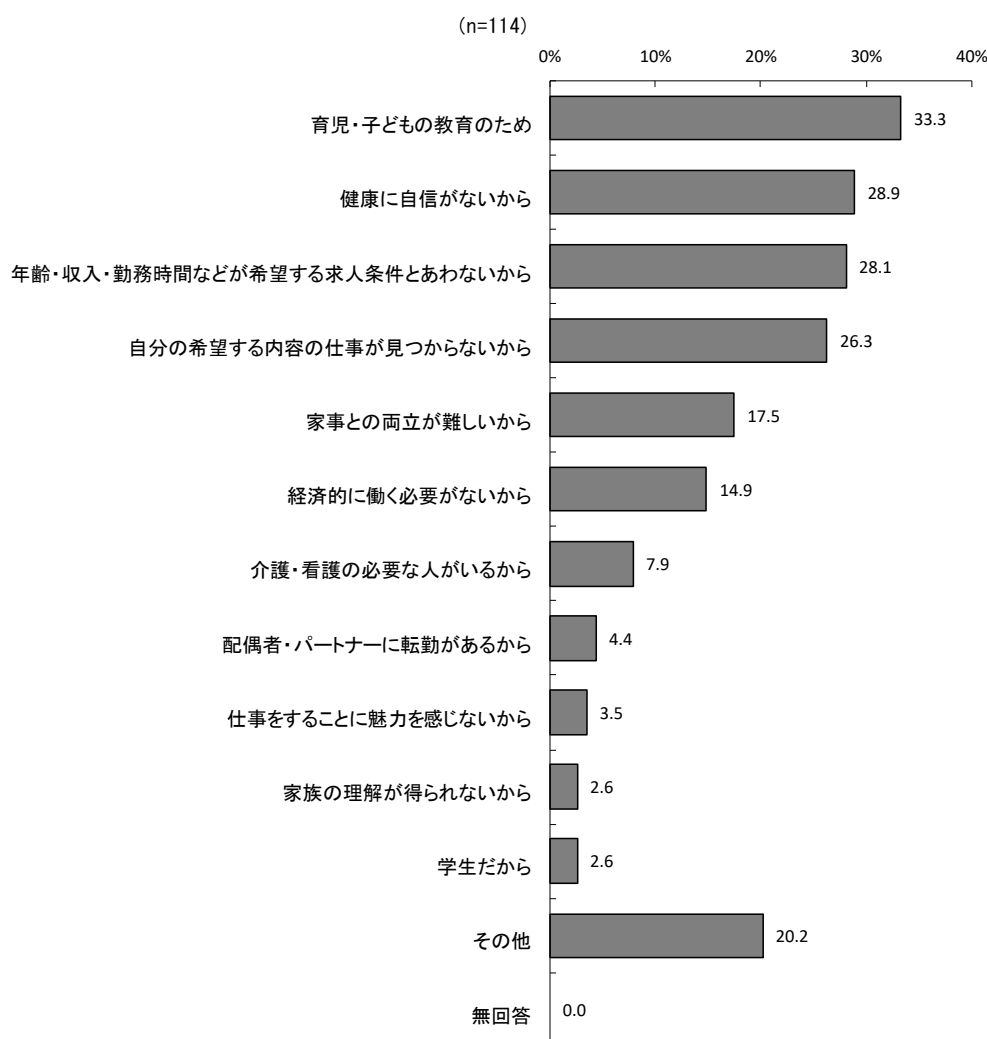
問 1 4 <仕事に就いていない（F3で5～7を選んだ）方にお聞きします。>
あなたが現在仕事に就いていない主な理由は何ですか。あてはまる番号を3つまで選んで○をつけてください。

「育児・子どもの教育のため」が3割以上で最も高い。

現在仕事に就いていない人（114人）に、主な理由を尋ねたところ、**全体**では、「育児・子どもの教育のため」が**33.3%**と最も高い。次いで「健康に自信がないから」（28.9%）、「年齢・収入・勤務時間などが希望する求人条件とあわないから」（28.1%）、「自分の希望する内容の仕事が見つからないから」（26.3%）の順である。

【図表 3-8 参照】

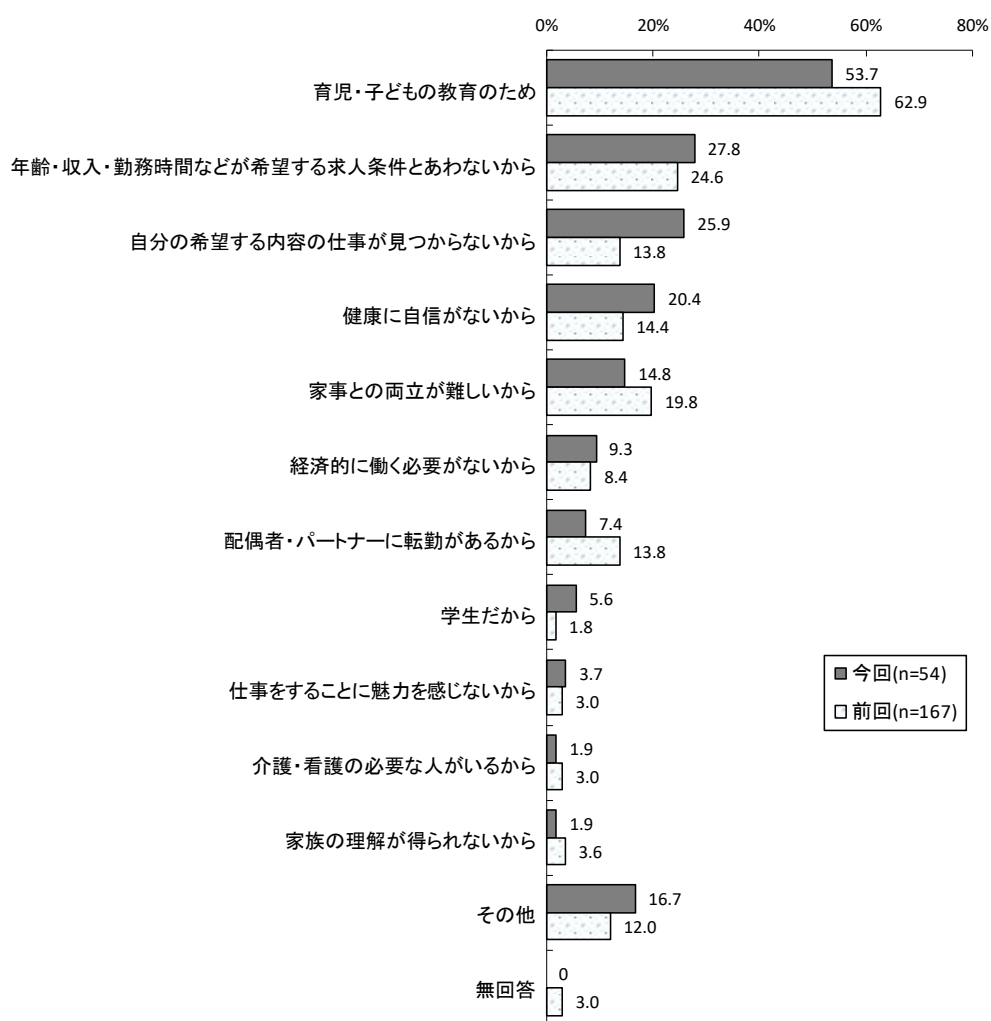
図表 3-8 現在仕事に就いていない理由（全体）



前回調査にあわせて対象年齢を 25 歳～44 歳（54 人）に限って比較すると、「自分の希望する内容の仕事が見つからないから」（25.9%）は 12.1 ポイント増加している。一方、「育児・子どもの教育のため」（53.7%）は 9.2 ポイント減少している。

【図表 3-9 参照】

図表 3-9 職現在仕事に就いていない理由（前回比較）



(4) 今後の就労意思

問 1 5 <仕事に就いていない（F 3 で 5 ～ 7 を選んだ）方にお聞きします。>
あなたは今後働きたいと思いますか。あてはまる番号に 1 つ○をつけてください。

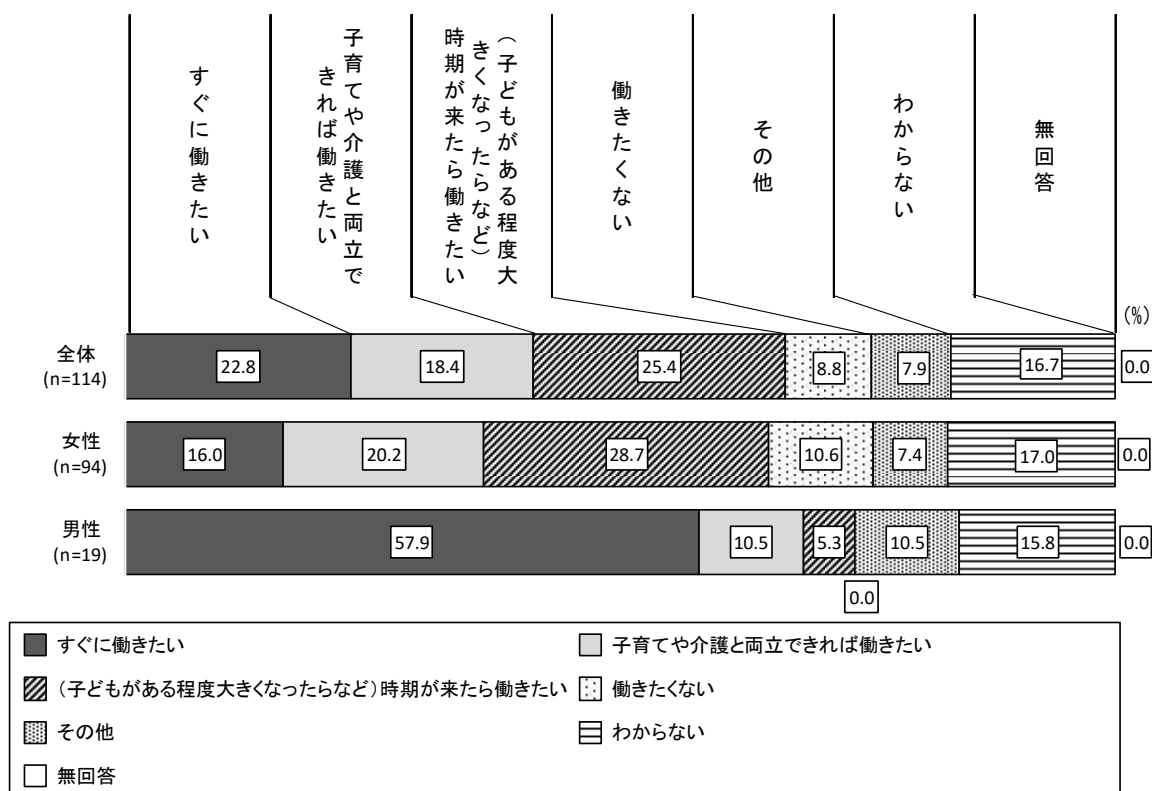
現在仕事に就いていない人の 7 割近くが就労の意思があると回答。

現在仕事に就いていない人（114 人）に、今後の就職の意思を尋ねたところ、**全体**では、「（子どもがある程度大きくなったらなど）時期が来たら働きたい」が 25.4% で最も高い。これに「すぐに働きたい」（22.8%）、「子育てや介護と両立できれば働きたい」（18.4%）を合わせた 66.6% の人に就労の意思があることがわかる。

性別でみると、女性では、「（子どもがある程度大きくなったらなど）時期が来たら働きたい」（28.7%）が最も高い。

【図表 3-10 参照】

図表 3-10 今後の就労意思（全体、性別）



4. 自分の時間の過ごし方

(1) 自分の時間について（希望）

問16 <すべての方にお聞きします。>

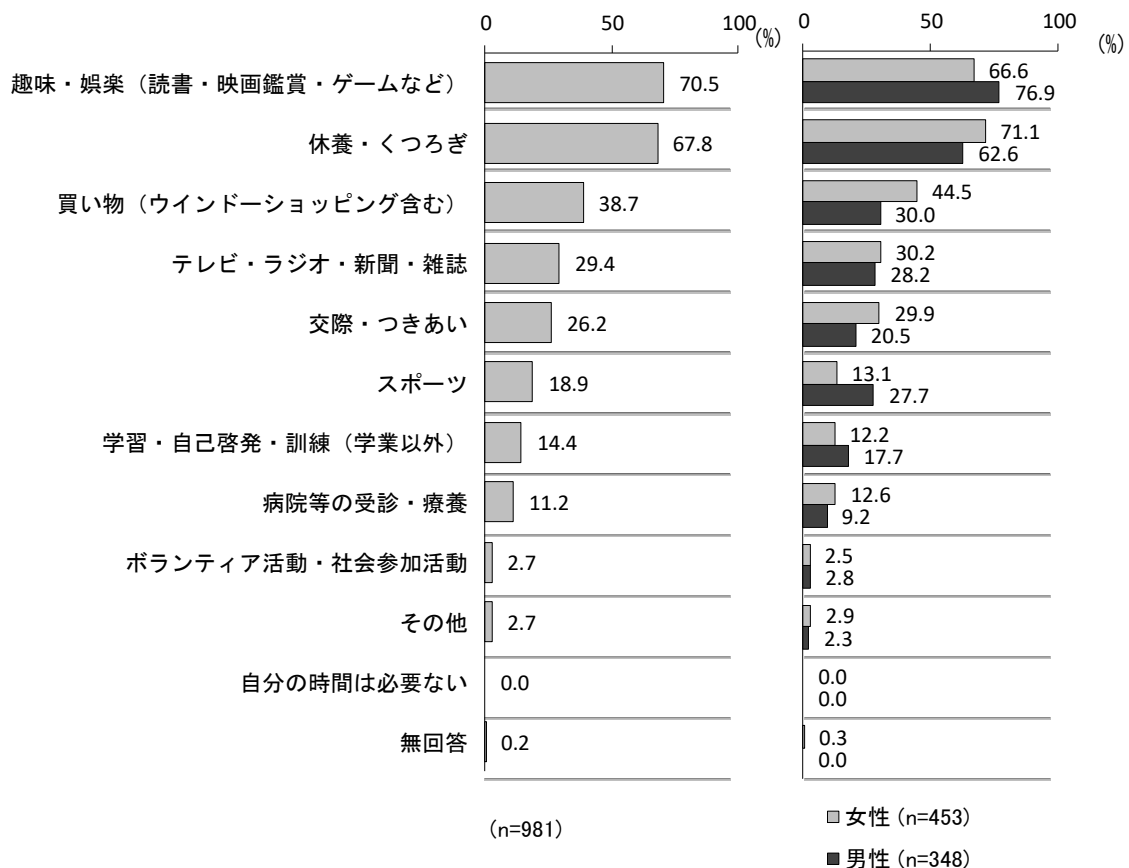
自分の時間の過ごし方について主に優先したいと考える時間を3つ選んで○をつけてください。

女性は「休養・くつろぎ」、男性は「趣味・娯楽（読書・映画鑑賞・ゲームなど）」を優先。

性別でみると、女性では、「休養・くつろぎ」（71.1%）が最も高く、次いで「趣味・娯楽（読書・映画鑑賞・ゲームなど）」（66.6%）となっている。男性では「趣味・娯楽（読書・映画鑑賞・ゲームなど）」（76.9%）が最も高く、次いで「休養・くつろぎ」（62.6%）となっている。「買い物（ウインドーショッピング含む）」は女性（44.5%）が男性（30.0%）より14.5ポイント高い。

【図表 4-1 参照】

図表 4-1 自分の時間について（希望）（全体、性別）



男女それぞれを年代別にみると、女性では25歳～29歳を除いて「休養・くつろぎ」がどの年代でも最も高い。男性では、すべての年代で「趣味・娯楽（読書・映画鑑賞・ゲームなど）」がもっとも高い。

【図表 4-2 参照】

図表 4-2 自分の時間について（希望）（性別、年代別）

		買い物（ウインドーショッピング含む）	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	休養・くつろぎ	学習・自己啓発・訓練（学業以外）	趣味・娯楽（読書・映画鑑賞・ゲームなど）	スポーツ	ボランティア活動・社会参加活動	交際・つきあい	病院等の受診・療養	その他	自分の時間は必要ない	無回答
		(%)											
女性	25～29歳 (n=59)	42.4	22.0	76.3	13.6	79.7	10.2	－	30.5	5.1	5.1		－
	30～39歳 (n=127)	52.0	28.3	70.9	11.8	66.1	6.3	－	35.4	14.2	1.6		－
	40～49歳 (n=174)	48.9	28.7	74.1	12.6	62.6	12.1	1.1	31.6	13.2	3.4		0.6
	50～59歳 (n=229)	37.6	34.5	67.7	11.8	66.4	18.3	5.7	25.3	13.1	2.6	－	0.4
男性	25～29歳 (n=25)	32.0	16.0	72.0	32.0	76.0	24.0	－	24.0	－	4.0	－	－
	30～39歳 (n=80)	26.3	16.3	70.0	26.3	78.8	33.8	1.3	22.5	8.8	－	－	－
	40～49歳 (n=127)	31.5	28.3	56.7	16.5	78.7	27.6	3.9	18.9	7.1	1.6	－	－
	50～59歳 (n=158)	30.4	36.1	62.0	12.0	74.7	25.3	3.2	20.3	12.7	3.8	－	－

(2) 自分の時間について（実際）

問 1 7 <すべての方にお聞きします。>

自分の時間の過ごし方について実際に最も長く費やしている時間を1つ選んで○をつけてください。

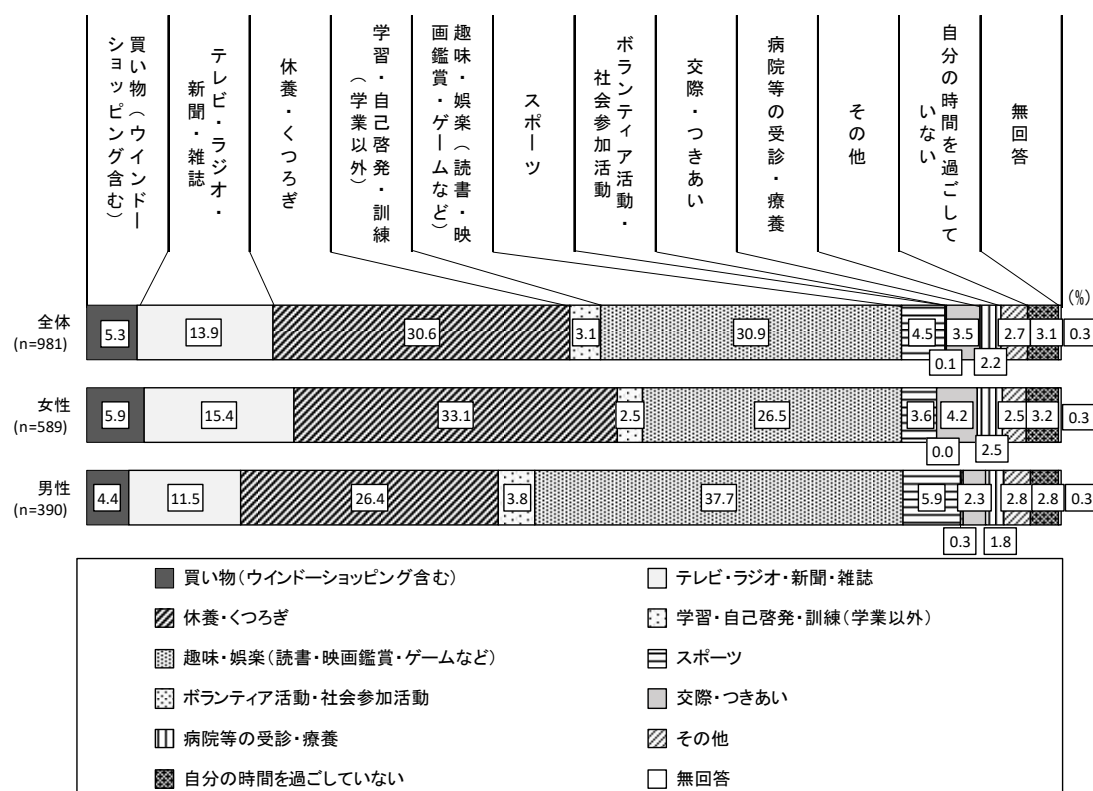
自分の時間の過ごし方は、女性は「休養・くつろぎ」が3割以上、男性は「趣味・娯楽（読書・映画鑑賞・ゲームなど）」が4割近く。

全体では、「趣味・娯楽（読書・映画鑑賞・ゲームなど）」（30.9%）で最も高く、次いで「休養・くつろぎ」（30.6%）、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」（13.9%）の順である。

性別でみると、女性では「休養・くつろぎ」（33.1%）が最も高く、男性では「趣味・娯楽（読書・映画鑑賞・ゲームなど）」（37.7%）が最も高い。

【図表 4-3 参照】

図表 4-3 自分の時間について（実際）（全体、性別）



男女それぞれを年代別にみると、女性では25歳～29歳を除いて「休養・くつろぎ」がどの年代でも最も高い。男性では、すべての年代で「趣味・娯楽（読書・映画鑑賞・ゲームなど）」が最も高い。男性の25歳～29歳を除いた性別、年代で自分の時間の過ごし方（希望）と同じ傾向である。

【図表 4-4 参照】

図表 4-4 自分の時間（性別、年代別）

		買い物（ウインドーショッピング含む）	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	休養・くつろぎ	学習・自己啓発・訓練（学業以外）	趣味・娯楽（読書・映画鑑賞・ゲームなど）	スポーツ	ボランティア活動・社会参加活動	交際・つきあい	病院等の受診・療養	その他	自分の時間を過ごしていない	無回答	(%)
女性	25～29歳（n=59）	5.1	5.1	33.9	1.7	39.0	1.7	－	6.8	－	5.1	1.7	－	
	30～39歳（n=127）	11.0	15.7	33.9	1.6	23.6	－	－	3.9	4.7	－	5.5	－	
	40～49歳（n=174）	4.0	16.7	34.5	4.6	24.7	2.3	－	4.0	4.0	2.3	2.3	0.6	
	50～59歳（n=229）	4.8	17.0	31.4	1.7	26.2	7.0	－	3.9	0.9	3.5	3.1	0.4	
男性	25～29歳（n=25）	－	－	8.0	4.0	68.0	12.0	－	－	4.0	4.0	－	－	
	30～39歳（n=80）	3.8	5.0	35.0	7.5	40.0	2.5	－	－	2.5	－	3.8	－	
	40～49歳（n=127）	7.1	7.9	30.7	3.9	34.6	3.9	－	3.9	0.8	2.4	4.7	－	
	50～59歳（n=158）	3.2	19.6	21.5	1.9	34.2	8.2	0.6	2.5	1.9	4.4	1.3	0.6	

5. 家庭生活について

この項目において、調査票では「配偶者・パートナー」という文言を用いているが、配偶者・パートナーがいる男性と女性の「配偶者・パートナー」を「夫」、配偶者・パートナーがいる女性と男性の「配偶者・パートナー」を「妻」に分類している。（この分類は異性愛を前提としたもので、本来であれば、より多様な家族構成を考慮すべきであるが、前回比較との便宜上、前回調査の分類を踏襲している。）

(1) 家庭での役割分担

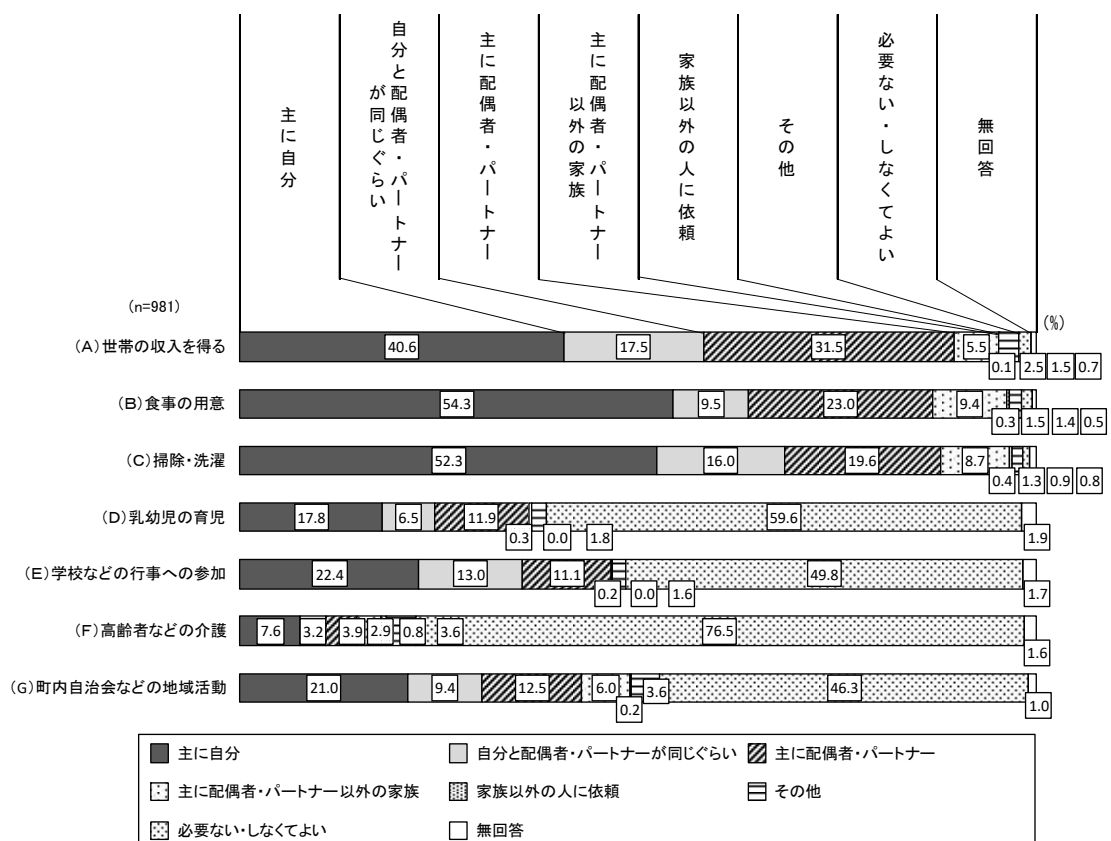
問 18 あなたの家庭では、次の（A）～（G）を主に誰が担当していますか。あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

家庭での役割分担について尋ねたところ、**全体**では、「主に自分」が高いのは、「食事の用意」（54.3%）、「掃除・洗濯」（52.3%）である。

一方、「必要ない・しなくてよい」は「高齢者などの介護」（76.5%）で最も高い。

【図表 5-1 参照】

図表 5-1 家庭での役割分担（全体）

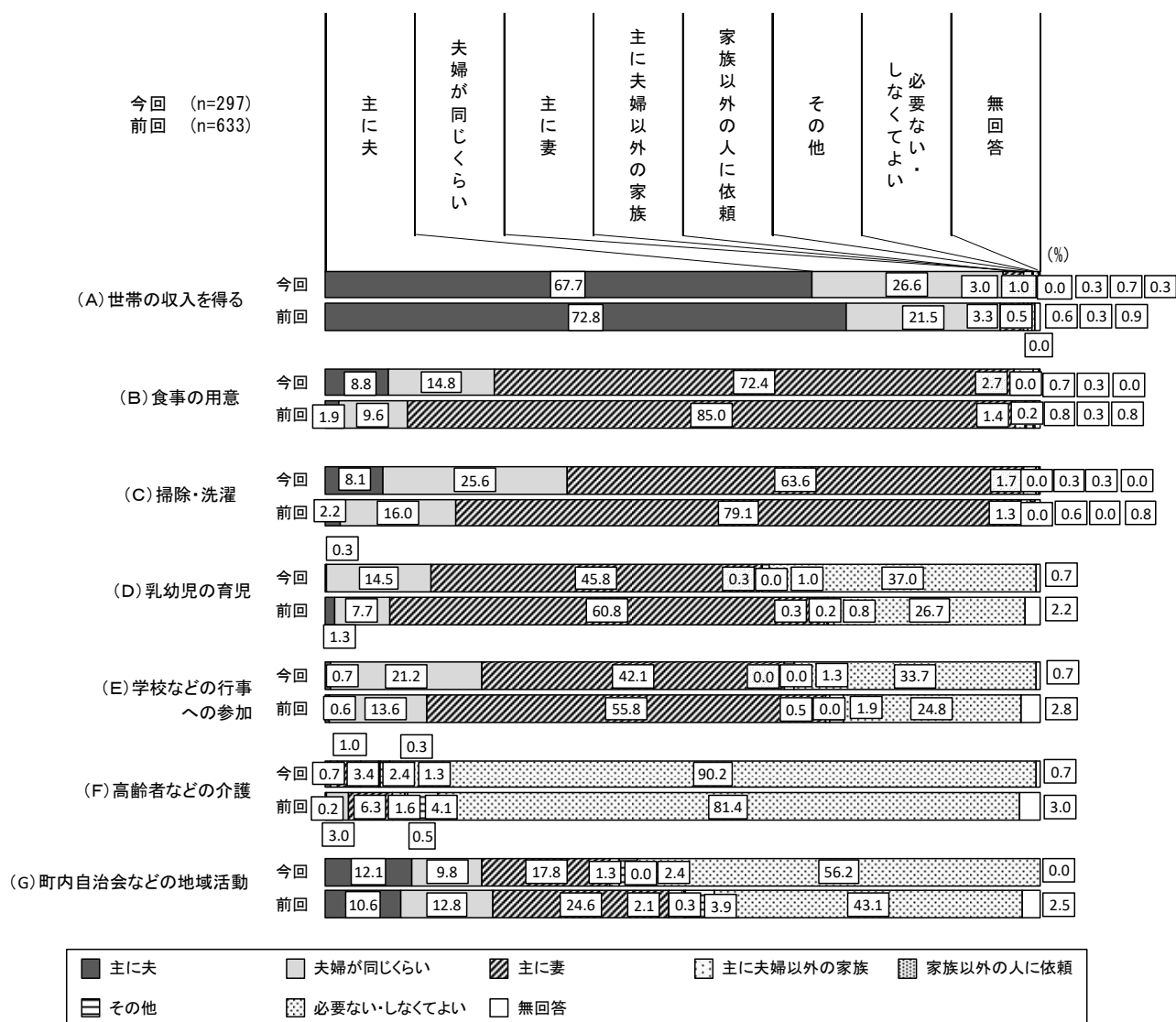


「世帯の収入を得る」は「主に夫」が7割近く、「食事の用意」は「主に妻」が7割以上。

前回調査にあわせて対象年齢を 25 歳～44 歳の配偶者・パートナーがいる人（297 人）に限って比較すると、「主に妻」が「食事の用意」では 12.6 ポイント、「掃除・洗濯」が 15.5 ポイント、「乳幼児の育児」では 15 ポイント、「学校などの行事への参加」では 13.7 ポイント減少し、「夫婦が同じくらい」が「掃除・洗濯」では 9.6 ポイント、「学校などの行事への参加」では 7.6 ポイント増加している。

【図表 5-2 参照】

図表 5-2 家庭での役割分担（配偶者・パートナーがいるベース、前回比較）

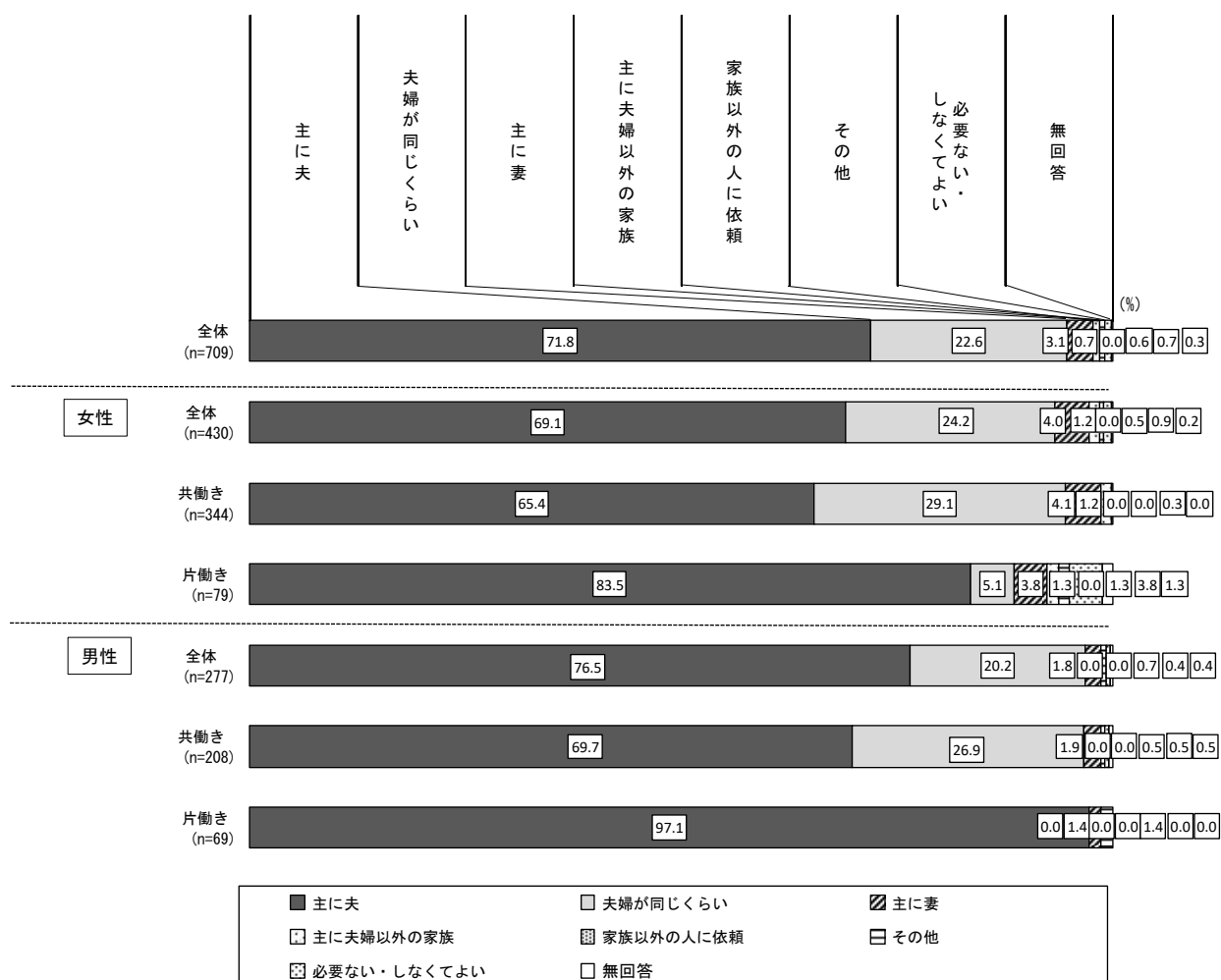


(A) 世帯の収入を得る

配偶者・パートナーがいる人（709人）に限って（以下（G）まで同様）男女それぞれを配偶者・パートナーの働き方別にみると、男女ともに配偶者・パートナーの働き方にかかわらず、「主に夫」が最も高い。特に「片働き」では「主に夫」が女性で83.5%、男性で97.1%と、「共働き」より高くなっている。一方、「共働き」では「夫婦が同じくらい」が女性で29.1%、男性で26.9%となっている。

【図表 5-3 参照】

図表 5-3 家庭での役割分担（A）〈世帯の収入を得る〉
（全体・性別・配偶者・パートナーの働き方別）

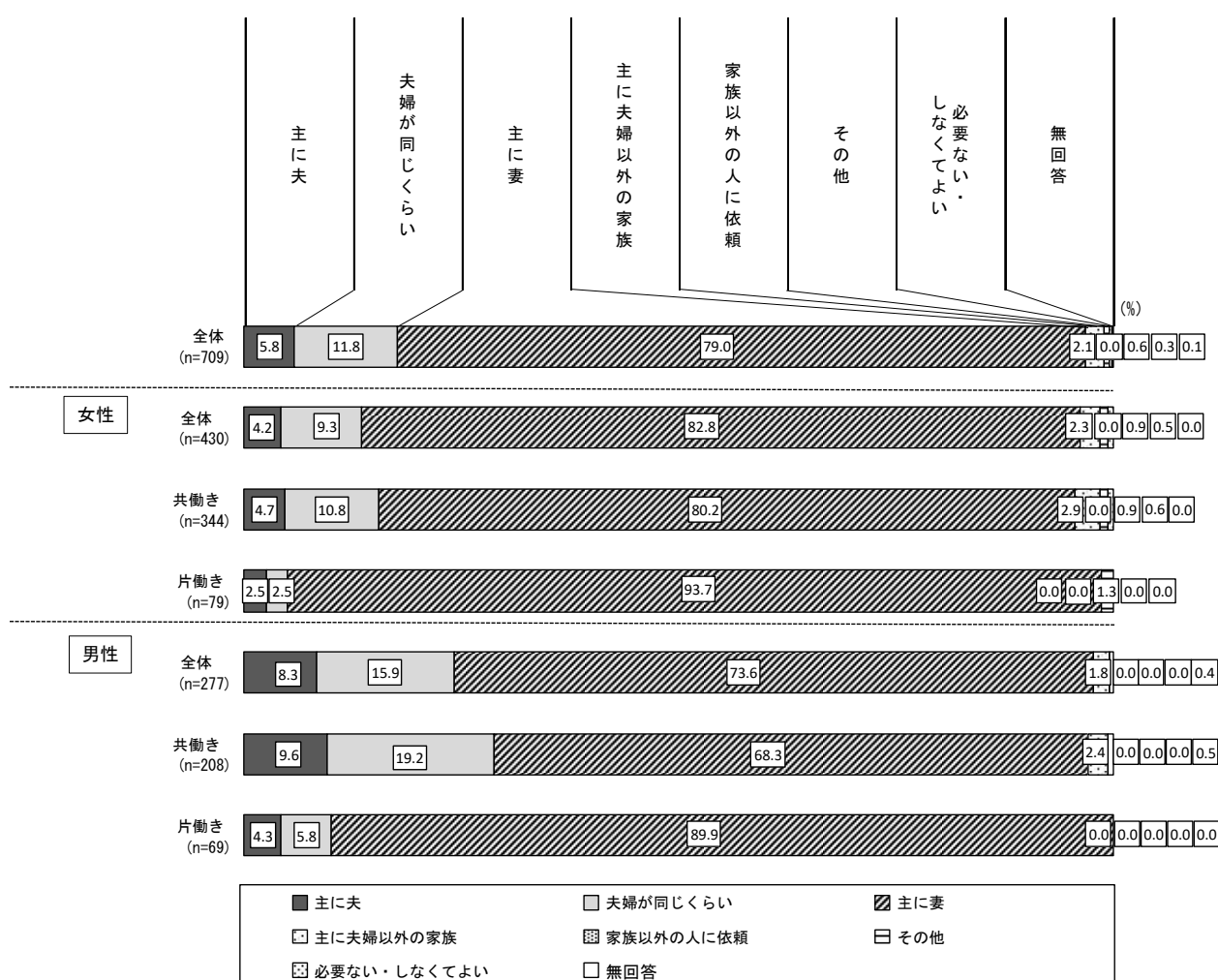


(B) 食事の用意

男女それぞれを配偶者・パートナーの働き方別にみると、男女ともに配偶者・パートナーの働き方にかかわらず、「主に妻」が最も高くなっている。特に「片働き」では「主に妻」が女性で93.7%、男性で89.9%と、「共働き」より高くなっている。なお、「共働き」では「夫婦が同じくらい」が男性で19.2%、女性で10.8%と、男性の方が女性より8.4ポイント高い。

【図表 5-4 参照】

図表 5-4 家庭での役割分担 (B) 〈食事の用意〉
(全体・性別・配偶者・パートナーの働き方別)



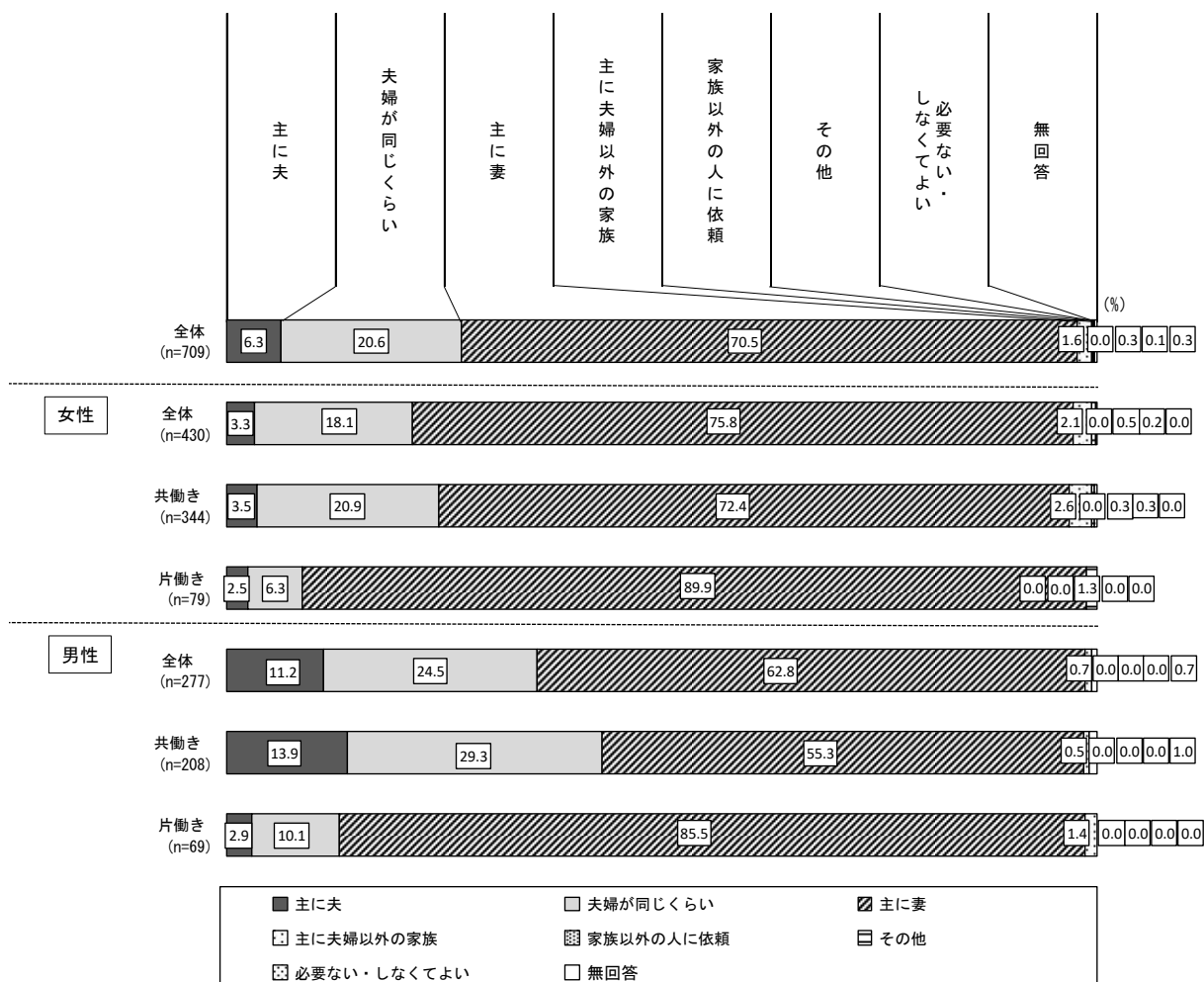
(C) 掃除・洗濯

男女それぞれを配偶者・パートナーの働き方別にみると、男女ともに配偶者・パートナーの働き方にかかわらず、「主に妻」が最も高い。特に「片働き」では「主に妻」が女性で 89.9%、男性で 85.5%と、「共働き」より高くなっている。

また、男女の「共働き」を比較すると、「夫婦が同じくらい」は男性（29.3%）の方が女性（20.9%）より 8.4 ポイント高い。

【図表 5-5 参照】

図表 5-5 家庭での役割分担（C）〈掃除・洗濯〉
（全体・性別・配偶者・パートナーの働き方別）

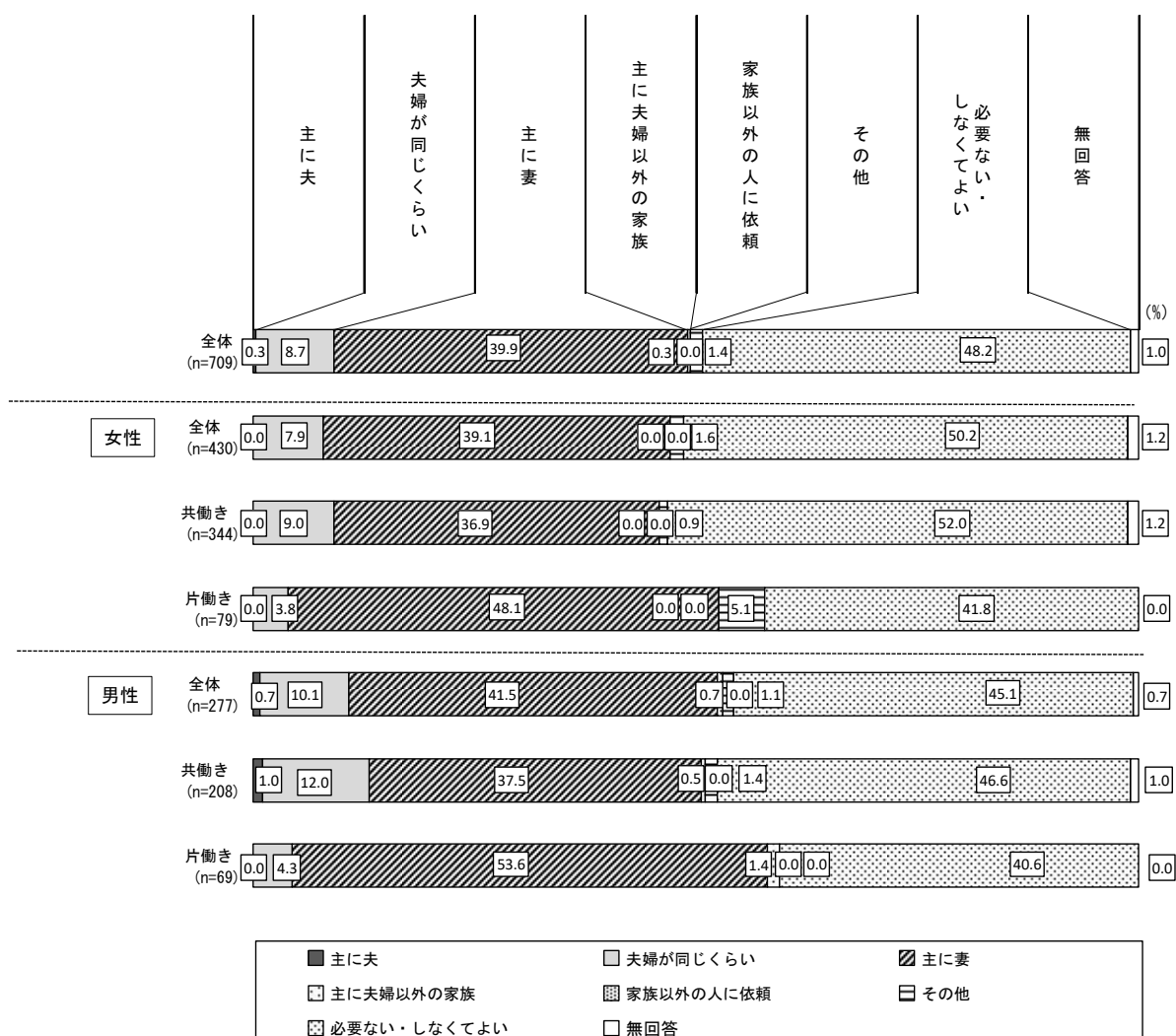


(D) 乳幼児の育児

男女それぞれを配偶者・パートナーの働き方別にみると、男女ともに、「必要ない・しなくてよい」を除くと「主に妻」は「片働き」（女性 48.1%、男性 53.6%）が「共働き」（女性 36.9%、男性 37.5%）を大きく上回る。

【図表 5-6 参照】

図表 5-6 家庭での役割分担（D）〈乳幼児の育児〉
（全体・性別・配偶者・パートナーの働き方別）

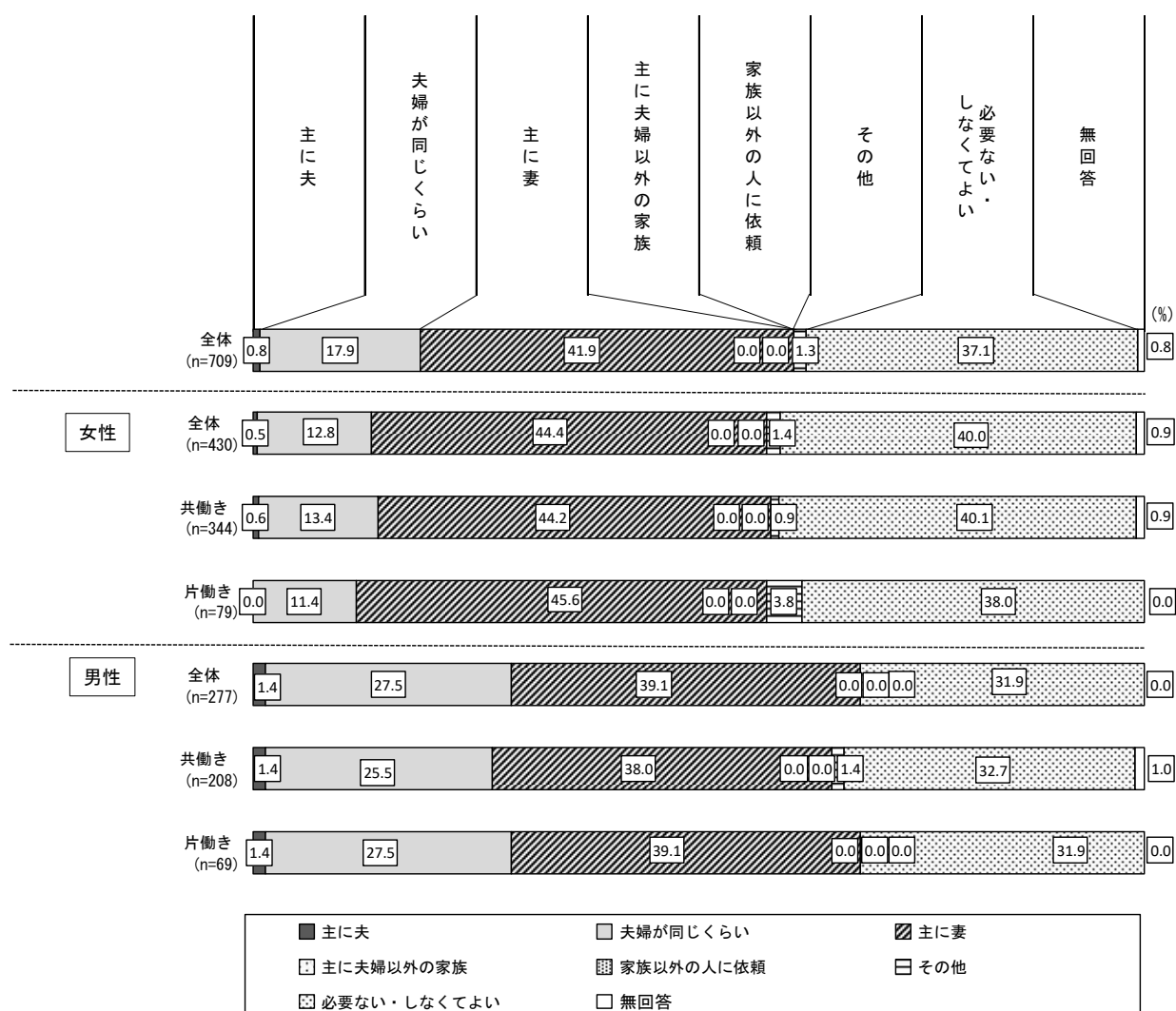


(E) 学校などの行事への参加

男女それぞれを配偶者・パートナーの働き方別にみると、男女ともに配偶者・パートナーの働き方にかかわらず、「主に妻」が最も高い。男性では働き方にかかわらず、「夫婦が同じくらい」が女性よりも高くなっている。

【図表 5-7 参照】

図表 5-7 家庭での役割分担（E）〈学校などの行事への参加〉
（全体・性別・配偶者・パートナーの働き方別）

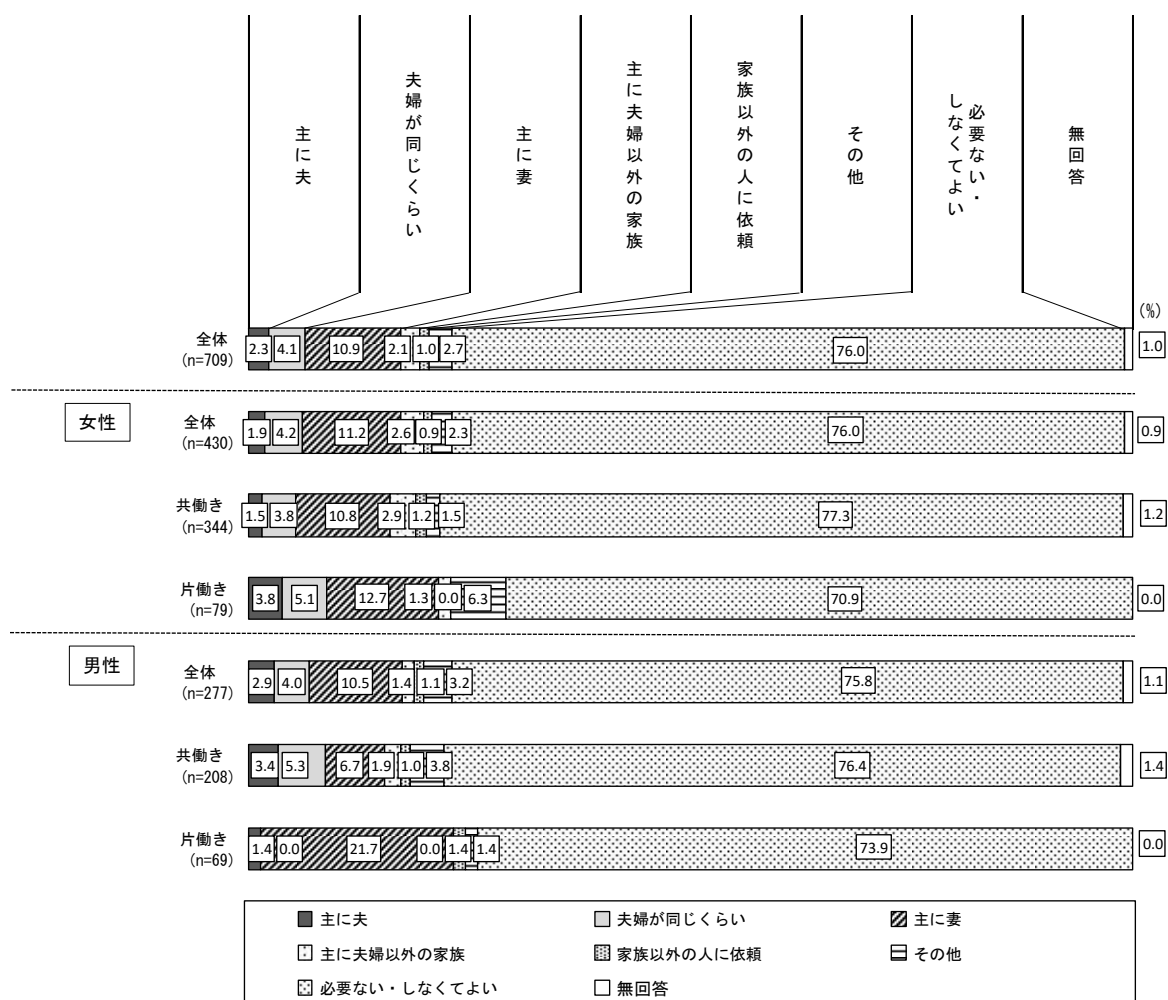


(F) 高齢者などの介護

男女それぞれを配偶者・パートナーの働き方別にみると、男女ともに配偶者・パートナーの働き方にかかわらず、「必要ない・しなくてよい」が最も高く、7割半である。

【図表 5-8 参照】

図表 5-8 家庭での役割分担（F）〈高齢者などの介護〉
（全体・性別・配偶者・パートナーの働き方別）

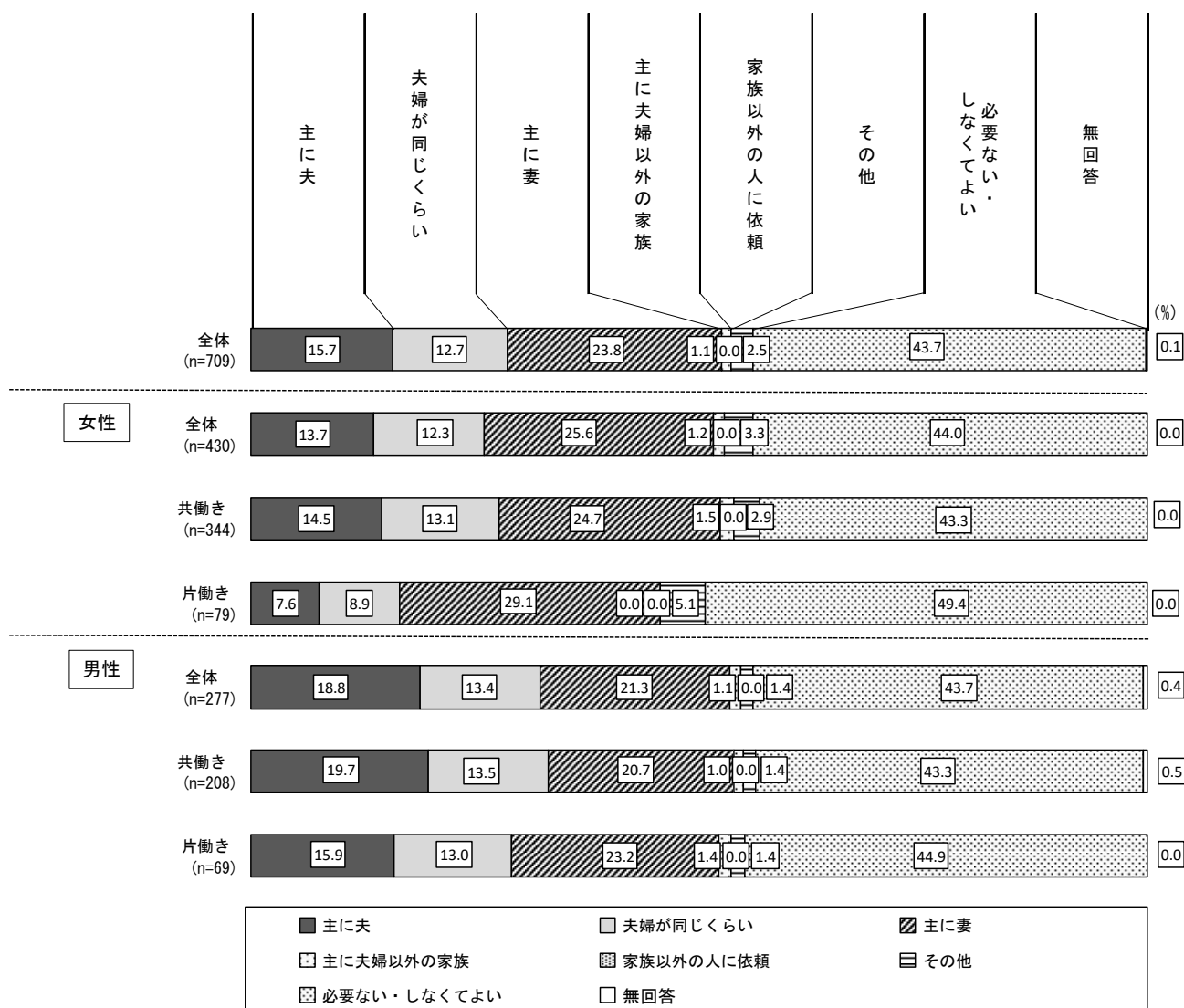


(G) 町内自治会などの地域活動

男女それぞれを配偶者・パートナーの働き方別にみると、配偶者・パートナーの働き方にかかわらず、「必要ない・しなくてよい」を除き、「主に妻」が最も高い。「主に妻」について、男女を比較すると、女性（共働き 24.7%、片働き 29.1%）の方が、男性（共働き 20.7%、片働き 23.2%）より高い。

【図表 5-9 参照】

図表 5-9 家庭での役割分担（G）〈町内自治会などの地域活動〉
（全体・性別・配偶者・パートナーの働き方別）



6. 仕事と生活の調和のために今後取り組むべき内容

(1) 各分野の男女の地位

問19 あなたは現在、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

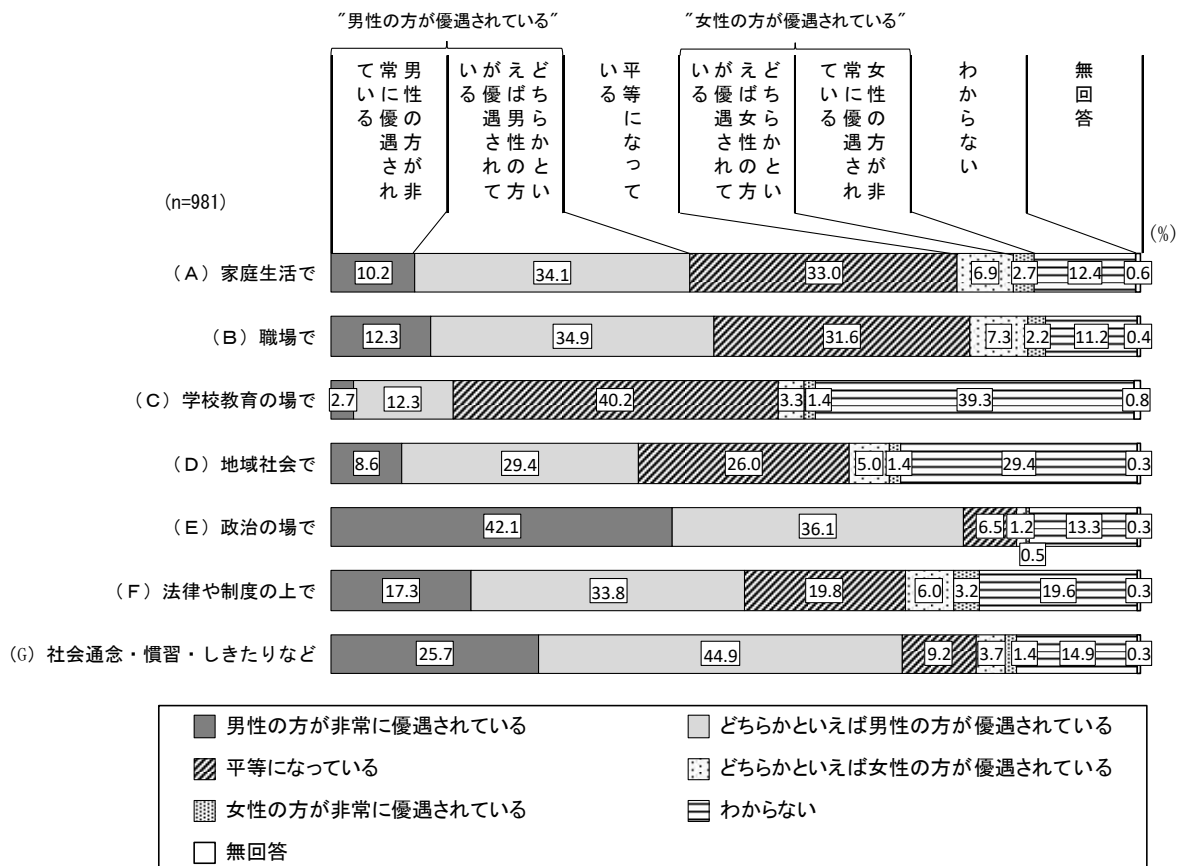
(A)～(G)のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

「政治の場で」で8割近く、「社会通念・慣習・しきたりなど」で約7割が、“男性の方が優遇されている”と回答。

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性の方が優遇されている”は、「政治の場で」が最も高く78.2%、次いで「社会通念・慣習・しきたりなど」が70.6%である。「平等になっている」は、「学校教育の場で」が40.2%と最も高く、「政治の場で」が6.5%と最も低い。

【図表 6-1 参照】

図表 6-1 各分野の男女の地位（全体）



(A) 家庭生活で

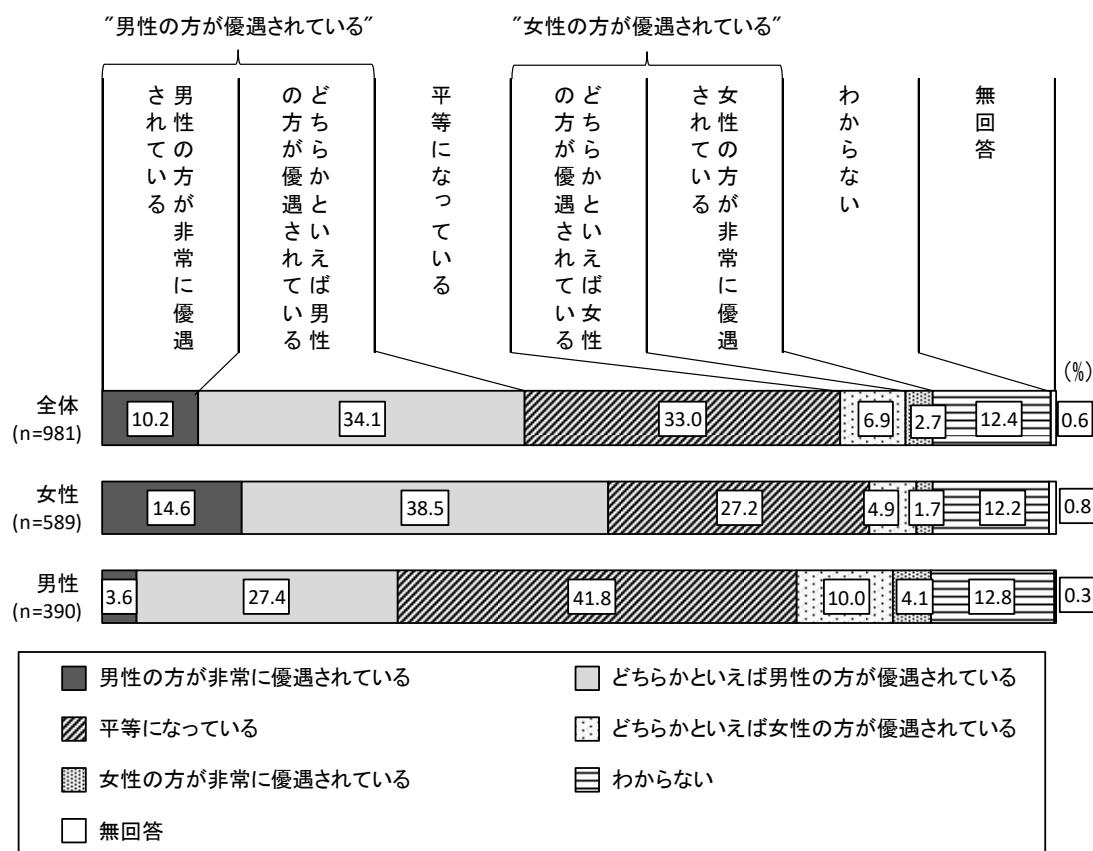
全体の約 4 割半、女性の 5 割以上が家庭で“男性の方が優遇されている”と回答。

全体では、“男性の方が優遇されている”が 44.3%である。一方、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた“女性の方が優遇されている”は 9.6%である。また、「平等になっている」は 33.0%である。

性別でみると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 38.5%で最も高いが、男性では「平等になっている」が 41.8%で最も高い。また “男性の方が優遇されている”は、女性では 53.1%、男性では 31.0%で、女性の方が男性より 22.1 ポイント高い。

【図表 6-2 参照】

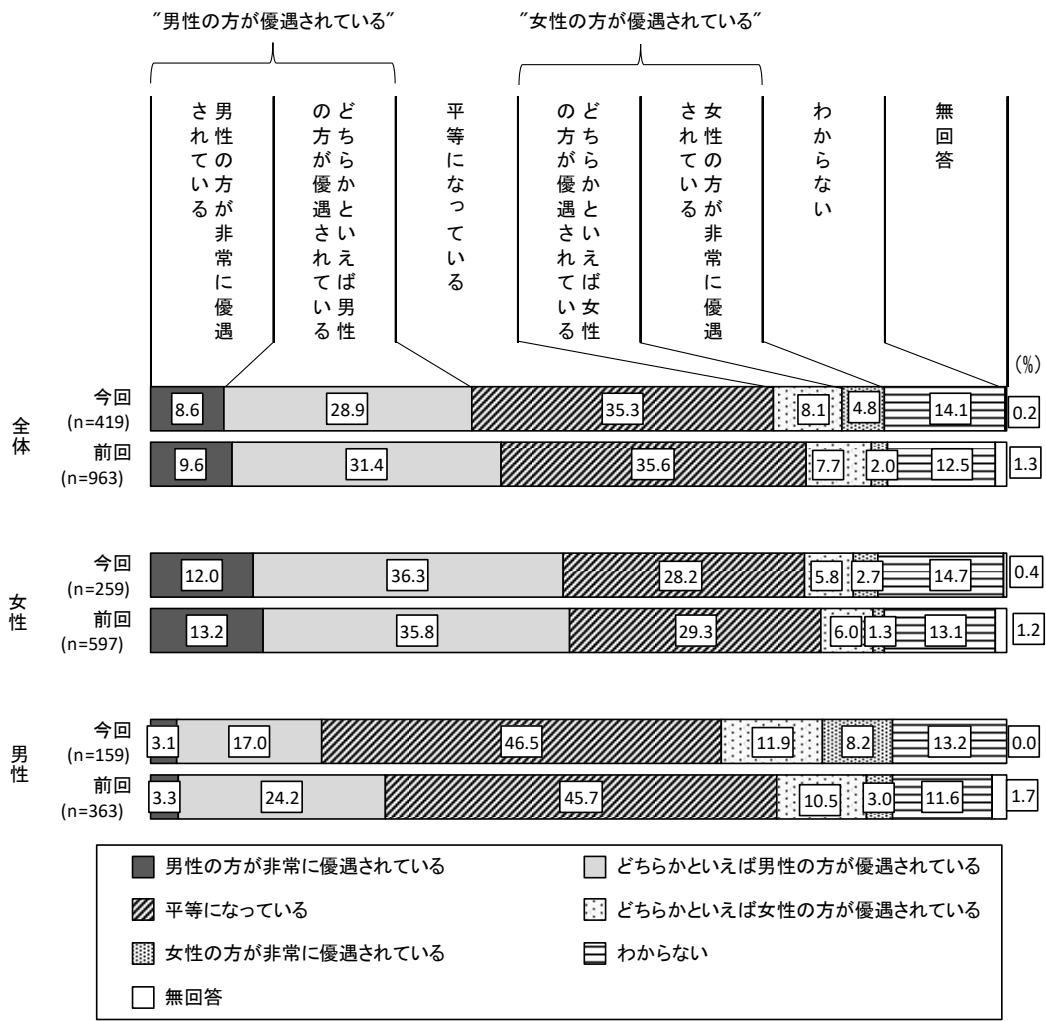
図表 6-2 各分野の男女の地位（A）〈家庭生活で〉（全体、性別）



前回調査にあわせて対象年齢を 25 歳～44 歳（419 人）に限って比較すると、男性では、“男性の方が優遇されている”（20.1%）が 7.4 ポイント減少している。

【図表 6-3 参照】

図表 6-3 各分野の男女の地位（A）〈家庭生活で〉（前回比較）



（Ｂ）職場で

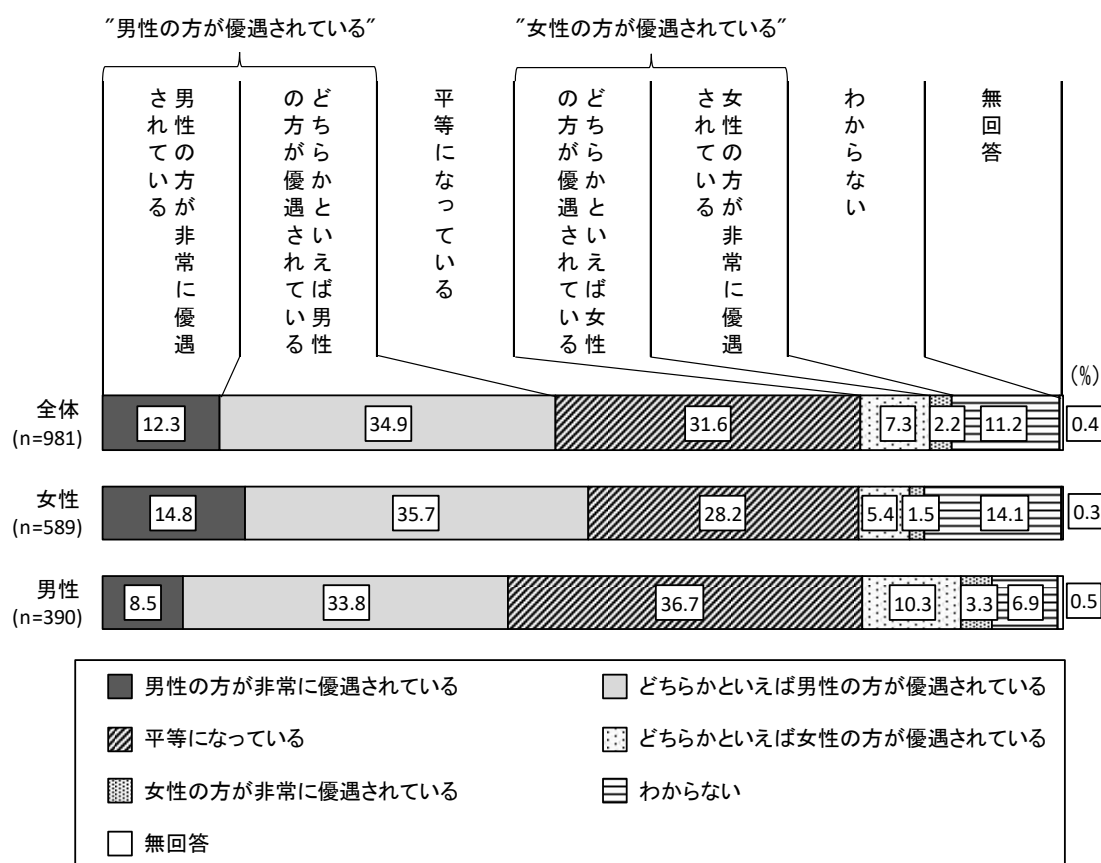
全体の５割近く、女性の約５割が職場で“男性の方が優遇されている”と回答。

全体では、“男性の方が優遇されている”は47.2%である。一方、“女性の方が優遇されている”は9.5%である。また、「平等になっている」は31.6%である。

性別でみると、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（35.7%）が最も高く、男性は「平等になっている」（36.7%）が最も高い。また“男性の方が優遇されている”は女性で50.5%、男性では42.3%で、女性の方が男性より8.2ポイント高い。

【図表 6-4 参照】

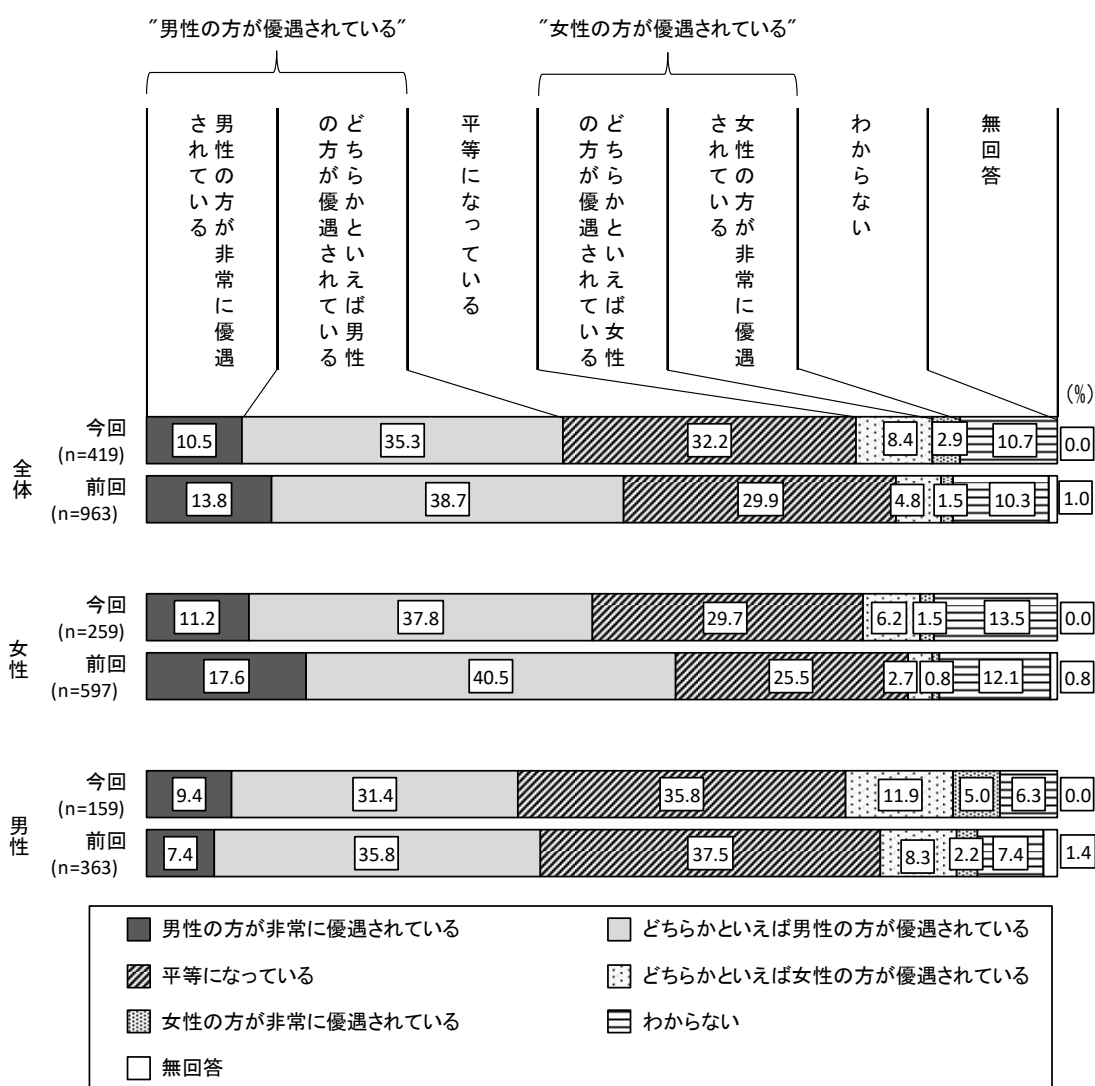
図表 6-4 各分野の男女の地位（Ｂ）〈職場で〉（全体、性別）



前回調査にあわせて対象年齢を 25 歳～44 歳（419 人）に限って比較すると、全体では、“男性の方が優遇されている”（45.8%）が 6.7 ポイント減少している。女性でも“男性の方が優遇されている”（49.0%）が 9.1 ポイント減少している。

【図表 6-5 参照】

図表 6-5 各分野の男女の地位（B）〈職場で〉
（前回比較）



（Ｃ）学校教育の場で

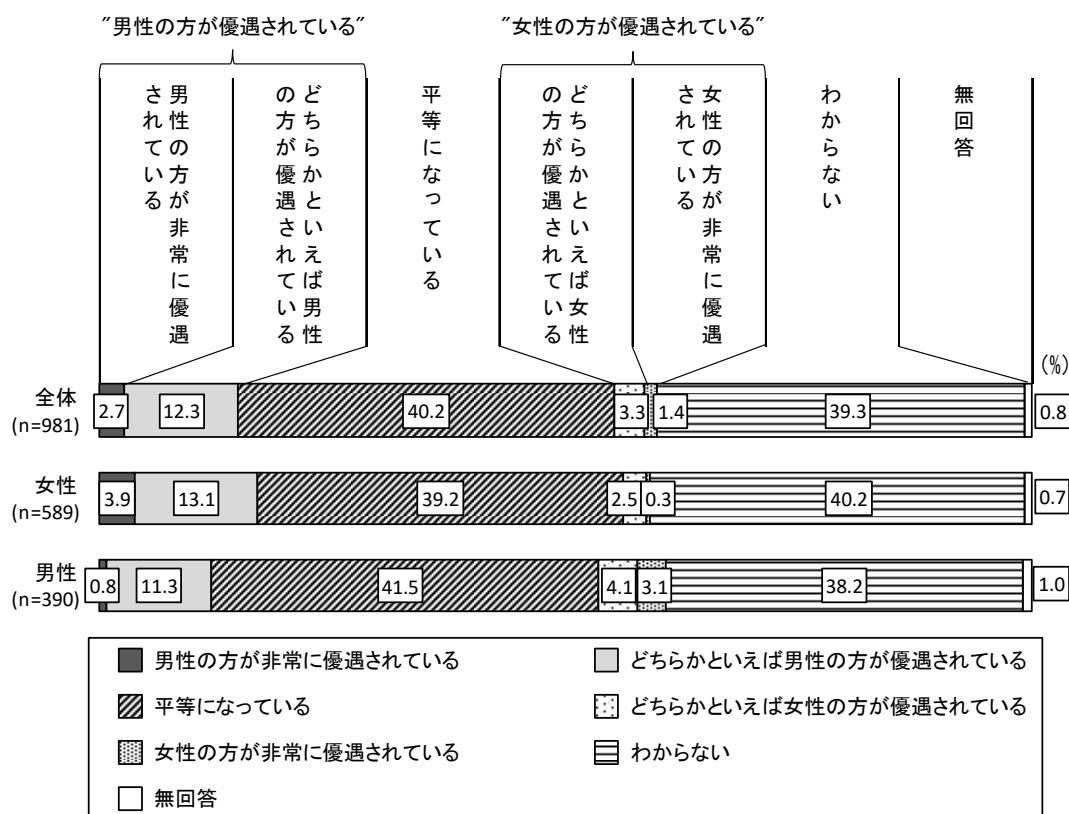
全体の約４割が学校教育の場で「平等になっている」と回答。

全体では、「平等になっている」は40.2%で最も高い。“男性の方が優遇されている”は15.0%である。一方、“女性の方が優遇されている”は4.7%である。

性別でみると、「平等になっている」が「わからない」を除いて、女性(39.2%)、男性（41.5%）ともに最も高い。

【図表 6-6 参照】

図表 6-6 各分野の男女の地位（Ｃ）〈学校教育の場で〉（全体、性別）



(D) 地域社会で

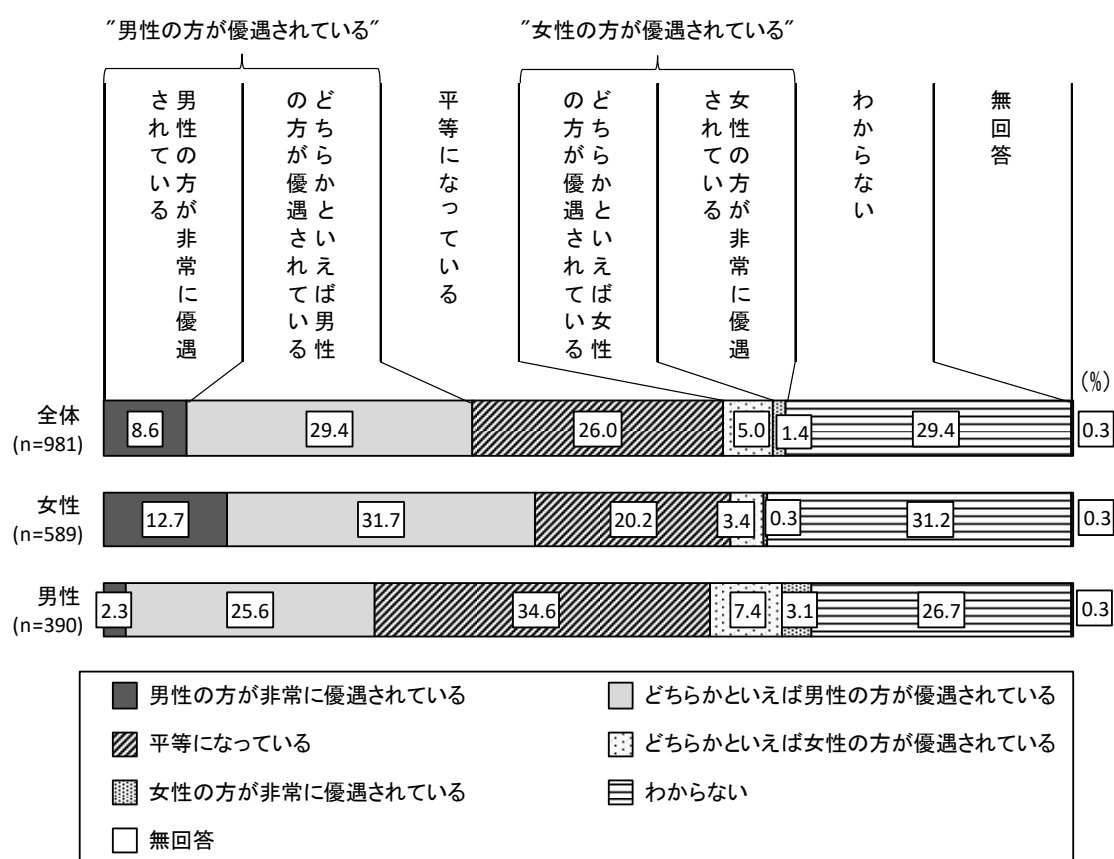
全体の4割近く、女性の4割半が地域社会で“男性の方が優遇されている”と回答。

全体では、“男性の方が優遇されている”が38.0%である。一方、“女性の方が優遇されている”は6.4%である。また、「平等になっている」は26.0%である。

性別でみると、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(31.7%)が最も高いが、男性では「平等になっている」(34.6%)が最も高い。“男性の方が優遇されている”は、女性では44.4%、男性では27.9%で、女性の方が男性より16.5ポイント高い。

【図表 6-7 参照】

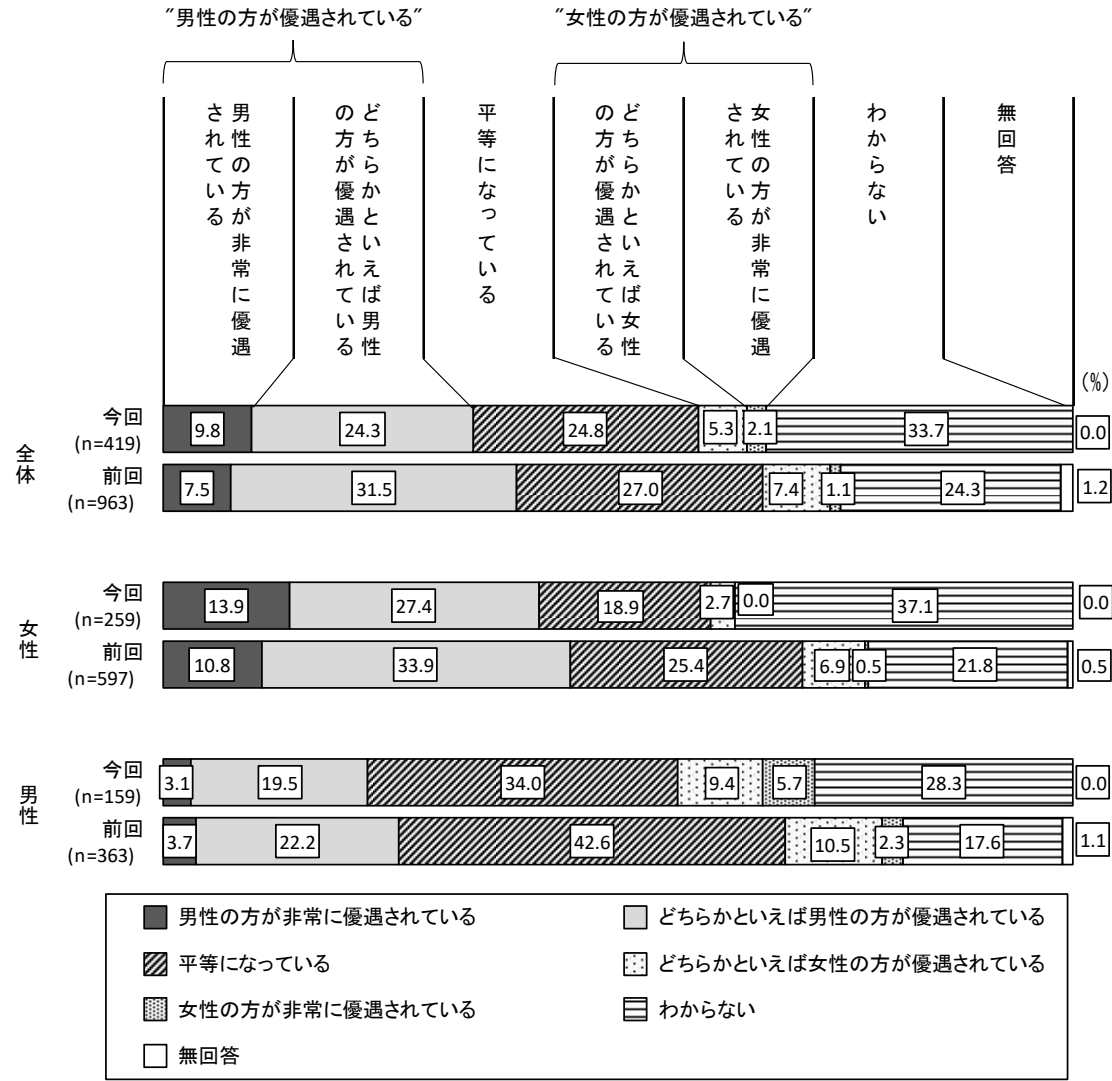
図表 6-7 各分野の男女の地位 (D) 〈地域社会で〉 (全体、性別)



前回調査にあわせて対象年齢を 25 歳～44 歳（419 人）に限って比較すると、「平等になっている」が女性（18.9%）、男性（34.0%）ともに減少（それぞれ 6.5 ポイント、8.6 ポイント）している。

【図表 6-8 参照】

図表 6-8 各分野の男女の地位（D）〈地域社会で〉
（前回比較）



（E）政治の場で

全体の8割近く、女性の8割以上が政治の場で“男性の方が優遇されている”と回答。

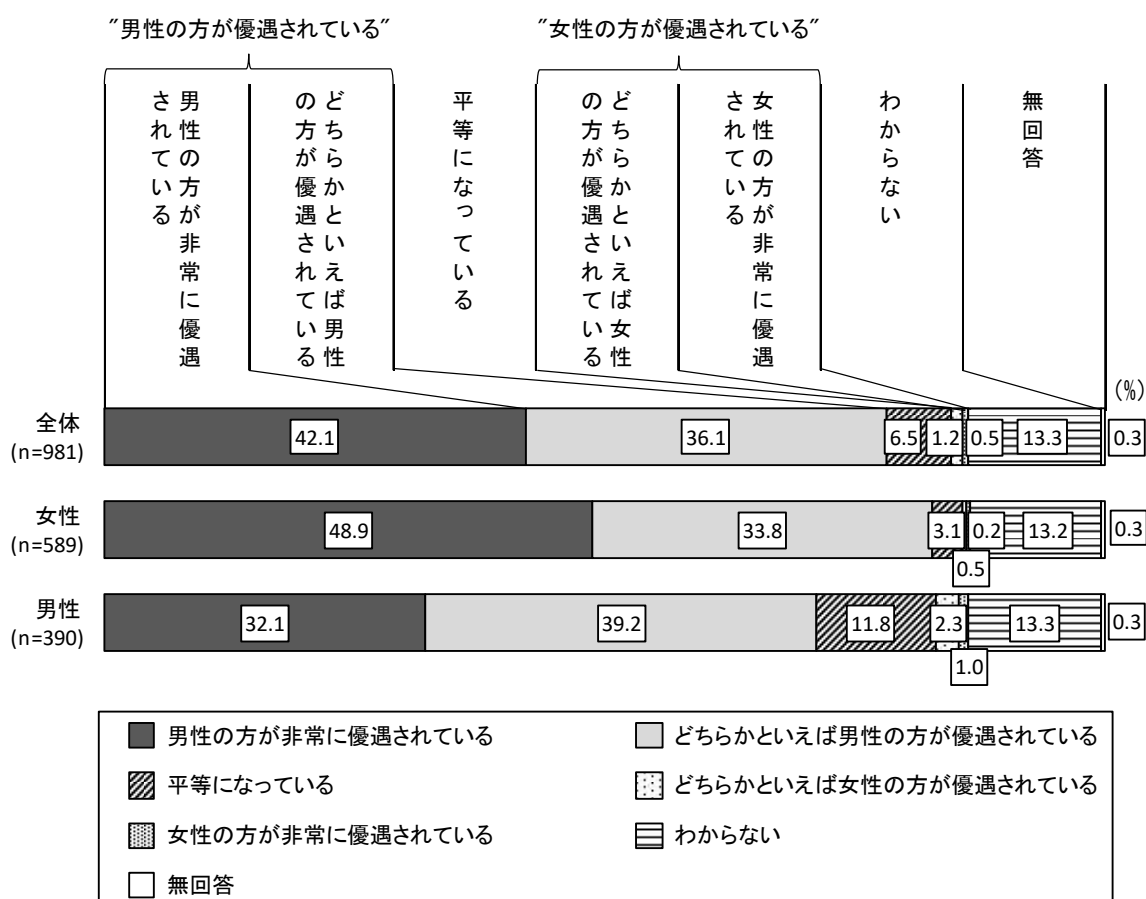
全体では、“男性の方が優遇されている”が78.2%である。一方、“女性の方が優遇されている”は1.7%である。また、「平等になっている」は6.5%である。

性別でみると、女性では「男性の方が非常に優遇されている」（48.9%）が最も高く、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（39.2%）が最も高い。

“男性の方が優遇されている”は、女性では82.7%、男性では71.3%で、女性の方が男性より11.4ポイント高い。

【図表 6-9 参照】

図表 6-9 各分野の男女の地位（E）〈政治の場で〉
（全体、性別）



(F) 法律や制度の上で

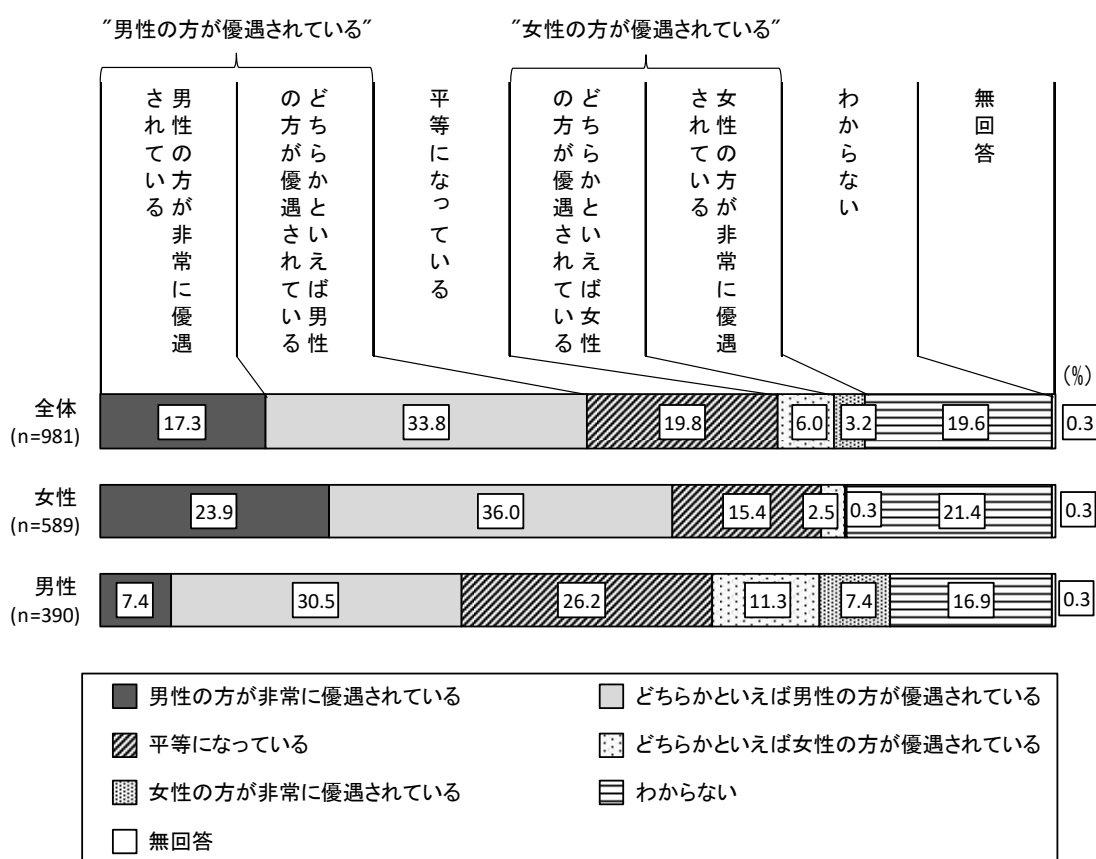
全体の5割以上、女性の約6割が法律や制度の上で“男性の方が優遇されている”と回答。

全体では、“男性の方が優遇されている”が51.1%である。一方、“女性の方が優遇されている”は9.2%である。また、「平等になっている」は19.8%である。

性別でみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（女性36.0%、男性30.5%）が最も高い。“男性の方が優遇されている”は、女性では59.9%、男性では37.9%で、女性の方が男性より22.0ポイント高い。

【図表 6-10 参照】

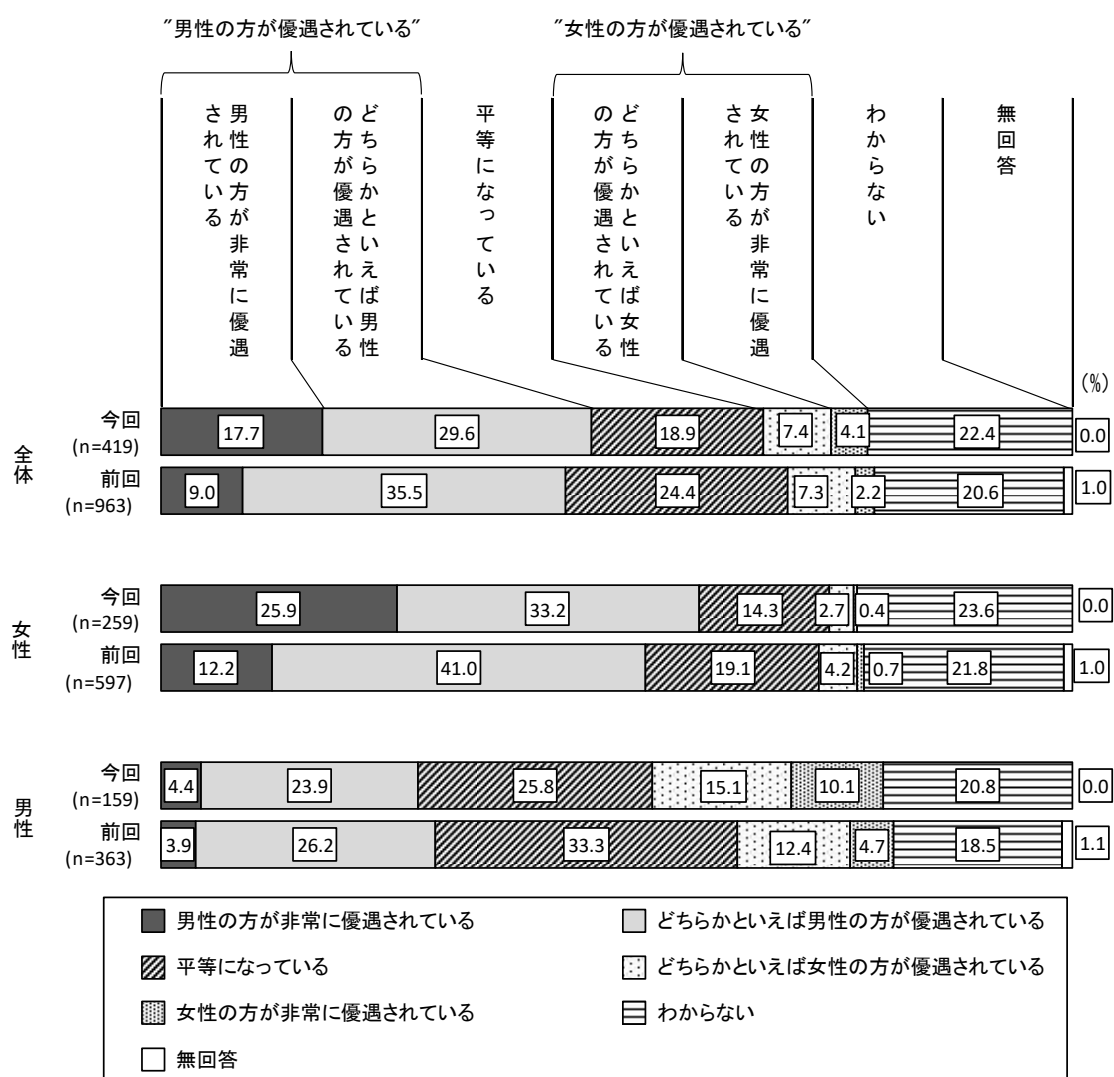
図表 6-10 各分野の男女の地位 (F) 〈法律や制度の上で〉
(全体、性別)



前回調査にあわせて対象年齢を 25 歳～44 歳（419 人）に限って比較すると、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が 25.9%で、13.7 ポイント増加している。男性では「平等になっている」が 25.8%で 7.5 ポイント減少している。

【図表 6-11 参照】

図表 6-11 各分野の男女の地位（F）〈法律や制度の上で〉
（前回比較）



(G) 社会通念・慣習・しきたりなど

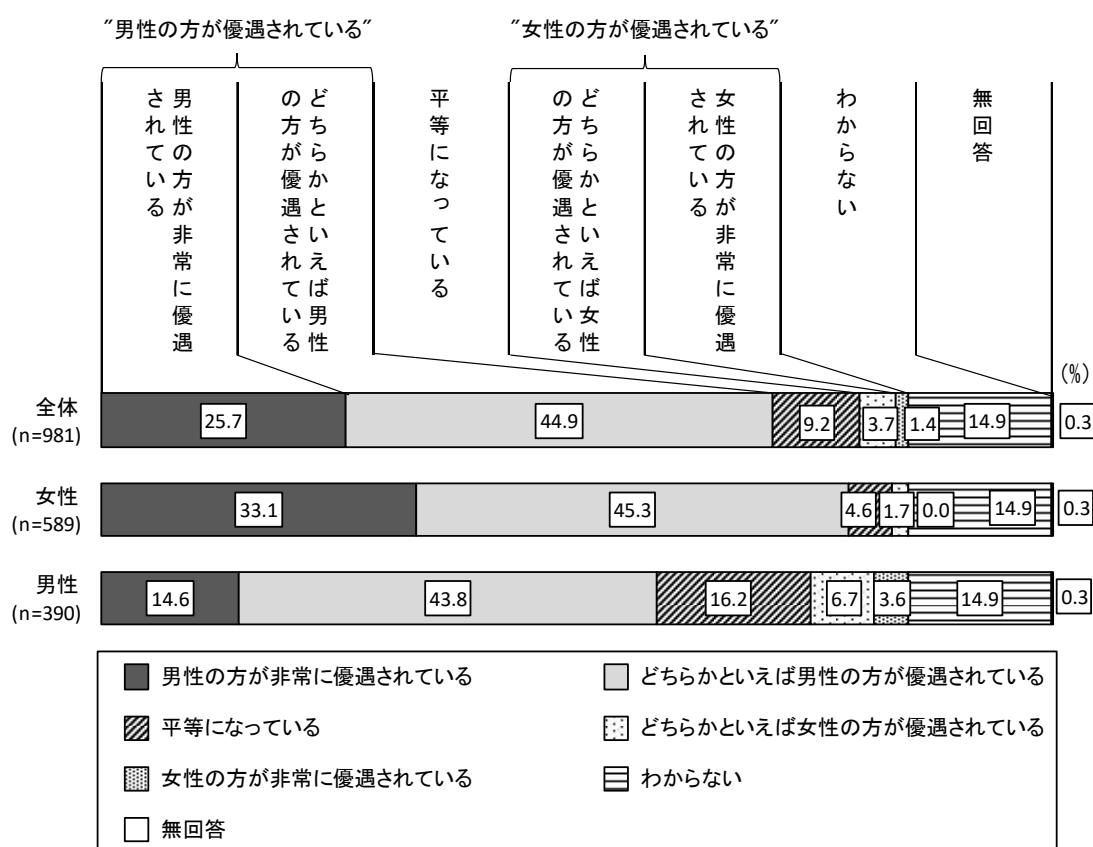
女性の8割近く、男性の約6割が社会通念・慣習・しきたりなどで“男性の方が優遇されている”と回答。

全体では、“男性の方が優遇されている”が70.6%である。一方、“女性の方が優遇されている”は5.1%である。また、「平等になっている」は9.2%である。

性別でみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（女性45.3%、男性43.8%）が最も高い。“男性の方が優遇されている”は、女性では78.4%、男性では58.4%で、女性の方が男性より20.0ポイント高い。

【図表 6-12 参照】

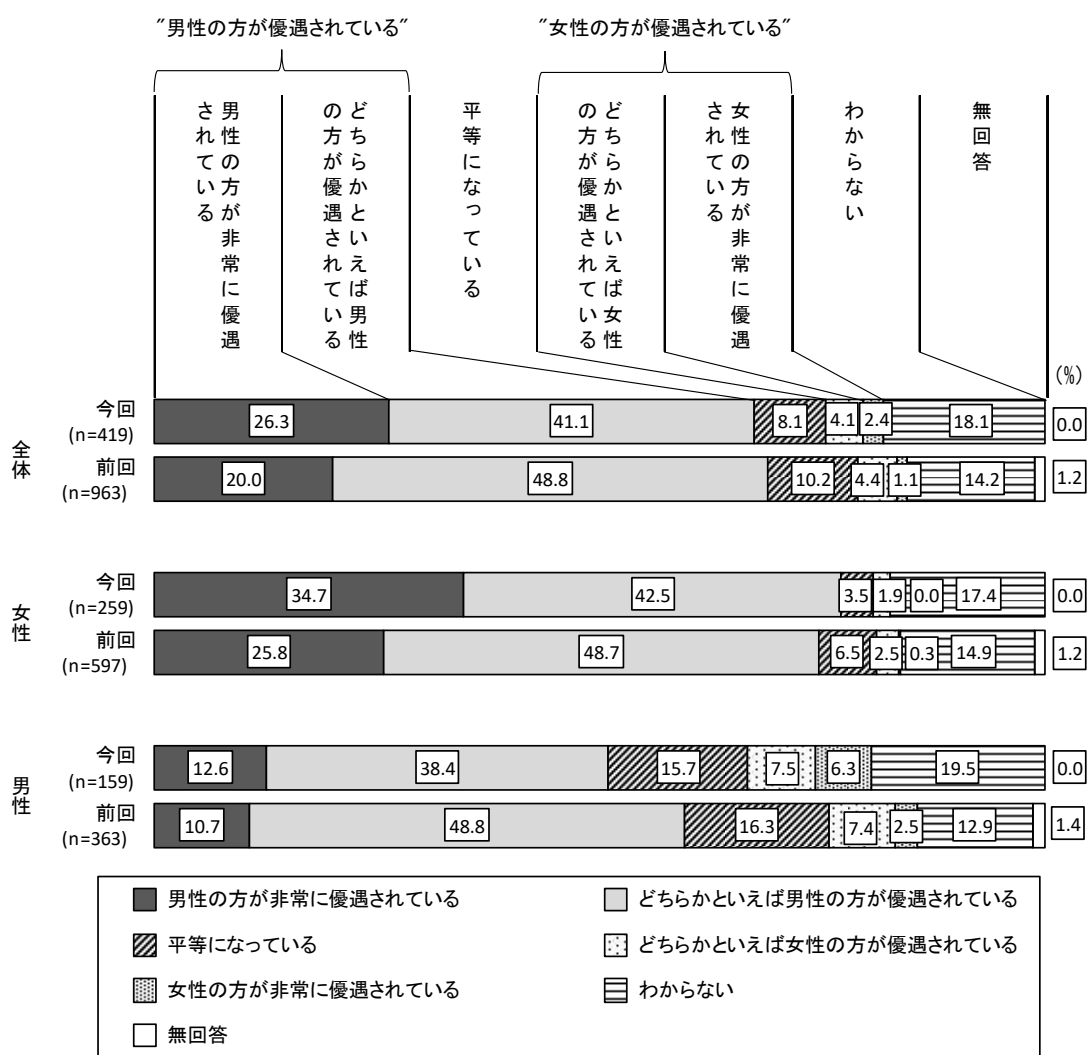
図表 6-12 各分野の男女の地位 (G) 〈社会通念・慣習・しきたりなどで〉
(全体、性別)



前回調査にあわせて対象年齢を 25 歳～44 歳（419 人）に限って比較すると、女性では「男性の方が非常に優遇されている」が 34.7%で、8.9 ポイント増加している。男性では“男性の方が優遇されている”が 51.0%で 8.5 ポイント減少している。

【図表 6-13 参照】

図表 6-13 各分野の男女の地位（G）〈社会通念・慣習・しきたりなど〉
（前回比較）



(2) 性別役割分担意識について

問 20 あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どのように
思いますか。あてはまる番号に 1 つ○をつけてください。

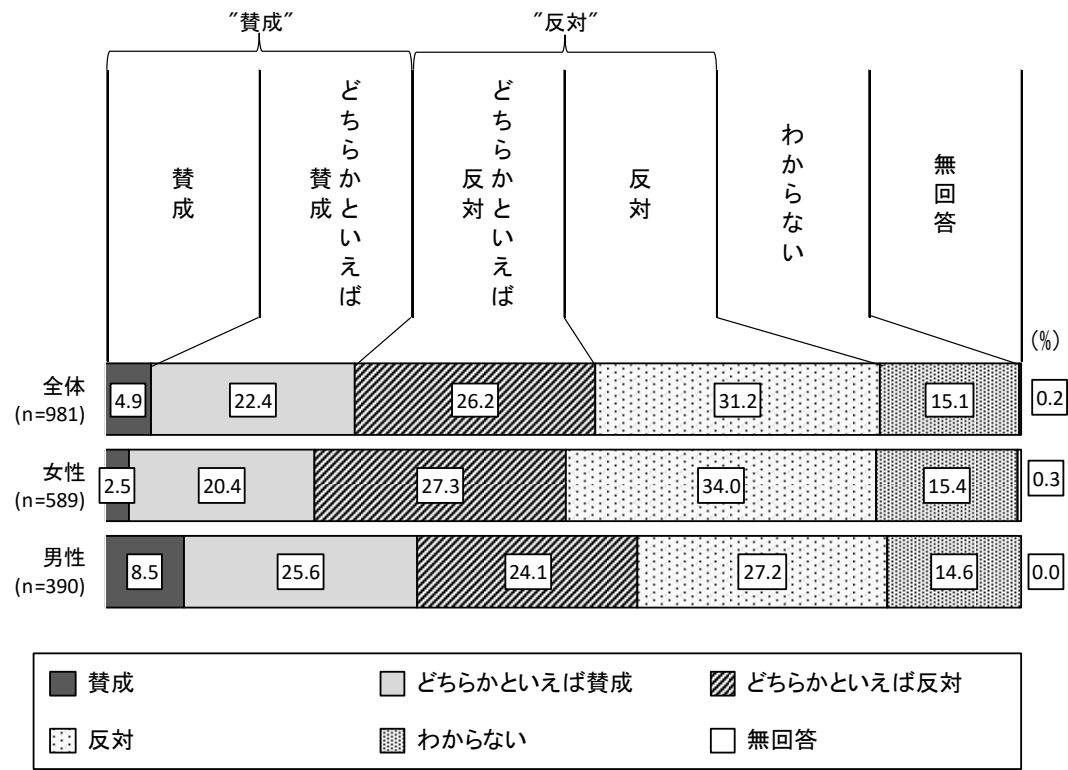
“反対”が全体の 6 割近く。

全体では、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の両者を合わせた“賛成”は 27.3%
である。一方、「どちらかといえば反対」、「反対」の両者を合わせた“反対”は 57.4%
である。“反対”の方が“賛成”より 30.1 ポイント高い。

性別でみると、“賛成”は男性（34.1%）が、女性（22.9%）を 11.2 ポイント上回
る。一方、“反対”は女性（61.3%）が、男性（51.3%）を 10 ポイント上回る。

【図表 6-14 参照】

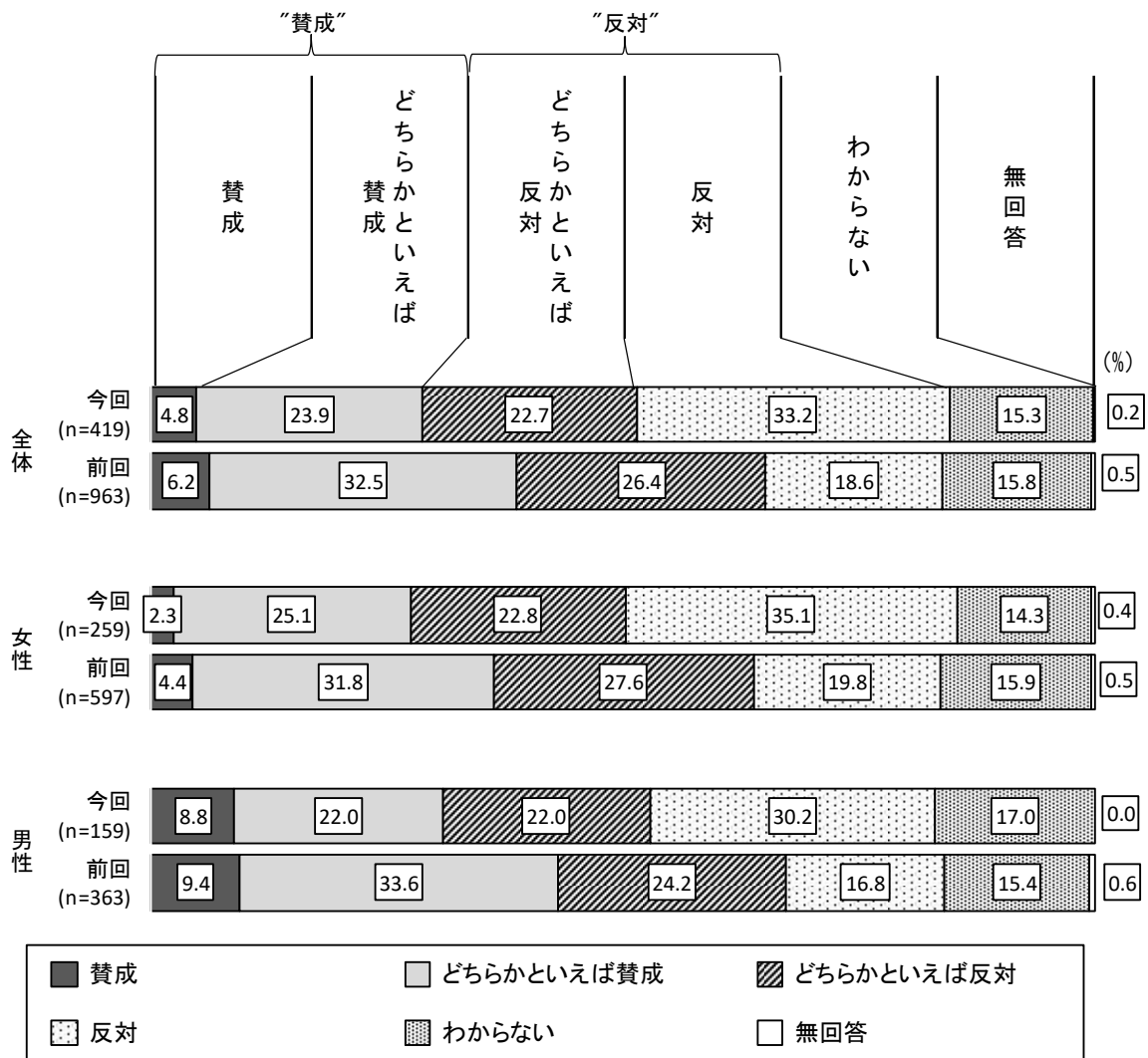
図表 6-14 性別役割分担について（全体、性別）



前回調査にあわせて対象年齢を25歳～44歳に限って比較すると、全体では“賛成” (28.7%)が10ポイント減少し、“反対”(55.9%)が10.9ポイント増加した。

【図表 6-15 参照】

図表 6-15 性別役割分担について（前回比較）

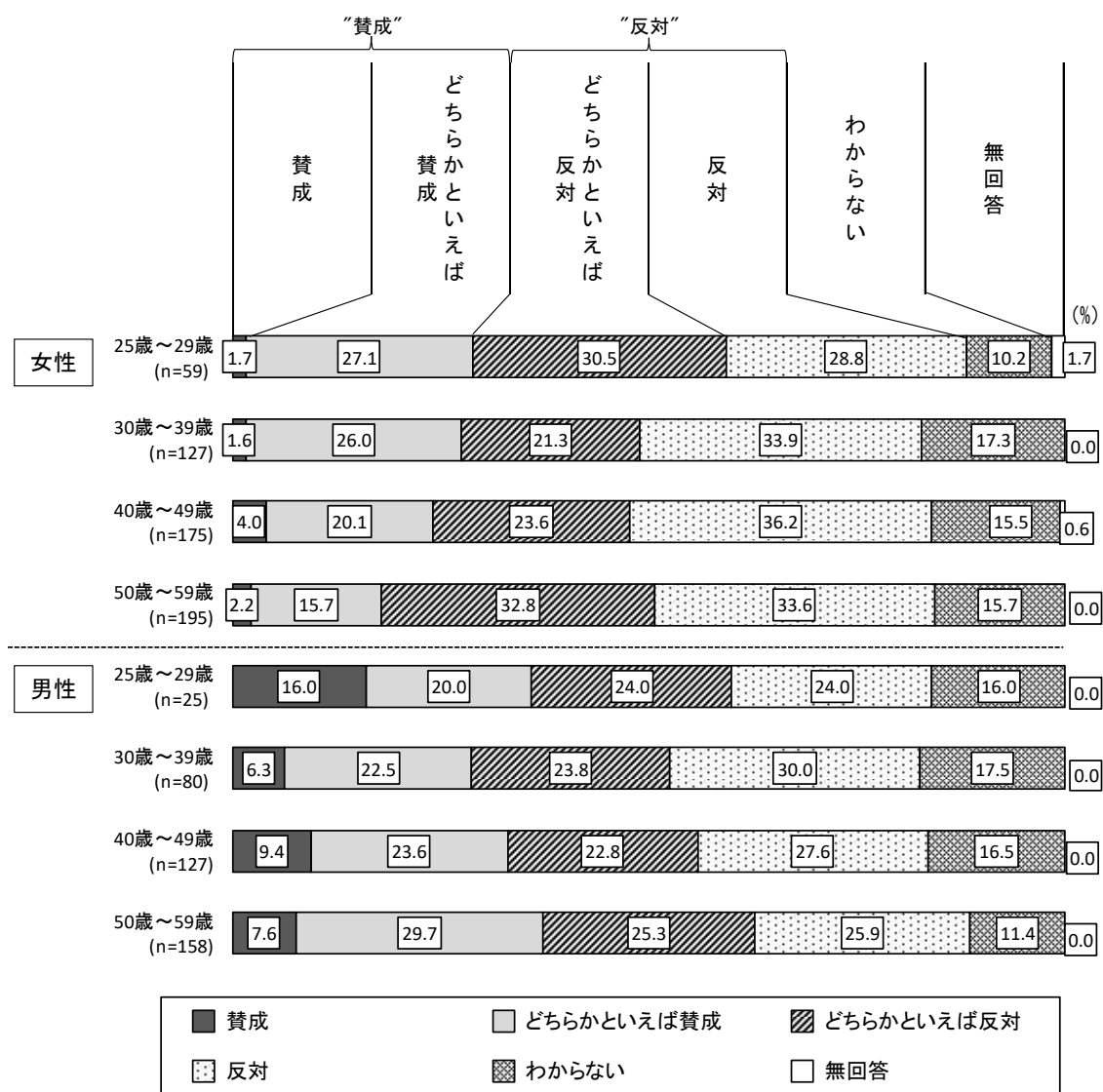


男女それぞれを年代別にみると、女性では“賛成”は25歳～29歳で最も高く28.8%である。“反対”は50歳～59歳で最も高く66.4%、次いで40歳～49歳で59.8%である。男性では“賛成”は50歳～59歳で最も高く37.3%である。“反対”は30歳～39歳で最も高く53.8%である。

どの性年代でも、“賛成”より、“反対”が上回っている。

【図表 6-16 参照】

図表 6-16 性別役割分担について（性別、年代別）



(3) ワーク・ライフ・バランスのために取り組むべき内容

問 2 1 あなたは、仕事と生活の調和が実現できる社会をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

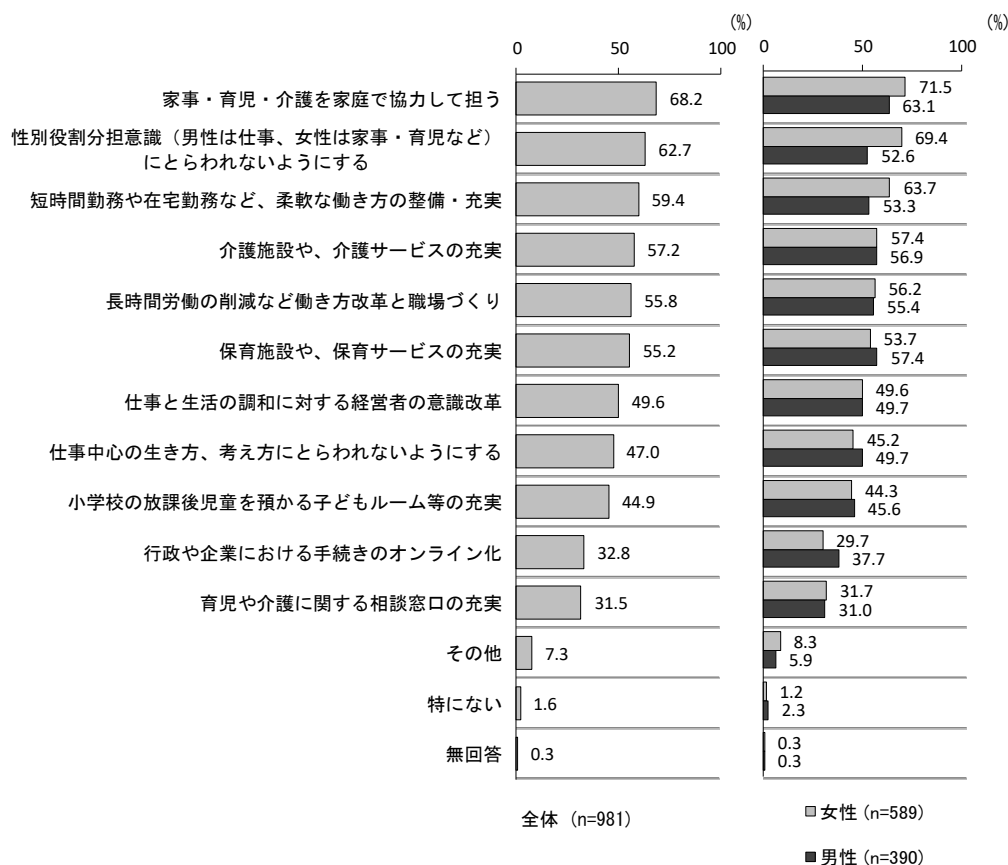
「家事・育児・介護を家庭で協力して担う」が最も高く、7割近い。

全体では、「家事・育児・介護を家庭で協力して担う」が最も高く 68.2%、次いで「性別役割分担意識（男性は仕事、女性は家事・育児など）にとらわれないようにする」が 62.7%、「短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の整備・充実」が 59.4% である。

性別で見ると、上位 5 項目では女性の割合が男性を上回る。上位 3 項目の男女間での差をみると、「家事・育児・介護を家庭で協力して担う」で 8.4 ポイント、「性別役割分担意識（男性は仕事、女性は家事・育児など）にとらわれないようにする」で 16.8 ポイント、「短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の整備・充実」で 10.4 ポイントと、女性の方が男性より高い。

【図表 6-17 参照】

図表 6-17 ワーク・ライフ・バランスのために取り組むべき内容（全体、性別）



男女それぞれを年代別にみると、女性では、25 歳～29 歳、30 歳～39 歳では「短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の整備・充実」（順に 78.0%、75.6%）が最も高く、40 歳～49 歳、50 歳～59 歳では「家事・育児・介護を家庭で協力して担う」（順に 73.6%、71.2%）が最も高い。男性では、25 歳～29 歳、40 歳～49 歳では「家事・育児・介護を家庭で協力して担う」（順に 64.0%、64.6%）が最も高く、30 歳～39 歳では「長時間労働の削減など働き方改革と職場づくり」（63.8%）が最も高く、50 歳～59 歳では「介護施設や、介護サービスの充実」（65.2%）が最も高い。

【図表 6-18 参照】

図表 6-18 ワーク・ライフ・バランスのために取り組むべき内容（性別・年代別）

		(%)													
		家事・育児・介護を家庭で協力して担う	仕事中心の生き方、考え方にとられないようにする	性別役割分担意識（男性は仕事、女性は家事・育児など）にとられないようにする	保育施設や、保育サービスの充実	小学校の放課後児童を預かる子どもルーム等の充実	介護施設や、介護サービスの充実	育児や介護に関する相談窓口の充実	長時間労働の削減など働き方改革と職場づくり	短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の整備・充実	仕事と生活の調和に対する経営者の意識改革	行政や企業における手続きのオンライン化	その他	特になし	無回答
女性	25～29歳 (n=59)	64.4	49.2	66.1	66.1	47.5	42.4	16.9	64.4	78.0	50.8	28.8	8.5	-	1.7
	30～39歳 (n=127)	72.4	50.4	70.1	56.7	49.6	40.9	26.8	70.1	75.6	52.8	37.0	9.4	0.8	-
	40～49歳 (n=174)	73.6	43.1	71.3	51.7	46.0	59.2	36.8	58.0	64.4	48.9	31.0	5.7	0.6	-
	50～59歳 (n=229)	71.2	42.8	68.6	50.2	39.3	69.0	34.5	45.0	52.8	48.0	24.9	9.6	2.2	0.4
男性	25～29歳 (n=25)	64.0	40.0	40.0	52.0	36.0	36.0	16.0	48.0	48.0	36.0	36.0	12.0	4.0	-
	30～39歳 (n=80)	58.8	52.5	52.5	62.5	50.0	47.5	27.5	63.8	58.8	58.8	46.3	10.0	1.3	-
	40～49歳 (n=127)	64.6	48.8	54.3	57.5	46.5	56.7	30.7	50.4	52.0	47.2	37.0	5.5	2.4	-
	50～59歳 (n=158)	63.9	50.6	53.2	55.7	44.3	65.2	35.4	56.3	52.5	49.4	34.2	3.2	2.5	0.6

Ⅲ. 調査結果の概要のまとめ

1. 「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和」

- (1) 「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉の認知度は「男女共同参画社会」は7割半、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」は8割以上が“言葉を知っている（聞いたことがある）”と回答。【P19～24 参照】
- (2) 仕事と生活の調和度は全体の平均点は65.1点で男女の大きな差はみられない。【P25～27 参照】
- (3) 仕事と生活の優先度は女性で55.2%が「家庭を優先」を回答し、男性では40.5%が「仕事を優先」と回答。「自分の時間を優先」は男女とも最も低い。【P28～31 参照】
- (4) 「仕事」、「家庭」、「自分の時間」の満足度
- (A) 仕事の満足度は、男女ともに6割近くが“満足”と回答。【P32～36 参照】
- (B) 家庭の満足度は、女性は8割近く、男性は7割半が“満足”と回答。【P37～41 参照】
- (C) 自分の時間の満足度は、男女ともに6割以上が“満足”と回答。【P42～45 参照】
- (A) 仕事・(B) 家庭の満足度については、「仕事・家庭の両方満足」は約5割。【P46～47 参照】
- (3) 女性が働くことについては、「継続就労型」が4割半ば。【P48～52 参照】

2. 育児と介護

- (1) 育児休業の取得経験は「取得したことがある」のは、女性で21.7%、男性で10.0%。女性の30～39歳では42.5%が「取得したことがある」と回答。【P53～55 参照】
- (2) 育児休業を取得しなかった理由は、女性は「出産を機に仕事を辞めたため」が高く、男性は「職場に前例がなかったため」が高い。【P56 参照】
- (3) 育児と仕事の両立について（希望）は、女性では「仕事を軽減して両立したい」が最も高く4割半ば、男性では「育児負担を軽減して両立したい」が約4割。【P57～59 参照】
- (4) 育児と仕事の両立について（現実）は、男性では「仕事を優先した（している）」が約4割。【P60～61 参照】
- (5) 介護休業の取得経験は「取得したことがある」と回答したのは、1.1%。【P62 参照】

- (6) 介護休業を取得しなかった理由は、「きょうだいや家族など協力をしてくれる人がいるので必要なかったため」が1割以上。【P63 参照】
- (7) 介護と仕事の両立について（希望）は、「介護負担を軽減して両立したい」が5割以上。【P64～65 参照】
- (8) 介護と仕事の両立について（現実）は、男性では「仕事を優先した（している）」が1割以上。【P66 参照】

3. 仕事について

- (1) 仕事に対する意欲については、「意欲を持って積極的に仕事に取り組んでいる」と7割半が回答。【P67～68 参照】
- (2) 職場の現状
- (A) 「育児・介護休業などの制度について情報共有がなされている」と5割半が回答。【P70 参照】
- (B) 「育児・介護休業などの取得に理解がある」と6割半が回答。【P71 参照】
- (C) 「有給休暇が取得しやすい」と7割以上が回答。【P72 参照】
- (D) 「短時間労働・フレックスタイム制・テレワークなど多様な働き方ができる」と女性の4割半、男性の約5割が回答。【P73 参照】
- (3) 現在仕事に就いていない理由は、「育児・子どもの教育のため」が最も高く、3割以上。【P74～75 参照】
- (4) 今後の就労意思については、現在仕事に就いていない人の7割近くが就労の意思があると回答。【P76 参照】

4. 自分の時間の過ごし方

- (1) 自分の時間について（希望）は、「趣味・娯楽（読書・映画鑑賞・ゲームなど）」が最も高く約7割、次いで「休養・くつろぎ」で7割近く。【P77～78 参照】
- (2) 自分の時間について（実際）は、女性は「休養・くつろぎ」が3割以上、男性は「趣味・娯楽（読書・映画鑑賞・ゲームなど）」が4割近く。【P79～80 参照】

5. 家庭生活について

- (1) 家庭での役割分担については、「世帯の収入を得る」は「主に夫」が7割近く、「食事の用意」は「主に妻」が7割以上、「掃除・洗濯」は「主に妻」が6割以上。「夫婦で同じくらい」が最も高いのは、「世帯の収入を得る」の3割近く。【P82～89 参照】

6. 仕事と生活の調和のために今後取り組むべき内容

(1) **各分野の男女の地位**は、「政治の場で」で8割近く、「社会通念・慣習・しきたりなど」で約7割が、“男性の方が優遇されている”と回答。【P90～102 参照】

(A) **家庭生活**では、全体の4割半、女性の5割以上が“男性の方が優遇されている”と回答。【P91～92 参照】

(B) **職場**では、全体の5割近く、女性の約5割が“男性の方が優遇されている”と回答。【P93～94 参照】

(C) **学校教育の場**では、全体の約4割が「平等になっている」と回答。【P95 参照】

(D) **地域社会**では、全体の4割近く、女性の4割半が“男性の方が優遇されている”と回答。【P96～97 参照】

(E) **政治の場**では、全体の8割近く、女性の8割以上が“男性の方が優遇されている”と回答。【P98 参照】

(F) **法律や制度の上**では、全体の5割以上、女性の約6割が“男性の方が優遇されている”と回答。【P99～100 参照】

(G) **社会通念・慣習・しきたり**では、全体の約7割、女性の8割近くが“男性の方が優遇されている”と回答。【P101～102 参照】

(2) **性別役割分担意識**については、“賛成”は全体の3割近く、“反対”は全体の6割近く。“反対”の方が“賛成”より30.1ポイント高い。“賛成”は男性(34.1%)が、女性(22.9%)を11.2ポイント上回る。”

【P103～105 参照】

(3) **ワーク・ライフ・バランスのために取り組むべき内容**は、「家事・育児・介護を家庭で協力して担う」が最も高く、7割近い。次いで「性別役割分担意識(男性は仕事、女性は家事・育児など)にとらわれないようにする」が6割以上。

【P106～107 参照】

7. 今後にむけて

仕事と生活の調和の実現ができる社会づくり

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉を知っている（聞いたことがある）と回答した人は、全体の8割以上、さらに「言葉も内容も知っている」と回答した人は、全体の半数を超えており、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉が社会に浸透している。

言葉が一般化してきている中で、仕事と生活の調和（バランス）度は、全体で7割近くが60点以上としている。

また、育児休業を取得したことがあると回答した人の割合を、前回の対象年齢である25～44歳と比較すると、全体として今回の方が高く、特に男性の育児休業取得の割合は前回の2.5%から今回の18.2%へと大幅に増加した。これは非常に高い伸び率であり、社会全体の意識の変化や令和3年に改正された「育児・介護休業法」による制度の変化などの影響も現れているのであろう。しかしながら、未だ2割（全体では1割）に届かない現状には多くの課題があると考えられる。

今回の調査では、仕事と育児の両立の＜希望＞について、女性は「仕事を軽減して両立したい（以下、仕事を軽減）」が4割半、男性は「育児負担を軽減して両立したい（以下、育児を軽減）」は約4割でそれぞれ最も割合が高く、次いで高いのは、女性が「育児を軽減」、男性が「仕事を軽減」となっている。仕事と育児との両立における重点の置き方に性別による差異が認められるが、「両立を希望する」（「育児を軽減」「仕事を軽減」合わせた）割合としては、女性も男性も7割前後といずれも高い。このことから、育児休業取得の割合が増加する余地は大いにあると考えられる。

特に、男性の育児休業取得をより進めていくための課題について考えるにあたり、まず、育児休業を取得しなかった理由として高い割合を示した「職場に前例がなかったため」、「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかるため」に注目したい。法律や制度が整っていても、職場に前例がなく、休業中や休業明けの処遇についてイメージがしにくい。また、中小企業など代替要員が確保しにくい職場であれば、休業者の仕事の負担が同僚にかかることが予測できる。

企業がこのような課題解消に取り組むためには、企業・事業所等に対し、行政による啓発や、知見をもつ専門家等による第三者からのアドバイスが必要である。また、育児休業について検討している企業・個人に対し、実際に育児休業を取得した人や企業の取り組み等を紹介することも、支援につながるのではないだろうか。

次に、仕事と育児の両立の＜現実＞では、「育児経験がない」を除くと「仕事を優先した」が半数を超えており、前述の＜希望＞における「両立を希望する割合」が7割を超えるのとは対照的である。これは、家庭での役割分担において、「世帯の収入を得る」のが「主に夫（※）」である割合が7割近くに及ぶことも原因の一つと考えられる。

ここまで、主に育児休業について述べたが、ここで挙げた課題や取り組むべき事業については、介護休業についても同様のことがいえるであろう。

なお、介護休業の取得については、今回対象年齢を広げたが、取得した割合は全体でも1%程度。女性よりも男性が取得した割合が高かった。

（※）本調査では前回調査との比較などの便宜上、配偶者・パートナーがいる男性と女性の「配偶者・パートナー」を「夫」に分類している。

男女の平等感における現状について

男女の平等感については、職場では、男性が優遇されていると回答した人が4割半ばで前回調査（5割以上）より多少減少し、職場における男女の地位の平等感が高まっていることがわかった。男性が優遇されていると回答した割合が高かったのは「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」であり、依然として男女の不平等感が根強いことを示している。地位が平等であると回答した人が最も多かったのは「学校教育の場」で、約4割が平等になっていると回答している。今後社会を担う年代層が、その成長段階において大きく影響を受ける「学校教育の場」が、より一層男女共同参画社会を体現する場になることを期待したい。

女性が働くことについては、「継続就労型」が最も高かった。また、その他の回答（約2割）も多く、「本人の希望にまかせる」「人それぞれ」など個人の意思を尊重することがよいという意見が多かった。また、社会が女性も働くべきなど決めるのではなく、その人の状況に応じて決める方がよいという柔軟な意見が多かった。

男女共同参画社会実現に向けての理解促進

「男性は仕事、女性は家事・育児」といった固定的性別役割分担意識について、前回の調査対象である25歳～44歳と比較すると、前回調査では全体の38.7%が賛成であったが、今回は賛成が28.7%となり、前回調査と比べて減少している。また、反対が半数を超えて賛成を上回る結果となり、固定的性別役割分担の解消に向けて意識が変化していることがわかった。

しかしながら、男女それぞれを年代別にみると、女性は若い世代になるにつれ、賛成の比率が高くなっている。男性は50～59歳、次いで参考値ではあるが25歳～29歳で賛成の意見が多く、固定的性別役割分担意識が根強く残っているといえる。固定的性別役割分担意識の解消には、性別や年代による背景の違いに合わせた周知啓発活動が必要である。

また、「男女共同参画社会」という言葉を知っている（聞いたことがある）と回答した人が7割半ばに上っていることから、「男女共同参画社会」という言葉が社会に浸透してきたことがうかがえる。一方、内容まで知っていると回答は、全体では前回の調査時より高くなったとはいえ、その割合が半数に達していない。このため更なる周知啓発をすべきである。

今後、従来の「男女共同参画」についての基本的な考え方の周知を継続しつつ、社会のあらゆる場面において、「男女共同参画」の視点に立ち、実社会における行動変革につながる学びの場を提供することが必要である。

Ⅳ. 自由意見

仕事と生活の調和について寄せられた自由意見の中から年代別・性別に掲載する。

注：（ ）内は、性別、職業形態を示している。（全回答の内、一部を原文のまま掲載）

25 歳～29 歳

●仕事や生活において、性差なく調和することができるようになって欲しいと願います。

（女性・正規の社（職）員）

●収入が低いと自動的に家庭や自分の時間も充実しないと思います。（女性・正規の社（職）員）

●税金や物価高で調和もなにも、仕事しないと生きられない。女性は今、仕事、家事・育児のタスクをこなしています。昔のように男性がおもに仕事していた時の行政のあり方のままでは、無理があることも。逆に男性も家事・育児をする時もありますが、女性の意見を取り入れて、バランスの良い社会になるなら、調和になるんじゃないでしょうか。（女性・パート、アルバイト、内職）

●育児にかかる精神的/金銭的/体力的負担が大きすぎて不安で子どもを持つという選択に踏み切れません。（女性・契約社（職）員（臨時・派遣を含む））

●いつまでたっても男は手伝う意識。言ってくれなきゃ分からない！？女はいつでも自分一人で考えて家事、育事してるのに。自主的に家庭の事、やって下さい。名前の無い家事は多いのです。（女性・学生）

●給料をもっと上げる！！（男性・正規の社（職）員）

30 歳～34 歳

●妊娠、出産を希望しているが職場に迷惑をかけることを考えると迷ってしまいます。（女性・パート、アルバイト、内職）

●柔軟な働き方、人々の意識の変化が必要だと思います。千葉市をもっとより良いまちになりますよう、よろしくお願いします。（女性・専業主婦・主夫）

●生活の為に仕方なく仕事をするのではなく、個人の希望に沿った仕事と生活を行えるのが理想ではあると考えています（女性・専業主婦・主夫）

●バランスを取るには個々人の精神的な余裕が必要であるため、どうか仕事と生活両面において楽しむ雰囲気づくりをのぞみます（男性・正規の社（職）員）

●育児、教育、介護にたくさん税金を使ってほしいです。特に、育児、教育に！（男性・正規の社（職）員）

35 歳～39 歳

●十分満足している。（男性・正規の社（職）員）

- 育児をしながら共働きをする世代にとって、もう少しサポートを充実してもらいたい。金銭的な面も仕事での育児する人への働き方の自由化など負担のない方法を人によって選ぶことができるようにしてほしい。(女性・正規の社(職)員)
- 子供の小さいうちは、在宅での仕事が気軽にできるような社会になってほしい。(女性・専業主婦・主夫)
- 制度が整っている会社で勤めていても、時短、テレワーク e t c 実際には使いづらく、女性が昇進するのにガラスの天井を感じる(女性・正規の社(職)員)
- 子育てをしながら仕事をする子どものための時間が取れなく、子どもといたいと思ってもなかなか難しくてもどかしい。短時間でも働きやすい環境や、子育て中に働かなくても生活しやすい子どもに関する手当の充実などがしっかりしているといいなと思う。(女性・契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- 働き方改革をもっと推し進めてほしいです。(男性・正規の社(職)員)
- 夫婦どちらかが育児に専念できる社会環境として賃金などの待遇改善や物価の低下など経済状況の改善が最優先かと思います。(男性・正規の社(職)員)
- 男女比率をそろえるのは無意味。優秀な人間がやるべき(男性・正規の社(職)員)

40 歳～44 歳

- 女性が仕事をする、+家事、育児の負担もある。男性の意識を変えてもらわないと、永遠に女性は動き続けられないといけないと思う。男女平等というなら、教育の場でも、学ばせてほしい。子ども一人だけど、仕事も育児も大変で、二人目欲しいという気分になれなかった。欲しいと思った時には遅かった。(女性・契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- 職場の人手不足から、残業が増えていると感じます。男性女性問わず、残業しないことを前提とした働き方が普通であることを、社会の共通認識にしないと、他の対策をしていても、あまり変わっていかないと思います。(女性・正規の社(職)員)
- 生活がそれぞれあるので経済力は絶対です。働きやすい環境をもっと取り組んでももらいたいです。(女性・パート、アルバイト、内職)
- 家族の中で役割を分担する事自体は悪い事ではないと思う。本人達が納得していれば仕事は男、家事は女でもその逆でもお互いどちらも平等にやるでもどれでもいいと思う。選択肢がある事と選択できるようにすることが重要だと思う。(女性・正規の社(職)員)
- バランスをとるには、パートナーの協力が不可欠だと思います。実際は共働きでも女性の負担のほうが多い家庭が多いと思います。(女性・専業主婦・主夫)
- 勤務時間の融通、収入の安定は少子化解消にも繋がっていく話だと思うので社会がそのような方向に進んでいくことを期待している(男性・正規の社(職)員)
- ワークライフバランスを理由にやるべき業務がなされないことは看過すべきではない。行政は無駄な業務が多すぎるので、ワークライフバランスを図るためには、業務の合理化を図って、真に推進すべき業務に注力する必要があると思う。(男性・正規の社(職)員)

●コロナを機にリモートワーク等を介して家庭に関わる機会が増え働き方やライフスタイルそのものが大きく変化した様に思います。その分公私の切り替えをしっかりと出来る様な働き方や無駄の無い働き方が求められるのではないかと考えます。ですのでアンケート内で先に回答した様に、ライフスタイルに合わせて臨機応変に働ける環境（又はサポート）が実現すれば家庭が主の人達も仕事と調和を取りやすく、又仕事が主の人達も生活の調和を取りやすいのではないかと思います。（女性・専業主婦・主夫）

●男性は仕事がメイン、女性は育児家庭がメインが大体。男性社員は育休で抜ける制度や認知はできてきたが、実際に抜けたら現場は回らない。そこをケアする制度が無いと結局、活用されない制度になる。（男性・正規の社(職)員）

●無理に変革しなくても必要に応じて変わっていくと思う。（男性・正規の社(職)員）

45 歳～49 歳

●「働き方改革」と職場で掲げてはおりますが、その具体的な方向性も何も起きていないです。まだ古い日本の様子等を言う高齢者が多く、次世代を担うはずの若者がつぶされかけていることも確かです。男女平等とは言ってもまだまだ男性優先の世の中に不満を感じることがあります。（女性・正規の社(職)員）

●子育てはどんな仕事よりも尊いものであるはずなのに、出産後いったん家庭に入った女性はキャリアがリセットされてしまう。社会にとっても、本人にとってももったいないと感じる。子育てしながら働ける環境が増えることを望む。（女性・パート、アルバイト、内職）

●仕事と生活の調和については、個人それぞれの環境や状況により変わってくるので、一概にこれという解決策はないと思う。ただ、困っている人がすぐに相談できるような場を、地域や行政任せではなく、1人1人がコミュニケーション能力を高め努力して、誰とでも分け隔てなく関わることで構築していく、そんな社会になることを心から願う。（女性・無職）

●様々な考え方や感じ方があり、人それぞれなので、全ての人が、自分や家族に合ったワーク・ライフ・バランスがとれるよう、柔軟な働き方やサービスの充実により、多様な選択肢がある社会になるといいなと思います。（女性・パート、アルバイト、内職）

●結局は、本人が望む形を実現できる社会が一番だと思う。性別に関係なく向き不向きはあるし、健康問題など本人のポテンシャルも人それぞれ。 やりたい事とできる事は別なので、足りない部分を補えるような仕組み作りが少しずつ進む事を願っている。（女性・パート、アルバイト、内職）

●働き方改革など意識した大手企業に勤めている自分が言うのもおかしいですが、まだまだ職場によっては仕事と生活に調和は難しい職場(部署)があります。 中小企業ならさらに難しいでしょう。 意識改革??まゝ変わらないでしょう…行政による強制執行による制度しないと世の中変わらないと思います。（男性・正規の社(職)員）

- 個人の経済的な満足度合い、家族との関係性、職種等様々な状況で変わるため、調和は難しい(男性・正規の社(職)員)
- 調和なんて綺麗事は必要ない、そんな考えに巻き込まれて振り回される現場の身にもなってほしいものです。全ては個人の責任でやればいいのかに何で社会側から甘やかす必要があるのか、甚だ疑問です。(男性・契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- 男女平等といっても、意識的には、差があるのは事実だが、実際の場面で改めて考えると、男性優位なのは、経済力だけだと思われる。その経済力も職業によって女性優位になりつつある。男性の居場所が少なくなっていることを改めて、痛感した。(男性・正規の社(職)員)

50 歳～54 歳

- 職種・性別にかかわらず、社会全体の年収が上がれば調和が取れるであろう。柔軟な働き方等はその後の事であり、現在、その整備がなされても、景気回復、未来には繋がらないであろう。(女性・専業主婦・主夫)
- 育児・介護の必要がない人も、自分や家族のために一定の休暇(有給とは別枠で)をとれる制度があれば、全ての人が平等に仕事と生活の調和を保てるのではないかと思う。現状は、育児・介護をしていないと、休みを取りづらい「何で休むの?」という雰囲気を感じる(女性・正規の社(職)員)
- 仕事においても生活においても古い固定観念が無くせればよいと思う。(女性・正規の社(職)員)
- 仕事と生活の調和と言っても、派遣社員では収入がほぼ上がらず、調和したくとも物価上昇にともない生活は落ち着きません。自分の余暇にまわすことはお金も時間もほぼ皆無です。(女性・契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- 男女の区別や育児・家事の必要性に限らず、高齢であるとか、ハンディキャップの有無とか、介護をしているとか、ただ仕事の量を調整したいとか、学びながら仕事をしているとか、皆それぞれ理由があって仕事と生活の調和を図りたいと思っている。働きたい人が差別されないで尊厳を保って働けるような、先進的な千葉市になってもらいたい。(女性・正規の社(職)員)
- 育児については、時短勤務者だけが育児をしているわけではないので、全ての人が発熱時のお迎えなど出来る職場の理解と環境が整ってほしい。学校の先生の時短勤務などを積極的に取り入れて、そのような働き方が当然と思えるような社会になってほしい。(女性・正規の社(職)員)
- 働く時間が選べる、家庭内での役割が選べるなど、全ての人にとって選択の幅が広がれば良いと思う。長い時間働きたい人もいるので、本人が望むならある程度長時間でも良いと思う。副業などももっと自由になれば、良いと思う。(女性・正規の社(職)員)

- ワークライフバランスを過度な追い求めるのは、国力を削ぐ恐れあり。生産性の発展と両輪で議論すべき。(男性・正規の社(職)員)
- テレワークの義務化と、それを支える IT 技術の活用。企業側、労働者側がお互いに理解し合える働き方を考える必要がある。(男性・正規の社(職)員)
- 世の中複雑になっていますが、コンピューター化などで便利になって、パワハラセクハラなども少なくなるでしょうから、今ががんばり時かもしれないですね。働きやすい環境を次代に残す為にも。(男性・無職)
- 大手企業は進んでいるかもしれませんが、中小、零細企業はまだまだだと思います。そのほかにも、雇用形態が契約・派遣社員だと、とてもそこまでいたらないといった現状があると思います。だからといってこれに満足しているわけではありません。(男性・正規の社(職)員)

55 歳～59 歳

- 職場、家庭において、男女の役割はあるにしても、まだまだ女性は下に扱われるガラスの天井がある。一人ができるキャパは決まっているので、健康、心、収入と安定した状態が調和につながるので、不安の少ない、生活しやすい街、癒しや、食べ物、地域を自慢できるくらいの安心した生活が思いやりにもつながるのではと思います。職場も地域も高齢化しているので、自分の生活の豊かさの基準になる楽しいことを生活に取り入れるとバランスが良くなるのではと思います。(女性・正規の社(職)員)
- 仕事と家庭の事を男女平等にというのはわかります。しかし出産は女性だけの役割なので、どうしても仕事の両立はまだまだ難しいと思います。昔は男性が稼ぎ女性が家庭を守るというのがあたり前で、その稼ぎだけでやっていけたので、女性は育児に専念出来ていたと思います。女性に仕事、育児介護の負担が大きすぎます。(女性・パート、アルバイト、内職)
- 男性の家事負担割合が低すぎるためいつまでたっても女性が大変な思いをしている。共働きが一般的になったが家事は女の仕事のまま…。男女共に意識改革が必要だと思う。教育の場で古い考えを刷新すべきと思う。(女性・契約社(職)員(臨時・派遣を含む))
- 30 年前は結婚退職、専業主婦が当たり前の時代でした。今は結婚、出産しても働く環境がありますが、まだまだ男性の育休は難しい職場が多いようです。当たり前のよう to 取得できれば、女性も働きやすくなると思います。(女性・パート、アルバイト、内職)
- 長時間労働を改善し、長期休暇を取りやすい職場環境を整備する。労働時間の減少に伴う収入減をカバーする手当の増設が必要。職場の人的体制整備が不可欠(男性・正規の社(職)員)
- 自分が子育て世代の頃と比較して社会、会社でとても理解が浸透しており調和を取りやすくなっていると感じている。羨ましいと思っている(男性・正規の社(職)員)
- 休暇等で職場での理解が必要。働けない人への配慮も必要。(男性・正規の社(職)員)
- それぞれの事情により、求めるものは異なる。但し、共通するものがあるはず。その部分に目をくばり充実させること。(男性・その他)

V. 巻末資料

【資料 1】内閣府(男女共同参画局)『男女共同参画社会に関する世論調査』(令和 4 年度)より

調査対象：全国 18 歳以上の日本国籍を有する者 5,000 人

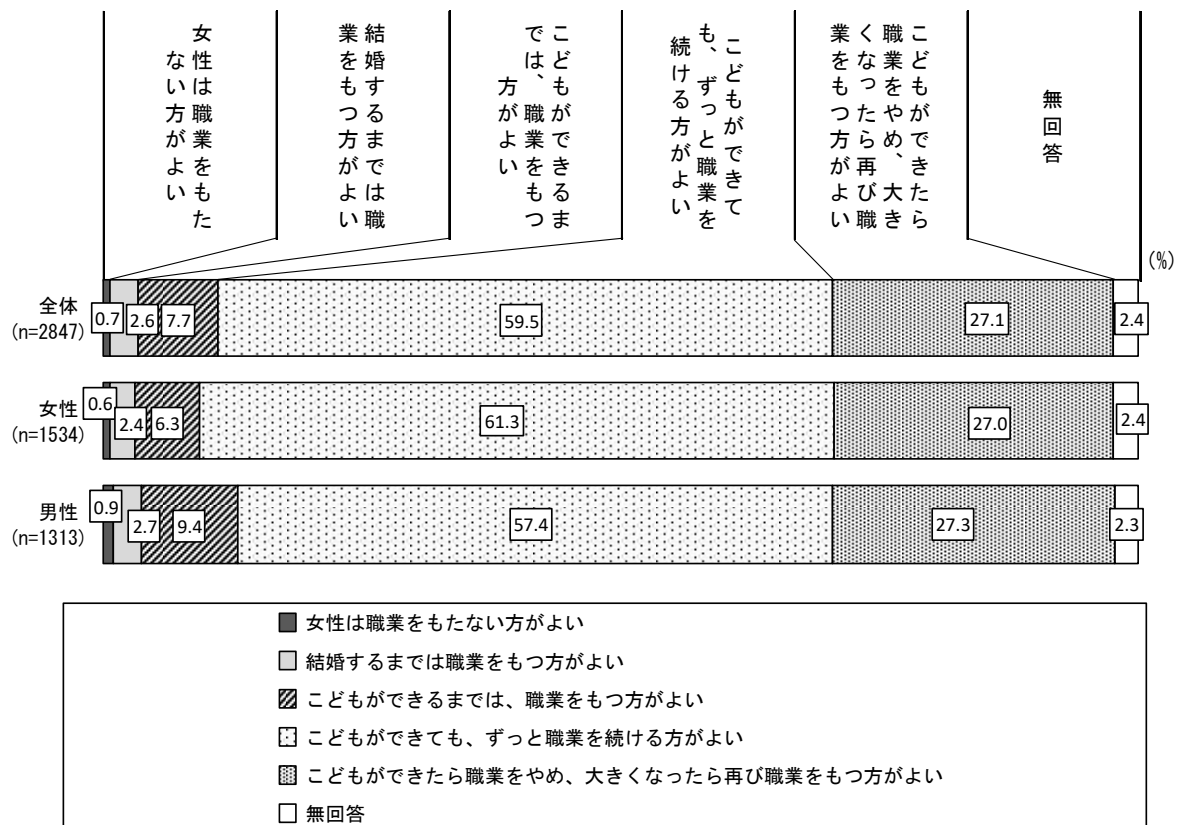
有効回収数 2,847 人(有効回収率 56.9%)

調査時期：令和 4 年 11 月 24 日から令和 5 年 1 月 1 日

調査方法：郵送法

参考 URL：<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-danjo/>

資料 1-1『女性が働くことについて』(P.48 参照)



【資料 2】内閣府(男女共同参画局)『男女共同参画社会に関する世論調査』(令和 6 年度)より

調査対象：全国 18 歳以上の日本国籍を有する者 5,000 人

有効回収数 2,673 人(有効回収率 53.5%)

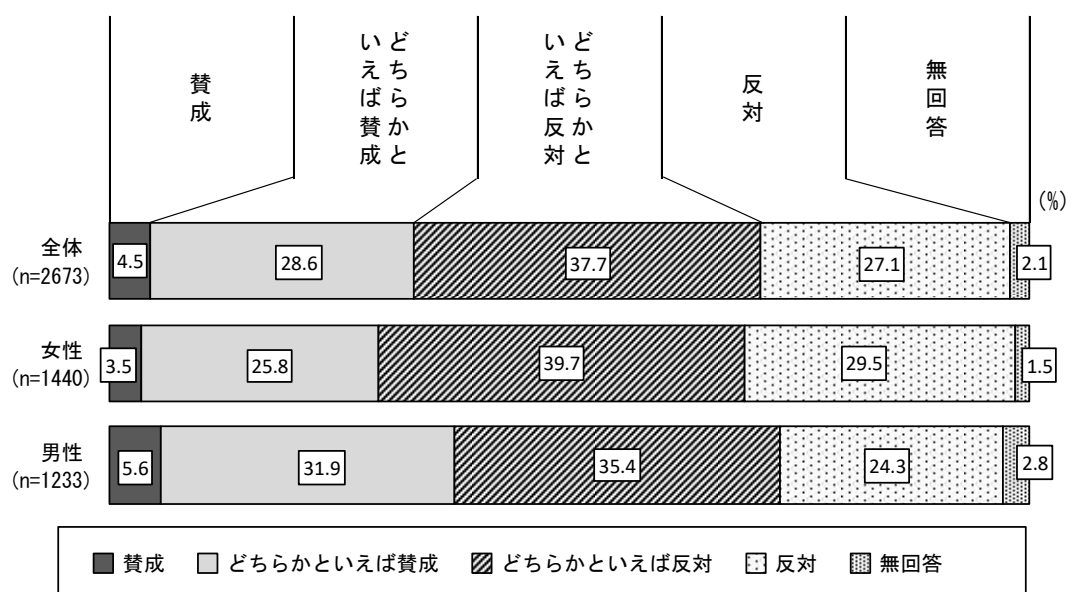
調査時期：令和 6 年 9 月 26 日から令和 6 年 11 月 3 日

調査方法：郵送法(配布：郵送、回収：郵送又はインターネット回答)

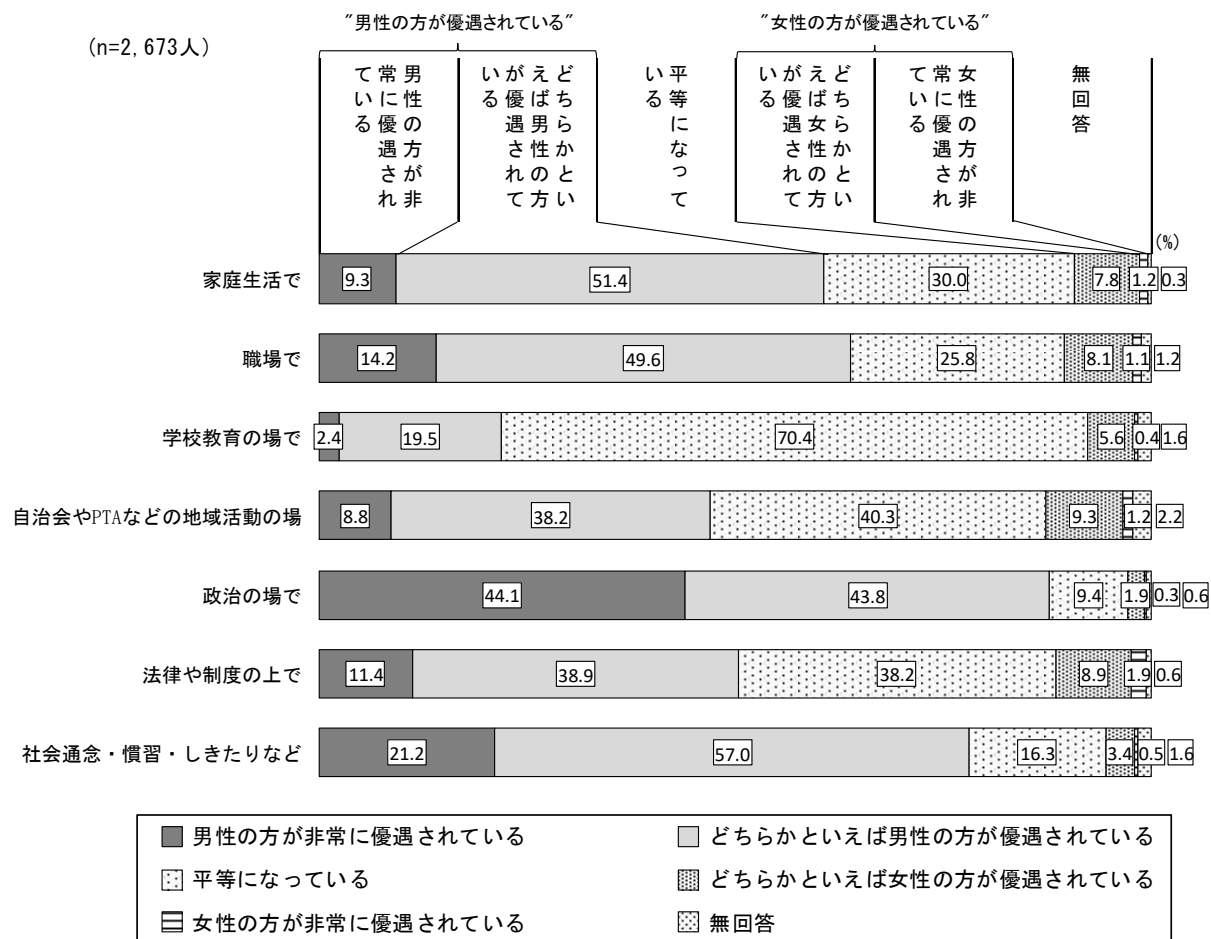
参考 URL：https://survey.gov-online.go.jp/women_empowerment/202502/r06/r06-danjo/

資料 2-1『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきという考え(性別役割分担意識)』

(P.103 参照)



資料 2-2 『各分野の男女の地位の平等感』（P.90 参照）



仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス） に関する意識調査

調査へのご協力をお願い

千葉市男女共同参画センターでは、男女共同参画社会の実現にむけて、さまざまな事業を展開しております。本調査は、千葉市にお住いの皆さまを対象に、仕事と生活の調和に関する意識について、お尋ねするものです。

今回、千葉市内にお住まいの満25歳以上60歳未満の男女各1,500名の方を無作為（ランダム）に抽出し、アンケート調査票を郵送させていただきます。

調査票及び集計結果は、すべて統計的に処理いたしますので、ご回答された方が特定されるようなことは一切ございません。

趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、本調査は、千葉市の委託を受け、千葉市男女共同参画センターが行うものです。これまでに当センターが行った調査結果の概略は、ホームページに掲載しています。

【ホームページ <https://www.chp.or.jp/danjo/research/>】

◆ご記入にあたってのお願い◆

- 宛名にあるご本人様をご記入ください。
ご本人様が回答できない場合は、お手数ですが、白紙のままご返送をお願いいたします。
- 調査の回答にあたっては、インターネットで回答するか、紙の調査票で回答するかを選択できます。どちらか一方の回答形式でお答えいただくよう、お願いいたします。
詳しい回答方法は、次ページの「**回答方法のご案内**」をご覧ください。
- ご記入にあたっては、令和6年9月1日現在の状況でお答えください。
- ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○をつけてください。
質問によって、○が1つの場合と、複数の場合があります。
- 質問の番号や矢印（……………▶）指示にそって、ご記入ください。
- 回答は**10月24日(木)まで**にお願いいたします。

令和6年9月

ご不明な点や調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

《お問い合わせ先》

千葉市男女共同参画センター 調査担当

〒260-0844 千葉市中央区千葉寺町1208-2

千葉市ハーモニープラザ内

電話：043-209-8771

Ⅵ. 調査票

まず、あなたご自身のことについて、お伺いします

F1 あなたの性別について、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 女 性 (60.0) 2. 男 性 (39.8) 3. その他 (0.0)

F2 あなたの年齢(令和6年9月1日現在)について、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 25歳～29歳 (8.6) 5. 45歳～49歳 (17.7)
2. 30歳～34歳 (9.2) 6. 50歳～54歳 (20.9)
3. 35歳～39歳 (11.9) 7. 55歳～59歳 (18.7)
4. 40歳～44歳 (13.9)

F3 あなたの職業形態について、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 自営業・家族従業員、自由業 (4.0) 5. 専業主婦・主夫 (7.7)
2. 正期の社(職)員 (55.1) 6. 学生 (0.3)
3. 契約社(職)員(臨時・派遣を含む) (6.7) 7. 無職 (3.6)
4. パート、アルバイト、内職 (21.8) 8. その他 (0.7)

▶ F3-1 <F3で1～4、8を選んだ方にお聞きます。>

あなたが日頃、仕事に従事している時間は大体1日何時間ですか。残業時間(自宅での残業も含みます)も合わせて、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 6時間未満 (14.5) 4. 10時間以上～12時間未満 (11.1)
2. 6時間以上～8時間未満 (27.6) 5. 12時間以上 (3.6)
3. 8時間以上～10時間未満 (43.0)

F4 <すべての方にお聞きします。>
あなたは配偶者・パートナーがいますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. いる (72.3)
2. いない (27.1)→ F6へ

→ F5 <F4で1を選んだ方にお聞きします。>
あなたの配偶者・パートナーのご職業について、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 自営業・家族従業員、自由業 (8.0) 5. 専業主婦・主夫 (8.3)
2. 正規の社員 (62.5) 6. 学生 (0.1)
3. 契約社員 (臨時・派遣を含む) (4.7) 7. 無職 (2.8)
4. パート、アルバイト、内職 (11.7) 8. その他 (1.3)

→ F5-1 <F5で1～4、8を選んだ方にお聞きします。>
あなたの配偶者・パートナーが日頃、仕事に従事している時間は大体1日何時間ですか。残業時間(自宅での残業も含みます)も合わせて、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 6時間未満 (9.9) 4. 10時間以上～12時間未満 (13.9)
2. 6時間以上～8時間未満 (21.3) 5. 12時間以上 (6.7)
3. 8時間以上～10時間未満 (47.7)

F6 <すべての方にお聞きします。>
あなたが現在同居している方はどなたですか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 親 (17.3) 4. 祖父母 (0.6) 7. 同居人なし (11.6)
2. 配偶者・パートナー (66.2) 5. 兄弟姉妹 (5.4)
3. 子ども (54.2) 6. その他 (0.9)

→ F6-1 <F6で3を選んだ方にお聞きします。>
同居している子どものうち、一番年少の子どもの年代について、あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 就学前児 (28.9) 4. 中学生 (10.7)
2. 小学生低学年 (1～3年) (11.3) 5. 中学校卒業以上 (39.3)
3. 小学生高学年 (4～6年) (9.8)

F7 <すべての方にお聞きします。>
同居・別居に関わらず、介護が必要な家族がいますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. はい (20.5) 2. いいえ (78.5)

仕事と生活の調和について、お伺いします

問1 あなたは、以下の言葉を知っていますか。あてはまる番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

	言葉も内容も 知っている	言葉は聞いたこと があるが、内容ま では知らない	言葉も内容も 知らない
男女共同参画社会 ^{*1}	42.8	32.7	23.6
仕事と生活の調和 ^{*2} (ワーク・ライフ・バランス)	51.7	29.6	17.9

^{*1} 男女共同参画社会は、『すべての市民が、男女の別なく個人として尊重され、お互いに対等な立場であらゆる分野に参画する機会が確保され、責任を分かちあう』社会です。
(出典：千葉市男女共同参画ホームページ(前文))

^{*2} 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現した社会は、『国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じた多様な生き方が選択・実現できる社会』です。
(出典：内閣府 ワーク・ライフ・バランス(第一章))

問2 あなたは、ご自身の仕事と生活の調和(バランス)度を点数にすると何点になりますか。
100点満点でご記載ください。
現在仕事に就いていない方は、就いていない状態があなたにとってバランスが良い(悪い)のかという視点でお答えください。

				点
				※ 平均 65.1 点

問3 「仕事」、「家庭」、「自分の時間」の優先度について、あなたのお考えに近いものの番号に1つ○をつけてください。
現在仕事に就いていない方は、仕事に就いていると想定してお答えください。

1. 仕事を優先 (28.2) 2. 家庭を優先 (46.0)
3. 自分の時間を優先 (18.1) 4. わからない (6.8)

問4 あなたは現在、「仕事」、「家庭」、「自分の時間」についてどう感じていますか。(A)～(C)のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。現在仕事に就いていない方は、就いていない状態についてどう感じてもらえるかを選んでください。

	い満か る足な しりて	い満ま る足あ しりて	あ不や る満や で	あ不 る満 で
(A) 仕事	8.0	49.8	29.8	11.5
(B) 家庭	20.3	56.6	17.2	5.3
(C) 自分の時間	12.5	50.1	26.2	10.6

問5 一般的に女性が働く(仕事に就く)ことについて、あなたのお考えに最も近いものの番号に1つOをつけてください。

1. 女性は働かない方がよい (1.2)
2. 結婚するまでは働く方がよい (1.5)
3. 子どもができるまで働く方がよい (4.8)
4. 子どもができて、ずっと働き続ける方がよい (45.0)
5. 子どもができていたら退職し、大きくなくなってから再び働く方がよい (28.0)
6. その他 (19.3)

問6 あなたは、これまで育児休業を取得したことがありますか。あてはまる番号に1つOをつけてください。

1. 取得したことがある (17.0)▶ 次ページ問7へ
2. 取得したことがない (81.9)

▶問6-1 <問6で2「取得したことがない」を選んだ方にお聞きます。>
育児休業を取得しなかった主な理由を3つまで選びOをつけてください。

1. 育児休業を取得しにくい職場の雰囲気であったため (8.7)
2. 職場に前例がなかったため (15.3)
3. 昇進・昇給に響くため (2.1)
4. 収入が減少し、家計に影響するため (8.3)
5. 仕事量が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかるため (11.0)
6. 取得後の仕事復帰が難しいため (2.4)
7. 配偶者・パートナーが主に育児をするので必要がなかったため (9.0)
8. 父母など協力をしてくれる人がいるので必要がなかったため (5.0)
9. 保育施設等に預けたので必要がなかったため (3.2)
10. 子どもが1歳未満の際に育児休業制度がなかったため (6.8)
11. 出産を機に仕事を辞めたため (13.9)
12. 育児期間中に仕事に就いていなかったため (13.3)
13. 育児経験がないため (42.5)
14. その他 (3.6)

問7 <すべての方にお聞きます。>

あなたが育児と仕事を両方行う状況になった場合、希望として最も近いものの番号に1つOをつけてください。

1. 仕事を優先したい (5.0)
2. 育児負担を軽減 (パートナーや家族の助け、ベビーマッサージへの外注など) して両立したい (29.7)
3. 仕事を軽減 (転職・異動・降格・時短等) して両立したい (40.6)
4. 仕事を辞めて育児に専念したい (13.4)
5. わからない (9.2)
6. その他 (2.0)

問8 育児と仕事の両立について、あなたは育児期間中に実際どうであったか(現在育児中の方はどうであるか)1つOをつけてください。

1. 仕事を優先した (している) (18.7)
2. 育児負担を軽減 (パートナーや家族の助け、ベビーマッサージへの外注など) して両立した (している) (10.6)
3. 仕事を軽減 (転職・異動・降格・時短等) して両立した (している) (11.3)
4. 育児に専念するために仕事を辞めた (14.7)
5. 育児以外の理由で仕事に就いていなかった (いない) (4.9)
6. 育児経験がない (35.5)
7. その他 (2.2)

問9 あなたは、これまで介護休業を取得したことがありますか。あてはまる番号に1つOをつけてください。

1. 取得したことがある (1.1)▶ 次ページ問10へ
2. 取得したことがない (98.6)

.....▶ 次ページ問9-1へお進みください

問9-1 <問9で2「取得したことがない」を選んだ方にお聞きます。>
介護休業を取得しなかった主な理由を3つまで選びOをつけてください。

1. 介護休業を取得しにくい職場の雰囲気であったため (4.2)
2. 職場に前例がなかったため (4.8)
3. 昇進・昇給に響いたため (1.2)
4. 収入が減少し、家計に影響するため (3.8)
5. 仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかるため (4.9)
6. 取得後の仕事復帰が難しいため (0.8)
7. 配偶者・パートナーが主に介護をするので必要がなかったため (3.8)
8. きょうだいや家族など協力をしてくれる人がいるので必要がなかったため (11.3)
9. 介護施設等に預けたので必要がなかったため (5.3)
10. 介護の際に介護休業制度がなかったため (1.9)
11. 介護を機に仕事を辞めたため (0.8)
12. 介護期間中に仕事に就いていなかったため (4.4)
13. 介護経験がないため (68.9)
14. その他 (4.7)

問10 <すべての方にお聞きます。>

あなたが介護と仕事を両方行う状況になった場合、希望として最も近いものの番号に1つOをつけてください。

1. 仕事を優先したい (10.0)
2. 介護負担を軽減 (パートナーや家族の助け、ヘルパーへの外注など) して両立したい (52.3)
3. 仕事を軽減 (転職・異動・降格・時短等) して両立したい (21.7)
4. 仕事を辞めて介護に専念したい (2.8)
5. わからない (11.4)
6. その他 (1.3)

問11 介護と仕事の両立について、あなたは介護期間中に実際どうであったか(現在介護中の方はどうであるか)1つOをつけてください。

1. 仕事を優先した (している) (6.9)
2. 介護負担を軽減 (パートナーや家族の助け、ヘルパーへの外注など) して両立した (している) (7.2)
3. 仕事を軽減 (転職・異動・降格・時短等) して両立した (している) (3.6)
4. 介護に専念するため仕事を辞めた (1.2)
5. 介護以外の理由で仕事に就いていなかった (いない) (2.9)
6. 介護経験がない (72.7)
7. その他 (1.3)

仕事に就いている方
<F3で1～4、8を選んだ方>

仕事に就いていない方
<F3で5～7を選んだ方>

問14へ

問12 <仕事に就いている (F3で1～4、8を選んだ) 方にお聞きます。>
あなたは、今の仕事に対して意欲を持って積極的に取り組んでいますか。あてはまる番号に1つOをつけてください。

1. とてもそう思う (26.1)
2. ややそう思う (49.7)
3. あまりそう思わない (20.3)
4. まったくそう思わない (3.3)

問13 <仕事に就いていない (F3で1～4、8を選んだ) 方にお聞きます。>
あなたの職場の現状についてお聞きます。次の(A)～(D)のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んでOをつけてください。

	そこも 思う	や や そう 思う	そ あ ま り 思 わ な い	ま あ ま り 思 わ な い	わ か ら な い
(A) 育児・介護休業などの制度について情報共有がなされてい る	242	308	210	113	116
(B) 育児・介護休業などの取得に理解がある	292	361	144	7.7	11.6
(C) 有給休暇が取得しやすい	412	31.7	137	7.7	4.7
(D) 短時間労働・フレックスタイム制・テレワークなど 多様な働き方が出来る	254	22.4	18.1	24.3	9.0

⇒仕事に就いている (F3で1～4、8を選んだ) 方は、次ページ問16へ

問14 <仕事に就いていない (F3で5～7を選んだ) 方にお聞きます。>

あなたが現在仕事に就いていない主な理由は何ですか。あてはまる番号を3つまで選んでOをつけてください。

1. 年齢・収入・勤務時間などが希望する求人条件とあわないから (28.1)
2. 自分の希望する内容の仕事が見つからないから (26.3)
3. 育児・子どもの教育のため (33.3)
4. 介護・看護の必要な人がいるから (7.9)
5. 家事との両立が難しいから (17.5)
6. 家族の理解が得られないから (2.6)
7. 配偶者・パートナーに転勤があるから (4.4)
8. 健康に自信がないから (28.9)
9. 仕事することに魅力を感じないから (3.5)
10. 経済的に働く必要がないから (14.9)
11. 学生だから (2.6)
12. その他 (20.2)

問15 <仕事に就いていない (F3で5～7を選んだ) 方にお聞きます。>
あなたは今後働きたいと思いますか。あてはまる番号に1つOをつけてください。

1. すぐに働きたい (22.8)
2. 子育てや介護と両立できれば働きたい (18.4)
3. (子どもがある程度大きくなったらなど) 時期が来たら働きたい (25.4)
4. 働きたくない (8.8)
5. その他 (7.9)
6. わからない (16.7)

問16 <すべての方にお聞きます。>

自分の時間の過ごし方について主に優先したいと考える時間を3つ選んでOをつけてください。

1. 買い物 (ウインドーショッピング含む) (38.7)
2. テレビ・ラジオ・新聞・雑誌 (29.4)
3. 休養・くつろぎ (67.8)
4. 学習・自己啓発・訓練 (学業以外) (14.4)
5. 趣味・娯楽 (読書・映画鑑賞・ゲームなど) (70.5)
6. スポーツ (18.9)
7. ボランティア活動・社会参加活動 (2.7)
8. 交際・つきあい (26.2)
9. 病院等の受診・療養 (11.2)
10. その他 (2.7)
11. 自分の時間は必要ない (0.0)

※インターネットを使用した時間の過ごし方は、内容により選択してください。

問17 自分の時間の過ごし方について実際に最も長く費やしている時間を1つ選んでOをつけてください。

1. 買い物 (ウインドーショッピングを含む) (5.3)
2. テレビ・ラジオ・新聞・雑誌 (13.9)
3. 休養・くつろぎ (30.6)
4. 学習・自己啓発・訓練 (学業以外) (3.1)
5. 趣味・娯楽 (読書・映画鑑賞・ゲームなど) (30.9)
6. スポーツ (4.5)
7. ボランティア活動・社会参加活動 (0.1)
8. 交際・つきあい (3.5)
9. 病院等の受診・療養 (2.2)
10. その他 (2.7)
11. 自分の時間を過ごしていない (3.1)

※インターネットを使用した時間の過ごし方は、内容により選択してください。

問18 あなたの家庭では、次の(A)～(G)を主に誰が担当していますか。あてはまる番号を1つずつ選んでOをつけてください。

	主に自分	自分と配偶者が同じくらい	主に配偶者・パートナー	パートナー以外の家族	家族以外の人に依頼	その他	必要なくよい
(A) 世帯の収入を得る	40.6	17.5	31.5	5.5	0.1	2.5	1.5
(B) 食事の用意	54.3	9.5	23.0	9.4	0.3	1.5	1.4
(C) 掃除・洗濯	52.3	16.0	19.6	8.7	0.4	1.3	0.9
(D) 乳幼児の育児	17.8	6.5	11.9	0.3	0.0	1.8	59.6
(E) 子どもの学校などの行事への参加	22.4	13.0	11.1	0.2	0.0	1.6	49.8
(F) 高齢者などの介護	7.6	3.2	3.9	2.9	0.8	3.6	76.5
(G) 町内自治会などの地域活動	21.0	9.4	12.5	6.0	0.2	3.6	46.3

問19 あなたは現在、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(A)～(G)のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んでOをつけてください。

	男性の地位の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の地位の方が優遇されている	わからない
(A) 家庭生活で	10.2	34.1	33.0	6.9	2.7	12.4
(B) 職場で	12.3	34.9	31.6	7.3	2.2	11.2
(C) 学校教育の場で	2.7	12.3	40.2	3.3	1.4	39.3
(D) 地域社会で	8.6	29.4	26.0	5.0	1.4	29.4
(E) 政治の場で	42.1	36.1	6.5	1.2	0.5	13.3
(F) 法律や制度の上で	17.3	33.8	19.8	6.0	3.2	19.6
(G) 社会通念・慣習・しきたりなどで	25.7	44.9	9.2	3.7	1.4	14.9

問20 あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どのように思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

1. 賛成 (4.9)
2. どちらかといえば賛成 (22.4)
3. どちらかといえば反対 (26.2)
4. 反対 (31.2)
5. わからない (15.1)

問21 あなたは、仕事と生活の調和が実現できる社会をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号にすべて○をつけてください。

1. 家事・育児・介護を家庭で協力して担う (68.2)
2. 仕事中心の生き方、考え方にとられないようにする (47.0)
3. 性別役割分担意識（男性は仕事、女性は家事・育児など）にとられないようにする (62.7)
4. 保育施設や、保育サービスの充実 (55.2)
5. 小学校の放課後児童を預かる子どもルーム等の充実 (44.9)
6. 介護施設や、介護サービスの充実 (57.2)
7. 育児や介護に関する相談窓口の充実 (31.5)
8. 長時間労働の削減など働き方改革と職場づくり (55.8)
9. 短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の整備・充実 (59.4)
10. 仕事と生活の調和に対する経営者の意識改革 (49.6)
11. 行政や企業における手続きのオンライン化 (32.8)
12. その他 (7.3)
13. 特にない (1.6)

自由記入

仕事と生活の調和についてご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。お忙しい中、ご協力いただき誠にありがとうございました。

仕事と生活の調和に関する意識調査
調査結果報告書

○令和 7 年 3 月 発行
○発 行 千葉市市民局生活文化スポーツ部男女共同参画課
〒260-8722
千葉市中央区千葉港 1 番 1 号
電 話 043-245-5060

千葉市男女共同参画センター
(指定管理者) 公益財団法人千葉市文化振興財団
〒260-0844
千葉市中央区千葉寺町 1208 番地 2
電 話 043-209-8771